毛呂山町議会予算決算常任委員会　令和６年３月１１日（月）

◎開会の宣告

○岡野　勉委員長　ただいまの出席委員数は12名であります。

定足数に達しておりますので、これから予算決算常任委員会を開会いたします。

（午前　９時３０分）

◎現地調査

○岡野　勉委員長　本会議において当委員会に付託となりました議案第19号　令和６年度毛呂山町一般会計予算から議案第24号　令和６年度毛呂山町後期高齢者医療特別会計予算までの６議案の審議を行います。

それでは、手元に配付しておりますアンケートに基づいた付託議案に関する現地調査を行います。

この際、暫時休憩いたします。

（午前　９時３２分）

○岡野　勉委員長　休憩前に引き続き会議を開きます。

（午前１１時００分）

◎散会の宣告

○岡野　勉委員長　本日の会議はこの程度にとどめます。明３月12日は午前９時半から委員会審議を再開いたしますので、定刻までにご参集願います。

本日はこれにて散会いたします。

（午前１１時０１分）

毛呂山町議会予算決算常任委員会　令和６年３月１２日（火）

◎開議の宣告

○岡野　勉委員長　ただいまの出席委員数は12名であります。

定足数に達しておりますので、これから予算決算常任委員会を開きます。

本日は､議案第19号　令和６年度毛呂山町一般会計予算のうち歳入の部を税務課及び企画財政課が行い、続きまして歳出の部、第１款議会費から順次審議を進めてまいります。審議に当たりましては、お手元の審議順に基づきまして進行してまいりたいと思います。

質疑を行う場合、質疑開始の宣言時に挙手をお願いします。また、質疑内容は予算審議に関する案件のみとさせていただき、簡潔な質疑とし、効率的な審議となりますようご理解とご協力をいただきたいと思います。

なお、所属長のほか、副課長及び担当係長の出席についてもご了承いただきたいと思います。

では、歳入の部、担当職員の入室をさせてください。

◎議案第１９号の審査

○岡野　勉委員長　それでは、議案第19号　令和６年度毛呂山町一般会計予算を議題とします。

歳入の部、18ページの第１款町税について説明を求めます。

田邉税務課長。

〔田邉和宏税務課長詳細説明〕

○岡野　勉委員長　これより質疑に入ります。

佐藤委員。

○佐藤秀樹委員　それでは、質疑をさせていただきます。

まず、個人町民税なのですけれども、昨年は増額で、増額の理由というのが個人の課税標準額が増えているため前年増ということだったのですけれども、今年は減額になっているのですけれども、そちらの理由をお願いいたします。

○岡野　勉委員長　田邉税務課長。

○田邉和宏税務課長　質疑にお答えいたします。

個人町民税につきまして、減額の理由でございますが、令和５年度までは東日本大震災による均等割の特例の引上げがございまして、それが令和５年度で終了となったことから、６年度につきましてはその分が減額ということで、全体として個人町民税の減額を見込んでおります。

○岡野　勉委員長　佐藤委員。

○佐藤秀樹委員　あともう一点、滞納繰越分が増えているのですけれども、そちらの理由をお願いします。

○岡野　勉委員長　田邉税務課長。

○田邉和宏税務課長　質疑にお答えいたします。

こちら、滞納繰越額の増額でございますが、令和５年度につきましては前年度に比べて調定額のほうも全体として増額となっておりまして、それによりまして滞納繰越額も、不本意でありますが、若干増ということになってございます。

以上でございます。

○岡野　勉委員長　佐藤委員。

○佐藤秀樹委員　そうしますと、やはり未払いの方が増えているという結論になるのでしょうか。

○岡野　勉委員長　田邉税務課長。

○田邉和宏税務課長　質疑にお答えいたします。

委員ご指摘のとおり、納めたくても納められない方もいらっしゃいますし、中には資産がある方でも納税されない方、こういった方が増えているものと認識しております。

○岡野　勉委員長　佐藤委員。

○佐藤秀樹委員　何年も徴収率を高めてこられたと思うのですけれども、その辺来年度の対策としてはどういうふうなことをやられますか。

○岡野　勉委員長　田邉税務課長。

○田邉和宏税務課長　質疑にお答えいたします。

こちらの滞納額の圧縮というのは、徴収率の向上に大変寄与するものとなっておりますので、税務課といたしましては５月の出納閉鎖、こちらで滞納繰越額が決定いたしますので、その後高額の滞納者につきましては滞納者リストというのをつくっておりまして、こちら各担当のほうに割り振りをしてしっかりとそちらのほうの債権管理のほうはしていきたいと考えております。

○岡野　勉委員長　堀江委員。

○堀江快治委員　これは、考え方の問題をちょっとお聞きしたいのだけれども、町ではスマートシティ構想あるいはコンパクトシティのまちづくりということで、市街中心的なまちづくりを進めているとは言いつつ、34条の11号によってその考え方はコンパクトから反コンパクト的なような様相を示すようなこともある。そういう中で、私はたまたま都市計画の市街化区域に長く住まわせていただいておりますけれども、そういった考え方を曖昧にすることによって非常に都市計画税を払える原則は人がその中によるから、そしてしかも上がるから、商人にしてみれば利益が上がるから、そういうような前提の中で都市計画税というものは考えられていると思います。都市計画税を取る人たちにメリットがあるから、都市計画税が取れるのです。都市計画税ない近隣市町村、越生はどうなのですか。

○岡野　勉委員長　田邉税務課長。

○田邉和宏税務課長　質疑にお答えいたします。

越生町につきましては、都市計画税につきましては徴収しておりません。

○岡野　勉委員長　堀江委員。

○堀江快治委員　そういう、越生を対照としては失礼なのですけれども、どことなく毛呂山町も従来都市計画税を取っておった地域が、私が見ると非常に過疎的な雰囲気が加速している。それをやっぱり行政としてもただ万年的に都市計画税をかけるのではなくて、行政全体の中で都市計画税をいただくにはいただく

だけの政策的なものを都市計画の市街化区域に住んでいる人たちに見せていただかないと。都市計画税は、ほとんどがいろんな事業に使われるということでしょう。施設でしょう。施設に使われるわけでしょう。だから、都市計画に関わる諸費用に都市計画税は使うという前提でいるわけだけれども。過去にはそういう時代があったけれども、今回は、この昨今においては非常にいい意味か悪い意味か、多くなってきているわけです。それを市街化区域に住んでいる人間だからこそ、そういう税の負担というものを強いるということは今後考える余地があるのかどうか、ちょっとお聞きしたいのですけれども。

○岡野　勉委員長　田邉税務課長。

○田邉和宏税務課長　質疑にお答えいたします。

　委員ご指摘のとおり、都市計画税につきましては目的税ということで都市計画事業、こちらに充てるということになっておりまして、当初予算書の概要書でもご説明してありますとおり、こちらの都市計画税につきましては全額下水道の事業の負担金に充てているという状況ですので、今現在も市街化区域にお住まいの方に恩恵があるものと捉えております。

○岡野　勉委員長　堀江委員。

○堀江快治委員　それは、恩恵はあるのは分かっているけれども、その範囲が限定的なものから拡大的なものになっておるのですから。都市計画税のみは従来の線引きの中の人が担っていて、現実的にはその線引きの中にいる人の都市計画税をその特別事業に充てて今やっているわけだけれども、その恩恵にあずかっている人たちは市街化区域の外の人たちもたくさん出てきている。特に34条の11の拡大解釈があって、固有名詞はいずれにしても大型商店等もあそこへつくってやっている。それから、いろいろ工業誘致もあるけれども、それは町の政策としてあるけれども、あれだけのものを、やはりその施設を使っておる。ならば、やっぱりこの都市計画税の考え方として従来の範囲の中だけの人がこの都市計画税というものを担うのではなくて、ならばそれに代わる何か違うものを考えるか、あるいは都市計画税を全部廃止して違う目的税をつくるとか考えるとか、それは僕には税制のことは分かりませんけれども、あまりにも旧市街化区域の中に住んでいる人間に恒常的にあなたたちが払う税金なのだよという印象は、今私どもはなかなか納得できないというのが現状なのですけれども、そういう議論というのは町の中ではしたことはないですか。

○岡野　勉委員長　田邉税務課長。

○田邉和宏税務課長　質疑にお答えいたします。

　こちらにつきましては、先ほども答弁させていただきましたが、下水道の負担金ということで令和６年度につきましても充当しているという状況でございます。また、過去におきましても都市計画道路事業ということで武州長瀬駅の北側の長瀬駅前野久保線事業、こちらの事業につきましても30億円以上の巨大な費用がかかっておりまして、こちらの償還に充てていたりしている部分はありますので、こちらの都市計画税につきましては、徴収については適正であると税務課としては捉えております。

○岡野　勉委員長　堀江委員。

○堀江快治委員　いいのだけれども、そういうことを議論にしたことがありますかと。私が言っていることは間違っていますか。そういうことを、この都市計画税について今年は上程してから、これについては私は深く入るつもりはございませんけれども、そういう議論というのは執行部の中で話し合われるような雰

囲気がありますか。

○岡野　勉委員長　田邉税務課長。

○田邉和宏税務課長　質疑にお答えいたします。

こちらの都市計画税につきましては、下水道の負担金のほうに今現在も充当している状況ということで、こちらの都市計画税を執行部で検討ということでございますが、そちらについては今現在も現在進行形でございますので、協議のほうはしておらない状況でございます。

○岡野　勉委員長　堀江委員。

○堀江快治委員　今野久保線の話なさいましたね、課長。あの野久保線は、途中までが都市計画街路なのです。その先は普通町道なのです。たまたま旧の川越線だか毛呂山線に接続させないと機能しないために延ばしただけのものです。今見ると、その+延ばしたところに多く大型商店ができてしまっているではないですか。延伸のところに。その人たちは、あそこではちょっとお聞きしますけれども、今の大型商店ができているところの地下には都市計画税はかかるのですか。

○岡野　勉委員長　田邉税務課長。

○田邉和宏税務課長　質疑にお答えいたします。

都市計画道路の野久保線の東側の商業施設につきましては、市街化調整区域でございます。

○岡野　勉委員長　堀江委員。

○堀江快治委員　そのことを町民感情として私が今言っているのです。あれだけのものを、野久保線をあそこまで造ってたまたま鈴鹿中原線ができないためにあの野久保線を造っても行き止まりになってしまうのです、実際には。それを防ぐためにあの野久保線の先を川越線だか毛呂山線に接続するためにわざわざ幅員を16メートル縮めてやっているわけです。そこのところに大型商店ができている。そこに、だってどっちかというとそこのほうが今後伸びる余地がある。私は、東毛呂のところにいますけれども、どうですか、昨今の毛呂山町の状況は。土日なんてこの市街化区域の都市計画税対象地域のほうが人がほとんどいないではないですか、土日なんか。そういうやっぱり生活的に苦しいところに追いやられている人たちの考え方も、今年はよろしいですけれども、今後そういう考え方を頭に入れながら弾力的にこの都市計画税というものの扱いというものを考えていただかないと。あんな、だって売上げが相当あるところが都市計画税から除外されて都市計画税を払っている市街化の人がその反面地盤沈下が起きて、地盤沈下が起きたまま都市計画税だけを払えと言う。非常に不合理な状況が生まれつつあるので、その点については、課長、十分執行部の人とも話し合って、また近いうちに一般質問等でしますから、そのときにお答えをいただければありがたいと思いますが、いかがでしょうか。

○岡野　勉委員長　田邉税務課長。

○田邉和宏税務課長　質疑にお答えいたします。

こちらにつきましては、こちらの委員会の中で出たということで上司のほうとも協議のほうはしてまいりたいと考えております。

○岡野　勉委員長　よろしいですか。

小峰委員。

○小峰明雄委員　まず、確認なのですけれども、調定見込額掛ける徴収歩合が99.0％ということで0.5％昨年より変わっているのですけれども、これは何かを基本にされたのですか。

○岡野　勉委員長　田邉税務課長。

○田邉和宏税務課長　質疑にお答えいたします。

こちら、0.5％の増の理由でございますが、過去５年間の平均が98.97％の徴収率となっていることから99％に設定をしております。

○岡野　勉委員長　小峰委員。

○小峰明雄委員　それでは、先ほどの滞納の繰越し分が増額になっておるのですけれども、調停額が増えていくという先ほど答弁されていましたけれども、やはり債権管理というものは非常に重要だと思っておるのですけれども、そこでやはり時効というものがあるわけですけれども、今回はこの当初予算を編成するに当たって時効に対してどんな考えがありましたか。

○岡野　勉委員長　田邉税務課長。

○田邉和宏税務課長　質疑にお答えいたします。

こちらの債権管理の状況と言いますか考え方でございますが、こちら不納欠損につきましては地方税法に定められた事由によりまして滞納処分の執行を停止しまして、その後３年間で経過した時点で納税義務が消滅するということで、欠損ということになります。こちらの債権を放棄する理由ということでございますが、滞納となった税を徴収することは税務課の使命といいますか責務でございますが、明らかに回収不能となったものにつきましては滞納として残し続けることについて債権管理の適正さ、こちらを欠くことということになります。そういった意味で、こちらの債権を放棄することによりまして他の事案に取りかかることができ、最終的には納税率の向上に努められるということで捉えております。

○岡野　勉委員長　小峰委員。

○小峰明雄委員　あと、軽自動車税の先ほどのご説明だと2.9％増ということなのですけれども、その根拠をちょっとお知らせください。

○岡野　勉委員長　田邉税務課長。

○田邉和宏税務課長　質疑にお答えいたします。

軽自動車税の増の理由ということでございますが、こちらにつきましては台数の増加というのがございまして、軽自動車数、昨年に比べまして0.9％増加しております。また、軽自動車税の年数の経過によりあまして通常の税率から重加算ということの税率になる車の台数の増というのも見込んでおりまして、トータルで増ということで見込んでおります。

○岡野　勉委員長　この際、暫時休憩いたします。

（午前　９時５５分）

○岡野　勉委員長　休憩前に引き続き会議を開きます。

（午前　９時５６分）

○岡野　勉委員長　23ページ、第２款地方譲与税から第13款交通安全対策特別交付金までの説明を求めます。

小峰企画財政課長。

〔小峰一俊企画財政課長詳細説明〕

○岡野　勉委員長　これより質疑に入ります。

平野委員。

○平野　隆委員　では、私のほうから25ページのゴルフ場利用税交付金が、これ一応減の予定をしていますけれども、これは理由というのはどんな理由なのだか、そこをちょっと確認で。

○岡野　勉委員長　小峰企画財政課長。

○小峰一俊企画財政課長　ご質疑にお答え申し上げます。

ゴルフ場利用税交付金の減額理由についてのご質疑でございますが、こちらは今年度のまず決算見込額、こちらのほうが先日の３月補正のほうでもお願いしていた案件ですが、約7,200万円を想定しております。そういった中で国のほうで、各種交付金そうなのですが、地方財政対策というふうなところで大まかな率のほうを基準として出していただいております。その率のほうがゴルフ場利用税につきましては0.993ということですので、今年度の決算見込額に0.993を掛けて7,100万円と見込んでいるところでございます。

以上でございます。

○岡野　勉委員長　平野委員。

○平野　隆委員　では、あくまでも率の計算の上でということで、別にお客さんが減っている見込みとかそういうのではなくて、あくまでもその数字の率がこの根拠ということで、一応確認で、しつこいですけれども。

○岡野　勉委員長　小峰企画財政課長。

○小峰一俊企画財政課長　ご質疑にお答え申し上げます。

もともとの利用人数のほうにつきましても若干今年度の決算見込み7,200万円ということでございますので、若干落ちているのが現実でございます。それに合わせて全体の地方財政対策のほうの率も若干落ちていると、こういったようなところでございます。

以上でございます。

○岡野　勉委員長　次に、小峰委員。

○小峰明雄委員　１点だけちょっとお伺いしたいのですけれども、株式等の譲渡所得割交付金の増の歳出根拠をお伺いします。

○岡野　勉委員長　小峰企画財政課長。

○小峰一俊企画財政課長　ご質疑にお答え申し上げます。

株式等譲渡所得割交付金の増額理由でございますが、こちらこの株式等譲渡所得割交付金につきましては、毎年３月に年に１回のみの交付となってございます。そういった観点から、今年度の実績がまずまだ出ていないというのが第１点でございまして、予算の積算上では令和４年度の実績額を基準にいたしまして、地方財政対策の伸び率が1.48という数字がございましたので、そちらのほうを掛けさせていただきまして、来年度予算として2,500万円を計上させていただきました。

以上でございます。

○岡野　勉委員長　佐藤委員。

○佐藤秀樹委員　それでは、24ページの配当割交付金の減額の理由、こちらをお願いいたします。

○岡野　勉委員長　小峰企画財政課長。

○小峰一俊企画財政課長　ご質疑にお答え申し上げます。

配当割交付金の減額理由でございますが、こちらも今年度のまず決算見込額、こちらのほうを基準として地方財政対策の率のほうを掛けさせていただいたものでございます。今年度の、こちらも３月補正のほうで議決のほうをいただいておりますが、配当割交付金につきましては2,200万円を今年度の決算見込額と想定しております。そういった中で、ちょっとこの地方財政対策の伸び率が昨年度はかなり高かったというところが今回大幅に減額になっている理由でございまして、来年度の地方財政対策の伸び率が0.869というふうに出ておりますので、決算見込額にこの地方財政対策の率を掛けさせてもらって今回1,900万円を計上させていただいたものでございます。

以上でございます。

○岡野　勉委員長　佐藤委員。

○佐藤秀樹委員　それともう一点、地方交付税なのですけれども、昨年イオンとか木屋の新規企業があって2,900万の増、約75％を見込んでいるという説明だったと思うのですけれども、基準財政収入額ですね。今年度も昨年とそこの部分があまり差がないのですけれども、そちらのほうの理由、同じなのかどうなのか、何か別に理由があるのかお願いします。

○岡野　勉委員長　小峰企画財政課長。

○小峰一俊企画財政課長　ご質疑にお答え申し上げます。

地方交付税の予算についてのご質疑でございますが、まず冒頭説明しましたとおり、当初予算ベースでは500万円、0.2％の増額というところでございますが、今回、まず国のほうの総額、地方交付税の算出根拠はまず各自治体ごとの積み上げではなくて総基の国の総額のほうがまず決まります。そこから割り振っていくということになるのですが、そういった中で国全体で1.7％国税収入の増等によりまして総額が増えていると。これが、まず第１点でございます。

そういった中で、町のほうといたしましてはどうしても地方交付税、特に普通交付税につきましては歳入でございますので、固く見積もる必要がございますので、最新の実績額をベースにして来年度予算のほうを策定させていただいております。そういった中で、今年度の７月算定のときの交付税のほうからいたしますと約9,000万ほど減額になっているというところなのですが、この理由といたしましては基準財政収入額のほうで企業誘致等によりまして東海さんですとかオリックスさんですとか、そういったところの企業のほうの固定資産税、この辺のところの増収のほうがありますので、その部分を基準財政収入額で見させてもらった結果、交付税につきましては25億5,200万円を計上させていただいたものでございます。ご理解いただきたいと思います。

以上でございます。

○岡野　勉委員長　次に、27ページ、第14款分担金及び負担金及び第15款使用料及び手数料の説明を求めま

す。

小峰企画財政課長。

〔小峰一俊企画財政課長詳細説明〕

○岡野　勉委員長　これより質疑に入ります。

荒木委員。

○荒木かおる委員　１点お願いします。28ページの土木費負担金、376万9,000円の増額理由。

○岡野　勉委員長　小峰企画財政課長。

○小峰一俊企画財政課長　ご質疑にお答え申し上げます。

こちら28ページ土木費負担金の舗装修繕工事負担金でございますが、こちら歳出のほうで町道107号路線の改修工事に伴いまして、下水道組合のほうから負担金のほうをいただけるということで、その部分の皆増ということでございます。

以上でございます。

○岡野　勉委員長　次に、30ページ、第16款国庫支出金及び第17款県支出金の説明を求めます。

小峰企画財政課長。

〔小峰一俊企画財政課長詳細説明〕

○岡野　勉委員長　これより質疑に入ります。

荒木委員。

○荒木かおる委員　30ページの社会福祉費負担金の中の障害者自立支援給付費負担金、この内容というか増額理由を伺います。

○岡野　勉委員長　小峰企画財政課長。

○小峰一俊企画財政課長　ご質疑にお答え申し上げます。

障害者自立支援給付費負担金についてのご質疑でございますが、こちらは予算書のほうで言いますと71ページ、ちょっと歳出のほうの連動しているのですが、71ページにございます補装具費ですとか介護給付費、訓練等給付費、これが一番大きいところなのですが、これに伴います国庫補助金でございます。補助率は、国が２分の１、県が４分の１、町が４分の１という構成になっておりまして、こちら実績に基づきまして歳出のほうが上がっておりますので、それに連動して国庫補助金のほうが増額になったと、こういったところでございます。

以上でございます。

○岡野　勉委員長　次に、38ページ、第18款財産収入から第23款町債までの説明を求めます。

小峰企画財政課長。

〔小峰一俊企画財政課長詳細説明〕

○岡野　勉委員長　これより質疑に入ります。

中村委員。

○中村奨平委員　44ページ町債の例えば消防費、全国瞬時警報機器更新事業債210万円というふうな記載がありますが、ここでちょっと伺いたいのは、昨日視察をしました保健センターのＬＥＤのリースに関してな

のですけれども、これはお話を伺うとリース満了後は所有権移転して町のものになると。かつ総額2,300万円ほどかかるということで、こういうふうなものに起債を行わない理由は何でしょうか。

○岡野　勉委員長　小峰企画財政課長。

○小峰一俊企画財政課長　ご質疑にお答え申し上げます。

来年度の当初予算に計上しております保健センターのＬＥＤに対して起債を入れない理由というご質疑でよろしいでしょうか。保健センターのＬＥＤにつきましては、ご説明があったとおり10年リースのほうで実施のほうをしていくと。それに伴いまして、光熱水費の減額部分でリース料について支払っていくというような形態のほうを取らさせていただいているところでございます。実際にご承知かなとは思うのですが、そういったＬＥＤの関係についても起債を充てようと思えばそれは充てられる対象にはなっております。そういった中で、総体的に交付税措置の関係ですとか起債の残高ですとか実質公債費比率ですとか、そういったようなところの総体的なバランスを得まして、町のほうといたしましてはなるべく有利な起債のほうを充てていきたいと、そういったような観点から今回保健センターのほうには起債を充てずにリースのほうの手法を取らせてもらったというところでございます。

以上でございます。

○岡野　勉委員長　中村委員。

○中村奨平委員　総体的にということでしたが、例えば民間の話ですけれども、工機、例えば車であったりとかユンボであったりとか、１年に何回しか使わないので、それをリースにすると。最近主流ですけれども、であったりとか、民間では初期費用が賄えない。銀行からも借りれない。そういうようなところがなるべく支払いの平準化を行うためにリースを活用すると、いろいろなメリットが民間にはあると思うのですけれども、このＬＥＤに関しては基本的に私はソーラーのときも同じことをお話ししましたけれども、ここにリース会社を挟む必要があまりないと考えておりまして、ここが起債ができるのであれば、やはりＬＥＤというのは基本つけてしまえば、昔と違って故障も少ないですし、長くもつものでありますので、しかもずっと使い続けるというものでありますので、性質的にリースではなくもう一度起債をしたほうが私はいいのではないかなと思ったのですけれども、その辺も踏まえて総合的に判断されて起債を行わないという理解でよろしいでしょうか。

○岡野　勉委員長　小峰企画財政課長。

○小峰一俊企画財政課長　ご質疑にお答え申し上げます。

委員ご指摘のとおり、本当にメリット、デメリット、そういった部分はあると思います。また、当然減価償却の考え方もございますので、財政負担の平準化ですとか、いろんな面からやはり総合的に検討して一番有利な手法を取っていくべきかなと、このように考えておりますので。

また、そのＬＥＤに関しましてはご承知のとおり、これからまだ公共施設については計画的に各施設についてのＬＥＤ化のほうは推進のほうをしていく考えでございますので、令和７年度以降さらに検討を重ねた上で財源の調達方法については検討していきたいと思いますので、どうぞご理解を賜りたいと存じます。

○岡野　勉委員長　平野委員。

○平野　隆委員　そうしたら、38ページ、財産収入の不動産売払い収入という、あるのですけれども、これは管財課がやっていることなのですけれども、出てきてしまったから、聞くのですが、昨年も多分同じような感じで科目設定があるだけなのですけれども、ただ昨年中は土地の売却ってあったと思うのです。当初予算ではなくても。これは、課が決めるというよりもシステムの問題で多分そういう検討委員会ではないけれども、そういう委員会があって、それで土地の売買って決まると思うので、だからそういう関係もあって昨年もこういった形で科目だけだけれども、実際土地の売買があったということであれば、システム上やっぱり最初からどこの土地を売る予定はないのかって聞いてもこういう形でシステム上出てくるものなのか、ちょっと分かりますか、言いたいこと。ちょっとお願いします。

○岡野　勉委員長　小峰企画財政課長。

○小峰一俊企画財政課長　ご質疑にお答え申し上げます。

不動産売払い収入の土地売払い収入の科目設定についてのご質疑でございますが、こちら委員ご承知のとおり、今年度から、令和５年度から科目設定という手法のほうをさせていただいております。この理由といたしましては、やはりまず第一に歳入予算というところでございますので、やはり固く見積もる必要がございます。そういった中で、町のほうといたしましては公売等未利用地について管財課のほうで公売して、物件が売れた場合にはその売れたものについての金額を財源更正ということで補正予算のほうで歳入のほうに計上して予算のほうはきっちり見ていこうと、こういったような方針で来年度につきましても科目設定というふうにさせてもらっております。当然来年度につきましても未利用地については管財課のほうで土地売払い計画に基づいて公売のほうはかけていくと、このように考えているところでございます。

以上でございます。

○岡野　勉委員長　堀江委員。

○堀江快治委員　今の平野委員と同じ場所なのですけれども、かつて私も一般質問いたしましたけれども、町は普通財産を寄附行為で受け取ることはできないのです。それを場所を言っては失礼ですけれども、平山の某所に普通財産でいただいて、何とかけじめをつけたかということを一般質問で申し上げたと思うのです。それで、その逃げ道と言ったら失礼ですけれども、車の駐車場を経営するというようなことで区割りまでして百数十万砂利を入れたり、看板をつけたりしてやっておきながら、近所とのバランスとはいえ、結局それも放置して数年もう雨風にさらされて整地したところがもう全く元に戻ってしまった。要するに行政財産として寄附行為を受けるのはまだしも、普通財産として受けてあのように長期に放置していることは誠に好ましいことではないわけです。したがって、この科目設定で、今課長がおっしゃったようなことで科目設定そのものについての異論は述べるわけではないですけれども、何とかやっぱりこの緊縮財政の中で少しでも財政収入を増やすためにはそうした土地をやっぱり随時行政で計画的に処理しておくということは極めて大切な仕事だと思うのですけれども、その点についてお伺いをしたい。

○岡野　勉委員長　小峰企画財政課長。

○小峰一俊企画財政課長　ご質疑にお答え申し上げます。

土地の寄附、また未利用地の有効活用等のご質疑でございますが、委員ご指摘のとおり、町のほうといたしましては当然寄附をいただくときには行政目的に活用できるということがまずは大前提でございます。

そういった中で、現在なかなか有効活用できていない土地が存在しているというふうなご指摘でございますが、本当に厳しい財政状況の中でございます。自主財源の確保、また歳出のほうでもいろいろ削減をしておりますが、何とか財源を見いだして少子化対策、また高齢者対策等への施策のほうを図っていく必要があると。そういった中で、今有効活用されていない土地につきましては当然処分等も含めて財政担当のほうからも担当課のほうには協議のほうをしていきたいと、このように思っておりますので、どうぞご理解を賜りたいと存じます。

○岡野　勉委員長　堀江委員。

○堀江快治委員　今からおおむね10年前だと思うのですけれども、その質問をしているの。当時税務課長に試算をしていただいたら、固定資産税は70万から80万は確保できるというような、貸し付けたりなんかすれば、正式に。売買して固定資産税として取れれば70万から80万は固いということですから、もう10年たつと800万になりますから。これは、やっぱり財産運用の点で真剣に今年辺りはけじめをつけてもらわないと。あそこ通っていていつも気持ち悪いのです、私。事故でも起こしたらしようがないから、早くきれいにして、そういう政策を取ってくれたのだなというようなことを私の目に映るようにひとつ考えていただきたいと思うのですけれども、いかがでしょうか。

○岡野　勉委員長　小峰企画財政課長。

○小峰一俊企画財政課長　ご質疑にお答え申し上げます。

委員ご指摘のとおり、だいぶ長期間になっているのも、これも事実でございます。少しでも早く課題が解決できるように努力のほうをしていく考えでございますので、どうぞご理解を賜りたいと存じます。

○岡野　勉委員長　堀江委員。

○堀江快治委員　次に、過日の一般質問でも申し上げましたけれども、ふるさと納税の問題ですけれども、今年度5,000万が数字として出ておりますけれども、国からの援助資金等来なくなり、それから聞くところによると役場の職員の方をこれからも継続してお仕事をしてもらう。できればもう一人パートナーで補充したいなんていうお話をちょっと耳にしましたけれども、この5,000万の根拠、5,000万のふるさと納税でそのようなことが可能なのかどうか、計算上。5,000万とか計上することがいいのかどうか、その点はどうなのですか。

○岡野　勉委員長　小峰企画財政課長。

○小峰一俊企画財政課長　ご質疑にお答え申し上げます。

ふるさと納税寄附金につきましては、本年度、来年度予算ですが、4,000万円寄附金として……

〔何事か呼ぶ者あり〕

○小峰一俊企画財政課長　はい、予定をさせていただいております。こういった中で、これに関連するご質疑でございますが、なかなか委員ご指摘のとおり成果と言いますか、町に対しての効果というのがなかなか見えていない状況で大変恐縮しているところでございます。そういった中で、やはり財政担当のほうといたしましてはこちらご承知のとおり創成舎のほうに委託のほうをしてふるさと納税の業務についてはお願いしているところなのですが、まちづくり整備課のほうでも定期的に打合せと言いますか調整のほうはかけているというところで、執行部のほうもそちらのほうの話のほうは報告は聞いているというふうな話

を伺ってはおりますが、なかなかまず結果が出てきていないというところには財政担当のほうとしても何とも言えない部分があるのも、これも事実でございます。今回4,000万円というふうな予算計上の根拠といたしましては、今年度の実績額、４月から３月までの実績額がやはり約4,000万円と、これも先日の補正のほうで1,000万ほど減額のほうをさせてもらったと思いますが、どうしても歳入予算、まして寄附金でございますので、当初予算上は根拠がどうしても必要だというところでこちらも苦渋の選択だったのですが、財政担当としては、これは4,000万以上は予算では見れないというふうな判断のほうをさせてもらって当初予算を組まさせてもらったというところでございます。ただ、一方で当然この4,000万円だから、落としていくというわけではなくて、当然町の自主財源の確保の観点からも創成舎のほうには当初議員の方たちにもご説明していたとおり、少しでも大きな金額を、寄附金を集めてもらえるような努力のほうはお願いしたいと思いますし、また町のほうといたしましてもそれに対するバックアップ等は全課を挙げてしていく必要があるかなと、このように考えているところでございますので、ご理解を賜りたいと存じます。

○岡野　勉委員長　堀江委員。

○堀江快治委員　いずれにしても、商業で言えば損益分岐点があるわけです。それで、ふるさと納税の分配においても当然その損益分岐点の対象になると思うのです。4,000万では、過日の一般質問でしたようにかえって赤字になってしまうのです。結果的には赤字なのです。赤字なものを続けてやっていて、だから赤字になるの。だから、今創成舎とまちづくり整備課で何か一体でやっているような感じはしますけれども、どこかふるさと納税の増額を目指して機構をどこかに移すか、専門的にもっと強力にするか、そうしなければずっとふるさと納税という名前だけはかっこいいですけれども、結果的には、トータル的には町のマイナス要因が増えていくという、こういう悪循環になってしまうので、その辺を今年１年かけて十分研究して、来年からは何か新しい方法でやってもらわないと、毎年同じ質問するの嫌ですから、ひとつぜひ研究と検討を重ねていただきたいということをいかがでしょうか。

○岡野　勉委員長　小峰企画財政課長。

○小峰一俊企画財政課長　ご質疑にお答え申し上げます。

　ふるさと納税につきましては、今年度につきましては先ほど説明しましたとおり約4,000万円を見込んでいるというところでございます。確かに毎年若干寄附金額のほうは上がってきているという事実もございます。ただ、そういった中で、一方で委員ご指摘のとおり、当然その4,000万円の約50％は返礼品また事務経費等の経費で消えてしまいます。また、毛呂山町からほかの市町のほうに出ていくふるさと納税もございます。また、さらには創成舎に対する人件費、職員今１人派遣しておりますので、その人件費分もございます。そういったところをトータルで見ると、では町にとって幾らふるさと納税を確保すれば黒字になるのか、そういったような観点からやはり分析をした上で改善を図っていくということが、これは当然大事なことかなと、このように思っておりますので。また、町全体でこのふるさと納税の在り方については鋭意検討のほうをしてまいりたいとこのように思っておりますので、どうぞご理解を賜りたいと存じます。

○岡野　勉委員長　堀江委員。

○堀江快治委員　１点だけご注意申し上げておきますけれども、執行部の方にも言っておいていただきたいのです。安易にふるさと納税、創成舎の業務は電力のほうに急カーブを切っていますね、太陽光発電。こ

れは、果たしてそういうことがいいのかどうか。ふるさと納税あるいは創成舎の仕事として太陽光発電に急カーブを切ってほかのものにはあまり、返礼品等の開発、そういうものにはあまり見るべきものがないのです。これは、確かに電力でパネルをつけてやればそれなりの財政的な効果があるかもしれませんけれども。そういうことが本町がつくったふるさと納税基金の、ふるさと納税あるいは創成舎をつくったまちづくり会社としての働きとしてそういうことがメインになっていいのかどうか。部分としてはいいですけれども、メインとしてはということで私はちょっと疑問を感じるのですけれども、その点はぜひ今後の政策の中で申し上げて、一意見あったということを申し述べていただきたいというふうに考えますけれども、いかがでしょうか。

○岡野　勉委員長　小峰企画財政課長。

○小峰一俊企画財政課長　ご質疑にお答え申し上げます。

太陽光、再エネの関係でございますが、委員ご承知のとおりカーボンニュートラル、こういったところでこれは全国的に国際的なことでもございますが、進めていくということには異論はないかなと、このように思っているところでございます。ただ、一方で創成舎の設立目的はやはり町の課題を解決するというところだったと思います。その原資としてはふるさと納税寄附金を原資として若者世代の魅力あるまちづくりをしていこうと、これがやはり１丁目１番地だったのかなと、このように考えているところでございます。そういった中で、創成舎のほうが再エネのほうに取り組んでいるというのは結局のところなかなかこのふるさと納税の関係の寄附金が集まらないので、やはり運用資金と言いますか、その自走資金のほうがなかなか難しいということで再エネのほうに取り組んでいるのかなと、このように認識しているところでございますが、委員ご指摘のとおりそもそも論から言いますと、やはり町の課題解決のためにふるさと納税寄附金を拡大して財源に充てていこうというのが筋でございましたので、そちらにつきましては創成舎のほうにも私のほうからも、企画財政課のほうからもお話のほうはさせていきたいと、このように思っておりますので、どうぞご理解を賜りたいと存じます。

○岡野　勉委員長　堀江委員。

○堀江快治委員　一言で言えば、創成舎といえども町からの基金も出ているわけですから。私どもに、簡単に言えば見える化の政策を取っていただきたい。今電力でちょっと意見がありますけれども、どうも納得できない変遷が繰り返されておる。それは、私から見ての感覚ですけれども、ぜひ議員諸侯、皆さんにも電力にカーブを切った時点での見える化、見えるような政策をぜひ一つお願いしたいということで、要望しておきます。

○岡野　勉委員長　小峰委員。

○小峰明雄委員　ちょっと確認なのですけれども、ふるさと納税は実績で4,000万ということで理解しましたけれども、企業版はどういう歳出根拠なのですか。

○岡野　勉委員長　小峰企画財政課長。

○小峰一俊企画財政課長　ご質疑にお答え申し上げます。

企業版ふるさと納税寄附金、来年度50万円予算計上させていただいているのですが、こちらにつきましては今年度の実績見込みが現在４件ほど企業版ふるさと納税をしていただいております。10万円掛ける４

件ということで40万円でございますので、それを基本といたしまして来年度５件分50万円ということで計上させてございますので、ご理解を賜りたいと存じます。

○岡野　勉委員長　小峰委員。

○小峰明雄委員　あと、財政当局なので、ちょっと確認なのですけれども、基金の繰入金の中に子ども・子育てゆめ基金ということであるわけですけれども、この原資のときのある程度寄附された方の意向というのですか、その思いとかあったわけですけれども、今回歳出もありますけれども、そういったところは加味されてこういうふうに基金を繰り入れたのか、この点についてお伺いいたします。

○岡野　勉委員長　小峰企画財政課長。

○小峰一俊企画財政課長　ご質疑にお答え申し上げます。

子ども・子育てゆめ基金に関するご質疑でございますが、ご承知のとおり寄附金として500万円ほど過去に頂戴しているところでございます。その中身といたしまして、これからの子供たちのために、また学力向上のためにぜひと、そういったような暖かい思いを持って寄附をしていただいたものと、このように認識しているところでございます。そういったところから、今回この子ども・子育てゆめ基金につきましては443万5,000円繰り入れる予算計上をさせていただいているのですが、この内容といたしまして特別活動推進事業補助金等、また小中学校の英語検定の受検料補助金、こういったところに充当のほうをさせていただいております。寄附者の思いにかなうような、そういったような事業に充当させていただいているところでございますので、どうぞご理解を賜りたいと存じます。

以上でございます。

○岡野　勉委員長　この際、暫時休憩します。

（午前１０時３６分）

○岡野　勉委員長　休憩前に引き続き会議を開きます。

（午前１０時４５分）

○岡野　勉委員長　続きまして、歳出の部に入ります。

それでは、45ページ、第１款議会費について説明を求めます。

酒巻議会事務局長。

〔酒巻義一議会事務局長詳細説明〕

○岡野　勉委員長　これより質疑に入ります。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○岡野　勉委員長　質疑なしと認めます。

この際、暫時休憩いたします。

（午前１０時４６分）

○岡野　勉委員長　休憩前に引き続き会議を開きます。

（午前１０時４７分）

○岡野　勉委員長　続きまして、46ページ、第２款総務費、第１項総務管理費、第１目一般管理費、第７目公平委員会費、第10目諸費について説明を求めます。

大野総務課長。

〔大野　勉総務課長詳細説明〕

○岡野　勉委員長　これより質疑に入ります。

佐藤委員。

○佐藤秀樹委員　総務課なので、職員全体的なことをお聞きしますけれども、時間外勤務手当なのですけれども、2024年問題で一般企業として、特に配送業と医師関係の時間外の新たな政策が始まりますけれども、町の職員に対してもやはり時間外勤務手当がかなりウエートを占めていると思うのですけれども、そこの対策をどのように考えているのかお伺いいたします。

○岡野　勉委員長　大野総務課長。

○大野　勉総務課長　質疑にお答え申し上げます。

時間外につきましては、職員の勤務時間以外の仕事ということで、これは労務管理上厳しくしていく必要がございますけれども、仕事の内容として時間外が増える傾向ではございますけれども、ここはコロナの関係でだいぶ時間外が減ってきて、コロナ明けでどんな形かということでございますけれども、時間外につきましてはかなり圧縮をかけてございまして、予算におきましても前年度比で５％か10％削減をさせていただいて仕事の内容をきめ細かく確認をさせてもらって事業の整理をするという形で、できるだけ時間内での作業に従事するようにしてございます。あるいは、システム化してペーパーレス化及びシステム化する上で労働時間のほうはできるだけ効率よくするように検討しているところでございますので、できるだけ時間外につきましては圧縮させていく方向でございます。

以上でございます。

○岡野　勉委員長　佐藤委員。

○佐藤秀樹委員　特に交通関係なんかは非常にもう４月以降厳しくなって、時間管理、距離管理、相当国にも提出をしなければいけないような状況になっていたらしいので、そういった部分でやはり民間企業がこれだけ厳しくなっている状況の中、やはり公務員、公の職員も当然そういった意識改革というのも必要だと思いますので、その辺はしっかりと総務課をはじめとして時間管理の徹底をしていただきたいと思います。

以上です。

○岡野　勉委員長　では、平野委員。

○平野　隆委員　それでは、私のほうは合併70周年記念事業のことなのですけれども、全協でもちょっと話があってこうやって予算出てきて確認の意味もあるのですけれども、やっぱり厳しい財政の中ここに中身が出ていますけれども、やっぱりいろいろこういったイベントをするのだというので、こちらの15ページのほうに予算概要のほうが出ているのですけれども、あくまでもやっぱり考え方としてこういう時代です

から、お金もないし、少なくやるのだ、500万円ありきでこういうふうに中身を割り切ったのでしょうか。その辺をちょっとお伺いします。

○岡野　勉委員長　大野総務課長。

○大野　勉総務課長　質疑にお答え申し上げます。

合併70周年記念事業ということで500万円を計上させていただいてございます。こちらにつきましては、実行委員会による特別会計として実施するものでございまして、500万円を財源としておのおのの事業を展開する予定でございます。こちらにつきましては、前回の実績ということで当初予算では500万円を見させていただきまして、実数的には460万円ということでございましたので、500万円までは至らなかったということではございますけれども、これからも事業を計画して実施するわけですけれども、できるだけ経費はかからないと言いましょうか、事業のほうもよくよく精査していく中で実施をしていければと思います。何はともあれ記念事業でございますので、町の活性化に資する事業として効果が上がる形での実施をしていきたいと思いますので、ご理解賜りたいと存じます。

○岡野　勉委員長　平野委員。

○平野　隆委員　やるからには費用対効果というかやってよかったなというのがいいと思うのですけれども。あと、この中に花火大会というのを企画されているということで、今までも花火に関する予算っていろいろあったのですけれども、今回は250万円企画しているのですけれども、規模的なものをちょっと確認のために教えてもらっていいですか。どんなやり方をするのだとか、それだけで。お願いします。

○岡野　勉委員長　大野総務課長。

○大野　勉総務課長　質疑にお答え申し上げます。

70周年記念の記念花火大会ということでございますけれども、想定では250万円を想定してございますけれども、こちらにつきましては今の段階ではございますけれども、産業まつりでの花火の打ち上げを今のところ想定してございまして、２日間あるうちの１日を花火の打ち上げにかけようかというところで今計画をしている段階でございます。その中で、どのような規模ということでございますけれども、250万円につきましては事業費と言っても花火に係る経費だけでは賄えないものでございますので、できるだけ協賛をしていただいて寄附的なお金を基に実施をしていきたいと思います。その協賛の、どのぐらいの方が協賛していただくかによって規模も変わってきますけれども、できるだけ打ち上げ花火ができるような形を考えてございますので、ご理解賜りたいと存じます。

○岡野　勉委員長　荒木委員。

○荒木かおる委員　それでは、幾つかあるのですけれども、まず男女共同参画会議の委員なのですけれども、何名でしょうか。

○岡野　勉委員長　小林自治振興係長。

○小林伸行自治振興係長　質疑にお答えいたします。

男女共同参画会議委員につきましては、現在６名でございます。

以上でございます。

○岡野　勉委員長　荒木委員。

○荒木かおる委員　これは、男女別に分けると何名ずつになりますか。
○岡野　勉委員長　小林自治振興係長。
○小林伸行自治振興係長　質疑にお答えいたします。
　ただいま男女比ですと男性の方が２名、女性の方が４名となってございます。
　以上でございます。
○岡野　勉委員長　荒木委員。
○荒木かおる委員　では､その下の毛呂山男女共同参画プラン策定の基礎調査業務委託料なのですけれども、この内容について伺います。
○岡野　勉委員長　森村総務課副課長。
○森村早苗総務課副課長　ただいまのご質疑にお答え申し上げます。
　男女共同参画プランのほうになりますが、来年度で10年を迎える計画となっておりますので、今後10年間のプランを策定していくものになります。内容につきましては、男女共同参画の内容から、あと防災の関係ですとか、新たに今後10年は随分過去の10年から変わっておりますので、防災ですとかＬＧＢＴの関係ですとか加えた形で新たなものを策定していく予定でおります。
　以上でございます。
○岡野　勉委員長　荒木委員。
○荒木かおる委員　防災のほうでも伺おうと思っていたのですが、それも入っているということですね。そしたら、毛呂山町のコミュニティ協議会の補助金と、あと下の特別整備事業。これはもうどこか決まっているのですか。
○岡野　勉委員長　小林自治振興係長。
○小林伸行自治振興係長　質疑にお答えいたします。
　今年度の要望に基づきまして予算化させていただいています。事業は来年度行うのですけれども、５地区から８事業の応募がございまして、そちらを予算化しているところでございます。
　以上でございます。
○岡野　勉委員長　荒木委員。
○荒木かおる委員　その内容というのは言えますか。
○岡野　勉委員長　小林自治振興係長。
○小林伸行自治振興係長　質疑にお答えいたします。
　内容としましては、集会所のエアコンの整備、もしくは屋根、外壁の修繕。また、場所によっては掲示板の整備、あとテニスコートの整備、以上が主な事業内容となってございます。
　以上でございます。
○岡野　勉委員長　荒木委員。
○荒木かおる委員　ゲートボール場の借地料の補助金があるのですけれども、これは何か所のゲートボール場だか伺います。
○岡野　勉委員長　小林自治振興係長。

○小林伸行自治振興係長　質疑にお答えいたします。

現在ゲートボール場借地料補助金につきましては、３地区に補助している状況でございます。

以上でございます。

○岡野　勉委員長　荒木委員。

○荒木かおる委員　今ゲートボールをやっている自治会というか、その団体というのはどのくらいあるのか分かりますか。

○岡野　勉委員長　小林自治振興係長。

○小林伸行自治振興係長　質疑にお答えいたします。

ゲートボール場を今実施している地区につきまして、どの団体の数でやっているかというのは、すみません、こちらで把握していないのですけれども、今ゲートボール場借地料補助金という名称でございますが、使われ方は主にペタンクでしたり、ゲートボール以外にも使われているものと認識してございます。

以上でございます。

○岡野　勉委員長　小峰委員。

○小峰明雄委員　まず、今回令和６年度の当初予算編成に当たり、時間外勤務手当の歳出根拠をお伺いします。

○岡野　勉委員長　長谷川職員係長。

○長谷川晃職員係長　ご質疑にお答えいたします。

令和６年度当初予算編成に当たりましての時間外勤務手当の編成ですけれども、各課に勤務時間数を照会しまして、その事務の見直しですとか効率につきましては徹底して時間外の縮減を図ることを告知しております。係より上がってきた時間数をそのまま計上するのではなくて、総務課の調整、前年度の実績ですとか今年度の実施状況を確認させていただいた上で、あと査定を経て計上しているものでございます。

以上でございます。

○岡野　勉委員長　小峰委員。

○小峰明雄委員　査定を受けてということなので。ただ、昨年の当初から比べると若干増えていますよね。では、最初に上がってきたのはどのくらいで、調整掛けて今回こういう結果になった点についてお伺いします。

○岡野　勉委員長　長谷川職員係長。

○長谷川晃職員係長　当初上がってきている数字から若干10％程度を削減させていただきまして予算を計上しております。

以上でございます。

○岡野　勉委員長　小峰委員。

○小峰明雄委員　10％ですという、その10％の根拠というのはどこから出てくるのですか。

○岡野　勉委員長　長谷川職員係長。

○長谷川晃職員係長　質疑にお答えいたします。

それぞれ各課から聞き取りまして、その後実績等を踏まえまして、そちらの予算を計上したものが結果

的に10％程度削減という形になっておりまして、10％の根拠というものはないのですが、その各課の状況を確認した上での削減となっております。

以上でございます。

○岡野　勉委員長　小峰委員。

○小峰明雄委員　年度末ですから、大体実績に基づいてとか、そういう10％というのはなかなか数字の答えが出てしまうとまずいような気もするのですけれども。

あと、ちょっと確認なのですけれども、人事給与システム保守委託料の増はどういう理由で、これは会計年度とかそういう、支給が増えたから、こういうシステムの委託料も増えたのか。この点についてお伺いします。

○岡野　勉委員長　長谷川職員係長。

○長谷川晃職員係長　ご質疑にお答えいたします。

こちら業務委託をしている業者のほうから見積りを徴しておりますけれども、やはり物価高騰ですとかそういった状況によりまして若干の増額の要望がありまして、その旨の増額となっております。

以上でございます。

○岡野　勉委員長　小峰委員。

○小峰明雄委員　物価高騰で上がったということですけれども。

あと一個、ちょっと確認なのですけれども、職員さんのシステムの保守委託料が211万2,000円と、これは同額なのですけれども、こちらは特にそういった事業者さんのほうからなくて片っぽだけは物価高騰で上がって片っぽは昨年と同様って、そういう理解してよろしいのですか。

○岡野　勉委員長　長谷川職員係長。

○長谷川晃職員係長　ご質疑にお答えいたします。

そのとおりでございます。

以上です。

○岡野　勉委員長　堀江委員。

○堀江快治委員　まず、１点目、男女共同参画会議の委員さんの６万円と、それと基礎調査業務委託料231万ですけれども、これは小林係長のところですね。参考までに申し上げますけれども、我が毛呂山町で川角中学校出身で今東北大学の教授をしている北川尚美教授が国の男女共同参画委員の委員をしているのです。だから、私はいつか北川教授の来町を期待しているのですけれども、その北川教授がいるということを認識しておりますか。

○岡野　勉委員長　小林自治振興係長。

○小林伸行自治振興係長　質疑にお答えいたします。

北川尚美さんにつきましては認識がございませんでした。

以上でございます。

○岡野　勉委員長　堀江委員。

○堀江快治委員　現在の毛呂山町も国の学術委員も選考に応じたことがあるけれども、あの中にも北川さん

は選ばれているのです。それで、特に男女共同参画の中では政府の諮問ということで川角中学校出身で東北大学を出て、今東北大学教授なのですけれども、それと同時に日本の国の男女共同参画の基本的なものを研究し、発表している人なのです。国の仕事として。こういう人をぜひ一度、我が郷土毛呂山へも呼んでもらって、多分この委託料は、どこか委託するわけでしょう。そういう従来の方法ではなくて、ピンポイントで、せっかくこの毛呂山町から出て活躍している人がいるのですから。ぜひよく調べて、コンタクト取れますから、コンタクト取って、ぜひ１回この毛呂山町で男女共同参画がいかなるものかという基本的な話を聞くべきだと思うのですがいかがでしょうか。そういうことをする気持ちがあったらぜひしてもらいたい。

○岡野　勉委員長　小林自治振興係長。

○小林伸行自治振興係長　ただいまの質疑にお答え申し上げます。

今回委託料で男女共同参画プラン策定委託料を計上してございますけれども、こちらアンケート調査を実施していただくための委託料となってございます。計画策定につきましては、総務課職員のみならず役場庁舎内の職員、また今ご指摘といいますかご提案のありました北川さんなど様々な方の意見を聴取しながら計画策定に進んでまいりたいと考えてございます。

以上でございます。

○岡野　勉委員長　堀江委員。

○堀江快治委員　続きまして、役職定年間近の大野総務課長に失礼ですけれども、お伺いしますけれども、再任用の制度が始まって、ここで初めて役職定年制が導入されるわけですけれども、簡単に言うと高木副課長がそこにいて大野課長がいるわけです。４月１日からもしも２人が同席する場合には全く逆転しているのです。高木さんが課長になって大野さんが係長になってしまう。これは、変な話ではないですけれども、職務を円滑に進めていくためには、大野課長にも一般質問で申したとおり、職務権限、職務範囲というものをきちんと決めないと有効的な能力発揮を期待することができないのです。再任用制度においても再任用された方が何をするのか、何をしていただくのか。これは、あくまでも職務権限、職務範囲を、職務規程をきちんとしないとできないと思う。何年も僕は言っているのです。一番最初にやり合ったのが元町長の小峰俊三町長のときです。小峰俊三町長は、県にも勤めてきたので、前向きに職務給の導入にまで行こうかというような議論をしたのがこの議員の中でもお聞きになった方がいると思いますけれども、やはり皆さん方が有効的に働いていただかないとこの毛呂山町は今、この私の考えでは５年が１つの山場だと思っているのです。ですから、それまでに今でも一生懸命やっていただいていることはもちろんですけれども、さらなる再任用の皆さん、それから役職定年になった皆さんがどうこの仕事、業務に関与していただく、どう毛呂山町の向上に役立っていただくかということはひとえに職務権限、職務規程、職務範囲というものを明確にしていかないと見える化ができないのです。ですから、それはやるつもりなのですか。やらないつもりなのですか。大野課長、最後に、最後ってお辞めにならないから、失礼だけれども、その方向性はどうなのでしょうか。聞かせてください。

○岡野　勉委員長　大野総務課長。

○大野　勉総務課長　質疑にお答え申し上げます。

堀江委員のおっしゃる内容も十分理解しているつもりでございます。職務分析ということで、職務範囲を明確にした上で職員おのおのがどのような職責で仕事をしていくのかということは重要なことでございまして、特に役職定年した職員あるいは再任用職員が今の職場の中でどういった働きをするかということは重要でございまして、そういったことが有効的に機能しないと役場全体が回っていかないような状況になることも懸念されますので、一人一人が能力を十分発揮できる、そういう組織であるべきだと思っています。それには、そういった分析した上できちっとした範囲を決めるということが委員おっしゃっている提案でございますけれども、町としますと、今目的となっている細かいところまでは実施するところは今のところはなかなかできない状況ではございますけれども、職員の意識改革を十分図った上で組織機構の改革であったり、職員定数の充実であったり、あるいは人事評価制度のほうを導入、新たな形での導入を目指してございます。そういった中で、人材育成基本方針とか人材育成の施策を充実させて町全体が有効に、職員全体が有効になるように努めていきたいと思いますので、ご理解賜りたいと存じます。

以上です。

○岡野　勉委員長　堀江委員。

○堀江快治委員　私の一案として希望を申し上げますと、昨今役場に電話しますと、これこれはいかがですかって聞くとちょっとお待ちくださいと言って非常に長時間を待たされるのです。電話機ぶっ壊しちゃいたいぐらい長時間待たされることがある。これが、何が原因かというと、これも過去に僕議会で質問していますけれども､入庁した職員の方を大した入庁教育を受けないでそのまま現場に配置してしまうのです。そのために、毛呂山町役場というものの職務はどういう職務をしているのだろうかと。住民課で今どんな仕事をしているのだろうかと、そういうものを事前にきちんと教えると言うのですか、指示と言うのですか、知らしめる教育というものがなされていないことが原因だと思うのです。僕は、せっかく役職定年ですから、最高の７級職まで行った方がお辞めになる職務としては、一案ですよ、これからは入庁間もない人あるいは入庁試験、職員試験を受かった方、それで今年から採用される方等々比較的勤務年数の低い方をやっぱり、今年は３人が役職定年になるようですけれども、何とかそういう仕事をやっていただきたい。それで、あまり電話に待たせないでもらいたい。もうちょっとお待ちください、ちょっとお待ちください、僕だけがそう感じているのかどうか分かりませんけれども、本当に情けない。もう少し全体的に毛呂山町の職務はどういうものかという全体像を早く入庁間もない方に知っていただいて、そして理解をしていただく。そして、個人で研さんしていただく。こういうシステムを取らなければいつになってもそんなことのやり取りが続くと思うのですけれども、これは私の一案でお願いしておきたいのですけれども、ぜひ大野課長、先頭に立ってそういうことが言われたということでがんばっていただきたいと思うのですけれども、どこかでそのような考え方を述べていただけますか。

○岡野　勉委員長　大野総務課長。

○大野　勉総務課長　質疑にお答えいたします。

今職員の対応がなかなかよろしくないという話でございまして、入庁間もない職員につきましては職務がまだ分からない部分で即戦力として電話対応する場合も確かにございます。しかしながら、研修を積んでその職員が一職員として成り立つためにはある程度時間は必要だと思いますけれども、これにつきまし

ては人材育成の施策については、基本的には職員研修が重要でございます。それから、日々の課内での先輩、後輩の中でもそれはできる話でございますので、日々の研修と実際の入ったときの職員の全体の研修と合わせて実施する必要があるし､住民の方にご迷惑をかけるような職員ではあってはならないですので、それはベテランでも若い職員でも同じでございますので、住民の方が即座に答えていただく職員というのは当然必要なことでございますし、そういった職員の意識からまず持ってもらわないと困りますので、まず住民に即座に答えられる職員である、そういったことを持って日々の職務に精励してもらうと。あるいは専門的な研修を受けてレベルアップしてもらうということは必要だと思います。それによっては、さっき委員がおっしゃった役職定年したベテランの職員が職員教育ということで若手を育てるといったことも重要だと思いますので、そこは前向きに進めていければなと思いますので、ご理解賜りたいと存じます。

○岡野　勉委員長　堀江委員。

○堀江快治委員　ぜひ大野課長がんばって成果を出してください。

もう一点、合併70周年のことについて、これは僕は一般質問で言っていますけれども、一番多く感じているのは、自分自身も悪かったのですけれども、僕は体育協会に長くお世話になっていたのですけれども、越生町は定期的に50周年なりの体育協会の歴史本を出しているのです。体育協会だけですよ、越生で見たのは。毛呂山町は出そうとしたら何の書類もないし、何の写真も撮っていないのです。行政として保存がないのです。僕たちは、実務でやっていますから、行政とは別に現場でやっていたわけですけれども。そういうことから含めて、この70周年記念においては毛呂山町、当時川角村ですね、合併をして今日まで来た歴史をある程度写真とかそれについての文書とかで私どもにその70年の歴史というものが明らかに私たちに見えるように、分かるように、そういうものをつくっていただきたいと思うのですけれども、そういう計画、花火もよろしいですけれども、長く残るその歴史本、そういうものを歴史の過程、そういうものをつくっていただきたいと思うのですけれども､その点についての議論はこの500万の中にはありませんか。

○岡野　勉委員長　大野総務課長。

○大野　勉総務課長　質疑にお答え申し上げます。

その70周年記念の歴史ということでの周知でございますけれども、記念でございますので、毛呂山町が今まで発展してきた内容を住民の方にお知らせしてまた次の未来につなげるということは重要でございますので、秘書広報課のほうでは町勢要覧のほうもつくる予定ではございます。あわせて、記念式典の中でこれまでの毛呂山町の様子、歴史というものを写真等でお見せするような形も今考えてございますので、そういった式典等での周知も含めて町民の皆さんに70周年ということを１つの区切りでお祝いをしていただければと思いますので、よろしくお願いしたいと思います。

○岡野　勉委員長　長瀬委員。

○長瀬　衛委員　課長、諸費のところで区のことでちょっとお聞きしますけれども、ここで令和６年度に各自治会の事業も間もなく始まるのだけれども、昨今いろいろこの自治会の運営上いろいろ課題を抱えている地区があるような情報を私もいただいているのだけれども、特に目白台とか第二団地だとか、それから私の知る限りでは武蔵野自治会、あとは知りませんけれども、やっぱり私常々言っているけれども、高齢化されて地域の担い手がどんどん順番に継承できなくなってきている時代は確かなのだけれども、自治会

がやっぱりある程度機能を果たしていかないと毛呂山町の政策というものがきちっと反映して成果を上げれないような気がするのです。どうです、その目白台とか、今私がちょっと挙げたけれども、こういう地域の今の課題については認識されているのでしょうけれども、どのようなお考えですか、今。

○岡野　勉委員長　大野総務課長。

○大野　勉総務課長　質疑にお答え申し上げます。

委員おっしゃったとおり、今自治会の中でかなり問題を抱えているところがございまして、役員の方が見えられて担当との相談を受けているところでございます。おっしゃったのは、３地区が一番相談の多いところでございまして、かなり自治会内での考え方の相違ということもあるようです。それから、高齢化によって役員の負担が大きくなって自治会離れも進んでいるというようなところで、今その３地区においてはかなり今顕著に表れているなというような感じでございます。そういったところで相談を受けて一緒に考えてどうしたらいいかということで進めているわけでございますけれども、できるだけやっぱり地域が活性化して充実することによって町が発展する。当然なことでございまして、その自治会の皆さんが一生懸命行政を支えていく。お互い発展する重要なパートナーでございますので、自治会のほうが疲弊する、なくなるということについては大変問題でございますので、できるだけその自治会が発展するような形で町のほうも支援していくつもりでございますので、ご理解いただきたいと思います。

○岡野　勉委員長　長瀬委員。

○長瀬　衛委員　地域が今、どこの地域聞いてもこのコロナ３年間で活動がかなり止まってしまって、この令和５年度もその辺調整になるような気がします。だから、こういう状況で行くと、やっぱり先ほど言ったように町の政策がなかなかうまく地域に流れていかない。町の政策の成果という意味でも影響を与えるような気がするのですけれども、これは町が何も手が出せないのですか。やっぱり自治会の運営に対しても、それはもちろん各自治会規約に基づいて活動はしているのでしょうけれども、やっぱりこれは区を設置していることもあるし、やっぱり町がある程度調整に乗り出していかないと、地域に任しているともう分解してしまいそうな気がするのだけれども、その辺どうでしょうか。

○岡野　勉委員長　大野総務課長。

○大野　勉総務課長　質疑にお答え申し上げます。

委員おっしゃるとおり、地区の中でまとまりがなくなってしまっていろんな行事が行えない。隣近所同士でのつながりもなくなってくると。そうなると、町全体が疲弊するということは当然の懸念でございまして、そういったことで町のほうが何かということでございますけれども、基本的には自治会ということでございますので、住民の方々が問題を提起して話合いの中でよりよい方向に持っていくということが基本ではございますけれども、なかなかそういった状況が難しいというところもございますので、町のほうもある程度相談あるいは支援ということでやってはきてはいますけれども、なかなか難しい状況になっているなというような印象でございます。その中で、どこまで職員のほうが各自治会のほうに手を差し伸べられることができるのか、これは今課題でございます。長瀬委員ご提案等の地区担当といったところも視野に入れてはございますけれども、ここは役職定年するベテラン職員等をうまく活用しながら自治会等への支援を積極的にできればなというふうに今のところは考えてございます。

以上でございます。

○岡野　勉委員長　長瀬委員。

○長瀬　衛委員　とにかく目白台の3,000人もの方が住んでいるし、毛呂山町の高齢化を幾らか抑えているのは目白台の地区があるわけですよね。こういうのをちょっとお話ししたら、やっぱり陸の孤島になっていていろいろ生活も大変なようです。ですから、せめてこの自治会が機能するように町のほうで、町長はこういうのを知っているのですか。目白台の現状について町長は認識しているのですか。

○岡野　勉委員長　大野総務課長。

○大野　勉総務課長　質疑にお答え申し上げます。

目白台地区につきましての町長の考えでございますけれども、具体的な要望だったり陳情だったりというものは直接は出ていないので、説明する機会がないのですけれども、町長のほうから心配の声は伺っておりますので、状況については把握しているものと思ってございます。

○岡野　勉委員長　長瀬委員。

○長瀬　衛委員　私も前からずっとこれを言っているけれども、やっぱりあまりにも町が地域に対して現状認識もちょっと足らないし、何か広報等の配布を依頼するのみで地域にあまり目を向けていないような気がするのです。これは、今しっかりやっていかないと本当に、例えば第二団地なんかも聞いてみるとほとんど事業もやっていないらしいです。コロナからずっと。何かそのゲートボール、先ほど話があったように寿会やゲートボールをやろうとしたって寿会とうまくいかなくて集会場前のゲートボール場使うのに有料、お金を要求されているとか。目白台では何かゆずっこ体操をやるのに会館に有料制だ、お金を取られるのだと。そういうやっぱり、あれは町の事業でしょうから。ゲートボールだってやっぱりこれは町の高齢化対策ですから。そういう町の事業についても適切に自治会が運営するようによくチェックして調査してやるべきだと思います。その点お願いします。

○岡野　勉委員長　大野総務課長。

○大野　勉総務課長　質疑にお答え申し上げます。

今自治会のほうでいろんな事情が発生しております。自治会の中の住民の考え方というのはなかなかバラバラというようなところがあるような気がします。まずは、自治会内で住民同士が話合いをしてどうしたことが一番よろしいのかということは議論していただきたいなと行政のほうは思ってございます。自治会の重要性ということで、もう少し町のほうで啓発活動を重視したいと思います。自治会というのは大切であって、皆さんが生活する上では必ず有益だということを啓発して周知していく必要だと思いますので、これはぜひ町のほうとしても皆さんに理解いただくように進めていければと思いますので、ご理解賜りたいと存じます。

○岡野　勉委員長　長瀬委員。

○長瀬　衛委員　いずれにしても、高齢化対策というのが大事だけれども、一番これから考えなければならないのは防災ですよね。いざというときに自治会が機能してないと、これはもう町としてはどうしようもなくなりますよ。混乱しますからね。そういう意味でももう少し自治会のほうに、区に、地域に目を向けるようにお願いします。

○岡野　勉委員長　次に、65ページ、第４項選挙費、第１目選挙管理委員会費について説明を求めます。

大野選挙管理委員会書記長。

〔大野　勉選挙管理委員会書記長詳細説明〕

○岡野　勉委員長　これより質疑に入ります。

堀江委員。

○堀江快治委員　これは、もう大野課長にお願いしておきますけれども、選挙管理委員になられる方の選出基準というもの。これらについては、ある程度そういうマニュアル的なものは行政側がお持ちなのですか。いかがでしょう。

○岡野　勉委員長　大野選挙管理委員会書記長。

○大野　勉選挙管理委員会書記長　質疑にお答え申し上げます。

選挙管理委員の選考に当たっての基準ということでございますけれども、公正、透明性、そして専門性を重視したものということで考えてございます。職業とか性別とか地域等を考慮して広く人材を選ぶということが今のところ考えているものでございます。

以上です。

○岡野　勉委員長　堀江委員。

○堀江快治委員　この３万2,000人の、子供さんを抜きますと有権者が大体３万人近くいますけれども、その大勢の中から僅か４人ですか、改選で選ぶわけですけれども、これはいろんな角度から当然アプローチするのでしょうけれども、それはどんなふう、答弁できなければいいのですけれども、どんなふうな形で個人的にアプローチができるような基礎があるのでしょうか。基板というか基礎というか、地域性とか。

○岡野　勉委員長　大野選挙管理委員会書記長。

○大野　勉選挙管理委員会書記長　質疑にお答え申し上げます。

選挙管理委員会を選ぶときのアプローチということでございますけれども、基本的に確固たる厳しい基準を設けているということではございませんで、選考に当たっては選挙管理委員会の事務局の中で、町の中で活躍される方をピックアップするという形ではございまして、なかなか難しい、どなたをというのは我々も難しい選択ではございますけれども、その中で適任だろうという方をピックアップしてきている状況でございますので、ご理解賜りたいと存じます。

○岡野　勉委員長　堀江委員。

○堀江快治委員　その範囲しか答弁できないと思いますけれども、選挙、一応我々は選挙を受けるわけです。ですから、選挙管理委員の皆さんは我々から見ると非常に注目する方なのです。やっぱり、いざ鎌倉って時はいろいろお聞きしたり、見たり、指導してもらうわけですから。だから、そういうことで今回も若干本会議でも議論しましたけれども、これはやっぱりある程度選考する前に、選考委員会というのがあるのでしょう。ないのですか。長の権限で行くのですか。どういうことなのですか。

○岡野　勉委員長　大野選挙管理委員会書記長。

○大野　勉選挙管理委員会書記長　質疑にお答え申し上げます。

選挙管理委員の選考というのでしょうか。これは、事務局の案でございますので、基本的には議会の中

での選挙がルールでございまして、選挙となると有権者全員を対象に投票するのはかなり難しい、現実的には実施することはないと思うのですけれども、そういったところで指名推選という形を取らせていただく形をお願いしているのですけれども、それに当たって事務局として案を出してそれでよろしいという話で進むことでございますので、こういったことを不適切な形でなるのであれば、基本的には自由の投票行為になってしまいますので、それは難しいので、事務局としてこういった案はどうですかという話を議会のほうにお願いしているのがルールとしてやっていただいているので、そこをご理解いただいての制度ということで認識をしてございます。

○岡野　勉委員長　堀江委員。

○堀江快治委員　今答えていただいたような重いものですから。選挙管理委員さんというのは非常に報酬は安いですけれども、非常に役職的には非常に重いものですから。ぜひ大野選挙管理委員会書記長、次の方にもう一応、あと幾日かで終わりかと思いますけれども、ぜひ歴史をきちんとつないでいっていただきたい。選挙管理委員さんは非常にその責務はお願いする立場だけれども、重いのですよということをずっと引き継いでいっていただきたいというふうに僕は今歴史の中で考えております。どうぞその点は答弁いいですから、よろしくどうぞお願いします。

○岡野　勉委員長　次に、67ページ、第６項監査委員費、第１目監査委員費について説明を求めます。

大野総務課長。

〔大野　勉総務課長詳細説明〕

○岡野　勉委員長　これより質疑に入ります。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○岡野　勉委員長　質疑なしと認めます。

この際午後１時15分まで休憩といたします。

（午前１１時４２分）

○岡野　勉委員長　休憩前に引き続き会議を開きます。

（午後　１時１４分）

○岡野　勉委員長　次に106ページ、第９款消防費、第１項消防費、第１目常備消防費から第３目防災費までの説明を求めます。

大野総務課長。

〔大野　勉総務課長詳細説明〕

○岡野　勉委員長　これより質疑に入ります。

平野委員。

○平野　隆委員　私は、非常備消防費についてです。今だんだん団員の確保も難しい中だと思うのですけれども、この数年それが続いている中で少し予算が増えているのですが、まずその増額理由からお伺いします。

○岡野　勉委員長　小山総務課主幹。

○小山正史総務課主幹　質疑にお答え申し上げます。

非常備消防の増額理由ということでございますが、修繕料等々あるのですけれども、大きなものですと昨年度補正予算で取らせていただいた地域防災力強化支援金、こちらのほうの来年度の要求額が155万円という形でございまして、こちらのほうが主な増額理由というふうになってございます。

以上です。

○岡野　勉委員長　平野委員。

○平野　隆委員　分かりました。それで、非常備消防に関してはちょっと今予算があるから、あれなのですけれども、言わせてもらうのですが、前々から役場の職員さんの率が高いとか、それはそれでいい面もあるけれども、悪い面もあるとかいろいろ指摘がある中で毎年同じような予算が計上されて毎年同じような懸念というかどうにかならないのかという質疑が予算でも決算でもされて今回に至っているのですけれども、やはり非常備消防費というか消防団というのは今災害がすごく増えていて今こそ力を入れてほしいと思うのですけれども、何か消防団員を増やすようなそういう取組なんかはここでやってもらっているのかどうか、その辺ちょっとお伺いしたいと思います。

○岡野　勉委員長　小山総務課主幹。

○小山正史総務課主幹　質疑にお答え申し上げます。

消防団員を増やすための施策ということでございますけれども、西入間消防組合と連携いたしまして消防団員を増やす、やはり担い手となるのがやはり町内にお住まい、在勤含めて若い世代という形になってございます。町では、消防組合と連携いたしまして、まず学生消防団、機能別消防団員というところを下川原の日本医療科学大学及び埼玉医科大学、短大含めてそちらのほうを一昨年度に組織させていただきまして、昨年、今年度実施させていただいた防災訓練におきましても機能別消防団として避難所開設訓練のほうに参加していただいております。そういったものを含めて消防団により親しんでいただく素地をつくりつつ、やはり町内にまず全５分団あるうちにいかに入っていただくか。入っていただく分母といいますか働き手が町内にいるかどうかというところも若干少なくなっているのかなというところも含めて町の職員のところにも入ってほしいという話が来ているものだというふうに認識しております。町といたしましては、消防組合と連携いたしまして、入っていただくためのハードル、例えばより操法の簡素化とか、あとは中の活動の内容の見やすさ、分かりやすさ、あと魅力の伝え方というのを今後調査研究してまいりたいというふうに考えておりますので、ご理解いただきたいと存じます。

以上です。

○岡野　勉委員長　平野委員。

○平野　隆委員　そういうふうに取り組んでもらっていると思うのですけれども、やっぱり現状として、例えばですけれども、消防団員さんの息子さんが消防団に入らないような、だからなかなかそれだけ理解が進んでいないし、質問するとこういうふうに取り組んでいるのだよってお答えいただけるのですけれども、町の若い人に今の声ってほとんど、私の周りにも若い子はいるのですけれども、ほとんど届いてこないです。やっぱりせっかくいいことを言っても、せっかくいい考えを持ってもそれが伝わらなければ何もなら

ないと思うのです。一生懸命やってくれているのですよ。だけれども、いいこと言っているのだけれども、それが若い人の耳に、若い人まで届かないと効果ってなかなか出ないと思うのです。だから、何か今までどおりのことをやっていて、じりじり、じりじり組織が衰退化していくのではなくて、そろそろちょっと突き抜けたことをやってしまわないと、無理は承知で言うのですけれども、やっぱり若い人に伝えてほしいのですけれども、いかがでしょうか。

○岡野　勉委員長　小山総務課主幹。

○小山正史総務課主幹　質疑にお答え申し上げます。

委員ご指摘のとおり、消防団員、欠員のほうもあるという形でより一層入っていただくための広報活動というものが必要だというふうには認識しております。町といたしましては、消防組合と連携いたしまして、より一層入っていただくような施策のほうを図ってまいりたいというふうに考えておりますので、ご理解賜りたいと存じます。

○岡野　勉委員長　荒木委員。

○荒木かおる委員　まず、１点目が先ほど防災会議の委員の報酬、10名なのですけれども、これの男女の比率を伺います。

○岡野　勉委員長　小山総務課主幹。

○小山正史総務課主幹　ご質疑にお答え申し上げます。

防災会議の委員の男女比でございます。直近に開催させていただいたのが地域防災計画の改訂時という形になりまして、今10名を庁外委嘱している中で、こちらのほうは男女比は男性が10名、女性はゼロでございます。

以上です。

○岡野　勉委員長　荒木委員。

○荒木かおる委員　これ昨日の埼玉新聞に……

〔何事か呼ぶ者あり〕

○荒木かおる委員　いや、10名になっていますよ、報酬が。

〔何事か呼ぶ者あり〕

○荒木かおる委員　では、31名の中で比率は教えていただけますか。

○岡野　勉委員長　小山総務課主幹。

○小山正史総務課主幹　質疑にお答え申し上げます。

31名中３名が女性でございます。

以上です。

○岡野　勉委員長　荒木委員。

○荒木かおる委員　これ昨日の埼玉新聞の記事で、お読みになられたか分からないのですが、全国の市区町村で防災計画の男女参画の割合が８割明確にしていないという記事があったのですけれども、この毛呂山町ではそれに関してどのようになっているか伺います。

○岡野　勉委員長　小山総務課主幹。

○小山正史総務課主幹　質疑にお答え申し上げます。

こちら調査等につきましては、明らかに、調査については正式に回答しているところでございます。

以上です。

○岡野　勉委員長　荒木委員。

○荒木かおる委員　31名の中で女性がやっぱり３人しかいないというのは非常に割合が少ないと思うのです。これから防災が非常に大切になってくると思うのですけれども、その中でやはり女性が防災会議の中にいて、ちゃんと女性に対する避難場所だったり、そういう女性の意見が反映される場所が本当に必要だと思うのです。それなので、やはり女性をもっと増やさなければいけないかなという思いは、毎回私お話ししていると思うのですけれども、それについてどうお考えか伺います。

○岡野　勉委員長　小山総務課主幹。

○小山正史総務課主幹　質疑にお答え申し上げます。

委員ご指摘のとおり、防災会議含めて町の防災施策に女性の意見を反映させるというのはとても重要だというふうに考えております。町といたしましても、例えば防災委員を代替わりとか出していただくときにできれば女性が望ましいという形で一文は添えてお願いはしているところはあるのですけれども、やはりただ組織の中で防災に協力するセクションだったり、充て職みたいなところが決まっているところが多くてなかなか思いどおりには行かない。あと、それぞれの役職につきましても、女性代表というよりはその組織の代表としての意見しかやはり述べられないというところがあってなかなかその女性向けの意見を聴取しようとしてもなかなか具体的なお話が聞けないという実情はございます。町といたしまして、ほかの先進事例等、ジェンダーとか性的少数差の意見を具体的に聞くことが、学識経験とかそういったところを今後検討できればなというふうに考えておりますので、ご理解賜れればというふうに考えております。

以上です。

○岡野　勉委員長　荒木委員。

○荒木かおる委員　この記事の中には、共同参画として女性の相談員とか、あと保健師さんを入れるみたいなそういうことも書いてあるのですけれども、そういうお考えはどうでしょうか。

○岡野　勉委員長　小山総務課主幹。

○小山正史総務課主幹　質疑にお答え申し上げます。

地域防災計画等々で相談員という記述、一応避難所には相談員を活用するという形がございますので、保健師含めてそういった担当職員を派遣して、実災害についてはそういった活用のほうは図ってまいりたいというふうに考えております。

以上です。

○岡野　勉委員長　荒木委員。

○荒木かおる委員　ぜひ女性をもっと防災関係のメンバーに入れていただくように努力していただきたいと思います。

そして、もう一個、災害用の備蓄、簡易トイレの借上料ですけれども、減額になっているのですが、その理由は。

○岡野　勉委員長　小山総務課主幹。

○小山正史総務課主幹　質疑にお答え申し上げます。

　災害用の備蓄型簡易トイレの借上料の減額の理由でございます。こちらのほうが、リース期間というのが一応平成30年に導入させていただいてリースのほうが終了した後の再リース料を来年度予算に上げさせていただいていますので、その分減額というふうになっております。

　以上です。

○岡野　勉委員長　佐藤委員。

○佐藤秀樹委員　107ページの防災行政無線の保守委託料、こちらが５万円ほど減額になっているのですけれども、毎年契約を見直しをしているのでしょうか。それとも、満了になって改めて契約をし直したときに減額になったのでしょうか。その辺をお聞かせ願いたいと思います。

○岡野　勉委員長　小山総務課主幹。

○小山正史総務課主幹　質疑にお答え申し上げます。

　防災行政無線の保守事業費の契約等々について。こちらのほうは基本的に毎年更新、契約のほうを結んでおりまして、保守事業計画というものを長期計画のほうを立てておりまして、こちらに基づいて保守契約のほうを結んでおります。なので、例えばバッテリーの交換だったり、点検内容のほうが変わってきますので、それによって毎年契約金額の増減があるというところでございます。

　以上です。

○岡野　勉委員長　佐藤委員。

○佐藤秀樹委員　108ページの自主防災組織運営補助金のほうが、こちら６万円ほど減額になっているのですけれども、こちらの理由をお願いします。

○岡野　勉委員長　小山総務課主幹。

○小山正史総務課主幹　質疑にお答え申し上げます。

　自主防災組織の運営費の補助金の減額理由ということでございます。こちらのほうは、資機材購入補助金につきまして、ある一定の、やはり活用実績のほうがどうしてもなかなか少ないという形で今回はその分を実績ベースから考慮して取らせていただいてという形で減額という形になってございます。

　以上です。

○岡野　勉委員長　佐藤委員。

○佐藤秀樹委員　最後に、来年度の防災訓練はどういうふうに考えているのか。昨年ちょっと１か所で避難場所ではないところに集まってという、ちょっとクレームというか指摘がありましたので、その辺を含めて次年度はどう考えているのかお伺いします。

○岡野　勉委員長　小山総務課主幹。

○小山正史総務課主幹　質疑にお答え申し上げます。

　来年度の防災訓練につきましては、昨年前久保中央公園であったところを毛呂山中学校に会場のほうを変更させていただいております。理由につきましては、議会等々でもお答えしているとおり、実際の指定避難所というところでございまして、来年度につきましてはそれを踏まえて川角中学校を開催会場として

今調整させていただいております。やはり今年度前久保中央公園はやっぱり近隣の方も参加していただくところもありましたので、例えば第二団地さんとか川角中学校に近いところのオブザーバー参加という形で参加していただきましたように、来年度川角中学校には本格的に参加というところで依頼のほうを申し上げたいかなというふうに考えております。確かに、実際の最寄りの避難所で防災訓練等、避難訓練等やることは町としても大変望ましいというふうには考えております。ただ、指定避難所が14か所ございまして、これを１年で１か所というともちろん14年かかってしまいますので、同時に複数箇所開くのは、やはりノウハウ等々まだ難しいところ、今後の検討課題というふうには考えてございます。例えば１年に複数回等々規模を縮小して等いろんな手段があろうかと思いますけれども、こちらにつきましては今後調査研究の上よりよい防災訓練を目指して推進させていただきたいというふうに考えておりますので、ご理解賜りたいと存じます。

以上です。

○岡野　勉委員長　長瀬委員。

○長瀬　衛委員　昨日東日本大震災から13年目を迎えまして、割合この13年間毛呂山ではそう大きな地震もなくて平穏に来たのだけれども、今千葉県の千葉沖で群発地震が起きて首都直下型が、これは前から言われているのだけれども、いよいよ近づいてきているのではないかという、私も危機感持っているのだけれども、先ほどから消防団員が減ったとか、私先ほど申し上げたように自治会が機能不全に陥りかけているし、うちの自治会では前にも言ったけれども、十数年前に緊急災害対策本部をつくって、これネットワーク組織の延長線ですけれども、自治会長が常にその会長になってあとの人たちはみんな充て職ではなくてずっと継続した団員で今やって防災訓練もやっていますけれども、いざというときに、もういよいよ我々は、うちの地域ではみんな危機感を持って毎日いるのです。例えば私今自治会長ですから、災害を受けたときは私が今先頭立たなければいけないのです。そのときに、いつも考えているのはどういう対応をすればいいかいつも考えているのだけれども、一番心配なのは町との連絡、地域との。どうなるのだろうと思ったり、町からどういう指示が来るのだとか。地元のほうは何とか我々いろいろ考えているから、それを持ち場決めて今担当決めているのだけれども、その辺はどうなのですか。もう先のことではないと思うよ。来なければいいのだよ。だけれども、最悪の場合はやっぱり想定しなければいけないのです。私は、やっぱりこういう高齢化で地域力が落ちているから、余計に町としてはしっかり考えなければいけないと思うのだけれども、いざというときの初期対応、地域はどうすればいいのか。

それから、今の備蓄の話でもあったけれども、うちの地域では備蓄、資機材は毎年備蓄を増やしてやっているけれども、補助金をもらいながら。例えば水だとか、今度は私のほうではこの６年度申請したのを組立てトイレも20基ぐらい用意しようと思っていますけれども、水だとかトイレのそういう簡単なものぐらいは各自治会に配布することも考えたらどうですか。今度の災害でもトイレと水ですよね。そういうものをやっぱり集会所があれば保管できるのだから、その辺は町が積極的に支給したらどうですか。そういうところちょっと聞きたい。とにかく初期の対応をどういうふうに町は考えているのか。もうそこら辺はきちっと決めておくべきだと思いますけれども。

○岡野　勉委員長　小山総務課主幹。

○小山正史総務課主幹　ご質疑にお答え申し上げます。

災害初期の通信体制、自治会との連絡をどうするかというふうなご質疑等々でございます。町としましては、委員ご指摘のとおり能登半島地震を踏まえましても通信手段、地域で何が起きているかというところは非常に大事かなというふうに考えております。町といたしましては、地域との連絡、基本的にはできる通信手段、電話等々という形になるのですけれども、町といたしましては上がってくる情報ももちろん対処しなければいけないのですけれども、拾いに、情報を取りに行くということも非常に大事だと考えております。確か区長さん、自主防災組織の代表さんのところに地域の情報が集まるというところを期待させていただいて、こちらのほう通信班みたいなところを多分作成して情報を取りに行くという、連絡をさせていただく。ただ、そのときに電話が通じていればよろしいのですけれども、能登半島地震のように通信が途絶した状態ですと二、三日連絡が取れないというところもあります。そのときにつきましては、また今後どうすればいいかというところを町としても現地に行って取りに行くのか等々踏まえまして、町の体制のほうも考えていきたいと思います。基本的に、町としては初動につきましては救助もしくは困って、被害がどれくらいの規模で起こっているか。どこが一番ひどいのかというところの情報をまず集めるというところが一番大事な一手という形に考えております。そこら辺の情報を取りに行くときには区長さん、自主防災組織さん、連絡取らせていただいた把握というのがまず大事かなというふうに考えてございますので、そちらの通信体制につきましても今後整備のほうをさせていただくような形で考えていきたいというふうにおりますのでご理解を賜りたいと思います。

○岡野　勉委員長　長瀬委員。

○長瀬　衛委員　まず、区長さんが、今言っているように、区長さん自身がもう毎年くじ引で選ばれるような区長さんでも嫌々受けているような区長さんって結構多いようですよ。そういう形で、確実に連絡取れないと思います、私。ですから、もう毎年区長会があるのだから、総会が。そういう機会に合わせて毎年毎年いざというときに地区に誰に連絡取ればいいのか、そういうのはやっぱり体制つくっておくべきではないですかね。地区ももう混乱してしまうし、地区も基本的に体制、今毛呂山町の各地区で防災訓練なんか毎年のようにある程度の防災訓練やっている地区なんかも把握しています。恐らく全部やっているわけではないですよね。ですから、そういう意味でするとやっぱり連絡先ぐらいはきちっと、町の防災担当が把握しておくべきだと思います。その辺どうですか。

○岡野　勉委員長　小山総務課主幹。

○小山正史総務課主幹　質疑にお答え申し上げます。

連絡先、基本的に電話番号、携帯番号は自主防災組織さん、区長名簿等通して把握はしているつもりなのですけれども、やっぱり実災害のときに例えば自治会にも担当さんとかいらっしゃるので、そういったところの整備、それはやらなければいけないかなと正直考えてございますので、それについては早急に考えていきたいというふうに考えております。

以上です。

○岡野　勉委員長　長瀬委員。

○長瀬　衛委員　さっき言った自治会長、区長ったって、それは今さっき言ったようにそういう形で選ばれ

る人、区長が多いですから。そんな方に電話したってもう舞い上がってしまってどうしていいか分からない状況になるでしょう。その辺はやっぱりもう少し各地区に毎年年度初めにでもいいから、やっぱり啓発して地区にやっぱり曲がりなりにも少しでも体制づくりをお願いすべきではないですか。とにかく今仮にここで大地震でも来て震度５強以上が来るとかなり住宅も崩れるし、もうてんやわんやになってしまうと思うけれども。一番まごまごするのは地域です。その体制づくりを町が私はもうここで本当に本気になって考えるべきだと思います。連絡先、それからどういうことを指示するか、地域に、まず。うちのほうは、地域で緊急災害対策本部でつくってもう組織つくっていますから、毎年それで防災訓練しているから、適正な連絡さえいただければ私の地区では何とかその指示に従って、あるいは自分たちのマニュアルもあるから、併せてできますけれども。恐らくほかの地域ではないと思いますから。その辺をしっかり考えてほしい。

さっきの備蓄のほうはどうですか。水やトイレについてはどう考えています。

○岡野　勉委員長　小山総務課主幹。

○小山正史総務課主幹　質疑にお答え申し上げます。

飲料水、トイレ等の備蓄についてなのですけれども、委員ご指摘のとおり、能登半島地震でトイレ、水のやはり災害時の緊急性、逼迫性というところが叫ばれておることは町としても大変重く認識しております。町から配るという、地域の特性があるでしょうから、資機材購入補助金の利用度が少ないので、ぜひそれを利用する形で、こちらのほうはそれを使った整備というところを今後促していきたいというふうに考えておりますので、ご理解賜りたいと存じます。

以上です。

○岡野　勉委員長　この際、暫時休憩します。

（午後　１時４２分）

○岡野　勉委員長　休憩前に引き続き会議を開きます。

（午後　１時４３分）

○岡野　勉委員長　田邉税務課長から発言の訂正の申出がありますので、これを許します。

田邉税務課長。

○田邉和宏税務課長　歳入の都市計画税につきまして、堀江委員の質疑に対し、令和６年度当初予算概要書の都市計画税につきまして、下水道の負担金に充当していると発言をいたしましたが、こちら都市計画事業に係る公債費に充当しているに字句の訂正をさせていただきたいと存じますので、よろしくお願いいたします。

○岡野　勉委員長　ただいまの田邉税務課長からの発言の訂正につきましては､委員長において許可します。

この際、暫時休憩いたします。

（午後　１時４４分）

○岡野　勉委員長　休憩前に引き続き会議を開きます。

（午後　１時４５分）

○岡野　勉委員長　続きまして、46ページ、第２款総務費、第１項総務管理費、第１目一般管理費、第２目文書広報費、第10目諸費について説明を求めます。

大澤秘書広報課長。

〔大澤邦夫秘書広報課長詳細説明〕

○岡野　勉委員長　これより質疑に入ります。

千葉委員。

○千葉三津子委員　50ページ、文書広報費の中の印刷製本費なのですけれども、新規の部分で合併70周年を迎えての要覧をつくるという今ご説明あったのですけれども、この要覧なのですけれども、この中身という部分をここでお伺いしてもいいのですか。

○岡野　勉委員長　大澤秘書広報課長。

○大澤邦夫秘書広報課長　要覧につきましては、フルカラー16ページを予定しております。印刷会社のほうにお願いする内容としましては企画立案、取材、写真撮影等、ほぼほぼ内容のほうを印刷会社のほうにお願いしまして、校正は５回を予定しております。納品につきましては、来年１月末を予定しております。

以上でございます。

○岡野　勉委員長　千葉委員。

○千葉三津子委員　5,000部作成するという新規事業なのですけども、これって70周年記念事業に来た方とか、来町される各議会の方に配られるって説明あるのですけども、単価ですね、一冊の単価として、400円を切るくらいの単価ですかね、単純計算で。一冊に関して。

○岡野　勉委員長　大澤秘書広報課長。

○大澤邦夫秘書広報課長　ページ単価しか今手元にないので、計算させてください。休憩お願いします。

○岡野　勉委員長　この際、暫時休憩いたします。

（午後　１時５２分）

○岡野　勉委員長　休憩前に引き続き会議を開きます。

（午後　１時５２分）

○岡野　勉委員長　大澤秘書広報課長。

○大澤邦夫秘書広報課長　１冊当たりの単価となりますと387円、税抜きになります。

○岡野　勉委員長　千葉委員。

○千葉三津子委員　今まで多分60周年とかやられて、10年前にやってこられたという部分あるのですけれども、その都度この要覧というのは作成をしてきたのでしたっけ。

○岡野　勉委員長　大澤秘書広報課長。

○大澤邦夫秘書広報課長　町勢要覧につきましては、以前は５年おきに作成していたものでございます。当然５年おきですので、10年ごとの記念式典の際には新たにつくっていたということでございますが、予算が厳しい最近の状況でございますので、前回が10年前に作成して以来の新規の作成ということになります。

○岡野　勉委員長　千葉委員。

○千葉三津子委員　その10年前のときもこのような形式で配られたということなのですよね。そうなると、私個人的にそう思うのかもしれないのですけれども、予算上のこともあると思うのですけれども、もっと毛呂山町を知ってもらう。町民も知るべきではないかなと思うのです。せっかく70周年という部分があるのであれば、新しく越されてきた方もいらっしゃると思いますし、ちょっと予算的なことになってしまうので、難しいかもしれないのですけれども、各家庭にお配りをするということも毛呂山町の部分を知ってもらうためにはいいのではないかなと思ったものですから、新規事業でやられることはとても大切なことだと思うのですけれども、その辺はお考えにはならなかったのかなと思いました。

○岡野　勉委員長　大澤秘書広報課長。

○大澤邦夫秘書広報課長　委員おっしゃるとおり、当然町民全員の方に各家庭１冊ずつでお配りするというのは大変町民の方に対しても町内のことを新たに知っていただくということで大変重要なことだという認識はございます。ただ、先ほども申し上げましたとおり厳しい財政状況の中で全世帯、広報ですと毎月１万3,200部作成しております。それと同じ部数を作成するとなると倍以上、約2.5倍の金額ということにもなりますので、全戸配布ということではなくホームページ上でデータとして掲示をすることによってなるべく広くの方に御覧いただけるような体制を整えたいと考えております。

以上でございます。

○岡野　勉委員長　小峰委員。

○小峰明雄委員　大澤課長、１点ちょっと確認なのですけれども、印刷製本費がかなり高くなってきましたよね。歳入にも有料広告載っているわけですけれども、そういう点で今後広報でいかに収入を増やしていくかと、そういう点について、退職される方に聞くのは非常に申し訳ないのですけれども、どういうご見解があるのかお伺いいたします。

○岡野　勉委員長　大澤秘書広報課長。

○大澤邦夫秘書広報課長　先日の一般質問でも同じようなご質問をいただきまして、そこでも答弁申し上げましたとおり、秘書広報課、広報広聴係担当職２名ということで毎月広報を作成しておる合間を縫っての営業活動をしているところでございます。飛び込み営業でなかなか時間も割けないというところで厳しい状況ではございますが、なるべく毎月欠かさず営業活動ができるように職員のほうには伝えてがんばっていきたいという思いがあります。

以上でございます。

○岡野　勉委員長　小峰委員。

○小峰明雄委員　あと、こういう有料広告を活用しなければいけないと思うのです。財政的に厳しいのですから。先ほどあったように、町勢要覧とかそういうものに載せておくとか、何か歳入をそういうものに使っていくようなそういう取組というのも必要ではないかと思うのですけれども、いかがでしょうか。

○岡野　勉委員長　大澤秘書広報課長。

○大澤邦夫秘書広報課長　おっしゃるとおり、今回新たに町勢要覧を作成するに当たりまして検討したものとしまして、有料広告を掲載した暮らしの便利帳、あれと同じように広告代理店で広告を募って作成するということも検討させていただきました。ただ、そうすると中身が全てこちらのほうでつくったものを掲載するという形になってしまいまして、今の職員体制ですとなかなかそこまですることが難しいというところなどを業者と話合いをした結果ちょっと今回はその案は見送ろうという形にはなりました。今後におきましては、さらにその広告代理店と話を煮詰めまして、恐らく10年後にはなろうかと思いますが、その際には有料広告を利用して歳入を確保した上での作成というものを前向きに検討したいかと考えております。

○岡野　勉委員長　この際、暫時休憩いたします。

（午後　１時５８分）

○岡野　勉委員長　休憩前に引き続き会議を開きます。

（午後　１時５９分）

○岡野　勉委員長　続きまして、46ページ、第２款総務費、第１項総務管理費、第１目一般管理費、第４目会計管理費、第５目財産管理費及び132ページ、第13款諸支出金、第１項基金費、第４目土地開発基金費の説明を求めます。

田口会計管理者。

〔田口雄一会計管理者兼会計課長詳細説明〕

○岡野　勉委員長　これより質疑に入ります。

堀江委員。

○堀江快治委員　それでは、会計管理者に実際の金銭的なことは了解しておりますけれども、１点関係したことについてお伺いしますけれども、過日お伺いしたとおり、毛呂山町では入札の、特に一般競争入札の札というのですか、あれ、書類、入札の。書類を今まで私どもは会計管理者の元に金庫に開封まで保管しているというお話を聞いたのですけれども、過日管理者にお伺いしたところ、その実態は明らかでないと。ということは、大切な書類を預かるのですから、本来台帳がなくてはいけないわけです。何月何日にどういう書類をお預かりしたと。何月何日にそれを出したという出し入れを会計管理者の元に保管をしているというお話を聞いたのですけれども、その実態がないと言うのですけれども、その辺はどういうことなのですか、管理者。

○岡野　勉委員長　田口会計管理者。

○田口雄一会計管理者　今堀江委員おっしゃるとおり、入札に係る予定価格について各課から金庫に保管しておいてほしいという旨お願いがあった際にはその金庫の中で保管をしているという実態でございます。私もそのときに、おっしゃるとおり台帳で日付等をしっかりと管理した上で処理をしたほうがよろしいのではないかというご指摘に関してはまさにそのとおりだと思いました。今までそういうことができていな

かったことを反省しつつ、今後改善してまいりたいと存じます。よろしくお願いいたします。

○岡野　勉委員長　堀江委員。

○堀江快治委員　これは、本当に大変なことなのです。予定価格の管理者、首長が予定価格を事前に書いてそれを封筒に入れて、それを会計管理者の部屋のあの金庫に入れて応札が終えた後開封するということの流れを我々一般的に聞いていました。だけれども、その実態が明らかでないということは、私たちに今まで虚偽な発言を聞かされていたというふうに取らざるを得ないのですけれども。特に3,000万以上の一般競争入札の止め札が会計管理者のあの金庫の中に保管されているという実態が我々に見えないことは極めて遺憾でありますけれども。委員長、直接の金額的には触れていないのですけれども、そういう実態があるのです。今会計管理者がお話ししたとおりなの。私どもに、今まで長年にわたって私どもは大切な入札だから、入札の札があの金庫の中に開封まで保管されているのだなという安心感があったけれども、聞いてみたらその実態は全く不明なのです。これは極めて遺憾なことです。これ、会計管理者に責任があるわけではなくて、そういうことを平気で我々に説明をしてきた、特に金額的に扱う管財課が私たちにその止め札を、止め札というのですよね、最低制限価格は。止め札はどうなっているのだと１回聞いたら、ある執行する前に首長がその止め札を書いて、それを封に入れて厳封して、それを会計管理者のところの金庫に預けておくと。それで、応札が終えたらそこから取り出して開封するという流れを僕たち聞いているのです。それが、実態がないと言うのですから、誰か三役を呼んで、副町長かな。

○岡野　勉委員長　この際、暫時休憩いたします。

（午後　２時０９分）

○岡野　勉委員長　休憩前に引き続き会議を開きます。

（午後　２時２１分）

○岡野　勉委員長　質疑を続行します。

小峰委員。

○小峰明雄委員　会計管理者さん、大変お疲れさまでした。先ほどの需用費で６万2,000円は、48ページ、これ６万2,000円が昨年度と違うのですけれども、この辺の歳出はどのようにして、その根拠をお伺いします。

○岡野　勉委員長　田口会計管理者。

○田口雄一会計管理者　こちらの予算でございますが、内訳としては役場全体で使っている用度品、消耗品ですね、用度品が主なものになるのですけれども、物価高、物価高騰の影響によりまして増額になっておりますけれども、見積りを取っています。３社見積りを取りまして一番安価なところで計上はさせていただいているのですけれども、どこの見積りを見ても例年よりは価格が高くなっているという状況になっております。

○岡野　勉委員長　小峰委員。

○小峰明雄委員　あと１点、会計管理者の中で公金の振込手数料がございますよね、51ページに。この辺がかなり昨年よりかなり手数料が増えているのですけれども、こういう点というのは何か研究されて安価に

できるような方法とか、何か手数料を下げるような方法とかって、そういう検討というのはされたことあるのですか。

○岡野　勉委員長　田口会計管理者。

○田口雄一会計管理者　この振込手数料につきましては、令和５年度、今年度から負担をすることになったのですけれども、１件当たり100円かかってしまいますので、110円ですね、消費税込みで。この額は、少なくありませんので、どうしたら減らせるかということを職員のほうへ啓発はしているのですけれども、例えばまず買物をする際、消耗品が主に多いのですけれども、細かいものをちまちま買うのではなくてある程度まとまった発注をするようにして請求書そのものの枚数を減らしてほしいですとか、あるいはいただいた請求書をなるべく同じ費目でもってまとめて１回の振込にするというふうな工夫をしつつ、あとは定期的な支払いがある委託に関しては毎月を例えば隔月あるいは３か月ごととかいうところをある程度業者さんと相談をしつつなるべく少ない回数で支払いが可能であればそのように相談してみてくださいというふうなことで件数を減らすように努力をしておるところでございます。

○岡野　勉委員長　小峰委員。

○小峰明雄委員　田口課長、各課をまたいで課長会議とかそういう点のときにそういうふうにして税金ですから、少しでも減らしていくようなことをやっていかないと今後ますます増えていくと思います。よろしくお願いします。

○岡野　勉委員長　この際、暫時休憩いたします。

（午後　２時２５分）

○岡野　勉委員長　休憩前に引き続き会議を開きます。

（午後　２時２５分）

○岡野　勉委員長　質疑を続行します。

堀江委員。

○堀江快治委員　副町長、来ていただいて。私どもは、これまで一般競争入札の予定価格等止め札は管理者、首長が止め札の金額を記入した後厳正に封をして会計管理者の部屋の金庫に保管をして、その開封時は応札があった後然るべき形で開封をして確認すると、こういうことを聞いた。過日会計管理者にそういうものは大切なことだから、何を預かり、何を出したか記帳があるでしょうと言ったらありませんと。それから、ではそういうことで封筒をお預かりして金庫にしまっているのですかと言ったらそれも、こう言っては失礼ですけれども、定かではない。では、一体我々は今まで厳正を期するために止め札を書いて金庫に入れてあったという、封をして金庫に入れてあって応札後にそれを開封してという１つの流れが私はうそではないかと。何をやっていたのだと。どういうふうに今まで毛呂山町はその管理をしていたのだということを今質疑しています。どうしてたのですか。

○岡野　勉委員長　副町長。

○関本建二副町長　今のお話ですけれども、入札の、例えば最低制限価格などを町長が記入をして、それで

封をしてその封筒を会計管理者の金庫に開札までの間預けるということ。その際に、実際金庫の鍵を管理しているのは会計管理者でございますので、会計管理者本人が鍵を開けて金庫にその封筒を入れるということもあれば、会計課の職員が会計課長の許可を得て鍵を借りて金庫を開けて入れて、また鍵をかけてと、そういう運用の実態があるので、会計管理者本人がやらない場合もありますから、記憶にないとか、ちょっと不十分な答弁をしたのかもしれません。しかし、確かに管理する帳簿はございませんけれども、金庫に出し入れするのは会計管理者の管理の金庫でございますので、会計課の職員もしくは会計管理者本人が金庫からその封筒の出し入れはやっていると、そこのところはしっかりできているというふうに私は聞いております。

○岡野　勉委員長　堀江委員。

○堀江快治委員　ご本人いるので、失礼ですけれども、その認識はないそうです。全体の認識は。帳簿がないのですから。基金の帳簿はちゃんとお持ちなのですよ、会計管理者が。こうして、こうやって、順を追った基金の管理は極めてちゃんとけじめがついている。今の最低制限価格等の厳正に封をした書類の入れ出しはないのです。それで、ない以上、それでいいのですか、副町長。

○岡野　勉委員長　副町長。

○関本建二副町長　法律あるいは規則などでそういった管理する帳簿をつくりなさいという規程は特にございません。現実に最低制限価格を記載した書類の封印された封筒の出し入れということですけれども、ある意味シンプルな動作、取組、作業でございますので、そこまでの帳簿で管理するまでの必要はないのではないかというふうに私は考えます。

○岡野　勉委員長　堀江委員。

○堀江快治委員　幾ら言っても尽きないのですけれども、私の考えでは入札行為の最低制限価格の記帳は極めて重大な書類なのです。だから、重大な書類だけにその保管状況というものはきちんとして明示しなければいけないと私は思うのです。いつ誰が持っていって預けたかもしれない。鍵は、だから会計管理者も係もみんな開けられるそうです。お聞きしました。だけれども、会計課の人にしまっていただいたにしても何月何日に、内容はいずれにしても書類を、封を預かったと。それで、何月何日に出したというようなことは事が事だけに極めて厳正でなければいけない。明確でなければいけない。だって、誰がいつ金庫を開けたのか分かりません。誰が抜いたのか分かりませんでは、それでは確認取れないのです。だから、やっぱり金庫への出し入れ、収納と出すのは何で一番説得力があるかと言えば、きちんとした帳簿をつくって、それを我々に見せる必要はありませんけれども、やっぱり保持する必要があるのではないですか。いかがですか。

○岡野　勉委員長　副町長。

○関本建二副町長　お話の趣旨はよく理解できます。ただ、そこまでやる必要があるだろうかというふうには思います。

○岡野　勉委員長　堀江委員。

○堀江快治委員　これからもそう思うのですか。今日私はあえて過去に遡っていいとか悪いとか言うつもりはございません。だけれども、重要な書類ですから、そういう形で今後保管帳簿等、言葉がどうか分かり

ませんけれども、保管した帳簿というものはきちんとつくっておくべきではないかという今提案を含めての質疑をしているのです。その点、そんなものは要らないのだということを今副町長は俺に言うわけですか。

○岡野　勉委員長　副町長。

○関本建二副町長　結局最低制限価格などの書類を封印をしてどう開封まで管理をするのか、保管をするのかということについては明確な規則もルールもないのです。つまり、事実上の運用として今会計課の金庫に預けているという場合があるということでございまして、全部が全部会計課の金庫に預けているわけではないということでございますので、会計課の金庫に預けるものについては誰が金庫開けたか分からないというのは確かにご意見としてはごもっともですけれども、私は会計管理者、会計課を信用したいというふうに思います。

○岡野　勉委員長　堀江委員。

○堀江快治委員　意見がかみ合わないのだけれども、正直副町長、どうしたら、ではそのままで今のように預けたのだか預けないのだか明確にならなくても構わない今の流れで行ってしまうということを主張したいのですか。

○岡野　勉委員長　副町長。

○関本建二副町長　そこのところの保管のルールが規則などでは決まっておりませんので、ある意味扱いが様々、金庫に預ける場合もあれば、そうではなくて各課できちんと保管をする場合もあるわけでございますので。

○岡野　勉委員長　堀江委員。

○堀江快治委員　今までそういう説明を聞いていなくて、一般競争入札の最低制限価格の札は首長が書いてそれを封に入れて必ず会計管理者の部屋の金庫に入れておいて、応札の後に然るべき日にちにそれを開封するという流れを我々は聞いていたから。会計管理者に対しては問題ない。町側の責任に、特に管財が多いのですよ、そのことについては。管財課長、今いらっしゃらないので、それで今副町長に来てもらったのだけれども。いいですかね。何か今までどおりというのはどういうとおりか理解できない。私どもが聞いているのはそういうふうに聞いていた。必ず金庫にしまっておいて応札日が来て、それであるときにその金庫から出して開封をして落札を決めるというお話を聞いていたけれども、それは話なのですね、話半分で。

○岡野　勉委員長　この際、暫時休憩いたします。

（午後　２時３７分）

○岡野　勉委員長　休憩前に引き続き会議を開きます。

（午後　２時４１分）

○岡野　勉委員長　副町長、答弁求めます。

○関本建二副町長　先ほど私が申し上げた金庫に預けるものもあればそうでないものもあるというふうに申

し上げたのは、正確に言いますと今予定価格については公表しているものがございます。そういったものは、金庫には預けません。各課のほうで保管をすると。そして、預けるのは必ず預けなければならないというか、預けているのが、最低制限価格。これは、しっかりと封をして金庫のほうに預けているというものでございまして、ただ実はこれ制度として確立されたものでないと言いますか、事実上の運用ルールで今やっている次第でございます。委員がおっしゃるのも、趣旨も分かりますので、この際でございますので、この運用をきちんと通知などで、こういうものは金庫に預けてください、こういうものは各課で対応してくださいといったようなことをきちんとルール化をして適正な運用を図ってまいりたいと思います。

○岡野　勉委員長　堀江委員。

○堀江快治委員　最初からそう言ってくれれば。僕が言っているとおり、僕が問題にしているのは最低制限価格を伴う一般競争入札の札を入れているのかと聞いたので、それはいろいろありますけれども。だから、副町長、それで納得するけれども、信用、これは信頼関係に基づくものだから、やっぱりそれまで、今までそういうことが確立されていなかったということは私どもは信頼関係の中で承知していませんでした。そういうものは必ず金庫に入っているものだという認識でいましたから。だから、今日これから早急にそういうルールをつくって、あしたにでもつくっておいてください。そうすれば了解します。分かりました。

○岡野　勉委員長　この際、暫時休憩いたします。

（午後　２時４４分）

○岡野　勉委員長　休憩前に引き続き会議を開きます。

（午後　２時４５分）

○岡野　勉委員長　続きまして、51ページ、第２款総務費、第１項総務管理費、第３目財政管理費、第５目財産管理費、第６目企画費、第９目電子計算費について説明を求めます。

小峰企画財政課長。

〔小峰一俊企画財政課長詳細説明〕

○岡野　勉委員長　これより質疑に入ります。

佐藤委員からお願いします。

○佐藤秀樹委員　55ページの今説明があった婚活サポート補助金なのですけれども、まずこちらの申請日時点で35歳未満の方って書いてあるのですけれども、35歳未満というその定義は何かあるのですか。

○岡野　勉委員長　波田企画財政課主幹。

○波田仁美企画財政課主幹　質疑にお答え申し上げます。

ただいまいただきました新規事業であります婚活サポート補助金の年齢要件の考え方についてでございますが、こちらにつきましては少子化の要因といたしまして１つ大きいものでございます未婚化、晩婚化の対策として開始をするものでございます。このことから、一般的には妊娠の率が大きく下がります35歳、ここを境にそれ未満の方に対して補助を行いたいという趣旨のものでございます。

以上でございます。

○岡野　勉委員長　佐藤委員。

○佐藤秀樹委員　男女ともに35歳未満なのですか。

○岡野　勉委員長　波田企画財政課主幹。

○波田仁美企画財政課主幹　質疑にお答え申し上げます。

ただいまご指摘のとおり、男女ともに35歳未満で予定をしております。

以上でございます。

○岡野　勉委員長　小峰委員。

○小峰明雄委員　企画費の中で今回定住促進補助金とか未来応援奨学金、増額になっているけれども、これを増額して定住促進にどう結びつけるかというのと、今後の、例えば令和６年度に同じことをやっていきますけれども、またその先も考えなければいけないと思うのですけれども、その辺の考えとかというのはございますか。

○岡野　勉委員長　小峰企画財政課長。

○小峰一俊企画財政課長　ご質疑にお答え申し上げます。

定住促進に関するご質疑でございますが、委員ご承知のとおり、毛呂山町の最重要課題といたしまして少子高齢化に伴います人口減少、これが最重要課題となっております。そういった中で町のほうといたしましては若者世代をメインターゲットといたしまして定住促進を図っていきたいと、こういったような施策をここ数年強化しているところでございます。そういった中で、この未来応援奨学金返還支援補助金、また定住促進補助金につきましてはここ数年新しい事業となっておりますが、非常に若者世代の方たちから、これは当然好評といいますか評価を得ておりまして、町のほうといたしましては定住促進、例えば５年間の定住要件ですとか、そういったような制限のほうをかけさせていただいておりまして、住民税等でその部分については財源確保のほうをさせてもらっている、こういったような趣旨もございます。今後も当然この２つの事業につきましては評価検証、こちらのほうをしっかり実施した上で、さらに改善等も含めて推進のほうをしていきたいとこのように考えておりますので、ご理解を賜りたいと存じます。

○岡野　勉委員長　小峰委員。

○小峰明雄委員　あと、この金額を増額したわけですけれども、これは歳出した根拠というのがあるから、この金額になったと思うのですけれども、その点についてお伺いします。

○岡野　勉委員長　小峰企画財政課長。

○小峰一俊企画財政課長　ご質疑にお答え申し上げます。

この未来応援奨学金返還支援補助金につきましては、原則５年間の補助がございます。今年度実績の方につきましては来年度も定住してくれる限り継続されるというところでございます。そういった中で、来年度の新規分を５件ほど見させてもらっておりますので、同じように定住促進のほうも新規分のほうを見させてもらった関係で若干の増額となっておりますので、どうぞご理解を賜りたいと存じます。

○岡野　勉委員長　小峰委員。

○小峰明雄委員　増額したからにはしっかり啓発してその予算計上をしたものをしっかり執行していかなければいけないと思いますので、お願いします。

あと、ちょっと54ページの負担金補助及び交付金の越生線改善対策協議会の負担金というのがありますよね。これは、昨年はちょっと見受けられなかったようなのですけれども、この協議会の負担金を出して何がどう変わっていくのか、その点についてお伺いします。

○岡野　勉委員長　小峰企画財政課長。

○小峰一俊企画財政課長　ご質疑にお答え申し上げます。

こちら、越生線改善対策協議会負担金の１万円でございますが、ここ数年間はコロナの関係で負担金のほうを徴収しないで繰越金等で運用のほうをさせていただいたというところでございます。来年度につきましては、コロナ禍ということもございまして、通常どおりの負担金のほうを構成市町のほうで徴収すると、こういったようなところの理由でございます。

また、この越生線改善対策協議会におきましては、町のほうからも単独での要望等も出させてはいただいているのですが、なかなか東武鉄道さん等の関係もございますので、町のほうとしましては引き続き要望活動、こういったことには力を入れていきたいとこのように考えているところでございますので、ご理解を賜りたいと存じます。

○岡野　勉委員長　荒木委員。

○荒木かおる委員　私も未来応援奨学金のことでお聞きいたします。去年の、昨年の当初予算よりも人数が増えたために増額になっているのですよね、補正をしてと思うのですけれども、増えた原因というのがちょっとよく分かりませんけれども、若者の方があまり広報紙とかあまり見ないので、私もこういう制度があるよって言って教えて、そんなのがあるのですかって言われて申請する方も結構いると思うのです。広報以外にホームページとかでもありますけれども、やはりまだまだ知らない若者世代がいらっしゃると思うのです。もっと啓発が必要かなと思うのですけれども、そこら辺いかがでしょうか。

○岡野　勉委員長　波田企画財政課主幹。

○波田仁美企画財政課主幹　ご質疑にお答え申し上げます。

奨学金の補助金についての周知についてでございますが、ただいまご指摘いただきましたとおり、対象者が若い世代ということで広報紙を御覧にならないことも当然想定ができます。今年度は、総合振興計画の関係で町内と城西大学、埼玉医大さん、あと日本医療科学大学さんの大学生と意見交換をさせていただいた中でも、意見交換に際して学生の皆さんも町のことを調べてくださって、その中で初めて恥ずかしながら奨学金のこの支援制度を知って大変よい制度だとおっしゃられた学生さんもいらっしゃいました。そうしたことから、来年度につきましては広報ですとかＳＮＳの周知はもちろんなのですけれども、大学さんとは連携協定も締結しておりますので、大学を介した周知等についても力を入れてまいりたいと考えております。

以上でございます。

○岡野　勉委員長　荒木委員。

○荒木かおる委員　たしかこの制度は埼玉県で初めての制度だと思うのですけれども、その後これからやろう、何か東松山でも今年度予算に上がってきたというお話を聞いているのです。いろいろ問合せがあると思うのですけれども、そこら辺いかがでしょうか。

○岡野　勉委員長　小峰企画財政課長。

○小峰一俊企画財政課長　ご質疑にお答え申し上げます。

こちら奨学金のほうの近隣の市町の状況でございますが、問合せのほうは企画財政課のほうに入っているのも事実でございます。町のほうといたしましては、本当にこういった制度というのは多くのところで実施してもらいたいかなとは思っているのですが、その理由といたしましては現在こちらのほうの特別交付税の交付率が毛呂山町の場合だと30％になっておりますので、ほかの県で言いますと50％まで、毛呂山町、埼玉県が首都圏から近いというのもあるのですが、多くの自治体がやることによってこういったところの交付率が上がる可能性もございますので、また幅広く連携が取れればなとこのように考えているところでございます。

以上でございます。

○岡野　勉委員長　荒木委員。

○荒木かおる委員　国会議員を通して、何で埼玉県が50％にならないのかというお話もしているのですけれども、50％になればもっともっと予算も出せるかなというふうに思います。私たちもがんばっていかなければいけないのですけれども、もっともっと啓発して定住促進支援を図っていただきたいと思います。答弁は結構です。

○岡野　勉委員長　平野委員。

○平野　隆委員　私のほうからは、こちらの新規事業のほうにも載っているのですけれども、毛呂山町コミュニティバス運行事業、いわゆるもろバスですけれども、これは以前にも全協なんかで説明されたときも私も意見は言ってきたのですけれども、毛呂山町がタクシー会社もともと２つあってそれとのバランスもということで、タクシー会社名前変わったところもありますけれども、そもそもですけれども、もろバスがあるところにタクシー会社が来たのではなくて昔からタクシー会社がある町で、そこでもろバスが始まったのだから、民間を圧迫しないような共存できるようなというのをお願いしてきたつもりなのですけれども、その辺でしっかりタクシー会社さんのほうともろバスがあってすみ分けて助かっているよという意見交換ができているのかどうか、ちゃんと確認取れているのかどうか、ちょっとそこだけお願いします。

○岡野　勉委員長　小峰企画財政課長。

○小峰一俊企画財政課長　ご質疑にお答え申し上げます。

もろバスの運行を委託しておりますタクシー業者との連携というご質疑でございますが、定期的に運行事業者のほうとは今後のもろバスのことも含めてもそうですし、現在の運行状況、また住民に対するサービスの内容ですとか、いろんな問題等も多々、いろんなお電話とかも入ってくる部分もありますので、そういったところの連携のほうは万全の体制で取らさせてもらっていると、このような状況でございますので、ご理解を賜りたいと存じます。

○岡野　勉委員長　平野委員。

○平野　隆委員　では、現在はちゃんとすみ分けができているという解釈で大丈夫ですか。

では、もう一つ、ちょっと先ほどの佐藤委員の質疑と被ってしまうのですけれども、これも新規事業として婚活サポートの補助金というのがこちらの15ページのほうに出ているのですけれども、先ほど35歳と

いうののなぜ35歳かのエビデンスとして、そもそもこの婚活というのは少子化対策のことなのでというふうにそこで年齢切ったと言うのだけれども、人というのはすごく個人差があって、私の同級生なんかが52歳で子供が、女性ですからね、52歳で子供、同級生でがんばっているのいるのだから、やっぱりそういうところはちょっとせっかくいいことしようとしているのだから、35歳というのはどうかなって私は思うのだけれども、課としてどうですか。

○岡野　勉委員長　小峰企画財政課長。

○小峰一俊企画財政課長　ご質疑にお答え申し上げます。

　こういった補助に関しましては、やはりいろんな観点があるのかなと、このように思っているところでございます。町のほうといたしましては、冒頭申し上げましたとおり少子化対策、これを本当に最重要視して実施していく必要があると。こういった中でいわゆる未婚化、晩婚化、こういったことが全国的な少子化の背景の柱になっていると、こういったような内容でございますので、出会いの機会を設けるために、では町が何ができるのかと、こういった観点から実施のほうをさせていただくものでございます。そもそもこのＳＡＩＴAMA出会いサポートセンターにつきましては毛呂山町自体がまず会員にはなっておりますので、その時点でまず加入料金のほうが安く住民の方が入れるというのがワンステップ、今既に今年度もございます。さらに来年度からこの補助をすることによって5,000円で２年間加入できると、こういった出会いの場の入りやすくしたいと、そういったところでどうしてもちょっと予算の関係等もございまして、これは本当にいろんな見方があるかなとは思うのですが、ちょっと年齢制限のほうをかけさせてもらったと、こういったような状況がございますので。また、今回20人分の予算ということで見させてもらっておりますので、これにつきましてもまた今後の状況等を加味した上で検証のほうは実施していきたいと、このように考えておりますので、どうぞご理解を賜りたいと存じます。

○岡野　勉委員長　平野委員。

○平野　隆委員　分かりました。今説明されたとおりで、そもそもこのサポート事業ですけれども、これはＳＡＩＴAMA出会いサポートセンター、いわゆる恋たまというものがあって、それってそもそもだから県の事業というか埼玉県がやっているやつですよね。それに対する毛呂山町が会員で云々でそれに補助金出すって言うのだけれども、毛呂山町ってそもそも交付団体で県からお金をもらって、これ一般財源から出るって書いてあるのだけれども、県からお金もらって運営している町なのだけれども、この事業というのはそもそもが県の事業なのだけれども、その県の事業に何かまたお金を出してしまうみたいな、分かります、言っている意味。県からお金もらっているのだけれども、今度は県の事業に町からお金を補助してしまうみたいな、ちょっとそのマネーが回ってしまうみたいな。ちょっと解釈が悪いのかもしれないけれども、ちょっとそういうお金の流れというのはあんまりしっくり来ないのだけれども、簡単にちょっとそこのところ、何でそうなってしまうのかなというお金の流れを教えてください。

○岡野　勉委員長　波田企画財政課主幹。

○波田仁美企画財政課主幹　ご質疑にお答え申し上げます。

　ただいまのご指摘でございますが、こちらの恋たまにつきましては埼玉県等が市町村が会員になって運営している団体でございます。今回の補助金につきましては、その団体を介して出会いの場を求める個人

の方、住民の方に対して補助を行うものになりますので、あくまで町といたしましてはその恋たまのほうに補助を行うのではなくて恋たまに入会した、一定条件を設けさせていただいておりますけれども、一般住民の方に補助を行うということで二重にお金が出るとかそういう仕組みではないと認識しておりますので、ご理解いただきたいと思います。

以上でございます。

○岡野　勉委員長　平野委員。

○平野　隆委員　分かりました。恋たまに出すのではなくて個人に出すからと。何かそれってパチンコ屋と景品というのと一緒でやっていることは一緒。でも、そういうふうなあれがあるのだったらいいのですけれども。一応確認なのですけれども、ではこれは県内51市町村がみんなやっているということなのですけれども、よその市町も今回こうやって一斉に補助金を出してみんなで会員を増やそうよと。毛呂山町もその中の一つであってみんな一律にやっているという、そんな認識でよろしいでしょうか。

○岡野　勉委員長　波田企画財政課主幹。

○波田仁美企画財政課主幹　ご質疑にお答え申し上げます。

こちらは今回の新規事業でございますが、県内の加入自治体51団体一律ではなく町のほうで少子化対策を進めなければというところで独自に行うものでございます。こちらのほうで把握しておりますのは、県内で先行して同様の補助金出している団体が１つ、２つあるようでございますけれども、一律ではなく町の少子化対策を進めたいというところの事業でございますので、ご理解いただきたいと思います。

以上でございます。

○岡野　勉委員長　平野委員。

○平野　隆委員　分かりました。毛呂山町に住んでいる人だけが恩恵を受けるようなことだと思うのですけれども、ただこれは毛呂山の人だけがたくさん行ってそこで出会ってもというのではなくて、県の単位でやっているのであれば出会いを求めて皆さんそれを期待して行くのだから、やっぱり町単独でやるというのもいいかもしれないですけれども、やっぱり全ての会員を増やしていく、もっと大きな視点で考えていかないと。やっぱりせっかく毛呂山の人だけ補助金が出るから、会員になろうって増えたってやっぱり県全体が増えてもらわないと。県に協力しているのであれば町独自でこういうふうにお金を出すのは、これはいいことなのだけれども、もっとせっかく出会いの場というのだったらそういうふうなことを訴えていかないと。今数字だけ見ると相当な人数が会員になっていてそこそこって言ったら失礼だけれども、結果も出ているようではないですか。だから、そういうふうに考えていっていただきたいのですけれども、ちょっと希望ですけれども、いかがですか。

○岡野　勉委員長　小峰企画財政課長。

○小峰一俊企画財政課長　ご質疑にお答え申し上げます。

委員ご指摘の部分も確かに広域で実施しているというところは重々理解しているところでございます。こちら、まずＳＡＩＴＡＭＡ出会いサポートセンター運営協議会会費ということで毎年毛呂山町につきましては加入しておりますので、４万3,000円のほうを支出させてもらっていると。それが今年度までということで、このことによって、会員になることによって通常だと１万6,000円、２年間の登録料が会員になっ

ていることによりまして１万1,000円に下がっているということで広域で加入してもらえればそれだけメリットがありますよというのが今の現在の運用になっておりまして、さらに毛呂山町としましては未婚化、晩婚化、これを何とか抑制したいと、そういった観点からさらに上乗せで独自支援ということで今回予算のほうを計上させていただいたものでございますので、ぜひともご理解を賜りたいと存じます。

以上でございます。

○岡野　勉委員長　次に、66ページ、第５項統計調査費、第１目統計調査総務費、第２目基幹統計調査費について説明を求めます。

小峰企画財政課長。

〔小峰一俊企画財政課長詳細説明〕

○岡野　勉委員長　これより質疑に入ります。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○岡野　勉委員長　質疑なしと認めます。

次に、131ページ、第12款公債費、第１項公債費、第１目元金、第２目利子及び132ページ、第13款諸支出金、第１項基金費、第１目財政調整基金費並びに133ページ第14款予備費について説明を求めます。

小峰企画財政課長。

〔小峰一俊企画財政課長詳細説明〕

○岡野　勉委員長　これより質疑に入ります。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○岡野　勉委員長　この際、暫時休憩いたします。

（午後　３時１１分）

○岡野　勉委員長　休憩前に引き続き会議を開きます。

（午後　３時１３分）

○岡野　勉委員長　続きまして、51ページ、第２款総務費、第１項総務管理費、第５目財産管理費について説明を求めます。

髙沢管財課副課長。

〔髙沢孝仁管財課副課長詳細説明〕

○岡野　勉委員長　これより質疑に入ります。

佐島委員。

○佐島啓晋委員　14節の都市公園遊具施設整備について質疑させてください。こちらの16ページ、この写真によりますと今年度新しく遊具を入れるものの写真を見ましたけれども、かなり古くて、ちょっと危険なような感じがやっぱりします。今新しくしている設備はプラスチック製でけがもかなり回避されるような、総合公園なんかのものなんかがいい例だと思うのですけれども、まだこのような鉄製で30年ぐらい前の遊具というのはまだ都市公園としてどのぐらい残っているのでしょうか。

○岡野　勉委員長　髙沢管財課副課長。

○髙沢孝仁管財課副課長　町内の遊具が設置してある公園についてなのですが、すみません、詳細ちょっと今すぐ出てこないのですが、鉄製の遊具自体はまだまだ残っている状況です。遊具の安全点検につきましては毎年実施しているのですけれども、こちらの国のガイドラインに沿って危険というかハザード、指摘されているものについては順次直しているといった状況です。

以上です。

○岡野　勉委員長　佐島委員。

○佐島啓晋委員　今回一般質問で防災のコンテナとかを公園に置くと言ったのですけれども、それよりもやっぱりこちらのほうがどうしても優先、やっぱり子供のけがとかあったら一大事になってしまうので、極力また予算をつけたり補正で見直したりして早期に新しい安全な遊具にしてもらえたらと思っています。

以上です。

○岡野　勉委員長　髙沢管財課副課長。

○髙沢孝仁管財課副課長　ありがとうございました。都市公園遊具に関係しましても子供たちの安全性にも関わるところでございます。町としても子育て支援の方針をしっかり示していく中でございますので、必要な財源についてしっかり要望というか確保できるように努めてまいりたいと思いますので、よろしくお願いします。

○岡野　勉委員長　佐藤委員。

○佐藤秀樹委員　52ページの委託料なのですけれども、まず清掃の委託料が前年より増額になっているのですけれども、そちらの理由をお願いします。

○岡野　勉委員長　内野管財係長。

○内野益穂管財係長　ご質疑にお答えいたします。

清掃委託料が上昇したということでございますが、こちらにつきましては３年に１回長期継続契約のほうを締結しておりまして、今年度が契約の更新年となりまして、令和６年４月１日から３年間の契約となりますので、人件費の上昇等もございまして金額が上昇しているところでございます。

○岡野　勉委員長　佐藤委員。

○佐藤秀樹委員　分かりました。

次に、同じく委託料のシルバー人材センター業務委託料、こちら大幅に増額となっているのですけれども、そちらの理由をお願いします。

○岡野　勉委員長　髙沢管財課副課長。

○髙沢孝仁管財課副課長　ご質疑にお答え申し上げます。

シルバー人材センター業務委託料につきましては、令和５年度中央公民館と東公民館の受付業務を直接雇用でやっていたところをシルバー人材センターの委託に切り替えたと、その分の増額という形になります。

○岡野　勉委員長　佐藤委員。

○佐藤秀樹委員　シルバー人材センターの事務所なのですけれども、こちらもう手狭だということと老朽化

で雨漏りがしているということを何年も前から言われていたと思うのですけれども、その辺の改善というのは検討されているのでしょうか。

○岡野　勉委員長　髙沢管財課副課長。

○髙沢孝仁管財課副課長　ご質疑にお答え申し上げます。

シルバー人材センターのほうの町部局のほうの委託業務の発注なのですけれども、まずそれは管財課のほうでまとめて契約させていただいてやらせていただいております。シルバー人材センター自体の事務局というか、担当としては、すみません、ちょっと管財課であるという認識はございませんでしたが、恐らく高齢者支援課のほうになるかなと思うのですが、高齢者の雇用促進の観点からというところだと思いますので。ちょっと今まで管財課のほうでシルバーのほうから事務所の件で要望が挙がったりとかというのはなかったように記憶しております。

以上です。

○岡野　勉委員長　小峰委員。

○小峰明雄委員　まず、シルバー人材センターの業務委託料が大幅に増になっていますけれども、ただいま公民館とか受付等という話なのですけれども、そこで今の現状と、例えばシルバー人材センターに委託したときにどのくらいの差が出て町としてはこのことによってこれだけ削減できたというものはしっかり積算されているのか、この点についてお伺いします。

○岡野　勉委員長　内野管財係長。

○内野益穂管財係長　ご質疑にお答えいたします。

会計年度任用職員、現状と新たに令和６年度からシルバーの派遣の料金ということで対比のほうをしてございまして、会計年度任用職員の場合ですとおよそ916万円、これに対しましてシルバーの派遣料金のほうが781万円およそとなっております。差引きしますとおよそ134万円程度となってございまして、削減の効果が見込めるところでございます。

以上でございます。

○岡野　勉委員長　小峰委員。

○小峰明雄委員　それだけ削減できるということなのですけれども、そうしますとシルバーに委託したときに現在の方というのはもう会計年度だから、雇用ができなくなるという単純にそういうことなのですよね。

○岡野　勉委員長　髙沢管財課副課長。

○髙沢孝仁管財課副課長　ご質疑にお答え申し上げます。

会計年度のほうからシルバー人材センターの切替えに伴って担当の方が変わるかどうかといったようなご質疑だと思うのですけれども、基本的に委託という形になりますので、誰をよこしていただけるかというのはシルバーのほうの裁量にはなってくると思います。そういった中で、当然派遣する人もしっかりこういった方を出すのだよということでシルバーのほうから出てくるとは思うのですけれども、基本的にその会計年度切り上げてそのままシルバーに行くというケースもないわけではないというふうに承知しておりまして、そこはちょっとシルバーのほうに任せる形になります。

以上です。

○岡野　勉委員長　小峰委員。

○小峰明雄委員　シルバーに任せて受付業務で何か問題がないようにしっかり指導してもらいたいと思います。

それと、その委託料の中に新規で工事設計等技術支援業務委託料って、これ10万円という新しいものが載っていますけれども、この支援業務委託料を載せておりますけれども、そうしますと今まで設計業者に委託したりいろいろなことを行ってきているわけなのですけれども、また再度こういうふうにしていくとなると何か問題があるから、こうなってしまったという、前例があるからだと思うのです。やっぱりその辺しっかり検証しなければいけないのだけれども、なぜこの委託料を計上しなければいけない。その原因というのですか。それは、何があるから、こういうことになったのですか。

○岡野　勉委員長　髙沢管財課副課長。

○髙沢孝仁管財課副課長　ご質疑にお答え申し上げます。

今回新規で計上させていただいた技術支援業務委託料についてなのですけれども、こちらの町のほうのやはり、特に発注、工事発注担当課のほうの課題というか悩みとして建設、建築関係の技術力という部分がございます。ご指摘のように、もちろん一定程度の金額であったり、複雑な工事の設計というのは設計業務委託として委託業務、これは別に発注するわけなのですけれども、また今回ちょっと上げさせていただいたのは、そういう設計を進める中でやはり中立的とか中間的な立場として技術的な助言を第三者機関にいただくといったようなことも必要なのであろうということからです。基本的に、そのいきさつとしてはやはり発注担当課のほうの技術力の向上のためという形になります。よろしくお願いします。

○岡野　勉委員長　小峰委員。

○小峰明雄委員　ちょっと中間的というのはどういう意味なのですか。だって、職員側は皆様方、何か今の答弁聞いていると何か問題があったようにも聞こえるし、発注者側の技術を向上させるのだって言うけれども、この委託先というのはどういうところのを考えているのですか。

○岡野　勉委員長　髙沢管財課副課長。

○髙沢孝仁管財課副課長　現在考えておる委託先につきましては、ＮＰＯ法人彩の国技術士センターに委託していこうということを考えております。

以上です。

○岡野　勉委員長　小峰委員。

○小峰明雄委員　何か聞き慣れたお言葉ですね。こういう結果になってしまうのですか、こういうことで。だから、小さな仕事でもそうですけれども、皆さんが例えば県道側のブロック１枚、２枚積むものをできない状況なのです。だから、それが億単位の仕事をやるというのは大変だと思いますよ。だから、設計はしっかりしていればこういう方も必要がないし、やはり小さな仕事で職員さんが行うケースもございますよね。そういうときにこの方々に10万円で、もう金額知っていますよね、単価は。果たして賄うことができるのかということです。何かつながっているという言葉は失礼なのですけれども、どうしてこういうふうになってしまったのですか。私ちょっと理解できないのですけれども。どうなのですか。

○岡野　勉委員長　髙沢管財課副課長。

○髙沢孝仁管財課副課長　お答え申し上げます。

今回の委託料につきましては、当然設計段階での照査というか、実際に設計図をつくったり積算をしたりという業務ではなくて、それとは別に設計途中の成果物か何かを第三者機関のほうで照査していただくといったような内容を考えています。また、設計段階以外にも例えば工事検査のタイミングであるとか使うタイミングというのは幾つかあろうかなと思っています。また、彩の国技術士センターのほうはちょっと昨年度の類似の事例などの金額なんかも見させていただいたのですけれども、一般の設計コンサルなんかに発注するとちょっと10万円という金額はなかなか難しいというか大したことできないかなと思うのですが、技術士センターのほうが比較的その辺も金額設定が良心的というかの部分がありますので、今回10万円を計上させていただきました。

以上です。

○岡野　勉委員長　小峰委員。

○小峰明雄委員　工事検査だとか、そうなるとその積算という話もしていたけれども、では本当に信頼関係も何もないようになってきましたよね。全部ここに任せるよと、中身見てよという話になってくるように聞こえますけれども。ということは、工事検査だって、ではこの方々に頼まなければできないという、そういうふうにも取れるし、もうちょっといろいろ努力してください。

次行きますけれども、先ほど庁用自動車のお話がありました。ご説明を受けたときに、毛呂山町の地域温暖化対策実行計画、それに基づいてという今説明を受けたのですけれども、私どもは３月１日に初めてこの計画を説明受けているのです。何かこの車を買うためにこういう実行計画をリンクさせて無理に出しているというふうに、この計画はいつできたということです。だから、あまりにも突拍子もなくぽっと出てきたようにも見えるのですけれども、そういう点はないのですか。いかがですか。

○岡野　勉委員長　髙沢管財課副課長。

○髙沢孝仁管財課副課長　ご質疑にお答え申し上げます。

まず、地球温暖化計画につきましては、生活環境課のほうで策定している計画ということになりますけれども、2050年ゼロカーボン実現を目指した2030年までのアクションプランということで令和６年３月に策定したものでございます。ゼロカーボンへの取組というのはいずれにしても町のほうもこれは進めていかなければいけない重要政策の一つだというふうに捉えておりますけれども、今から車買わせていただくといった状況の中でガソリン車という選択肢というのはないのかなというふうにも捉えています。ですので、令和６年度は２台分という形でやらせていただいているのですけれども、最終的にはもう少し台数を増やして計画に基づいての目標設定などもクリアできるように努めてまいりたいと思います。

以上です。

○岡野　勉委員長　小峰委員。

○小峰明雄委員　３月に実行計画ができたのに当初予算に計上されている。車を買う。その元は実行計画だと言うと何かつじつまが合わないですよね。10台最終的にお買いになるようですけれども、ガソリン車は出先機関に行くのだと言うけれども、出先機関も少なくなっていますよね。地震があって電気の供給が来ていればいいですけれども、そういういろいろのことを考えてそういう事態に備えて購入されるのだと思

うのですけれども、ちょっと私理解できないのです。急にぽっと出てきたような新規事業のような気がするのですけれども、そういうことはないのですか。

○岡野　勉委員長　髙沢管財課副課長。

○髙沢孝仁管財課副課長　お答え申し上げます。

今回の公用車の購入については、当初予算策定当時から計上はさせていただいておりました。ですので、前年の秋の段階には買うのだということで予算のほうには載せさせていただいていたものでございます。計画策定に当たっても成果物として３月にまとめるということで生活環境のほうが出してきたわけなのですけれども、この策定段階においては担当のほうもプロジェクトチームなどを通じまして計画策定に関わってきたものでございますので、そういった中身を踏まえて、また自動車を更新していくに当たっては温暖化計画のほうも達成していくことが合理的であろうという判断から電気自動車という選択をしているところでございます。

以上です。

○岡野　勉委員長　この際、暫時休憩します。

（午後　３時３６分）

○岡野　勉委員長　休憩前に引き続き会議を開きます。

（午後　３時３７分）

○岡野　勉委員長　質疑を続行します。

小峰委員。

○小峰明雄委員　今回これから10台購入するというのが、これは軽を10台という解釈なのですか。

○岡野　勉委員長　髙沢管財課副課長。

○髙沢孝仁管財課副課長　ご質疑にお答えいたします。

予算概要などに載せさせていただいた事業費につきましては、軽自動車の電気自動車を購入するという事業費で載せさせていただきました。実際この先令和７年度以降軽のを買っていくかということなのですけれども、そちらについてはまだ確定したものではないです。来年度の購入は軽２台を考えているのですけれども、これを使わせていただきながら電気自動車についてもまだ技術的に完成の域に達しているというか、走行距離の問題などもありますので、まずちょっと安価な軽のほうを買わせていただいて、ちょっと使わせていただきながら、例えば県庁行って帰ってくるにはやっぱりリーフが必要だよねということもあるかもしれません。ちょっとそれは使いながら。

〔何事か呼ぶ者あり〕

○岡野　勉委員長　副課長から発言の訂正の申出がありました。これを許します。

○髙沢孝仁管財課副課長　大変失礼いたしました。先ほど私の答弁の中で特定の自動車メーカーの特定の車種というのをちょっと申し上げてしまったのですが、これは訂正させていただきたいと思います。普通自動車規格の電気自動車でございます。

以上です。

○岡野　勉委員長　ただいまの副課長の発言の訂正につきましては、委員長において許可します。

小峰委員。

○小峰明雄委員　あと、髙沢副課長、この今いただいた資料に載っている車なのですけれども、自動車の雑誌等をちょっと拝見すると、拝読していくと何か技術的に変わるようなこともあるようなので、よくアンテナ高くしてお買いになってしまった後に新しくなってしまったとかないように、その辺は十分今後研究していただいて購入していくということも大切なので、お願いいたします。

以上です。

○岡野　勉委員長　平野委員。

○平野　隆委員　ほぼ出尽くしたので、ちょっと初歩的なことをお伺いしたいのですけれども、この自動車購入に当たって充電設備の工事も必要だというのですけれども、これは将来的なことを考えて10台分まとめて充電できるような何かそういうものをあらかじめつくってしまうと、10台分、そういうことでよろしいのですか。

○岡野　勉委員長　髙沢管財課副課長。

○髙沢孝仁管財課副課長　ご質疑にお答えいたします。

充電設備の整備の考え方なのですけれども、基本的に来年度は２台購入しますので、コンセント自体は２台分確保すると。ただ、電源につきましては役所の既存の受変電設備から分岐するのではなくて、新たに電線から新しい電力というメーターを１つ電気自動車用に増設するのを考えています。最終的に10台予定していますので、引込みのところまでは10台分のキャパを持ったものを整備した上で建物の中から購入台数に応じて分岐して行くといったようなことを考えております。ですので、翌年度以降は買った台数に応じてコンセントを増設すれば済むというところまでは今年整備したいと思っています。

以上です。

○岡野　勉委員長　平野委員。

○平野　隆委員　160万かけて元の設備をしておけばもう今度は車に対して簡単に５万、10万の、そんなにかからないかもしれないのですけれども、そういう意味で増えていけるということ。それは、将来的に10台を目標にしているのだったらそれは分かるのですけれども、あとは例えばガソリン車なんかだと同じようにやっぱりバックヤードでガソリン入れたりしていたのですか。スタンドに入れに行っていたのだか、ちょっとその辺は。

○岡野　勉委員長　髙沢管財課副課長。

○髙沢孝仁管財課副課長　ご質疑にお答えいたします。

役所の公用車、ガソリン車は町内のガソリンスタンドで給油しています。

以上です。

○岡野　勉委員長　平野委員。

○平野　隆委員　分かりました。電気自動車に関しても今入り口のところにあるではないですか、設備というか。あれってあんまり混んでいるようには思わないですけれども、あれをもうちょっと有効活用するよ

うなこともやっぱり検討しないと、あれはあれでほっぽっておいて、ほっぽっておくわけではないのだけれども、また新たにこんなお金をかけて整備してあれはあれというのは、ちょっと私なんかはもうちょっと考えなかったのかなって思ってしまうのだけれども、どんな議論があったのかだけでもちょっと教えてください。

○岡野　勉委員長　髙沢管財課副課長。

○髙沢孝仁管財課副課長　お答え申し上げます。

役所の北側駐車場に設置しております急速充電器、有料の形になっているはずなのですが、まず所管のほうは生活環境課のほうでやっているものでございます。一般の電気自動車のユーザーが役所にお越しになっていないと、また役所に用がなくてもというケースもあると思うのですが、それが急速充電ですので、三、四十分で80％程度の充電ができるようなスペックになっていたかと思います。今回の庁用自動車のほうは庁用自動車専用のもので急速のものではなくて低圧の電気使ってやるのですけれども、お客様用のとはちょっと別建てで管財課のほうで用意させていただくといったことで考えておるし、庁内の合意形成というか確認をしているところです。

以上です。

○岡野　勉委員長　次に、74ページ、第３款民生費、第１項社会福祉費、第６目社会福祉施設費について説明を求めます。

髙沢管財課副課長。

〔髙沢孝仁管財課副課長詳細説明〕

○岡野　勉委員長　これより質疑に入ります。

佐藤委員。

○佐藤秀樹委員　今回社会福祉費多額な投資をして工事を行うわけですけれども、今現在その他の部分で施設の修繕を行わなければいけないだろうと見込まれるところというのはあるのですか。

○岡野　勉委員長　髙沢管財課副課長。

○髙沢孝仁管財課副課長　ご質疑にお答えいたします。

まず、ちょっと切り分けさせていただきたいのですが、今後修繕等を見込まなくてはいけないというので、建物の維持管理、本体の維持管理という部分はちょっと１回除かせていただいて設備関係というところでちょっと言わせていただきたいのですけれども、現状の福祉会館を維持する上で保守等で指摘されているものというのはございます。代表的なものとしてはホールの舞台吊り物装置と申しまして、舞台ホールって上に照明であったり、音響の反射板であったり上がり下がり、緞帳なんかもそうなのですけれども、上げたり下げたりできるようなものというので、上に電動のウインチ的なものがついております。こちらのほうがだいぶ老朽化していて、少しちょっと不具合とか不良箇所なんかも保守で指摘されておりますので、ちょっと予算額今はっきりしたものを持っていないのですけれども、恐らくしっかり修繕するとなると1,000万以上の事業費が必要になるといったような設備になると思うのですが、ここのところが代表的なものになります。今年度ちょっと補正でいただいたスプリンクラーなんかもそうなのですが、ちょっとできるところからまずしっかりと直していって福祉会館のほうは安定した貸し館業務のほうを進めていきた

いと思っています。

以上です。

○岡野　勉委員長　佐藤委員。

○佐藤秀樹委員　これまでもホールの耐震工事だったりとかいろいろと多額な費用をかけて修繕をしてきたわけですけれども、修繕をした直後に配管がまた工事が必要になって修理をしたとか、本当あそこの福祉会館、費用がかかるのです。でも、今回昇降機の工事をするというのであれば、やはり直すところは直していかないと安全を担保できないと思うのです。また、場合によっては会館を閉めるような、一時的に修理をするために閉めるようなことにもなると思うので、その辺は管財課としてしっかりとやはり管理をしていかなければいけないと思うのですけれども、その辺についていかがでしょうか。

○岡野　勉委員長　髙沢管財課副課長。

○髙沢孝仁管財課副課長　ご質疑にお答え申し上げます。

ご指摘ごもっともでございます。管財課といたしましても、現状は管理運営、サンワックスさんのほうに３年間委託している途中ではございますけれども、指定管理者の意見なども聞きながら、管財課もその指定管理者に任せきりといったようなことがないようにしっかり設備面の確認などもやって、必要な箇所の対応というのは努めてまいりたいと思いますので、よろしくお願いいたします。

○岡野　勉委員長　次に、106ページ、第８款土木費、第５項住宅費、第１目住宅管理費及び132ページ、第13款諸支出金、第１項基金費、第３目公共施設整備基金費について説明を求めます。

髙沢管財課副課長。

〔髙沢孝仁管財課副課長詳細説明〕

○岡野　勉委員長　これより質疑に入ります。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○岡野　勉委員長　質疑なしと認めます。

この際、暫時休憩いたします。

（午後　３時５４分）

○岡野　勉委員長　休憩前に引き続き会議を開きます。

（午後　４時０２分）

○岡野　勉委員長　続きまして、55ページ、第２款総務費、第１項総務管理費、第８目交通安全対策費について説明を求めます。

小峰生活環境課長。

〔小峰　浩生活環境課長詳細説明〕

○岡野　勉委員長　これより質疑に入ります。

千葉委員。

○千葉三津子委員　56ページ、工事請負費ですかね。これなのですけれども、この請負費は道路反射板とか

るるありますけれども、通学路に関してだけの部分なのでしょうか。

○岡野　勉委員長　小峰生活環境課長。

○小峰　浩生活環境課長　質疑にお答え申し上げます。

こちらに記されている工事請負費についてですが、こちらについては道路標示設置工事460万が記されていますけれども、こちらの中身につきましては５か年で整備をする通学路安全対策もございますし、その他地区要望等、あとの修繕工事も含まれてございます。

○岡野　勉委員長　千葉委員。

○千葉三津子委員　地区要望の部分なのですけれども、なかなか要望等出ている部分があると思うのですけれども、まだ未完成というか実施されていないところがかなり町内の中でもあるのではないかと思うのですけれども、それって優先順位とかそういう部分で当然やられているとは思うのですけれども、そういった部分はどのように考えていますでしょうか。

○岡野　勉委員長　小峰生活環境課長。

○小峰　浩生活環境課長　質疑にお答え申し上げます。

路面標示の工事についての通学路安全対策以外での地区要望等についての修繕の内訳ということでございますが、ただいま、今現時点では路面標示の地区要望については未施工のところが２件ございます。そちらにつきましては、来年度事業で施工も考えてございますし、その他町内全般におかれましてはかなり消えているところというところが多数ございます。川角地内ですとか市場地内もはじめ、町のほうで把握しているところでも６か所ございますし、そこは施工していくというふうに認識をして予算の執行状況を見定めまして施工していくと捉えております。

○岡野　勉委員長　千葉委員。

○千葉三津子委員　交通安全対策なので、これは非常に交通事故等の部分に係る、生命に係る部分もあると思うので、しっかりと要望があれば速やかに設置をお願いしたいなと思います。特に反射板等々もここに欲しいという部分が結構あったりして要望もあるので、その辺はしっかりと設置をしていただきたいと思います。結構です。

○岡野　勉委員長　佐島委員。

○佐島啓晋委員　道路標示整備事業、ここでお聞きしたいのですけれども、この標示というのは横断歩道とか一時停止のそういうものというのは含まれないのですか。

○岡野　勉委員長　小峰生活環境課長。

○小峰　浩生活環境課長　質疑にお答え申し上げます。

ただいま佐島委員の横断歩道、また一時停止というお話がございましたが、横断歩道または一時停止等につきましては規制の路面標示となります。規制の路面標示といいますと、管理しているのが公安委員会となりますので、町のほうでの修繕または設置ということはできませんので、消えかかった横断歩道または停止線等それも多数ございます。町のほうも認識してございますので、それにつきましては修繕をしてもらうよう西入間警察を通して公安委員会のほうに修繕の要望をしている状況でございます。

○岡野　勉委員長　佐島委員。

○佐島啓晋委員　了解しました。

それと、次もう一つ防犯カメラの件で、一応これが３年度か何かで出て４年計画ということで、これで今年で一応終わるという感じなのでしょうか。ただ、それ以降に来年度の予算でまたこういうふうな防犯カメラの設置というのを新たな面で考えるとか、そういう意向はないのでしょうか。

○岡野　勉委員長　小峰生活環境課長。

○小峰　浩生活環境課長　防犯カメラの設置の計画といいますか、それ以降の予定、計画はどうなっているかということについてお答え申し上げますけれども、防犯カメラにつきましては町で検討委員会を開催いたしまして20基の場所、各学校区に４基、その他不特定多数、駅前とか人が集まるところ、そういったところに20基を設置するという計画で進めておりまして、来年度６基を予算計上しておりまして、それで全て20基一区切りといいますか、設置をするという形になります。それ以降につきましてですが、防犯カメラ設置完了以降につきましては、また毛呂山町の防犯、犯罪等抑止ができたか、効果が、整備効果ですね、そういったもの。あと、整備状況、そういったものをまた検討委員会を開いて開催してそれを見直しして、さらに今後どうしていく必要があるのか、そういったものを検討いたしまして計画的に進めていきたいと考えておりますので、ご理解賜りたいと存じます。

○岡野　勉委員長　荒木委員。

○荒木かおる委員　交通安全母の会の補助金について伺います。今交通安全母の会の会員数というか入っている人数って分かりますか。

○岡野　勉委員長　荻野交通防犯係長。

○荻野　睦交通防犯係長　質疑にお答えいたします。

交通安全母の会の会員数でございますが、現在のところ27名でございます。

以上です。

○岡野　勉委員長　荒木委員。

○荒木かおる委員　以前は、町レクとか、町民レクリエーションとかで交通安全母の会の方がグラウンドを１周したりというものもあったのですけれども、この活動内容をちょっとお聞きしたいと思います。

○岡野　勉委員長　荻野交通防犯係長。

○荻野　睦交通防犯係長　質疑にお答えいたします。

交通安全母の会の活動内容なのですけれども、まず年金支給日に関して、年金支給日ですから、年に６回銀行などでの交通安全啓発、あと春夏秋冬の交通安全運動の期間に私ども町と警察、安全協会などと連携し合って啓発運動を行うこと。あとは、山根荘での月例会で高齢者への交通安全普及を行っております。そのほかもございますが、大きな事業としてはそういうことでございます。

以上です。

○岡野　勉委員長　荒木委員。

○荒木かおる委員　この会員の募集というのはどうやって行っているのですか。自治会から出しているのか、それとも公募をしているのか。どうなのでしょうか。

○岡野　勉委員長　荻野交通防犯係長。

○荻野　睦交通防犯係長　質疑にお答えいたします。

母の会の募集につきましては、母の会の方からの推選など、紹介などを受けて会員さんになっていただいておる状態でございます。

○岡野　勉委員長　荒木委員。

○荒木かおる委員　自治会で区長とか班長とか役員が難しい中で、ある自治会では交通安全母の会の会員になるようにという自治会もあるようなのです。そういう役員不足の中で母の会の役員もとても負担になるという声もあるのですけれども、そこら辺はどうお考えだか伺います。会の方が募集をしているということなので、お答えできる、ちょっと考え方を伺いたいのですけれども。

○岡野　勉委員長　小峰生活環境課長。

○小峰　浩生活環境課長　すみません、先ほど会からの推選ですけれども、自治会からも出していただいている状況でございまして、各自治会から出ているところ、出ていないところというのはございます。各自治会でやっぱりなかなか難しい。町としましても、この交通安全母の会を通しまして、特に地域で交通安全の活動というのを広く､やはり母会の本部だけの活動だけではなかなか推進も図れないところですから、地域に根差したそういった防犯活動、そういったものもしていく必要があると捉えておりますので、ぜひとも協力をしていただくという形でお願いをしておりますが、ただ現状としてはやっぱり地区からそうやって出していただいてなかなか忙しいところ、またちょっと親といいますか、ちょっと人が少なくなってなかなか割当も難しくなってくるという相談を受けているというのは現状であると捉えておりますので、その辺はこれからどのようにうまく解消していくかというのも課題となっておりますので、よろしくお願いいたします。

○岡野　勉委員長　荒木委員。

○荒木かおる委員　これからの交通安全母の会の会員さんについても自治会と同様、自治会でもさっき総務課に長瀬委員から考えてくれというお話があったのですけれども、交通安全母の会の会員さんについてもこれから町としてどうやってしていくか、ちょっと検討していただきたいと思います。

○岡野　勉委員長　時間延長についてお諮りします。

本日の会議時間は審議の都合によりあらかじめ延長したいと思いますが、これにご異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○岡野　勉委員長　ご異議なしと認めます。

よって本日の会議時間は審議の都合によりあらかじめ延長することを決定いたしました。

○岡野　勉委員長　小峰委員。

○小峰明雄委員　まず、56ページの委託料の27万8,000円という防犯カメラの委託料がございますけれども、今の防犯カメラの設置工事で６基増えるということで､昨年までが15万9,000円の委託料だったわけなのですけれども、６基増えると27万8,000円って、これ場所によってもう１基当たりの委託料は違うのですか。この辺の積算根拠をお示しください。

○岡野　勉委員長　荻野交通防犯係長。

○荻野　睦交通防犯係長　ただいまの質疑にお答えいたします。

防犯カメラの保守委託料につきましては、場所ごとに決まっていることではございません。積算根拠としましては14基、令和３年度から５年度までつけた14基を単価でかけまして積算しております。ちなみに税込みで１万9,800円掛ける14でございます。

以上でございます。

○岡野　勉委員長　小峰委員。

○小峰明雄委員　分かりました。では、それにまた６基かけているという簡単な計算なのですね。

次に行きます。工事請負費でちょっと詳細をお伺いしたいのですけれども、せっかく予算案の概要がいただきましたので、この中で細かいことをお伺いしていきます。よろしいですか。まず、毛呂山町商工会付近、これは福祉会館に向かっていくちょうど職員の皆さんが駐車しているところの写真があるわけですけれども、道交法、道路法の関係でセンターラインだと5.5メートルという基準がございますよね。その5.5はクリアされていると思うのですけれども、路側帯の設置というふうに書かれているのですけれども、私個人的から言わせていただくと、やはり通学路でございますので、グリーンベルト及び路側帯という、特に駐車、役場の職員さんの駐車場の付近というのは交差点もございますので、そういうグリーンベルトをなぜ今回ないのかなと。この先行くと歩道があるわけです。そういうことを考えると、歩道の手前の安全というものはしっかり対策を講じておかなければいけないと思うのですけれども、この点についてはどう考えますか。

○岡野　勉委員長　荻野交通防犯係長。

○荻野　睦交通防犯係長　ただいまの17ページ、商工会付近のグリーンベルトを引くのはどうかというご質疑につきましては、確かにこの写真で見ると右側のところの部分に今既存のグリーンベルトが引かれていて、小学生がそこを歩いて横断歩道を渡って歩道に行くという形になっております。まだ、今のところそこの部分のグリーンベルトは大きく劣化が少なかったものですから、そこのグリーンベルトは考えておらない予算で計上させていただいております。

以上でございます。

○岡野　勉委員長　小峰委員。

○小峰明雄委員　両方に引くことはできないですか。そういう発想なのだけれども、ちょっと無理そうなのですね、今のお話聞いていると。その点は、もう一度答弁してください。駄目なら駄目と。

○岡野　勉委員長　荻野交通防犯係長。

○荻野　睦交通防犯係長　ただいまの質疑にお答えいたします。

この写真の右側にはグリーンベルトが引かれていて左側にも引かれないかということにつきましては、警察などにも相談したり、今後検討してまいりたいと思いますので、ご理解願いたいと思います。

○岡野　勉委員長　小峰委員。

○小峰明雄委員　右側通行、左側通行とかってございますので。

次に、道路法の第２条第３の４の関係で、ちょっと細かいこと聞いて申し訳ないのだけれども、路側帯

の設置ということで４か所写真があるわけですけれども、この路側帯というのは普通の路側帯なのですか。それとも歩行用の路側帯、どちらを考えているのですか。

○岡野　勉委員長　荻野交通防犯係長。

○荻野　睦交通防犯係長　ただいまの質疑にお答えいたします。

路側帯は道路用と歩行用とどう考えているかということでございますが、歩行者への対策としての路側帯として考えております。

以上でございます。

○岡野　勉委員長　小峰委員。

○小峰明雄委員　そうしますと、２本という解釈でよろしいのですね。

○岡野　勉委員長　次に、87ページ、第４款衛生費、第１項保健衛生費、第３目環境衛生費、第４目公害対策費について説明を求めます。

小峰生活環境課長。

〔小峰　浩生活環境課長詳細説明〕

○岡野　勉委員長　これより質疑に入ります。

中村委員。

○中村奨平委員　では、89ページ、衛生費の負担金のところの空き家等解体事業補助金についてまず伺います。本事業は、趣旨としては大変すばらしい町に即している事業だと考えるのですが、ただこの空き家になっているのにはもちろん理由がございまして、家というのは相続の際にきれいに２分割も難しかったり、意思決定ができないと、コンセンサスが取れないと、相続人の中で、であったり、更地にすると、御存じだと思いますけれども、固定資産税が跳ね上がってしまう等々様々な理由があってやっぱり空き家のままなのです。だから、これ50万円は非常に有り難いのですけれども、最大補助をしたところでやっぱり両輪で町で固定資産税の減免等をやらないとやっぱり更地にするメリットよりもデメリットが大きいと思うのです。この点いかがお考えでしょうか。

○岡野　勉委員長　齊藤生活環境課副課長。

○齊藤高市生活環境課副課長　質疑にお答えいたします。

確かに委員の言われるとおり、固定資産税が６倍とか住宅軽減が外れますので、税金が高くなっていくことは予想されますが、空き家をそのまま放置いたしますともっと危険な、人に危害を与えたり、近所の建物が壊れたり、被害を与えたりするのも加味しまして今回空き家の解体の補助を予算に挙げさせていただきました。また、今後解体した後の固定資産税等減免とか￥をしている市町村もありますので、そちらの状況とかをよく確認しながら、税務課とちょっと相談しながら対応していきたいと思いますので、ご了承ください。

○岡野　勉委員長　中村委員。

○中村奨平委員　今さらに申し上げますと、相続の際も更地であると小規模宅地の特例というものが使えなくなりますので、家が建っていたほうがいいのです。やっぱり様々な面で空き家にしている理由がございますので、その辺をしっかり練った上で、さらに単純に毛呂山町だと売れないというものでもございます

ので、そこと併せてこの事業を進めていただければと、私は本当にいい事業だと思いますので、やっていただけるようお願いいたします。

続きまして、家庭用再生可能エネルギー設備等設置補助金について110万円の、こちらは一般財源が100％ということですけれども、ごめんなさい、皆さん２度目になってしまいますけれども、先に私はこれを整備するのは給食センターでやったり、町のところに大きなソーラーはもう既にありますので、充電器であったり、Ｖ２Ｈ、バッテリートゥーホームのようにそういうふうな施設を先に公の施設からいろんな様々な人が自由に防災の観点も踏まえてやっぱり水、食料、衣食住ですね、これ言われますけれども、次によく言われるのはスマホのバッテリーの充電なのです。能登でも言われているみたいなのですけれども、一番声が大きいのはここだと。やっぱりこれはここを整備することによって管財課のＥＶの電気自動車と併せてバッテリーを町内に移動することによってそこから住民が各充電をできるようになると、そういうふうな仕組みを先に整えるほうが私が先なのではないかなと思うのですけれども、やっぱりこれをやってしまうと個々の資材になってしまいまして、その使い方というのは個人が決めるものになってしまいますので、この100％一般財源でやるのであれば先により多くの人に使えるようなものを整えるのが先なのではないかなと思うのですが、その点いかがでしょうか。

○岡野　勉委員長　齊藤生活環境課副課長。

○齊藤高市生活環境課副課長　質疑にお答えいたします。

確かに、公共施設に太陽光とか蓄電池とかを設置したほうがよろしいかと思いますけれども、今後そちらにつきましてはまちづくり整備課のほうでスマートシティ事業の中で進めていくような話もございますので、そちらはちょっとまちづくり整備課のほうでがんばっていただくような形で、生活環境課としましては町民の方に補助を出して、町民の方でもちょっと多く太陽光をつけていただきまして二酸化炭素排出の削減につながればと思い予算計上をさせていただきました。

○岡野　勉委員長　長瀬委員。

○長瀬　衛委員　１つ聞きますけれども、環境保全条例がありますけれども、町の環境保全できれいにしようということだろうけれども、個人のうちでいろいろ散らかったうちも結構町の中で見かけるけれども、この不法投棄のパトロールもされていますけれども、あの西戸の産廃というか建設残土というか、あれはこの前もちょっと本会議で指摘しておいたけれども、何か進展あったのですか。違法行為なのでしょう、あれは。どうなのだろう。

○岡野　勉委員長　小峰生活環境課長。

○小峰　浩生活環境課長　質疑にお答え申し上げます。

今西戸の建設廃材が置いてある、大きいところなので、かなり目立つというのもあるのですけれども、幾つかそういったところは町内にございます。そもそもその建設資材をストックして、分別して作業する場所ということで、そもそもそれ自体は違法ではございませんが、ただそれを分別作業をするに当たりましてはそれの法令に基づいた管理の仕方があります。例えば造られた塀を越えてしまわないとか、騒音を出さないとか。それから、ストックしていく量についてもそういった制約がございます。そういった管理をしっかりしていくようにという必要はございますし、ちょっと西戸のところではそういったところでか

なり管理のほうができていないところも見受けられますので、これはほぼほぼ建設廃材となりますので、産業廃棄物という位置づけになります。埼玉県の東松山環境管理事務所の指導の下しっかりと指導のほうをしてまいりたいと思います。

○岡野　勉委員長　長瀬委員。

○長瀬　衛委員　鳩山行く通りをよく通るのだけども、あそこからよく見えるのです。だんだん大きくなってくるような気がするし、この間も言ったけれども、町長の地元なのだから、あれをずっと見過ごしているというのは毛呂山町というのはどうなっているのだろうと思われかねないし、ああいう業者が見て、何だ、これが許されるのなら毛呂山というのは不法地帯だなと思われたらかなわないから。あれはだけれども、何とかしないと。あれ違法なのでしょう、要は。ずっと放置しているわけですから。違法だったら違法なりに町が対応しないと。産廃は県の管轄だといっても県と協力すればいいのですから。恐らく黙っていたらいつまでもあのままだと思うけども、毅然とした態度で、それこそ町長権限使ってやるように働きかけてやったらどうですか。

○岡野　勉委員長　小峰生活環境課長。

○小峰　浩生活環境課長　質疑にお答え申し上げます。

　管理の仕方については、確かにあれは違法になります。それに対しまして、先ほども東松山環境管理事務所の指導の下とございますが、これは地元であります毛呂山町でございますので、町職員も一緒になって対応しておりますし、日常のパトロールですとか変化ですとか、それはもう県ではできませんので、それは常に現場等のパトロールで要注意箇所と捉えておりますので、それでパトロールをして、若干県のほうの指導も入りまして少し量が搬出して減ったりもしている状況も見受けられますので、引き続きこれが止まることがないように県と一緒に指導をしてまいりたいと思いますので、よろしくお願いいたします。

○岡野　勉委員長　長瀬委員。

○長瀬　衛委員　地元の人に気の毒ですよ、あれでは。あれを朝から晩まで目にしているのでは気の毒ですよ。何をやっぱり、違反ということを分かっているのならあれを何とかしないと。毛呂山町というのは産業廃棄物の無法地帯かということになりますよ。町長さんの地元なのだから、それが許されるのであれば、これはもうどうにもならないですよ。ですから、環境保全条例審議会なんてあるけれども、そういうところなんかではそういう話は出ないのですか。

○岡野　勉委員長　小峰生活環境課長。

○小峰　浩生活環境課長　質疑にお答え申し上げます。

　環境保全審議会につきましては、町の計画ですとか、今回も今年度につきましても町の重要計画でございます地球温暖化対策実行計画区域施策偏の策定に当たりましてそういったものを審議、諮問、答申してもらうためにあるものでございます。特に日常の中でそういった建設廃材とか、そういったものに対しての環境保全審議会では審議を図っていない状況でございます。

○岡野　勉委員長　長瀬委員。

○長瀬　衛委員　令和６年度に少しでもいいから進展できるように努力してください。

○岡野　勉委員長　次に、90ページ、第２項清掃費、第１目清掃総務費、第２目塵芥処理費について説明を

求めます。

小峰生活環境課長。

〔小峰　浩生活環境課長詳細説明〕

○岡野　勉委員長　これより質疑に入ります。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○岡野　勉委員長　この際、暫時休憩いたします。

（午後　４時３７分）

○岡野　勉委員長　休憩前に引き続き会議を開きます。

（午後　４時３８分）

◎後日日程の報告

○岡野　勉委員長　本日の会議はこの程度にとどめます。

明３月13日は、午前９時30分から委員会審議を再開しますので、定刻までにご参集願います。

◎散会の宣告

○岡野　勉委員長　本日はこれにて散会いたします。

（午後　４時３８分）

毛呂山町議会予算決算常任委員会　令和６年３月１３日（水）

◎開議の宣告

○岡野　勉委員長　ただいまの出席委員数は12名であります。

定足数に達していますので、これから予算決算常任委員会を開きます。

（午前　９時３０分）

◎議案第１９号の審査

○岡野　勉委員長　本日は、引き続き議案第19号　令和６年度毛呂山町一般会計予算歳出の部、第２款総務費から始めさせていただきます。

担当課職員を入室させてください。

それでは、60ページ、第２款総務費、第２項徴税費、第１目税務総務費、第２目賦課徴収費について説明を求めます。

田邉税務課長。

〔田邉和宏税務課長詳細説明〕

○岡野　勉委員長　これより質疑に入ります。

佐藤委員。

○佐藤秀樹委員　ご質疑させていただきます。

先週かな、西入間警察で免許の更新したときに西入間ももう収入印紙がキャッシュではないと印紙がいただけないというふうな状況で、かなり埼玉県全体でキャッシュレス進めているみたいなのですけれども、コンビニ納付だったりとかいろいろと毛呂山町のほうも進めていると思うのですけれども、そういった今現在の状況と今後の対応というか、また新しい何か令和６年度はそういった対応を計画しているのかどうか、その辺をお願いします。

○岡野　勉委員長　田邉税務課長。

○田邉和宏税務課長　質疑にお答えいたします。

こちらの先ほどもご説明いたしましたが、当初納付書、こちらに令和５年度からＱＲコードの印字がされまして、そちらを利用して地方税お支払いサイト、こちらはホームページになりますが、こちらを使ってクレジットカードによる納付、こちらもできるようになりました。また、ＱＲコードがついていることによりまして、今までは指定金融機関でしか納付ができなかったのですが、全国の金融機関、どちらの銀行でも納付ができるというような形になっております。

納付の状況でございますが、金融機関の窓口等がやはり一番多くなっている状況なのですが、およそ４割ほどの方がそちらから納付されておりまして、残りの３割ほどがコンビニでの納付、一部スマホ決済も含まれますが、３割ほどがコンビニでの納付ということになっております。残り３割につきましては、口座振替の方の納付となっている状況でございます。こちら口座振替によるものがお客様にとっても、一番

うっかり忘れてしまうですとか、あとはお金を入れておけば現金を持ち歩かなくても済みますので、一番利便性が高いというふうに税務課としても捉えておりまして、令和６年度につきましては口座振替が進むような形を願いまして、口座振替のキャンペーンを実施しようかと今予定しているところでございます。

以上でございます。

○岡野　勉委員長　佐藤委員。

○佐藤秀樹委員　あともう一点、ｅ―Ｔａｘなのですけれども、ｅ―Ｔａｘの使用というのは年々増えているものなのでしょうか、その点お願いします。

○岡野　勉委員長　田邉税務課長。

○田邉和宏税務課長　質疑にお答えいたします。

ｅ―Ｔａｘにつきましては国税のほうになりますので、こちらで正確な数字は押さえていないのですが、川越税務署のほうと協議会がありまして、その中のお話で伺ったところ、年々増加しているというお話を聞いております。

○岡野　勉委員長　平野委員。

○平野　隆委員　それでは、私のほうから61ページの預貯金等照合電子化サービスの、これも去年からだったかあれなのですけれども、予算化されて出ているのですけれども、ちょっと改めてこの使用方法と使用状況と、その辺をちょっと教えていただきたいと思います。

○岡野　勉委員長　田邉税務課長。

○田邉和宏税務課長　質疑にお答えいたします。

こちら預貯金調査でございますが、滞納されている方の預貯金の調査をするということなのですが、滞納されている方はどこの金融機関に口座をお持ちかというのは実際分かりませんので、住所ですとか、あとは前住所、そういったところの周辺の金融機関をこちらのほうで見当をつけまして、そちらの金融機関に預金等があるかどうかの調査をかけて、取引状況について調査をしているという状況でございます。

○岡野　勉委員長　平野委員。

○平野　隆委員　そういうことだと思うのですけれども、その利用状況というのがどのぐらい使ったのかなとちょっと聞きたかったというのもあったのですけれども、あとはそれは使い方というか、このサービスの受け方は限定的なもので何か制約があるのか、誰のものでも普通に調べられてしまうのか、ちょっと確認の意味でそこだけ教えてください。

○岡野　勉委員長　田邉税務課長。

○田邉和宏税務課長　質疑にお答えいたします。

こちらの使用につきましては、あくまでも滞納していることが前提となりますので、通常の方の預貯金調査するということはできませんので、そちらにのっとって対応しているところでございます。

○岡野　勉委員長　小峰委員。

○小峰明雄委員　61ページの役務費の手数料、昨年より若干増えて100万ちょっと増えているのですけれども、この手数料の算出根拠をお伺いします。

○岡野　勉委員長　田邉税務課長。

○田邉和宏税務課長　質疑にお答えいたします。

こちらの手数料の増加でございますが、こちらコンビニでの納付の手数料、こちらのほうがこの役務費の中に入っているのですが、令和６年度からコンビニでの取扱いの１件当たりの手数料の増加がありまして、令和５年度までは税抜きで55円だったものが令和６年度からは税抜きで80円と引き上げられたことによりまして、役務費が増加しているところでございます。

○岡野　勉委員長　小峰委員。

○小峰明雄委員　そうしましたら、口座振替を周知を徹底していくようかなという気がします。

それと、非常に物価高騰等々でいろいろな委託料が上がっているわけなのですけれども、この不動産鑑定業務委託料等は同じだったのですけれども、この辺の同じというのは特に何か業界から要望とか、そういうものはなかったのですか。

○岡野　勉委員長　田邉税務課長。

○田邉和宏税務課長　質疑にお答えいたします。

こちらの不動産鑑定業務委託料でございますが、滞納されている方の土地建物等の鑑定の手数料ということで取っておりまして、こちらにつきましては町で固定資産税のほうの土地鑑定の委託をしているところで見積りを取りまして、１件当たりの金額を計上させていただいております。

○岡野　勉委員長　小峰委員。

○小峰明雄委員　あと、いよいよ森林環境税というものが始まるのですけれども、このコンビニ交付というシステム対応で今回33万円予算計上されますけれども、これもそうしますと将来的には同じように値上がりをしていくという解釈でよろしいのでしょうか。

○岡野　勉委員長　田邉税務課長。

○田邉和宏税務課長　質疑にお答えいたします。

こちらの森林環境税の導入に伴う委託料でございますが、こちらは一度限りの委託の支出ということになります。

○岡野　勉委員長　よろしいですか。

この際、暫時休憩いたします。

（午前　９時４１分）

○岡野　勉委員長　休憩前に引き続き会議を開きます。

（午前　９時４２分）

○岡野　勉委員長　続きまして、63ページ、第２款総務費、第３項戸籍住民基本台帳費、第１目戸籍住民基本台帳費について説明を求めます。

吉田住民課長。

〔吉田茂雄住民課長詳細説明〕

○岡野　勉委員長　これより質疑に入ります。

小峰委員。

○小峰明雄委員　ちょっと確認なのですけれども、64ページの13の使用料及び賃借料の中の戸籍情報総合システム利用料というのは、これは新しく始まる全国の戸籍が取れるというものなのですか。私もちょっと記憶で物事を言ったのですけれども、確認の意味でちょっとお伺いします。

○岡野　勉委員長　大野住民課主幹。

○大野直子住民課主幹　恐れ入ります。実は令和６年３月１日から全国の戸籍謄本が取得できるようになっております。こちら令和６年度の予算計上しております戸籍情報総合システム利用料でございますけれども、こちらは令和６年９月に機器借り上げ契約が終了後、機器そのものは無償譲渡となるのですけれども、ソフトウエアである戸籍情報総合システムの利用料は継続となるため、計上が必要となっております。令和６年10月から令和７年３月までの６か月分となっております。

以上です。

○岡野　勉委員長　よろしいですか。

佐藤委員。

○佐藤秀樹委員　64ページの委託料なのですけれども、少額でのことなのですが、簡単窓口用機器保守料３万3,000円なのですけれども、これ保守料ってカウンターの上に置いてある機械ですよね、精算機ですよね。精算機ではないのですか。

〔何事か呼ぶ者あり〕

○佐藤秀樹委員　保守というのはどういう保守するのか。

○岡野　勉委員長　吉田住民課長。

○吉田茂雄住民課長　質疑にお答え申し上げます。

簡単窓口用機器保守料でございますけれども、この機器につきましてはタブレット機器でございます。総合案内のところにあります、タブレットでマイナンバーカードを使って住民票ですとか印鑑証明を申請できるそのタブレット機器の保守料でございまして、故障したときに修繕していただくための保守料でございます。

○岡野　勉委員長　佐藤委員。

○佐藤秀樹委員　あくまでも故障したときの保守ということで、故障しなければ保守料は使わないということなのですか、それとも壊れても故障しなくてもこのくらいかかるのですか。

○岡野　勉委員長　吉田住民課長。

○吉田茂雄住民課長　質疑にお答え申し上げます。

委員おっしゃるとおり、壊れても壊れなくてもこの保守委託料というのは、保守を委託する場合には必要になってくるものでございます。

○岡野　勉委員長　佐藤委員。

○佐藤秀樹委員　ちなみに、今まで壊れたことというのはあるのでしょうか。何か不具合が生じたことというのは。

○岡野　勉委員長　吉田住民課長。

○吉田茂雄住民課長　質疑にお答え申し上げます。

今のところ故障等はございません。

○岡野　勉委員長　次に、72ページ、第３款民生費、第１項社会福祉費、第４目国民年金費、第７目国民健康保険事業費について説明を求めます。

吉田住民課長。

〔吉田茂雄住民課長詳細説明〕

○岡野　勉委員長　これより質疑に入ります。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○岡野　勉委員長　質疑なしと認めます。

この際、暫時休憩します。

（午前　９時５１分）

○岡野　勉委員長　休憩前に引き続き会議を開きます。

（午前　９時５２分）

○岡野　勉委員長　続きまして、67ページ、第３款民生費、第１項社会福祉費、第１目社会福祉総務費、第２目障害福祉費及び132ページ、第13款諸支出金、第１項基金費、第２目福祉基金費について説明を求めます。

小室福祉課長。

〔小室永治福祉課長詳細説明〕

○岡野　勉委員長　これより質疑に入ります。挙手願います。

では、こちらから行きます。

長瀬委員から。

○長瀬　衛委員　ちょっと簡単な質問しますけれども、民生委員が79名でしたね、定数がたしか。私の地区でもずっと１名欠けているのだけれども、今どういう状況でしょうか。それに対して、たしか去年の行政報告書でいっても六、七人欠けていましたけれども、民生委員が欠けているために、何かそういう地域で問題点等は出ていますか。

○岡野　勉委員長　市川地域福祉係長。

○市川秀人地域福祉係長　質疑にお答え申し上げます。

現在、令和６年１月１日付で３名新たに委嘱されましたので、民生委員の数としましては、79名定員ですけれども、75人委嘱となっております。

それから、欠員の地区につきまして何か問題点等という話でございますけれども、確かに欠員の地区ございますけれども、近隣の地区で補う形、近隣の地区の民生委員さんが補う形を取っておりますので、特段問題という形は出てきてはいないと感じております。

以上でございます。

○岡野　勉委員長　長瀬委員。

○長瀬　衛委員　なかなか地区でも民生委員探すの大変なのだけれども、今の地域の状況だとか、そういうものも影響しているのだと思うのだけれども、今後についてどのように課長はこれを考えていますか。民生委員の定数を維持していかなければいけないのだろうけれども。

○岡野　勉委員長　小室福祉課長。

○小室永治福祉課長　質疑にお答えをいたします。

民生委員の成り手不足というものは、地域の福祉の担い手として大きな期待が寄せられる一方で、負担が大きいといったような声も寄せられていることもあります。そういったことも成り手不足の課題ということで指摘をされているところでございます。今後については、埼玉県のほうでもこれを問題として捉えておりまして、ちょうど去年の８月から11月にかけてアンケート調査を埼玉県内の全ての民生委員さんに行いまして、実情と課題、そしてそういった問題点等の洗い出しを行ったところでして、ちょうど２月の末に実施の結果概要が届いたところでございます。その情報を民生委員さんに共有をさせていただいているところなのですけれども、主な成り手不足の理由として民生委員さん自身が考えているということであると、これはやはり民生委員に限らず地域団体の役員、自治会等の成り手がいないということが大きいということで、成り手を増やすために必要なことという設問では、その制度の周知といいますか、地域理解の促進が必要であるというような回答があります。それと、町内会、自治会との連携が強化したほうがいいのではないかというような声もございました。そして、民生委員活動を行う上で、その活動の範囲を超えるようなことも中にはお願いされるということがあるということで、例えば病院の付添いですとか、金銭的なお願いですとか、食料品の買い出しですとか、職務以上のことを求められることもあるということで、そういった部分の負担もあるというようなお話を聞いております。

こういった声を受けまして、今後の対策に県のほうも生かすということでございますが、毛呂山町としましても、負担の解消に向けてそういったマニュアルのほうを作成しまして、こういったことができる、こういったことはできませんよということを明確にして、民生委員さんの立場というものをはっきりさせて、こちらも寄り添いながら実施をしていきたいというふうに感じております。

○岡野　勉委員長　長瀬委員。

○長瀬　衛委員　これからいろいろ役割、民生委員というよりも地域力という意味でも役割が増えると思いますけれども、民生委員だけではとても役割を果たしていけないと思うので、地域との関係についてよく考えていただきたいと思います。

あと、社会福祉協議会は、私の地元なんかでも加入率がだんだん下がってくるのだけれども、これについてはどのようにお考えでしょうか。

○岡野　勉委員長　小室福祉課長。

○小室永治福祉課長　質疑にお答えをいたします。

ご質疑のとおり社会福祉協議会の加入率というものは、年々若干ではありますけれども、下がっている状況でございます。加入者の増加につきまして、例えば今年度、５年度の会費の集金に当たりましては、社協の職員が自治会のほうに出向きまして、自治会の役員さんに社協の役割ですとか、そういったことを

説明して、その集金につきましてご協力をお願いしながら、地域とともにそういったことを進めるというような方策も取っておりまして、社協としても努力をしているということでございます。

あとは、社協の活動自体が地域に目に見えるような形で広がっていくことが一番大事だと感じておりますので、こちらのほうも協議をしてまいりたいと思います。

○岡野　勉委員長　長瀬委員。

○長瀬　衛委員　社協の加入金の額ではなくて、住民が社会福祉協議会に参加しているという、そういうところが大事だと思うのだけれども、今の会費の徴収方法でいくと、お金を集めるということはなかなか難しいので、1,000円というのはなかなか、だんだんときつくなってきているのです。そこら辺もやっぱり考えていただいて、社協の運営というのは町の補助金でほとんど賄っているのだから、社協の加入金が多少減っても別に大したことないのだろうけれども、町民の参加意識というのが一番大事だと思うので、そこら辺は社協という法人化してからもう30年がたつのでしょう。だから、いろいろ検討していただいて、もっと自治会のほうでも集めやすくしてもらいたいと思います。

結構です。

○岡野　勉委員長　千葉委員。

○千葉三津子委員　70ページ、委託料、障害者等相談支援事業委託料、これなのですけれども、昨年よりも200万円ほど増額していると思うのですけれども、それはどのような部分で増額なのでしょう。

○岡野　勉委員長　井上障害福祉係長。

○井上龍太郎障害福祉係長　質疑にお答えいたします。

相談支援事業の委託料の増額についてでございますが、増額の要因といたしましては相談員の増員ということでございます。

以上でございます。

○岡野　勉委員長　千葉委員。

○千葉三津子委員　相談員の増員ということは、相談される方が増えているということなのでしょうか。

○岡野　勉委員長　井上障害福祉係長。

○井上龍太郎障害福祉係長　質疑にお答えいたします。

相談件数、また相談者も数としましては、そこまで増えているということはございませんが、１件にかかる相談の時間、対応の時間というものが増えております。

以上でございます。

○岡野　勉委員長　千葉委員。

○千葉三津子委員　分かりました。

それでは、負担金、補助金及び交付金の中の福祉タクシー補助金の部分なのですが、これは前年度よりも20万円ほど減になっております。その要因としては、どのようなことがあるのでしょうか。

○岡野　勉委員長　井上障害福祉係長。

○井上龍太郎障害福祉係長　質疑にお答えいたします。

福祉タクシー補助金の減額についてでございますが、こちらまず交付人数が減少していること、また自

動車燃料補助金の併用を実施しているため、減額となっております。

以上でございます。

○岡野　勉委員長　千葉委員。

○千葉三津子委員　そうしますと、福祉タクシー補助金の部分で、どのぐらいの方がこの福祉タクシー補助金を受けられているのかお伺いいたします。

○岡野　勉委員長　井上障害福祉係長。

○井上龍太郎障害福祉係長　質疑にお答えいたします。

令和５年度３月時点で交付人数が642名でございます。

以上でございます。

○岡野　勉委員長　千葉委員。

○千葉三津子委員　先ほど昨年よりは減っているというご答弁がございましたけれども、これって大体毎年変わらない、これ毎年申請する部分なのでしょうか。

○岡野　勉委員長　井上障害福祉係長。

○井上龍太郎障害福祉係長　質疑にお答えいたします。

こちらにつきましては、自動更新という形になってございます。近年20名ずつほど交付人数が減っている状況でございます。

以上でございます。

○岡野　勉委員長　千葉委員。

○千葉三津子委員　それで、先ほどご答弁があったように、燃料費の補助が増えているという部分がございましたけれども、その部分はどういった要因があるのでしょうか。

○岡野　勉委員長　井上障害福祉係長。

○井上龍太郎障害福祉係長　質疑にお答えいたします。

自動車燃料助成補助金につきましては、交付人数が令和５年度13名新規申請がございました。そういった18歳未満の重度心身障害児を対象としておりますが、自動車燃料助成事業、自動車を使っての移動という需要が大きいものと考えております。

以上でございます。

○岡野　勉委員長　千葉委員。

○千葉三津子委員　私、一般質問でもさせていただいた経緯があるのですけれども、福祉タクシーとこの燃料費の整合というか、そういった部分で中にはこの福祉タクシー、自分は運転できるから燃料費という部分のお話が結構承る部分があるのですけれども、これってこの燃料費の部分では、障害のある子供さんの部分があるから、その方に特化して燃料費という部分であるって一般質問ではご答弁をいただいたのですけれども、もっと柔軟な部分でお考えはございますでしょうか。

○岡野　勉委員長　小室福祉課長。

○小室永治福祉課長　質疑にお答えをいたします。

燃料費を柔軟にというようなご質疑だと思います。自動車燃料費につきましては、過去廃止をした経緯

がございまして、その後特別支援学校に、養護学校等に通いの方の保護者の方から、お子さんについては急な病気ですとか、あるいは通学ですとか、車で移動することが多くて、ぜひ補助をしていただきたいような要望を受けた経緯がございます。そういったことも勘案しながら、18歳未満ということで補助のほうを開始した経緯がございます。それ以上の方につきましては、タクシーの補助金と、あるいは移動支援事業ですとか生活サポート事業ですとか、様々なサービスを組み合わせながら、障害者の方の移動というものを支える仕組みがサービスとしてございますので、そちらを利用していただきたいような、こちらとしての考え方がございます。

この町の補助金に対する国、県の補助というものも、これはない状況でございまして、過去はあったのですけれども、それは廃止になったというような経緯がございまして、費用対効果といいますか、燃料ですと車に入れてしまうと、どなたが何のために使ったか分からなくなってしまうという部分があって、廃止する市町村もあったというふうなことも聞いております。今後につきましても、そういった障害者の状況のほう、あるいはサービスの状況のほうを複合的に考えながら検討はしてまいりたいというふうに考えております。

以上です。

○岡野　勉委員長　次に、佐藤委員。

○佐藤秀樹委員　それでは、69ページの社会福祉協議会の補助金なのですけれども、前年度が4,307万9,000円で、今年が4,300万なのですが、今まで町の職員に準ずると、給与が準ずるということで年々上がってきていたかと思うのですが、今年は少額ですけれども、減額になっているのですけれども、そこの理由をお願いします。

○岡野　勉委員長　小室福祉課長。

○小室永治福祉課長　質疑にお答えをいたします。

社会福祉協議会に対する補助金につきましては、社協本体の部分の人件費に当たる部分ということで、基本的には定期昇給等もございまして、毎年上がってきた部分がございます。そういった中で、果たして右肩上がり一方でよろしいのかというような意見も様々なところから聞いているところでございます。そういった内容を受けまして、町としまして社会福祉協議会と当初予算について３度、４度協議を重ねまして、要望も受けましたが、町としてこの4,300万という金額で今年度は行いまして、そして例えばもし足りない部分があれば、それは社協自身の自助努力といいますか、様々な成年後見ですとか計画相談ですとか、自身の事業で稼ぐ力を身につけて何とかやっていただきたいというような思いも込めまして、社会福祉協議会のほうの補助金のほうは決定させていただいた経緯がございます。

以上でございます。

○岡野　勉委員長　佐藤委員。

○佐藤秀樹委員　今までも監査等でもやはりそういったずっとご指摘がありまして、ようやくそこが一歩改善がされたということでよろしいですね。

○岡野　勉委員長　小室福祉課長。

○小室永治福祉課長　質疑にお答えいたします。

おっしゃるとおりでございます。

以上でございます。

○岡野　勉委員長　佐藤委員。

○佐藤秀樹委員　それと、71ページの在宅重症心身障害児レスパイトケア事業補助金、これが50万減額になっているのですけれども、こちらの理由をお願いします。

○岡野　勉委員長　井上障害福祉係長。

○井上龍太郎障害福祉係長　質疑にお答えいたします。

こちら近年、補助金の交付実績がございませんが、対象者につきまして１名いらっしゃるということで、減額とさせていただいております。

以上でございます。

○岡野　勉委員長　佐島委員。

○佐島啓晋委員　私も千葉委員がタクシーの補助金と、あと燃料費、ここについて質疑してくれて、ほぼ大まかなのですけれども、一応私が前年一般質問したときには、やっぱり同じように燃料費、どうしてもこちらの補助を求める方が物すごく多くて、今年というか去年、ガソリン代相当上がりましたよね、燃料費が。それなのに人数がもしかして減っていたとしても、率的にはガソリン代がそう大きく引き下がるような状況ではないと思うので、その中でもちょっと減額しているというのはどういうことなのでしょうか。お願いします。

○岡野　勉委員長　小室福祉課長。

○小室永治福祉課長　質疑にお答えをいたします。

予算書の計上上の減額ということで、これは実績に基づいて見込んだわけでございまして、利用が昨年度の途中までの実績に基づいてこの金額を計上させていただいたものなのですけれども、タクシーの補助と燃料費と、やはりどちらか選択ですので、タクシーを使われる方もいまだにいらっしゃるということで、その兼ね合いの中でこの金額決まったということでございます。

○岡野　勉委員長　佐島委員。

○佐島啓晋委員　それでは、一応確認なのですけれども、去年の一般質問の中でタクシー利用券が業者さんから相当使いづらいということで指摘させていただいたのですけれども、そちらの補助金についての見直しとか改定とか、券自体なのですけれども、そちらのほうはどのようになされているでしょうか。

○岡野　勉委員長　小室福祉課長。

○小室永治福祉課長　券面の様式についてのご質疑だと思います。

券面につきましては、基本的には県のほうから統一様式ということで町にＰＤＦで示されます。今までは印刷業者にそのまま仕様としてお渡ししてつくっていただいたわけですけれども、やはり見づらいというような、ちょっと罫線が細い枠ということで、運転手さんのほうが見づらいということがございますので、こちらのほうでワードのほうでデータでつくり直しまして、できる限り広げる形で対応させていただいたところでございますので、次年度の券面につきましては、改善はしたというふうには思っておりますので、ご理解をいただければと思います。

○岡野　勉委員長　荒木委員。

○荒木かおる委員　先ほどの佐藤委員と重複してしまうのですけれども、レスパイトケアの事業なのですが、減額になった理由は分かったのですが、この制度については皆さんご存じなのでしょうか。ご家族の方への支援ですよね。障害者をお持ちのご家族が使うものだと思うのですけれども、この制度についてはご家族の皆さんご存じなのか伺います。

○岡野　勉委員長　井上障害福祉係長。

○井上龍太郎障害福祉係長　質疑にお答えいたします。

　こちらの補助金につきましては、医療的ケアを必要とする重症心身障害児ですとか、そういった方を介助する家族の方が事業所に預ける、その事業所に対して補助を出すものとなっております。

　以上でございます。

○岡野　勉委員長　荒木委員。

○荒木かおる委員　もう一つ、行旅死亡人等の処理の委託料なのですが、これ年々推移はどうなっているかちょっと伺います。

○岡野　勉委員長　市川地域福祉係長。

○市川秀人地域福祉係長　質疑にお答え申し上げます。

　行旅死亡人等の数の推移でございますけれども、令和元年度から申し上げます。令和元年度２件ございました。令和２年度４件、令和３年度７件、令和４年度６件、それで今年度、令和５年度に関しては３件でございます。

○岡野　勉委員長　荒木委員。

○荒木かおる委員　年々増え続けているというわけではないということ、今の推移を見るとそうなのですけれども、独居が増えたり、あと生活保護が増えたり、そういうことでこれから身寄りがなかったり、そういう方が増えていくのではないかなという心配があるのですけれども、去年のこの中で質問で、どうにか親族を探すというお話があったのですけれども、この先どのようにお考えになっているかというか、想像ですけれども、どのようになっていくのかなというお考えはちょっとお聞きしたいのですけれども。

○岡野　勉委員長　市川地域福祉係長。

○市川秀人地域福祉係長　質疑にお答え申し上げます。

　行旅死亡人等についての親族の捜索等に関してですけれども、原則としましては戸籍をまず当たっていって、そこから戸籍の附票等を取ってご親族ご存命かどうかを確認をさせていただく、ご存命であればそのご親族に対して、こういった今状況になっていますけれども、遺体の引取りですとか、葬祭費の支払い等できますかという形で行っていきます。例えばご兄弟等がお亡くなりになっていれば、その息子さんというのですか、息子さん、娘さん、相続関係のあるおいっ子さん、めいっ子さんまでお調べをして、ご通知を差し上げるような形を取ります。また、ご本人さんが現金等、遺留金等がありましたら、そういったものを優先的に充てさせていただく、また現金がなくても例えば預金通帳等出てきた場合には、銀行に行きまして葬祭費の回収という形で、そこの銀行の預金から葬祭費を回収させていただく、それでも駄目であれば埼玉県のほうに給付金という形で申請をするという形を取っております。

以上でございます。

○岡野　勉委員長　荒木委員。

○荒木かおる委員　今まで親族の捜索をして、きっと親戚付き合いもあまりない中で全然知らない方の連絡が来て、その対応については今までいかがでしょうか。

○岡野　勉委員長　市川地域福祉係長。

○市川秀人地域福祉係長　質疑にお答え申し上げます。

その対応についてということなのですけれども、原則としてこちらからお手紙でお送りして、先方からお電話でお返事があった場合に、やっぱりお亡くなりになった方とそのご遺族の方との関係性によってかなり差があるといいますか、絶縁状態にある方なんかはもう一切連絡してこないでくれということもありますし、たまたま連絡がつかなかった方は、心配していたから、そんな多くはないけれども、お金ちょっと送りますよとかという話も出たこともありますので、その辺に関しては関係性の中で変わってくるかと思います。

○岡野　勉委員長　小峰委員。

○小峰明雄委員　まず、町の社会福祉協議会の補助金ということで、協議をされてこの額で補助金が決定されたと思うのですけれども、そうしますと喫茶事業もそういう協議の中で廃止されたという解釈でよろしいのでしょうか。

○岡野　勉委員長　小室福祉課長。

○小室永治福祉課長　質疑にお答えをいたします。

喫茶ゆずの補助事業につきましては、今回の協議とは全く別になりまして、もともと手をつなぐ親の会という団体が実施していたところ、高齢化により運営が厳しいという話を受けて、それを社協の中の事業の一つとして組み入れるということで、ただし激変緩和措置ということで３年間に限って町の補助金を継続すると、段階的に減らしていくというようなことがございましたので、これは約束どおりの結果でございますので、今回の協議とは別になります。

以上です。

○岡野　勉委員長　小峰委員。

○小峰明雄委員　思い出しました。50万かもしれないですけれども、そういうふうに下がっていく。

それから、あとちょっと確認したいのは、協議をされてこの金額に補助金が決定したわけですけれども、例えば令和４年、５年とかの社協の職員体制、令和６年はどういう職員体制でいくのか。先ほどちょっと人件費が高騰していくにもかかわらず抑えられてくるわけなのですよね、こうやって。町の職員さん等は上がっていくわけですけれども、社協の職員さんは従前どおりなのか。そこに１つあるのは、職員の数が減少していくから、これでやっていけるのかという、そこをちょっと確認したいのです、私。分かりますか。

○岡野　勉委員長　小室福祉課長。

○小室永治福祉課長　質疑にお答えをいたします。

実際毎年の話としまして、予算の見積りの段階で社協のほうの補助金、次の年度はこの金額をお願いし

たいという協議が調って予算計上いたします。ただし、それはあくまでも見積りでございますので、各種収入等があって、最終的には精算という形でその予算を下回る金額で執行されているのが常でございますので、マックスこの金額ということになります。そして、人件費につきましては、社協の人事の関係がありますけれども、社協の中で本部の職員が何人、ほかの事業が何人ということで、その割当てをしていく中で人件費を算出するわけでございますが、当然年度の中でも人事異動等もございますので、その変化というものもございます。現状につきましては、町としてはこの補助金の金額でございますが、ほかの事業等、いろんな事業がございまして、拠点の区分の中で予算の繰替えといいますか、そういったことをしておりますので、内訳を法人全体の中でこの人件費のほうは賄っていくものというふうに考えております。

以上でございます。

○岡野　勉委員長　小峰委員。

○小峰明雄委員　私が聞いたのは、例えば令和４年、令和５年職員数が何名であって、令和６年では職員体制はこういう職員体制でいくから、この中で人件費を賄っていくとか、そういうところまでしっかり協議をされたのかということを聞きたかったのです。そこで初めて金額が確定していくのだと思うのです。

○岡野　勉委員長　小室福祉課長。

○小室永治福祉課長　質疑にお答えをいたします。

人数の話でございますが、その協議の中でどなたをこの人件費の対象とするということで、全ての方のその年度の支払い金額というものを明細としてつけておりまして、今年度につきましては、６年度につきましては９名分の人数ということでお話を受けておりまして、その人件費を計上したものでございます。

以上でございます。

○岡野　勉委員長　小峰委員。

○小峰明雄委員　令和５年度等を見てみますと、いろいろの諸事情があって退職されている方もいるということは当然課長の耳にも入っていると思うのです。録音されるから、私これ以上お話できませんけれども、そういう状況なので､そういうところまでなかなか踏み入ることはできないかもしれないのですけれども、やはり補助金を出しているわけですから、よくその辺の調整ができればお願いしたいと思います。

では次に、先ほどよく聞き取れなかったのですけれども、介護給付費のグループホームの増加というようなことをご説明されておりましたけれども、積算根拠をちょっとお示しください。

○岡野　勉委員長　井上障害福祉係長。

○井上龍太郎障害福祉係長　質疑にお答えいたします。

介護給付費、訓練等給付費の算出根拠でございますが、近年の実績、それから予算作成時の前年度伸び率を計算しまして計上させていただいております。

以上でございます。

○岡野　勉委員長　小峰委員。

○小峰明雄委員　実績がどのくらいであって、伸び率が何％だとか、そういうちょっと詳細なことをお伺いしたいのです、委員会なので。

○岡野　勉委員長　井上障害福祉係長。

○井上龍太郎障害福祉係長　質疑にお答えいたします。

令和４年度の決算額６億6,840万3,629円と令和５年度の予算作成時当初の実績見込みが７億1,486万8,000円で、10％ほどの伸び率でございました。

以上でございます。

○岡野　勉委員長　小峰委員。

○小峰明雄委員　そうすると、今後大体年度ごとに10％で、これからそういう推移で増えていくような予想になるのですか。

○岡野　勉委員長　井上障害福祉係長。

○井上龍太郎障害福祉係長　質疑にお答えいたします。

こちらの伸びにつきましては、今後も増えていくものと考えております。

以上でございます。

○岡野　勉委員長　澤田委員。

○澤田　巌副委員長　では、69ページの手話委託料、講習会です。その点に対して２点お聞きします。

近年の受講者の数というのですか、いかがでしょう。

○岡野　勉委員長　井上障害福祉係長。

○井上龍太郎障害福祉係長　質疑にお答えいたします。

受講者の数でございますが、令和４年度入門課程７名受講して７名修了しております。令和５年度につきましては、基礎課程５名受講されて５名修了をしている状況でございます。

以上でございます。

○岡野　勉委員長　澤田委員。

○澤田　巌副委員長　ちょっと少ないような気もしない。令和元年の６月に全会一致でこの毛呂山町手話言語条例制定されました。この条例の存在もいまだ知らない人もいますし、この手話講習会の存在を知らない人もいますので、今後どう町民に対して認知していくか、継続していくか、課長にお聞きします。

○岡野　勉委員長　小室福祉課長。

○小室永治福祉課長　質疑にお答えをいたします。

手話言語条例につきましては、手話というものは言語ということを認めた条例でございます。非常に大切な条例になっております。手話の普及につきまして、手話講座のみならず、今年度の取組としまして、手話の挨拶の紹介動画をホームページのほうで公開をいたしまして、簡単な手話を親しむようなページのほうをつくらさせていただきました。そして、来年度に向けて、以前も行っておりましたように、広報紙の中で手話についてお知らせをする、簡単な手話のお知らせをするというようなことも団体さんのほうと協議をしながら今進めておりますので、そういったことで手話を見ていただく方を増やしていって、そしてまた講習会も開いて、講習会で実際手話を覚えていく方を増やしていければというふうにも考えておりますので、ご理解いただければと思います。

○岡野　勉委員長　ここで、私は質疑をしますので、ただいまから委員長の職務を副委員長に代行いたします。

〔委員長、副委員長と交代〕

○澤田　巖副委員長　ただいまから委員長の職務を行いますので、どうぞよろしくお願いします。

岡野委員。

○岡野　勉委員長　毛呂山の生活保護の現状なのですが、全国的には大変増えているということらしいですが、現状をお聞きします。

○澤田　巖副委員長　小室福祉課長。

○小室永治福祉課長　質疑にお答えをいたします。

毛呂山町の生活保護の受給率については、過去より高いというのはご承知のところでございますが、直近の福祉事務所からの情報は、令和５年12月時点の数字になりますが、毛呂山町の受給率は2.13％ということで、県内で一番高い数字になっているところでございます。それに伴いまして、町福祉課における相談件数も非常に伸びているような状況がございまして、そのような状況で推移をしているところでございます。

以上です。

○澤田　巖副委員長　岡野委員。

○岡野　勉委員長　2.0を超えたのですね。それで、たしかそれは市も入れたあれでしょうか。蕨とか川口とか、やはり毛呂山町は大体３番か、高いほうから３つぐらいでしたね。すみませんが、その現状もちょっとお聞きします。

○澤田　巖副委員長　小室福祉課長。

○小室永治福祉課長　質疑にお答えをいたします。

おっしゃるとおり、過去は蕨、川口、毛呂山というような順位がしばらく続いていた時期がございましたが、昨年の５月の時点の県の報告で毛呂山町が2.07、蕨が2.05、川口が1.99ということで、そこから毛呂山町のほうが一番高い状況が続いているような状況でございます。

以上でございます。

○澤田　巖副委員長　岡野委員。

○岡野　勉委員長　それで、理由というか、そこはつかんでいるということと、認識としてはその原因ということはどう考えているかと。

○澤田　巖副委員長　小室福祉課長。

○小室永治福祉課長　質疑にお答えをいたします。

原因ということでございますが、これはいろんな要因はあると思います。毛呂山町につきましては、非常に住む場所といいますか、アパートのほうが多く、非常に安価なアパートがありまして、そこに住むことができる、しかも大きな病院がございまして、通院に便利ということで、病院にかかるのも便利である、あるいはスーパー等も多くあり、買物等も便利であると、そういうようないろんな状況があると思います。また、町内におきましてもやはり高齢化は進んでおりますので、例えば自営業なり退職をされたときに年金だけで賄えないときに生活保護というようなこともあります。

以上でございます。

○澤田　巖副委員長　岡野委員。

○岡野　勉委員長　前ももしかしたら質疑していますが、やはり必要な方にしっかり生活保護が行き渡るということでは、窓口に申請書を置いて職員との、もちろん福祉事務所ともいち早くと思いますが、やはり出すことにちゅうちょがないようなということでは、窓口ということが、置いておくことが必要かなと思うのですが、レインボーでは市、町ということではどういう対応をしているか、そこはつかんでおりますでしょうか。

○澤田　巖副委員長　小室福祉課長。

○小室永治福祉課長　質疑にお答えをいたします。

申請書の窓口の配置状況につきましては、こちらでは特に把握はしておりません。市におきましては、市は福祉事務所を設置できることになっておりますので、こちらは独自でそういった受付ができるということになります。町村につきましては、県の福祉事務所が担当になりますので、最終的に申請書はそちらに出す形にはなりますが、そういった相談があったときには、相談室のほうで職員が丁寧に30分、１時間お話を聞きながら、そして福祉事務所と電話でつながりながら、話を聞きながら丁寧な相談を受けて申請につなげておりますので、決して窓口で受け付けないとか、そういったことは一切ございませんので、よろしくお願いしたいと思います。

○澤田　巖副委員長　岡野委員長の質疑が終わりましたので、岡野委員長に職務を戻します。

〔副委員長、委員長と交代〕

○岡野　勉委員長　この際、暫時休憩いたします。

（午前１０時４１分）

○岡野　勉委員長　休憩前に引き続き会議を開きます。

（午前１０時５３分）

○岡野　勉委員長　続きまして、71ページ、第３款民生費、第１項社会福祉費、第３目老人福祉費、第５目老人福祉施設費、第８目介護保険事業費について説明を求めます。

串田高齢者支援課長。

〔串田和佳高齢者支援課長詳細説明〕

○岡野　勉委員長　これより質疑に入ります。挙手お願いします。

では、中村委員。

○中村奨平委員　まず、75ページ、第８款の介護保険事業費について、こちらの改めて確認になりますが、本年度と前年度を比較しまして、およそ5,000万円ほど増額になっておりますが、こちらの理由をもう少し詳細に教えていただけますでしょうか。

○岡野　勉委員長　串田高齢者支援課長。

○串田和佳高齢者支援課長　質疑にお答え申し上げます。

介護保険事業費につきましては、介護保険特別会計、そちらのほうに繰出金として、こちらの予算にあ

りますように４億5,082万3,000円、今年度も支出しておりますけれども、やはり給付費のほうが、介護特会のほうが伸びておりますので、それに連動する形でこの保険事業費も伸びるというふうなことが主な理由となります。

以上です。

○岡野　勉委員長　中村委員。

○中村奨平委員　承知しました。まさに今少しお話がありましたが、国会でやれと、まさに国政の話だと思うのです。私は、なので議会で子供の……

〔何事か呼ぶ者あり〕

○中村奨平委員　国会の話です。国会でもっと議論される、これ国政レベルの話ですので、ごめんなさい、国会です。なので、私は議会でも一度もこの件については触れていないと思うのです。意図的に触れていなかったのですけれども、ただ１点だけちょっと気になるのが、よくご答弁で住み慣れた地域で最後まで過ごされる、それを希望されている方も多いアンケート結果もお話しされていましたけれども、やはり現実的にこれから現役世代が少なくなってくる、かつ高齢者が増えていく、介護が必要な方も増えていくという中で、これは介護保険事業だけではなくて同じように老人福祉費ですか、こちらのほうも自然増で5,000万円ほど上がっていると思うのです。この自然増というのは、食い止めるのはなかなか難しいものであると思うのですけれども、これは町として、さっきの特別会計、毛呂山町特別会計ですから、私は現実的に最後までご自宅で訪問介護でというのは続かないと思っているのです。その方針について今後どのように考えられているのか、町としてお答えいただければ。

○岡野　勉委員長　串田高齢者支援課長。

○串田和佳高齢者支援課長　ご質疑にお答え申し上げます。

中村委員さんご指摘のとおり、町のほうとしましては、住み慣れた地域でできる限り継続して生活できるようにということを目的に、今回も高齢者総合計画のほうも地域包括ケアシステムのこれまで以上の進化、推進を図るというふうなことを設定させていただいております。しかし、我々町のほうとしては、そのために俗に言うゆずっこ元気体操等を通して介護予防に資する取組を中心にやって、健康寿命の延伸ということに取り組んでおりますけれども、現実的にはおっしゃるように、あるタイミングから急激に、いろんなきっかけがあると思うのです。そのきっかけによって急激に介護が必要な状態に陥るということも当然出てきます。そういった方については、施設できちんと手厚い介護支援をいただくということは当然必要になってきますので、その辺のバランスです。その辺のところは、施設に入りたいのだけれども、入れないということがないように、きちんとその辺の見込み量、そういったものも今回も算出をさせていただいているのですけれども、そういったことを念頭に置きながら、常に介護保険の運用については町のほうとしては考えているところでございます。

以上です。

○岡野　勉委員長　中村委員。

○中村奨平委員　ちょっと話が大きな話で申し訳ないのですけれども、およそは理解します。私の祖父も２年前に亡くなったのですが、先輩議員の質問であったように、状態で見れば要介護レベルは上がるはずな

のですけれども、そういう施設の問題であったり等で介護上げれないと、ようやく上げてくれるということで、入室になる前に亡くなってしまったのです、実は。そういう問題を私も十分承知はしているのですけれども、やはりこの問題というのは国全体で、人口、働き手の現役負担等も考えてやらないといけない問題だと思います。先ほどおっしゃられたとおり、とはいえども施設で入っていただくことも大切だと思いますので、ここは自治体レベルでそういう施設を提供する等、土地は例えば小学校の跡地であったり、毛呂山町には医大という立派なものがありますから、ＰＰＰ等でそういうのを委託していく等、やっぱりもうちょっと将来を見据えてやっていただくことが必要ではないかと思っておるのです。その点についていかがでしょうか。

○岡野　勉委員長　串田高齢者支援課長。

○串田和佳高齢者支援課長　ご質疑にお答え申し上げます。

委員本当におっしゃるとおりだと思います。やはりそれぞれの状況というのは日々変化するものです。特に年齢が上がるにつれてその状態変化というのは激しくなりますので、そういったところにタイムリーに対応するというのは難しいですので、事前に予測をきちんと立てて、推測ですよね。見込み量なんかもできる限り正確に立てることによって、あとはケアマネジャーさんですとか、あるいはおっしゃられたように施設との連携です。そういったところをきめ細かにしていきながら、対象と利用される方にとって不安を抱かせることがないように、そのご家族も含めて丁寧に対応していくことが一番大事なことだというふうには承知しております。そういった視点で今後も取り組んでいきたいと思っております。

以上です。

○岡野　勉委員長　佐藤委員。

○佐藤秀樹委員　それでは、ただいま中村委員の質疑の中の答弁で、老健も含めてその施設をきちんと提供できるようにというご答弁だったのですけれども、今現在でも待機状態というのはあるのですか。

○岡野　勉委員長　串田高齢者支援課長。

○串田和佳高齢者支援課長　ご質疑にお答え申し上げます。

本町にも介護に関する施設は複数ございます。特別養護老人ホームを例に申し上げますと、現在町内には３か所ございますけれども、それぞれ待機状況、直近はちょっとデータ把握しておらないのですが、半年ぐらい前の状況で申し上げますと、悠久園さん、そちらのほうがやっぱり待機者が一番多いかなと、その次にナーシングヴィラですとかななふく、そういったところが続いているような状況でございます。

以上です。

○岡野　勉委員長　佐藤委員。

○佐藤秀樹委員　自分も知っている方で待機をされている方がいらっしゃるのです。なので、本当に町のほうでそういったところを解消する、目指すというのであれば、そこは今まで以上に対応していただければと思います。

それと、72ページの緊急通報システムが多少増額になっているのですけれども、こちらの理由をお願いいたします。

○岡野　勉委員長　細井高齢者福祉係長。

○細井英司高齢者福祉係長　質疑にお答えいたします。

緊急通報システムのほうでございますが、２月末現在で125名の方の登録をいただいております。年々新規の方の増加が見込まれるため、今回増額で計上させていただいております。

以上でございます。

○岡野　勉委員長　佐藤委員。

○佐藤秀樹委員　ちなみに、年齢制限というのはあるのですか、何歳以上とか。

○岡野　勉委員長　細井高齢者福祉係長。

○細井英司高齢者福祉係長　質疑にお答えいたします。

高齢者福祉課所管分につきましては、65歳以上の方ということで対応させていただいておりますが、障害を理由とした障害福祉のほうの支給決定もございますので、ご理解をお願いいたします。

以上です。

○岡野　勉委員長　佐藤委員。

○佐藤秀樹委員　分かりました。では、私では無理だということですね。

次に、シルバー人材センターなのですけれども、シルバー人材センターでここ数年言われているのですが、施設、建物の老朽化に伴って雨漏りとかも発生しているということと、あと手狭だということが言われているのですけれども、その辺は令和６年度の対応というのは何か考えられているのですか。

○岡野　勉委員長　串田高齢者支援課長。

○串田和佳高齢者支援課長　質疑にお答え申し上げます。

佐藤委員さんの今ご質疑の中で、令和６年度中の対応というお話でしたけれども、６年度の中で具体的にというものはございません。ただ、以前から施設の老朽化につきましては、町のほう、私のほうとしても当然把握はしております。雨漏り、あるいは天井もかなり、ちょっと前は電灯が落ちたというふうなこともあったというふうに伺っておりますし、手狭な状況もありますので、早急な対応が必要だというふうな認識でおります。

以前も、今社会福祉協議会のほうの事務局となっておりますデイサービスの跡地、そういったところも考えられないかということで、当時の事務局長さんにも見ていただいて、ただ設備を置く場所がないということで、ちょっとここでは手狭だというふうなことで、それは流れてはいるのですけれども、今後も公共施設、町のほうでも管理計画等で施設が空く場所、具体的にちょっとあれですけれども、そういったところがあればそういったところを有効活用するということで、関係課とも協議をしながら、タイミングがあれば早めに対応していきたいと、シルバー人材センターの協力をしていきたいというふうに思っております。

以上です。

○岡野　勉委員長　佐藤委員。

○佐藤秀樹委員　分かりました。

次に、73ページの寿会の補助金なのですけれども、第二団地もここで寿会が解散をしたという話ですし、長瀬委員、その辺は一番詳しいと思うのです。今後、やはり寿会の在り方というのが、非常に今の比較的

若い世代の方なんかは入りづらいという部分もありますし、その辺寿会に対してどういうふうに考えているのかお伺いします。

○岡野　勉委員長　串田高齢者支援課長。

○串田和佳高齢者支援課長　質疑にお答え申し上げます。

寿会につきましては、やはり年々会員数の減少、あるいは先日は第二団地のほうでも解散をするというふうな話を伺って、事前にも相談はこちらでも受けてはおるのですけれども、非常に残念な結果になっております。こういった状況というのは、他の地区においてもやはり同様のことが起きかねないのではないかということで、町のほうとしても危惧はしておるところなのですけれども、老人クラブに関してはおおむね60歳以上の方が会員として加入することができるというふうなことにはなっておりますけれども、働き方が70歳まで働く方も非常に増えてきておりますので､あるいはそのほかの事情もあると思うのですが、会員は減少する一方と、そこに対してどういうふうな働きかけが必要かということで、国においても今後実態調査をするというふうなことは伺っておりますけれども、町としてもその辺のところはいろいろと聞き取りをしながら、得策というものはありませんけれども、地域と一緒になって考えていきたいというふうに思っております。

以上です。

○岡野　勉委員長　佐藤委員。

○佐藤秀樹委員　聞いた話ですと、自治会の中でのいろんなことがあって、それで解散があって、今返金も求められているような状況ということも伺っていますし、またそれに対してあと一歩で裁判になるというふうな話にもなっていたみたいなので、これは寿会単体ではなくて自治体全体の問題だと思うのです。ですので、高齢者支援課だけではなくて総務課、ほかの課と一緒になって、この問題は今後解決というか、進めていっていただければと思います。

最後に、一般質問もしましたけれども、介護に関してはケアマネの問題が非常に喫緊の課題だと思うのです。先ほど福祉課のほうでも、民生委員の方の仕事の内容がケアマネと同じように本来の業務以外の、例えば買物に付き合ったりとか、銀行でお金を下ろしたり、そういったことがやはり増えていて成り手がいないというふうな答弁もありました。ケアマネも同じように本来の業務以外のことが多くて、また賃金とのバランスが悪いということで、なかなか成り手不足ということもありますし、その辺ただ介護認定を受けても、答弁ありましたけれども、認定を受けても待機状態になっている方がやはりいるので、その辺はきっちりとケアできるように進めていっていただければと思います。その辺についてはいかがですか。

○岡野　勉委員長　串田高齢者支援課長。

○串田和佳高齢者支援課長　ご質疑にお答え申し上げます。

先日の一般質問の中でも答弁をさせていただきましたけれども、やはりケアマネ不足というのは今後ますます深刻化するというふうなことが予測され、これは毛呂山だけではありませんが、全国的に予測されております。平均年齢のほうも全国で56歳ぐらいになっておりまして、新たな成り手がいないということで高年齢になっていくと、やはりいつまでも続けられるわけでありませんので、結局ケアマネはもう退職せざるを得ない、辞めざるを得ないとなってくると、今おっしゃられたような問題というのは、やはり家

族が核家族化するだけではなくて、今単身高齢者も非常に増えてきています。本町でも今現在では18%が独り暮らしの高齢者になっております。そういった方がどんどん増えてきている状況ですので、誰にも相談できない、結果的にケアマネのほうにということがこういったことをどんどん深刻化させていると思いますので、そこは一般質問で答弁させていただいたように、地域の中でこういう課題を共有させていただいて、地域住民とともに何ができるかというところを町としても積極的に働きかけのほうをさせていただいて、一緒に考えていくというスタンスで進めていきたいと思っております。

以上です。

○岡野　勉委員長　千葉委員。

○千葉三津子委員　72ページ、節18の人間ドック補助金でございます。この人間ドック補助金、昨年は高齢者支援課ではなかったと思うのですけれども、今回も国保の特会のほうにも入っておりますが、この辺の部分がちょっと教えていただければと思います。

○岡野　勉委員長　山本医療保険料係長。

○山本加津子医療保険料係長　質疑にお答えいたします。

今回この新設に当たりまして、今までは国保特会で支出をしておりましたが、国民健康保険事業県内統一化に向け被保険者以外に対する事業を廃止することとなりました。これに伴い後期高齢者被保険者分については、一般会計で別に支出することになったため、今回こちらのほうに計上させていただきました。

以上です。

○岡野　勉委員長　千葉委員。

○千葉三津子委員　そういった部分で分けてということで分かりました。

高齢者支援課のほうでの人間ドックの補助金の中には、人間ドックのほかに脳ドック、国保のほうでは脳ドックも含まれるという部分であったのですけれども、高齢者支援課のほうのこの補助金は含まれるのでしょうか。

○岡野　勉委員長　山本医療保険料係長。

○山本加津子医療保険料係長　質疑にお答えいたします。

同じく脳ドックもこちらのほうに含まれてございます。

以上です。

○岡野　勉委員長　長瀬委員。

○長瀬　衛委員　さっきも出ましたけれども、この寿会のことなのだけれども、今子ども会ももう衰退の一途で、寿会も同じような道をたどっているけれども、少子化だから子ども会は分かるのだけれども、寿会がどんどん減って、先ほど第二団地の件もあったけれども、第二団地の件については相談を受けたのですか。

○岡野　勉委員長　串田高齢者支援課長。

○串田和佳高齢者支援課長　ご質疑にお答え申し上げます。

第二団地につきましては、代表の方から当課のほうに相談のほうは受けております。

以上です。

○岡野　勉委員長　長瀬委員。

○長瀬　衛委員　これはやっぱり行政がしっかりしないと、自治会もそうなのだけれども、自治会も寿会も同じです。やり方というか、その地域にそういうリーダーが欠けてきているのだろうと思いますけれども、リーダー次第だと思いますけれども、やっぱり行政はフォローをしっかりしていかないと、今度の第二団地の話、私もよく聞いてみたけれども、自治会が解散に追い込んだような話になっているけれども、もうとんでもない話です。何か遡って補助金を返せとか、内容証明つきの郵便で通知を届けるとか、これではもう地域が成り立たない。私がいつも言うのだけれども、第二団地なんていうのは毛呂山町の象徴的な、これまで町を引っ張ってきた団地です。そこがもうお祭りもやらない、何もやらない、子ども会もないのでしょう、あそこはとっくに。これは町がフォローしなければいけないと思います。だから、本当にこの寿会、私はもう60代から入っているのだけれども、うちの自治会も寿会も誠に活発なのです。よそで事業があまりやっていないというのがちょっと不思議なのだけれども、やっぱりやりようだと思います。地域が少し力がなくなってきているから、行政が少しフォローしていかないと、この実施計画を見ると会員数をずっと令和６年、７年、８年と増えるように推計しているけれども、これは全く根拠ないでしょう。今のまま行くとどんどん減ります。このように増やしていくように、町のほうで私はやっぱり努力すべきだと思います。その辺どうですか。

○岡野　勉委員長　串田高齢者支援課長。

○串田和佳高齢者支援課長　ご質疑にお答え申し上げます。

　長瀬委員おっしゃるとおりです。私もこれまでの状況も第二団地もいろんな関わりの中で、これまでおっしゃるように町をリードしていく、いろんなことが活発に行われているということで、私も他の地区に対してのモデル地区として推薦をしていたときもありましたので、今回のお話を聞いて非常にがっかりといいますか、ただその背景に何があるのかということを私も明らかにしていきたいなと、もっと地域の方といろんな話をしていきたいなというふうに思っております。やはり地域任せにしては、おっしゃるように何も進みません。それはもう私ははっきり間違いなくそうなると思いますので、その辺のところの課題をきちんと住民と向き合いながら話を進めていって、その先に何ができるのかということを一緒に考えていきたいというふうに思っております。

　以上です。

○岡野　勉委員長　長瀬委員。

○長瀬　衛委員　寿会の役員の方からちょっとお話を聞きましたけれども、何か自治会のほうでは寿会が自治会に貢献していないと言っているらしいです。それは私違うと思う。寿会そのものが健全に活動していることが自治会に貢献しているのだと、私はそう思っているのです。そうでしょう。それが自治会の事業に寿会がいろいろ貢献していないというのが理由のようだと、それは違うって、そういうことがこれは間違いですから、ちゃんとこれからご指導していただいて、できることなら何とか元に戻してほしいぐらいです。お願いします。それは結構です。

　それから、さっきの緊急通報システムについても、私は日頃からあのお宅にこのシステム導入してもらえばいいのだろうけれどもなというううちがちょくちょくうちの近くにもあるのです。みんなと話しするの

だけれども、通報システムでも申請してほしいのだけれどもなという人がいっぱいいるのけれども、これはどういう手続なのですか。今民生委員さんか何かが進めるのですか。

○岡野　勉委員長　細井高齢者福祉係長。

○細井英司高齢者福祉係長　質疑にお答えいたします。

申請につきましては、ご本人または家族からの申請となっております。

以上です。

○岡野　勉委員長　長瀬委員。

○長瀬　衛委員　ですから、それは何かの形で町の情報を得なければいけないのだと思いますけれども、ほとんど分かっていないです。こういうことがあること自体も分かっていない。だから、これを見てください。給食サービスとほぼ同じ人数だもの。給食サービスは、別に特別説明する必要ないけれども、この緊急通報システムはやっぱり進めてほしいです。これは65歳というけれども、それはいろいろな状況はあるけれども、基本的に言えば80歳以上とか、もちろん独居世帯で80歳以上とか、そういう人にはできればお話をして採用してほしい。大体年間１万ちょっとかかるのです、１人、１台。費用の面が一番ネックになっているのかも分からないけれども、これはよく考えて、これは本当に地域として、孤立死が一番地域住民にとっては困るのです。それを防ぐためにも、これはかなり効果あると思いますので、今後、ここ何年もずっと見ているけれども、多少増えているようだけれども、ほとんど変わらない状況で推移していますけれども、これについて一つ、これからの地域の大きな課題ですから、ぜひお願いしたい。どうですか、課長。

○岡野　勉委員長　串田高齢者支援課長。

○串田和佳高齢者支援課長　ご質疑にお答え申し上げます。

緊急通報システムについては長瀬委員さんから以前からご指摘いただいておりますし、私のほうもその辺については重要性は十分承知しておるところです。制度について理解されている方が、知っている方がほとんどいないのではないかと、そのとおりだと思います。当人にこの情報が行くというのはなかなか難しいので、町、我々のほうとしましても、例えば民生委員さんにこういう制度がありますよと、あるいは関係するその他の方にもこういうものがありますよと周知をさせていただいて、そういったところから利用を促していくというふうなことが一番いいのかなというふうには思っております。

いずれにせよ、ご指摘いただいたように孤立死、今後ますます増加の傾向にあると思いますので、そういったことを防ぐという観点からも、このシステムは非常に有効だと思っておりますので、検討してまいります。

以上です。

○岡野　勉委員長　長瀬委員。

○長瀬　衛委員　今まで毎年こういう会話をずっとしてきているのだけれども、ここで一つ思い切ってというか、心機一転ちょっと考えてほしいと思います。よろしく。

○岡野　勉委員長　佐島委員。

○佐島啓晋委員　シルバー人材センター補助金について質疑させていただきます。

これは毛呂山町だけのことではなくてよく聞くのが、あくまでも聞くのが越生町はシルバー人材センターについて町が相当活発に支援が厚くて、それで何かシルバー人材センターで働く人が多いのだということをちょっとお聞きしていて、これというのは補助金の問題なのか、それとも管財課のほうの発注の問題なのか、その辺はちょっと私には分からないのですけれども、もし比較して分かるのでしたら教えていただきたいのですけれども。

○岡野　勉委員長　串田高齢者支援課長。

○串田和佳高齢者支援課長　ご質疑にお答え申し上げます。

今佐島委員のほうから、越生町との比較の中でとのご質疑でございますけれども、まず越生町の具体的な詳細まではちょっと私のほうでは把握はしてございません。ただ、いろんな支援があるから、結果的に活発に行われているのではないかというところなのですけれども、本町でも先日管財課のほうからもお話があったかもしれませんが、町のほうからも積極的にシルバー人材センターのほうの活用をさせていただいているところですし、シルバー人材センターのほうも特に派遣事業のほう、そういったところに力を入れておりまして､埼玉医大ですとか町内の関係施設のほうに労働者のほうを派遣をしているというような、非常にその辺の実績が出てきておりますので、具体的な比較はちょっと申し上げられませんけれども、そんな大きなあれはないのかなというふうには捉えております。

以上です。

○岡野　勉委員長　佐島委員。

○佐島啓晋委員　一応こちらの事業概要の中に高齢者の就業の機会の増大ということが書いてあります。やはりシルバー人材に行っても仕事がないのではないかとか、登録料を払わなくてはいけなかったりの問題とかあって、敷居が高いと聞くのです。このような事業概要になっていますので、もう少しこの辺を寄り添っていただいて運営していただければと感じています。答弁はいいです。

○岡野　勉委員長　荒木委員。

○荒木かおる委員　そうしたら私も連合寿会のことなのですけれども、やはり私も第二団地の方からご相談いただいていろいろお聞きをしたのですけれども、どうもこの自治会が寿会の行事というか、行動について理解をしていないのではないかなというものがあるのです。寿会のごみ拾いとかいろいろ項目があったのですけれども、それ今手元にございますか、寿会とは何をするものかみたいな。

○岡野　勉委員長　串田高齢者支援課長。

○串田和佳高齢者支援課長　ご質疑にお答え申し上げます。

本町で老人クラブに対して補助金を交付させていただいておりますが、その老人クラブの補助対象事業につきましてですが、全部で６項目ございます。まず、社会奉仕活動事業、それから友愛訪問活動事業、それと地域の見守り活動事業、それと教養講座等の開催事業、それとスポーツ活動等の健康増進事業、それとそのほか町長が高齢者の福祉の増進を図るため特に必要と認めるものというふうなことにさせていただいております。

以上です。

○岡野　勉委員長　荒木委員。

○荒木かおる委員　私が見せていただいた中にごみ拾いとか、そういうものが入っていたのです。それを自治会の方が寿会はごみ拾いなんかしていないではないかとか、そういう項目があるゆえに勘違いをして、毎回毎月定例会と言いながらごみ拾いもしていないし、スポーツもしていないし、見守りもしていないしというようなお話があったのです。寿会のそもそもの目的ってそういうものではなく、やはりこれから高齢化していく中で皆さんが集い合って、自治会の人はお茶飲みしているだけだというお話があったのですけれども、それで私はいいのではないかなという私の認識です。それは、私はそういうふうに思うのです。皆さんで集って元気におしゃべりをして、それが寿会の本来の姿ではないかなって思うのです。そうしたら自治会に対しても、こういうものでいいのだという寿会の在り方、それも町のほうでお知らせしていく、それが必要ではないかなって思うのです。

それで、この単位老人クラブの補助金もクラブ数の減少と、あと会員数の減少ということですけれども、これは自然減なのか、それとも会員さんになっている方が嫌で抜けてしまったのか、そこら辺は分かりますか。

○岡野　勉委員長　串田高齢者支援課長。

○串田和佳高齢者支援課長　ご質疑にお答え申し上げます。

減少の要因でございますけれども、自然減が一番多いのかなとは思います。ただ、今回の第二団地の件もありましたけれども、今後についてはそれ以外の要因により減少することも、何もしないとそれは懸念されるというふうには私のほうとしては捉えております。

以上です。

○岡野　勉委員長　荒木委員。

○荒木かおる委員　長瀬委員の言うように、もっと町が助言なり手を出してあげて、毛呂山全部でこの寿会を見守ってあげられるような、そういう町にしていかないと、これからどんどん高齢者が増えていく中で厳しい町になってしまうのではないかなと思うので、ぜひそこら辺よろしくお願いします。

いいですか、続けて。

○岡野　勉委員長　どうぞ、続けて。

○荒木かおる委員　緊急通報システム、私も毎回質問をさせていただくのですけれども、前回長瀬委員が決算のときだったかな、年齢を制限していても、そんなに大した額ではないのだから、独居の方には町で貸出しをしたらどうかというお話がありました。佐藤委員も…。それは、若い方ではなくて80歳以上でもいいのですけれども、私はそれに大賛成だなって思います。町もどこかに力を入れていかなければならないということで、子育て支援にシフトをしていますけれども、やはり高齢者の孤独死、それはこれからもっと増加していくものだと思うので、それなのでやっぱりそれをなくすためにも、この緊急通報システム、24時間何もセンサーが動かなければ何かあったということですぐ警備会社に通報されるということで、非常に有効的だと思うので、私も提案していきますけれども、ぜひ来年はできたらいいなと思います。いかがでしょうか。

○岡野　勉委員長　串田高齢者支援課長。

○串田和佳高齢者支援課長　ご質疑にお答え申し上げます。

荒木委員ご指摘のとおりです。今後の状況を考えますと、やはりこのシステムの有効性というのは非常に高いものだというふうに捉えております。年齢も上げてでも、特に介護の状態が85歳以上になると大きく上がるというふうなことも言われておりますけれども、一定の年齢以上の方に積極的に活用いただけるようにということで、予算のもちろん限りもありますけれども、やはり大事な命を、またできる限り住み慣れたところで続けていただけるというためにも、こういった制度を積極的に見直しをしていくということは必要なことだと思っておりますので、今後は検討していきたいというふうに思います。

以上です。

○岡野　勉委員長　小峰委員。

○小峰明雄委員　まず、72ページの委託料ということで、ちょっと予算のことでお伺いしたいのですけれども、給食サービスの事業委託料で若干令和６年度当初予算編成で金額が下がっておりますけれども、いろいろな事業をされたり、こうやって委託をしていくわけですけれども、その検証というものは大切であって、なおこの事業をしたらこういう目的が達成されたというようなことをしっかり検証していかなければいけないと思うのですけれども、この点についてこの当初予算を組まれるに当たりどのような検証をされたのかお伺いします。

○岡野　勉委員長　串田高齢者支援課長。

○串田和佳高齢者支援課長　ご質疑にお答え申し上げます。

給食サービス事業についての検証ということでございますけれども、高齢化が進展するに比例して、この給食サービスの利用というのがさして伸びていないということがあります。その背景には週に２回、火曜日と今金曜日なのですが、その実施状況では十分高齢者のニーズに対して対応できていないということが一つ挙げられておりまして、こちらは社会福祉協議会のほうに委託しておりますけれども、今後見直しが必要だなということで、今議論に上げているところです。具体的には、令和６年度事業の当初予算には、この委託料のほうは計上させていただいておりますけれども、令和７年度に向けて、翌年度に向けて具体的にこの内容については、より住民に、高齢者にとって身近なサービスとなるよう、具体的には栄養管理の面から具体的にアプローチしていきたいなというふうに考えております。そういったことで、来年６年度中に具体的に見直しをして、７年度に向けていきたいというふうに捉えております。

以上です。

○岡野　勉委員長　小峰委員。

○小峰明雄委員　栄養管理を全面的にしていくという話になってくると、今はどうだったのでしょうかという話になってしまうので、しっかり事業をされる以上は、やっぱりその目的達成をしていかなければいけないと思います。

次に、ちょっとシルバー人材センターの補助金、これ毎年同じなのですけれども、やはり物価高騰等いろいろな諸事情があると思うのです。そういう中で、シルバー人材センターとご協議された中でこの金額に決めたのか、この点についてお伺いします。

○岡野　勉委員長　串田高齢者支援課長。

○串田和佳高齢者支援課長　ご質疑にお答え申し上げます。

シルバー人材センターの補助金でございます。こちらにつきましては、委員ご指摘のとおり、協議の上で決定をさせていただいたものでございます。

以上です。

○岡野　勉委員長　小峰委員。

○小峰明雄委員　今後、やはり物価が高騰したり人件費も高騰していますので、何が言いたいかというと、ほかのいろいろな委託だとか、そういう管理だとか、そういったものも人件費が高騰したので、上がっているという予算がこの中にありますので、そういうところを重々これから考えていかなければいけないと思うのです。

それに同じことなのですけれども、３年間の指定管理者ということで老人福祉センターの管理運営の委託料、これも同じです。当然そこで業務される方々の人件費というものも若干上がってきていると思うのです。そういったことも加味していかないと、例年同じ金額で同じサービスを求めると思うのですけれども、なかなかこれだけ人件費が高騰してくると時給単価も上がってきていますし、人材を集めるということも厳しい状況になっていますので、今後よく精査していろいろなことにアンテナを高くして進めていただければと思うのですけれども、いかがですか。

○岡野　勉委員長　串田高齢者支援課長。

○串田和佳高齢者支援課長　ご質疑にお答え申し上げます。

人件費につきましては、委員ご指摘のとおりでございます。人件費の高騰もしておりますので、事業の委託の目的をきちんと達成していくためにも、ここら辺の裏づけというものはきちんとしていく必要があるというふうに捉えておりますので、今後検討してまいりたいと思います。

以上です。

○岡野　勉委員長　副委員長、ここで私は質疑をしますので、ただいまから委員長の職務を副委員長に代行いたします。

〔委員長、副委員長と交代〕

○澤田　巌副委員長　ただいまから委員長の職務を行います。どうぞよろしくお願いします。

岡野委員。

○岡野　勉委員長　介護保険事業ということで気になることが、最近のニュースで介護事業所の中小の事業所が経営的に赤字だと、それが率も30％を超えるような中で、今後やはり必要な介護をもしかしたら対応できないような状況がということでは非常に不安ですので、中には有名な方が今これは非常に問題だということで、かなり介護保険制度を懸念している声もあります。町の受け止めなり、現状でそういった面で事業者からの声というか、そういうことはあるでしょうか、ちょっとお聞きしたいと思います。

○澤田　巌副委員長　串田高齢者支援課長。

○串田和佳高齢者支援課長　ご質疑にお答え申し上げます。

具体的なことに関しましては、この後また後日介護特会のほうの審議もありますので、そちらとも重なる部分ではあると思うのですけれども、具体的に今の内容で申し上げますと、本町については具体的に事業者のほうから、今回の例えば報酬改定等に伴って大変なのだというふうな声まではいただいてはおりま

せん。ただ、これは全国的な傾向の中では、今回特に訪問介護、ホームヘルパーさんの方々がおりますけれども、そういった方々の基本報酬のほうが引下げがされております。そういったことによって、それでも特に小規模の事業者については、もう本当にかつかつといいますか、ぎりぎりの状態で運営していたところが今回の報酬改定によって余計厳しくなる、場合によってはもう廃業せざるを得ないというふうな声も特に地方のほうでは出てきております。こういった声が徐々にこういった本町のほうにも影響出てくるのではないかなというふうに、担当課のほうとしては危惧しているところです。結局このサービスが停滞してしまいますと、居宅でのサービス、先ほど住み慣れた地域でという、その部分がもう具体化、具現化されませんので、本町のほうとしてもそこのところは今後の国の動向については注視しているところでございます。

以上です。

○澤田　巖副委員長　岡野委員。

○岡野　勉委員長　そうだと思うのです。全国的にはなかなかもう中小が、小さい事業所ですか、本当に身近な事業所が撤退というようなこともなりかねないということで、今後国の動向等も注視して、ぜひ対応していただきたいと思うのですが、その点での一言お願いします。

○澤田　巖副委員長　串田高齢者支援課長。

○串田和佳高齢者支援課長　ご質疑にお答え申し上げます。

国はこの３年間、令和６年から令和８年度、今回の報酬改定によってどのような影響が出たかということを検証していくというふうなことを言っております。当然その過程においては、それぞれの市町村に対して現状についての調べが来ます。そういったもののデータを吸い上げて、具体的にどういうふうに国として改定していくのか、その中に必要なものがあれば、あるいは事業所からの声があれば、我々のほうも積極的に伺っていきますけれども、そういった声を吸い上げて国のほうに届けていきたいと、そうすることによって事業者のほうが廃業することのないように努めていきたいというふうに思っております。

以上です。

○澤田　巖副委員長　質疑が終わりましたので、岡野委員長に職務を戻します。

〔副委員長、委員長と交代〕

○岡野　勉委員長　この際、午後１時15分まで休憩といたします。

（午前１１時４２分）

○岡野　勉委員長　休憩前に引き続き会議を開きます。

（午後　１時１５分）

○岡野　勉委員長　続きまして、76ページ、第３款民生費、第２項児童福祉費、第１目児童福祉総務費、第２目児童措置費について説明を求めます。

小川子ども課長。

〔小川賢三子ども課長詳細説明〕

○岡野　勉委員長　これより質疑に入ります。挙手をお願いします。

平野委員。

○平野　隆委員　私のほうから質疑をさせていただきます。

保育所の無償化事業の件について質疑をさせていただきたいのですけれども、これは基本的にはいいことだと思うのですけれども、子育て支援というか、少子化対策にもつながるいい事業だと思うのですけれども、今回のこの予算概要書の中で子ども課の新規事業って随分たくさんあって、圧倒的に多くて、今回そうなっているのですけれども、この中でみんなこの事業のうち一般財源が幾らとかなっているのですが、これに関してはよその自治体もやっているところもあるようですけれども、これ全て一般財源ですよね、補助金とか入っていなくて。一応毛呂山町独自の事業ということになると思うのですが、この財源についてこれからもずっと永遠に続けていくつもりで始めたのか、まずその１点をお願いします。

○岡野　勉委員長　小川子ども課長。

○小川賢三子ども課長　ご質疑にお答え申し上げます。

財源につきましては、全て一般財源ということになってございます。こちらの事業につきましては、町といたしましては子育て支援というのを重要課題と認識してございますので、こちらについては現段階では恒久的に行っていく事業というふうに考えてございます。

○岡野　勉委員長　平野委員。

○平野　隆委員　分かりました。そういうことで始めるということですけれども、今後の見通しとして、例えば国のほうからこういったものの補助が来るような見通しが何か見えているのか、今現在全くそういうのはないのか、ちょっとその辺だけお伺いします。

○岡野　勉委員長　小川子ども課長。

○小川賢三子ども課長　ご質疑にお答え申し上げます。

現段階におきましては、国から補助等、そういったお話は出てございません。

○岡野　勉委員長　平野委員。

○平野　隆委員　分かりました。国のほうとしても、テレビなんかでも報道しているように、今異次元の対策をするのだと、もう今までにないような物すごい対策をするのだという中で、でもこういうのに対する無償化というのはない、つまり国は異次元でやると言っているだけれども、それを超えてしまっているのです。異次元の少子化対策を超えて町がやっている、それがいいとか悪いとかというのではなくて、そういう事業だと思うのです。少子化対策で今どこの市町も一生懸命取り組んでいて、ただ少子化対策の中にも、子供の数が増えるような対策というのは本当は求められると思うのです。子供の数が増える。今ともすると、自治体同士が子育て世代であるとか、そういうのをただ単に奪い合っているだけでは、例えば毛呂山町が子育て世代が増えたとしても、周りの市町が減ってしまったら、国全体としては何にもならなくて、ただただ子供の奪い合いのために自治体同士がどんどん、どんどんこういう競争をしていって、やっぱりこの辺もどこかで立ち止まって考えなければ、今ここに物価高騰とかって、説明書を見ると物価高騰の対策とか、言っていることはいいことだし、分かるのだけれども、私も何も知らなくて言っているのではなくて、私らだって子供を育ててきたのだから、子育てがどれだけ大変かというのはみんな分かってい

ることなのです。子供にはお金がかかるし、当たり前のことなのだけれども、今は子育てというと比較的予算がつきやすくて、ただこれをやることによって、毛呂山町にせめて子育て世代を呼び込むようなことがないと、これ一般財源から出ていて国から補助がないということは、もう国の政策を超えてしまっているのだから、国がやろうとしていること以上のことをやっているのだから、しっかりその辺結果をやっぱり出してもらいたいと思うのです。その辺ちょっと課長としてはどうでしょうか。

○岡野　勉委員長　小川子ども課長。

○小川賢三子ども課長　質疑にお答え申し上げます。

　まさにご指摘のとおり、現状におきましては市町村間の競争という側面も否めない状況でございます。ただし、やはり国のほうの動きというのは先ほど申し上げましたとおり、補助金等はまだ動きがない状態でございますので、今の段階で手をこまねいているということはできませんので、町としてできること、そういったものを限られた財源ではございますが、一生懸命やらさせていただきたいというふうに考えてございます。

　それから、少子化という部分、これは子ども課も子育て世帯の対策ということで担ってございます。また、ご存じのとおり企画財政課が少子化対策ということをやってございますので、連携しながら成果が出るような形で進めていきたいと考えてございます。

○岡野　勉委員長　平野委員。

○平野　隆委員　分かりました。これは前にもどこで言ったか忘れてしまったのですけれども、やっぱり給食費というのは……

〔何事か呼ぶ者あり〕

○平野　隆委員　予算書の中に77ページの保育所無償化事業というのが入っているのです。どっちでやろうかなと思ってあれしたのだけれども、77ページのここに予算が入っているのです。だから、保育費のほうでやると……

○岡野　勉委員長　継続してください。

○平野　隆委員　いいということなので、もうちょっと聞かせていただきますけれども、これほかのところでもちょっと申し上げたのですけれども、やはり私も経験から給食とか、こういうものが無償化になるというのは本当にありがたいことで、町がバックアップしてくれるなというふうに私も多分思うと思うのですけれども、その一方で苦しい子育ての中で給食費を払う、それでこんな安い値段でこれだけのサービスが提供できるのだって、自分でお金を払って初めて感謝というのがあるわけです。でも、これが本当に無償化が当たり前になってしまうと、子供を生めば、保育所に入ればただで食べれるのだよってなると、やっぱりそのありがたみという部分でおかしな誤解を与えてしまうと、おかずが足りないではないか、もっとおいしいもの食べさせろ、そういうことが将来的に出てくると、せっかくいいことをしようと思っても、その辺が町の余計な負担になってしまうと思うので、その辺もしっかり見据えてやっていただきたいなって勝手に私はそう思うのですけれども、課長としてはいかがでしょうか。

○岡野　勉委員長　小川子ども課長。

○小川賢三子ども課長　ご質疑にお答え申し上げます。

委員おっしゃるとおりで、本来でいけば行政サービスも受益者負担という原則がございますので、そういった部分で、ただし現状はやはり子育て世代、少子化対策というのが優先されて、こういった事業を進めておるというようなところでございます。今後、先ほど恒久的に行う事業であるというふうに申し上げましたが、将来的にこれで子供が増えて、また国の活力がいろいろ盛り上がっていければ、また皆さんに負担していただくというような状況があるかもしれませんが、現状ではやはり支援が必要ということで進めさせていただきます。

○岡野　勉委員長　小峰委員。

○小峰明雄委員　まず、新規事業の子育て世帯の訪問支援事業というものが今回令和６年から始まるようですけれども、これ少し内容を詳細に説明できますか。

○岡野　勉委員長　増村子育て支援係長。

○増村早苗子育て支援係長　ご質疑にお答え申し上げます。

こちらの事業につきましては、養育環境を整えるため、養育環境に支援が必要な方、また赤ちゃんが生まれたばかりで家庭の状況が不安定な家庭に対しまして、家事などの支援を行う支援の方が入りまして、家庭の状況を安定させるためのサポートを行うという事業になります。具体的には、町のほうに心配な家庭があるとか、あるいは全戸訪問や保健師の訪問を通じまして、支援が必要な家庭に対してサポートプランを作成いたしまして、そのプランに沿いまして家事支援などを行う者が定期的に家庭に入って食事を作るお手伝いをしたり、お掃除をしたり、あるいは小さなお子さんがいらっしゃると難しいお買物のサポートをしたりという形で一番大変な時期を支援しまして、健全な養育環境を整えるという目的の事業でございます。

以上です。

○岡野　勉委員長　小峰委員。

○小峰明雄委員　これはこの金額が26万4,000円で、損害保険料がその中に入ってきて35万4,000円ということなので、５家庭、ここに記載されているのですけれども、この辺の算出の根拠というのは何か根拠があるのでしょうか。

○岡野　勉委員長　増村子育て支援係長。

○増村早苗子育て支援係長　予算の策定に当たりましては、既に現状支援している家庭の件数と、それからこれから生まれる家庭の中で過去からの割合といいますか、これぐらいちょっと支援が必要だなと今まで思ったことがあるという家庭のほうの件数から、来年度は５件程度ではないかというふうに予測をいたしまして、予算を計上させていただきました。

以上です。

○岡野　勉委員長　小峰委員。

○小峰明雄委員　ちょっと新規事業なので、細かいことをお伺いしますけれども、損害保険料の算出というのは何か根拠があるのですか。

○岡野　勉委員長　増村子育て支援係長。

○増村早苗子育て支援係長　ご質疑にお答え申し上げます。

こちらのほうは、この事業を専門にしている保険というのがございまして、ファミリーサポートセンターなどの事業などにも対応しております保険でございます。そちらのほうの見積りをいただいて計上させていただきました。

以上です。

○岡野　勉委員長　小峰委員。

○小峰明雄委員　あと、ファミリーサポートセンターの事業の委託料があって、今回新規に補助金というものが、新規がこれから令和６年に始まるわけですけれども、国から県からの補助金があるわけですけれども、こういう補助を利用されていくということは、今後やはり増えていくのではないかと思うのですけれども、その予測というのは何か考えていますか。

○岡野　勉委員長　増村子育て支援係長。

○増村早苗子育て支援係長　ご質疑にお答え申し上げます。

補助金額、それから県、国からの補助金額の予測についてでございますが、まずこちらのほう、１時間当たりの補助になっておりますので、令和５年度の実績を基に補助が入ることで少し増加することを見越しまして、1,000時間利用があるのではないかという予測の下に、まず補助金額を計上させていただきました。国からと県から補助がいただけるのは、ひとり親家庭が利用した場合のみになっておりますので、過去からの実績で大体半分ぐらいがひとり親の利用でございましたので、そのうち半分の金額が３分の１、３分の１ずつ補助をいただけるのではないかという予測をもちまして予算計上させていただきました。

以上です。

○岡野　勉委員長　小峰委員。

○小峰明雄委員　そうすると、増えるのだという予測があるのであれば、ファミリーサポートセンターの事業委託料というのも並行して増えた予算計上をしておくわけではないのですか。

○岡野　勉委員長　増村子育て支援係長。

○増村早苗子育て支援係長　ご質疑にお答え申し上げます。

ファミリーサポートセンターの委託料、こちらはコーディネートをする団体の委託料でございますが、この委託金につきましては、その市町村の子育て家庭によりまして割り振りを委託事業者がしておりますので、依頼件数が増えたとしても増加はしないということを確認済みです。

以上です。

○岡野　勉委員長　堀江委員。

○堀江快治委員　今いろいろご意見が出たので、重なることはよしますけれども、まずは大まかに、今政府で異次元の子供対策という言葉が出てきますけれども、それをそのまま毛呂山町のほうに当てはめて、課長、異次元の子供対策毛呂山版というのはどういうことですか。

○岡野　勉委員長　小川子ども課長。

○小川賢三子ども課長　ご質疑にお答え申し上げます。

政府が言っている異次元の少子化対策ということで、概要につきましては皆さんご承知のことかと思います。児童手当であったりと、そういったものの拡充がメインになってございます。毛呂山町の異次元の

少子化対策というのはどういうものかというのはなかなか難しい状況ではございますが、今回新規事業として出させていただいたもの、こちらにつきましては今までできなかったことを新年度についてはやっていこうということで新たに始めさせていただいておりますので、異次元までいけるかどうか分かりませんが、今までにない取組というふうに考えてございます。

○岡野　勉委員長　堀江委員。

○堀江快治委員　昨今、私考えるのですけれども、緑があり、水があり、芝生があり、そして広大な敷地がある、その中でヨーロッパ型の子供さんが自由に走れる場所、そういう情操教育、こういうことをよそに見せて、できれば毛呂山町はすごいなというような考え方をしないと、個人的に幾らお金を出したり、家庭的に面倒を見たり、施設にお金を出すのは、これは当たり前のことなのです。それを乗り越えて毛呂山町版子供育成の極めつけというのは、やはりそうお金をかけないで結構ですから、どこか多くのエリアをお借りして、そこに自然と子供の触れ合いの場が大きな話題になるぐらいの、そういうものをこれから構築していかなければ、毛呂山町が子供世代に明るい見通しを与えるインパクトがなくなってしまうと思うのです。そういう考え方は全くないでしょう、今のところは。

○岡野　勉委員長　小川子ども課長。

○小川賢三子ども課長　ご質疑にお答え申し上げます。

委員ご指摘のとおり、毛呂山町はやはり緑豊かな自然環境というものが非常にある町でございます。そういった特色を生かした子育て支援といいますか、環境整備ですか、そういったものがそういう視点で施策を展開していくというのも重要なことではないかというふうに考えてございます。ただ、今回につきましては、ちょっとそういう支援であったりとか、金銭的な、経済的な支援というものがメインになっているような状況でございます。

○岡野　勉委員長　堀江委員。

○堀江快治委員　これを言っては失礼ですけれども、小川課長も長年努力してきて、うわさによるとここでご勇退をするということですけれども、今の協議会を見ると、自然の中に子供にどう必要な、子供なりに必要な感覚、能力というものを備えるような環境があるかということが、この毛呂山町の指針に関わっていると思うのです。そうでないと、子供はぎすぎすしてご両親が仕事をしなければ生活が行き届かないとか、うちなんかもそうですけれども、もうお金に非常に困っているわけです。そういう中で、やっぱり毛呂山町の果たす役割は、そういうことを一歩進んで、子供たちにそうしたものの環境を一時忘れていただくような、自然の中で遊べる、あるいはボールを蹴る、ある面では動物も飼い、そうした大きな子供自然公園的なものをつくって、そこで子供たちの情操教育と、また将来に役立つ基礎能力というものを築き上げていく、こうでないとこれからの毛呂山町の少子化対策というものは、ますます速度を速めていくのではないかと。今学校問題なんかもありますけれども、甘く見ているようですけれども、定数を。こんなわけにはいかないと思います。どんどん、どんどん急角度をもって落ちていく。私たちは、この毛呂山町を担ってくれるのは、何と言っても若い人たちの力なのです。その力を保存するには、さっき言ったように国で言う異次元がどういう異次元だかよく分かりませんけれども、毛呂山版異次元とすれば、そういった明るい、遊びやすい、広い、安全、そういうものを子供さんに与えていただいて、その合間に基礎能力を

子供さんたちに自然に身につけるような環境をつくることができれば、あながちこの毛呂山町の少子化に暗い影ばかりではないというような考え方をするのですけれども、小川さん辞めてもうちの地域のほうにも一緒にいるわけですから、ぜひそういう面では違った意味でもご指示、ご指摘、ご努力をお願いをしたいと、失礼かな、今言っては。でも、もうそんな感じなので、失礼だったら取り消してもらって結構ですけれども、いずれにしても小川さんは小さい頃から明るくて、生まれたときから、小さいときから存じ上げています。非常に朗らかで情操豊かに成長してきた方ですから、そのものずばりをこの毛呂山町に尽くしてください。それを私としては大きく願っております。どうぞよろしくお願いします。何か感想を言ってください。

○岡野　勉委員長　小川子ども課長。

○小川賢三子ども課長　ご質疑にお答え申し上げます。

大変恐縮なありがたい言葉をいただきましてありがとうございます。堀江委員おっしゃるとおり、どうしても今の行政サイドはやはり環境整備、経済的支援ということに重点が置かれてございます。確かに私も近隣の市町村で河川で公園を造って、コーヒーショップがある場所にちょっと行ったことがございまして、そこに親子連れが非常にたくさん来ておりました。本当に川が近くにあって緑があって公園があって、そこで親子が遊んでいると、これは非常にすばらしいなというふうに思いました。ですので、委員さんご指摘のとおり、そういった視点も入れた子育て支援というのは重要ではないかなということで、公園の遊具整備ということもこの３年間、ほかの課の所管ではございますがやってございます。子ども課のほうとしてもそういった環境整備、そういった部分も庁舎内でのそういう検討会議がございましたら発言させていただいて、そういったものを実現できるような施策の展開というのを考えていきたいと思いますので、よろしくお願いいたします。

○岡野　勉委員長　堀江委員。

○堀江快治委員　今の僕の発言で失礼なところがあったら取り消してください。今後のますますのご活躍をご祈念申し上げます。

○岡野　勉委員長　次に、佐藤委員。

○佐藤秀樹委員　それでは、76ページの報償費の事業協力者謝金、これ減額になっているのですけれども、この理由をお願いします。

○岡野　勉委員長　増村子育て支援係長。

○増村早苗子育て支援係長　ご質疑にお答え申し上げます。

この報酬につきましては、昨年度は母子分離事業としてお母さんだけを集めて、お子さんのほうを保育してもらっておしゃべりをするおしゃべりタイムのときの保育ボランティアのほうの謝金でございました。令和６年度につきましては、子育て支援室が保健センターのほうに戻りまして広い場所が使えますので、あえて母子分離はせず、その広いお部屋の範囲でお子さんが見える状態でお母さんたちにおしゃべりを楽しんでもらう、費用はかけずに回数を増やして、よりお母さん同士の交流を増やす事業のほうに改めましたので、謝金のほうは今年度は計上いたしませんでした。

以上です。

○岡野　勉委員長　佐藤委員。

○佐藤秀樹委員　そうすると、１万2,000円の謝金というのは、これは何でしょう。

○岡野　勉委員長　増村子育て支援係長。

○増村早苗子育て支援係長　大変失礼いたしました。今申し上げたのはボランティアのほうで、この謝金のほうは来年度実施いたしますリトミックの謝金になっております。失礼いたしました。来年度はリトミックを２回、英語リトミックを１回、それから運動などを楽しむプチサスケという事業をやりますので、それぞれの講師の謝金になっております。

以上です。

○岡野　勉委員長　佐藤委員。

○佐藤秀樹委員　それと、私も給食費の無償化の件なのですけれども、無償化に当たって当然町長と課長と話し合われて進められていることだと思うのですけれども、やはり先ほども言われたように、単発で終わっては不公平感もありますし、意味がないと思うのです。まして物の値段って一旦下げると上げることというのは非常に難しいことであって、まして無償といったら、今度有償にするというのはもっと難しいことだと思うのです。その辺を含めて町長とどういう話でこういう無償化にやろうと決めたのか、その辺をお願いします。

○岡野　勉委員長　小川子ども課長。

○小川賢三子ども課長　ご質疑にお答え申し上げます。

庁舎内での検討の状況ということでございますが、こちらにつきましては、これはまた子ども課から提案させていただきました。過日一般質問でもございましたが、保育料の無償化、それからこちらのほうの給食の無償化というものも含めて、子ども課の案として新規事業を出させていただきました。そして、その中で町長に個別に私が話したわけではございませんが、そういった事業につきまして説明をさせていただきまして、その中でこれは町長の公約にも入ってございますが、小中学校の給食無償化と、それとリンクというと変ですが、そちらを無償化しているのに保育園が無償化していないというような状況もおかしな話でございますので、保育園等の無償化というのも決まっていったというような流れでございます。

○岡野　勉委員長　佐藤委員。

○佐藤秀樹委員　分かりました。先ほども話がありましたけれども、一般財源からこれは捻出しているものなので、やはり限られた財源、今後さらに厳しくなるのは想定できますので、その辺財源確保のために課内で頑張っていただきたいと思います。

以上です。

○岡野　勉委員長　長瀬委員。

○長瀬　衛委員　異次元の子育て政策は結構だと思いますけれども、児童措置費は国、県の支弁されるあれですよね。これを見ると前年度から減額だということになっていますけれども、来年度見込みは公立と民間の人数的にはどんなものなのでしょうか。

○岡野　勉委員長　芳原保育係長。

○芳原　武保育係長　質疑にお答え申し上げます。

令和６年４月１日時点の公立、私立の合計の入所見込み者数についてですが、458人となってございます。前年度は475人ということでしたので、前年度と比較しますとマイナス17人の減ということになってございます。

以上です。

〔「公、民は」と呼ぶ者あり〕

○岡野　勉委員長　芳原保育係長。

○芳原　武保育係長　質疑にお答え申し上げます。失礼いたしました。

令和６年４月時点の公立２園の入所見込み者数が96人でございます。一方、前年度、令和５年４月時点の入所者数が96人となってございますので、増減なしでございます。私立全体につきましては、令和６年４月１日時点の見込みで362人でございます。前年度、令和５年４月１日時点で379人となってございますので、マイナス17人ということになってございます。

以上です。

○岡野　勉委員長　長瀬委員。

○長瀬　衛委員　公立は前年度と変わらず、民間は前年度より17人減るということだね。過去に私、町の保育園もほぼいっぱい入っているときに民間と公立に親が子供を預けた場合に、いわゆる町の財源がどれほど１人にかかるかということを計算したことあるのだけれども、あの当時でいくと民間に預けた場合、大体１人30万程度だったと思います。対して公立の場合は100万近く、九十何万ということで３倍ぐらい違ったと思いますけれども、今の計算でいくと公立の場合は200万以上かかりますね、１人当たり。これは会計年度任用職員になったので、かなり人件費の増が増えているのだけれども、今聞いたら両園で165名の定員のところ96名の人数で、２億5,500万というのは民間だともう完全に倒産ですよね、課長。別に悪いと言っているのではないです。公立でやっているのですから、そうしたらそれは人件費かかるの分かっているからいいのだけれども、これはだけれどもちょっと何とかならなかったのですか。保育園の費用が、もう最初から言っているだけれども、２園にしたのだから、３園の時代よりは少し経費をやっぱり努力しなければいけないだろうとずっと言っているのだけれども、だんだん増えていくのだ。逆に園児はどんどん減っていくのです。旭台というのはいつまで続けるのですか、民間の今の状況を踏まえた上で。

○岡野　勉委員長　小川子ども課長。

○小川賢三子ども課長　ご質疑にお答え申し上げます。

少子化現象というような状況につきましては、いろいろご指摘を前からいただいておるところでございます。私も専門家ではございませんが、今後の町の子供の推計と未就学児の推計というのをやってみました。そういった間で、私の推計でいきますと、今の少子化の状況がどんどん続いていきますと、５年後ぐらいになっていきますと、あくまでも案分で出したものなのですが、公立保育園が１園の定員に収まるぐらいになっていくのではないかというふうに推測はしてございます。そういった状況で、それは１園で定員いっぱいいっぱいの状況ですので、その段階ですぐに旭台をどうするというのは、その段階では言えませんが、そこの段階で５年後どうするかというような方向を考える必要があるのではないかというふうに考えてございます。

○岡野　勉委員長　長瀬委員。

○長瀬　衛委員　この人数でいくと、民間の保育事業者はかなり厳しいですよね。保育というのは民間も公立も同じわけですから、それからすると民間の方気の毒ですよね。今公立の小学校を廃校しようなんて言っているのだけれども、公立の小中学校をなかなか民営化とはいかないので、ただ保育園は民間というのは口開けて待っているのですから、皆さん、今定員欠けていて、民間の方が。そういうことからすると、保育事業というのは昔から公務員の方がやってきたのだから、今さらとやかく言いませんけれども、これは公共施設総合管理計画を語るのであれば、計画的に計画立てるべきだと思うのです。これ皆さん言いづらいから言わないので、私はいつも言うのだけれども、これ正論だと思います。そう思いませんか。

○岡野　勉委員長　小川子ども課長。

○小川賢三子ども課長　ご質疑にお答え申し上げます。

　行政といえどもやはりコスト意識というものは考えなければいけないと、それはもう重々承知してございます。また、民間の今経営といいますか、入所の人数、はっきり数字が出ておるわけでございますが、やはり公立は減らないのに民間が減っているというような状況がございます。民間の事業者の方とは、昨年度もそういった相談も受けてございます。どうしても保護者の意向がございますので、それは民間に行ってくださいというふうには言えないのですけれども、民間の事業者さんともそういった状況をよく相談させていただきまして、民間の事業者さんが頑張っていただけるような環境を整えてまいりたいと考えてございます。

○岡野　勉委員長　長瀬委員。

○長瀬　衛委員　公立を維持していく一つの理由に病後児保育をここが受けているのだということで、病後児保育というのはどのぐらい、去年の行政報告書だと33人が利用していると書いてありますけれども、それは今の状況どうなの。それから、病後児保育にかかる費用ってどのぐらいかかるのですか、サービスという面では。大体でいいですよ。

○岡野　勉委員長　暫時休憩します。

（午後　１時５４分）

○岡野　勉委員長　休憩前に引き続き会議を開きます。

（午後　１時５５分）

○岡野　勉委員長　次に、78ページ、第３目保育所費から第５目学童保育所費までの説明を求めます。

　小川保育所長兼児童館長兼学童保育所長

〔小川保育所長兼児童館長兼学童保育所長詳細説明〕

○岡野　勉委員長　これより質疑に入ります。挙手をお願いします。

　中村委員。

○中村奨平委員　まず最初に、第５款の学童保育所費について伺います。こちらも先ほどドリル等の導入、新規事業によってと、予算が新たに組まれていると、さらには一般質問等では人件費の、なかなか人が集

まらないので、その分を賃上げアップするためにも補助を上げてほしいという声があったと伺っております。ただ、先ほどからいろんな厳しいご意見もあったと思いますが、毛呂山町の例えば昨年子育て世帯アンケートで、足りないところというので一番に出てくるのは子供が遊べる場の充実、これは未就学児、小学校の児童の保護者であったり等で同じランキングトップなのです。子供が遊べる場の充実というのが55％の割合、未就学児に至っては61.4％と、私よく地元の声を聞いていないって言われるのですけれども、私が言っていることは常にこういうことを言っていると思うのですけれども、子供の居場所づくり、保育園、幼稚園の保育料の軽減、まさにこのことをずっと主張していると思うのですが、学童というのは時間的に考えられるのは小学校終わった後ですので、午前中は空いていたり、もしくは小学校休みの日であったりとか、やっぱり空いている時間というのは非常に多いのです。そういうのを活用しながら、午前中は未就学児の子であったりとかもっと小さい子、毛呂山町はそういうスペースがないというふうに言われていますので、そういうところのなるべく新たに多大なお金をかけることなくできるようにすべきだと私は思うのですけれども、学童の需要というのはこれからも多分上がってきますから、施設としては必要なものです。ただ１日の、給食センターではないですけれども、サイクルを考えると空いている時間というのも非常に多いので、そこを有効活用していただきたいなと思っておるのですが、その点こういうふうに、さっきの保育園の話ではないですけれども、やっぱり費用は上がっていくのが見えると思いますので、そういうふうな有効活用が必要だと思うのですが、その点いかがお考えでしょうか。

○岡野　勉委員長　小川学童保育所長

○小川賢三学童保育所長　ご質疑にお答え申し上げます。

　学童保育の空き時間の有効活用ということで、大変申し訳ございません、今ご意見をいただきまして、目が覚める思いでございます。確かに平日は学校に皆さん行っていますので、どうしても学童というと小学生というイメージを私どもずっと持っていましたが、未就学児、保育園とか幼稚園へ行っていないご家庭、そういった方が遊ぶ場として園庭といいますか、学童保育所には遊び場所がございますので、そういったものを活用するということにつきましては、今本当にいい事業だなと思いましたので、よく検討させていただきたいと思います。

○岡野　勉委員長　中村委員。

○中村奨平委員　ありがとうございます。予算に関しては非常に厳しい、先ほどもありましたけれども、個人的な意見を申し上げると、このままでは国と同等のことをやっていたとしても、それは東京であったり、もっと東京に近い首都圏に吸い上げられてしまうのです。だから、国以上のことをやってようやく毛呂山町は闘える状況だと思っておるのですけれども、その中でも先ほどもありましたけれども、限られた予算の中で考えないといけませんので、それでもこれだけ子供が遊べる場の充実というのが足りないと言われている現実がありますので、そこはぜひ解消していただくようにしていただければなと思います。最後、これで意見で申し訳ないですけれども。

○岡野　勉委員長　よろしいですか。

○中村奨平委員　はい、大丈夫です。

○岡野　勉委員長　次、佐島委員。

○佐島啓晋委員　せっかくこちらの資料を用意していただきましたので、ちょっと単純に疑問と思ったところなのですが、予備費がゼロになっていて、残金決算ということで172万3,808円、これを町に返しているという状況になっていると思うのですけれども、そこから見るとそのほか人件費等、全てマイナスになっているという状況で、人件費がマイナスということは、それだけ希望しているお子様が、生徒さんですか、児童が集まらなかったのか、そういう原因に起因しているのかとか、とにかく町へなぜ返すような状況が起きたのか、このことをちょっとお答えください。

○岡野　勉委員長　増村子育て支援係長。

○増村早苗子育て支援係長　ご質疑にお答え申し上げます。

令和４年度の決算報告書を御覧いただきまして、なぜ町に変換するお金が生じたかというご質疑でございますが、一番大きな理由といたしましては、この年、常勤支援員を１名雇う予定でございました。光山学童保育所が常勤が１名でございますので、もう一人雇う予定で予算計上をさせていただきました。しかし、採用には至らなかったために、その分の人件費のほうが使用しなかったために、こちらのほう残金が発生いたしまして、町のほうに納入という形になりました。

以上です。

○岡野　勉委員長　佐島委員。

○佐島啓晋委員　そうしますと、補充の新人の方、この方がいなくても、逆には学童のほうは回っていたといいますが、運営には問題がなかったということなのでしょうか。

○岡野　勉委員長　増村子育て支援係長。

○増村早苗子育て支援係長　令和４年度につきましては、常勤支援員が１名のままほかの臨時職員の力を借りて実施いたしました。しかし、たった１人の常勤支援員の負担は大変なもので、有給も取りにくい状況でございましたので、ぜひ常勤支援員１名追加というのは今後も予定しております。

以上です。

○岡野　勉委員長　平野委員。

○平野　隆委員　私から１点、先ほどの長瀬委員の質疑と似てしまっているので、先に言ってしまって申し訳ないのですけれども、ちょっと意見が近いかもしれないのですけれども、今回この予算をいろいろ見て、確かに経費もかかるというのもあるのですが、そういう見方と同時に、私も保育園のほうに行く機会がありました。いろいろなお子さんがお世話になっているという形で、民間ではなかなか引き受けられない大変な方も、やっぱり公共的なサービスというのは必要だというのはよく分かったつもりです。だから、民間だけではなくて公的な保育園も必要なのだなというふうなのは分かっているつもりなのですけれども、それでも今学校も統廃合等々、結局数が少ないからということなのですけれども、幼稚園とか、町内にある民間のほうなのですけれども、そちらのほうから本当に経営するのが大変だというのは皆さんにも声は当然届いているわけです。そういった中で２園ある保育園のほうの今後というのは、学校教育課のほうではもう議論やっているのだろうけれども、どのぐらいまで議論が進んでいるのか、ちょっとその辺をお伺いしたいと思います。

○岡野　勉委員長　小川保育所長。

○小川賢三保育所長　ご質疑にお答え申し上げます。

統廃合について、統廃合というか、公立保育園の在り方ですか、そちらにつきましてどのような検討を進めているのかということでございます。現段階におきましては、まだ担当課内での話合いというような状況でございます。ただ、公共施設管理計画等がございますので、企画財政課とはそういった部分について議論をしていくと、検討していくというようなことは、担当課長同士で話合いはしてございます。

○岡野　勉委員長　平野委員。

○平野　隆委員　分かりました。学校の問題も今並行してありますけれども、ただこの幼稚園の問題というのは、これはあくまでも民間ですから、もうどうしようかと、５年先も６年先も見えない、本当に困っているのだということで、その声も届いていると思うのです。今まで毛呂山町の保育とか、幼稚園教育を一生懸命担ってきてくれた園が今本当にそういう時期を迎えているということなので、その辺りはやっぱり官と民のバランスというのをぜひ私は考えていただきたい。もう時間がないと思うのですが、ちょっと課長のほうから一言お願いします。

○岡野　勉委員長　小川学童保育所長。

○小川賢三保育所長　ご質疑にお答え申し上げます。

民間さんの経営状況という部分につきましては重々お話を伺ってございます。そういった中で何ができるのかという部分が非常に難しいところがございますが、公立保育園等を含めて、今は本当に町内の保育園あるいは幼稚園全体で考えなければいけないような制度になってございますので、そういった部分はよく考えながら進めてまいりたいというふうに思っております。

○岡野　勉委員長　では、荒木委員。

○荒木かおる委員　紙おむつの処分事業なのですけれども、私もう随分前からどうにかならないかと要望していたのですが、やっとここで、近隣の市町でもこれをやっているところはもうかなり多いと思うのですけれども、やっと毛呂山町でも新規事業としてやってくださったなと思って、ありがたいなと思うのですけれども、今までできなかったものがなぜここでやろうと、この事業としてやることになったのか伺います。

○岡野　勉委員長　小川保育所長。

○小川賢三保育所長　ご質疑にお答え申し上げます。

新年度の予算でなぜこのような新規事業が始まるのかというようなご質疑でございます。今まで議会答弁でもいろいろさせていただきましたが、やはり財源というものが非常にないということで、皆様のご提案等につきましては、そういったような内容の答弁をさせていただきました。国のほうも異次元の少子化対策ということで、今年度そういうようなものを挙げてございますが、そういった中でいろんな皆様のご意見を踏まえて、町としても新年度の事業には新規事業、子育て支援といったものを新たに重点施策としてやるのだというような考えがございましたので、その中で子ども課として新規事業というのを検討させていただいて提案させていただいたというような流れでございます。

○岡野　勉委員長　荒木委員。

○荒木かおる委員　当然保護者からもこういう要望があったのでしょうか、伺います。

○岡野　勉委員長　芳原保育係長。

○芳原　武保育係長　質疑にお答え申し上げます。

保護者からもやはり意見はございました。国のほうからもできる限り園のほうで今後処分を進めて、保護者の使用済み紙おむつ持ち帰りをなくして保護者負担を減らすように、また園で処分することによって、保護者ごとに使用済み紙おむつを分けて持って帰ってもらうような分ける手間が省けるようにということで、なるべく園のほうで処分を推奨するということで通知がございましたので、それにも基づきまして今回新規案ということで計上させていただきました。

以上です。

○岡野　勉委員長　荒木委員。

○荒木かおる委員　保育園といったら、やはり働いてその帰りにお子さんを迎えに行ってそのまま買物に行ったりする方もいっぱいいらっしゃる、これは反省というか、もう始まるからいいのですけれども、そこで何で汚れたおむつを持って買物に行かなければいけないのだという、そういうご意見もいっぱいあったので、今回これができてよかったなと思います。ありがとうございます。

それと、病後児保育のことに関してなのですけれども、今回鶴ヶ島と坂戸で補助事業として病後児保育を民間の病院に委託してという事業が始まるみたいです。公立の保育園で病後児保育をするというのは、やはりマンパワーで職員の方も大変かなという気がするのですけれども、毛呂山町も病院にお願いして、委託をして、病後児保育をできたらいいのではないかなって今後思うのですけれども、そこら辺お考えいかがでしょうか。

○岡野　勉委員長　小川保育所長。

○小川賢三保育所長　ご質疑にお答え申し上げます。

民間に委託というようなお話でございます。もともとは最初民間でお願いしていた部分でございまして、ちょっと民間では無理だというようなことで直営という形にさせていただいてございます。ただし、直営にするメリットといいますか、病後児を預かることによって、公立保育園に今会計年度職員ではございますが、看護師を雇用させていただいてございます。その部分でその方がメインに病後児の保育を担ってもらっておるのですが、看護師がおることによって、例えば普通に病後児がない日とかで園児がけがをしたり体調不良になったり、そういった場合に看護師が対応できる、それから看護師さんそればかりというわけにもいきませんので、看護師さんには例えば病気の場合、あるいはこういったけがの場合の対応方法というのを研修をしていただいてございます。ということで、病後児のために雇用はしているのですが、それ以外の部分でプラスアルファが非常にあるというふうに今認識してございます。

○岡野　勉委員長　佐藤委員。

○佐藤秀樹委員　それでは、まず80ページの委託料の中の芝生管理委託料、これ増額になっているのですが、こちらの理由をお願いします。

○岡野　勉委員長　芳原保育係長。

○芳原　武保育係長　質疑にお答え申し上げます。

こちらの芝生管理委託料につきましては、１年置きに委託する作業内容が異なります。令和６年度につ

きましては、ゆずの里保育園において古い土を抜き取る、コアリングと呼ばれる土を軟らかくする作業を行い、堆肥を行う形となってございます。

以上でございます。

○岡野　勉委員長　佐藤委員。

○佐藤秀樹委員　次に、その下の産業廃棄物収集運搬業務と中間処分業務なのですが、これ昨年度はないのですけれども、今年度これが発生した理由をお願いします。

○岡野　勉委員長　芳原保育係長。

○芳原　武保育係長　質疑にお答え申し上げます。

こちらの２点の委託料につきましては、給食室から出る排水に含まれるごみや石がそのまま下水に流れるのを防ぐためのグリストラップという装置、浄化槽というのですか、ございます。そこの内部を清掃して中間処分場まで搬送する委託料と、あとはそこで中間処分をするための委託料ということで、二本立てになってございます。こちらにつきましては、令和５年８月に他県の公立保育園で清掃中のグリストラップ装置のところに転落事故が発生いたしまして、そのことから現状の公立２園の状況を確認しましたところ、ちょっと調理委託契約業者が清掃している等が分かりまして、その辺危険防止等の観点から委託をさせていただくこととしまして、予算計上をさせていただきました。

以上です。

○岡野　勉委員長　佐藤委員。

○佐藤秀樹委員　次に、公課費の自動車重量税なのですけれども、こちら昨年は保育所費ではなくて、児童館費に計上されていたのですけれども、今年のこの保育所費に計上されている理由をお願いします。

○岡野　勉委員長　芳原保育係長。

○芳原　武保育係長　質疑にお答え申し上げます。

こちら自動車重量税につきましては、公立２園で公用車を所有しておりますので、そちらの２年に１回の車検の際の自動車重量税ということになっております。

以上です。

○岡野　勉委員長　佐藤委員。

○佐藤秀樹委員　次に、児童館費なのですけれども、会計年度任用職員、昨年は１名で今年２名、先ほどの説明があったようにもう一名増やしたいという希望観測値の中でこれ計上されていると思うのですけれども、単純に掛け算しても掛け算以上の予算になっているのですけれども、昨年が197万、１人、今年が２人で422万7,000円なのです。その理由をお願いします。

○岡野　勉委員長　小川児童館長。

○小川賢三児童館長　児童館費のほうの会計年度任用職員の費用ということでございます。昨年度というか、今年度までにつきましては、ちょっと雇用の関係で１人はフルタイムの常勤の者がおるのですが、半日単位の職員がいたりというような状況で今年度は少なかったと、次年度の採用につきましては、フルタイムの職員が２名雇用できるという見込みがございますので、このような額になってございます。

○岡野　勉委員長　佐藤委員。

○佐藤秀樹委員　最後に、ちょっと確認なのですけれども、学童の先ほどの話がありました、172万3,808円の町に納入ということなのですけれども、これ何月にどういう形で入れられたのでしたっけ。

○岡野　勉委員長　増村子育て支援係長。

○増村早苗子育て支援係長　こちらの納入につきましては、３月31日をもちまして学童保育所のほうで会計を締めまして、決算報告が４月の上旬にございまして、それから速やかに町のほうに納入をされました。

以上です。

○岡野　勉委員長　佐藤委員。

○佐藤秀樹委員　そうすると、去年の令和４年度の決算のほうに計上されているということですか。

○岡野　勉委員長　増村子育て支援係長。

○増村早苗子育て支援係長　ご質疑にお答え申し上げます。

委員おっしゃるとおり、こちらは令和４年度の決算のほうに計上されてございます。

以上です。

○岡野　勉委員長　この際、暫時休憩します。

（午後　２時２３分）

○岡野　勉委員長　休憩前に引き続き会議を開きます。

（午後　２時２３分）

○岡野　勉委員長　増村子育て支援係長。

○増村早苗子育て支援係長　ご質疑にお答え申し上げます。

今委員が御覧になっているのは、令和４年度のＮＰＯ法人毛呂山町学童保育の会の決算報告書でございます。こちらのほうは、まず初めに町のほうから令和４年度予算計上した分の委託料が学童保育の会に支払われ、年度末に決算が確定をして、残金のほうを令和４年度の会計として５月の出納閉鎖より前に町に納入されておりますので、この返還金といいますか、町の決算といたしましては、学童保育の会の委託金のほうが、この172万3,808円を引いた額が最終的に決算報告書に載っているという形になります。こちらの決算報告書はＮＰＯ側から見たものなので、町から入ったお金、町に返したお金というふうに書かれておりますが、町の決算のほうは支払ったものに対して戻ってきていますので、差引きの額だけが決算書に載っているという状態です。

以上です。

○岡野　勉委員長　佐藤委員。

○佐藤秀樹委員　ですので、それは３月に締めているので、昨年の９月の我々の決算のときに計上されているわけですね。

○岡野　勉委員長　増村子育て支援係長。

○増村早苗子育て支援係長　ご質疑にお答え申し上げます。

委員のおっしゃるとおり、そのとおり９月の決算委員会のほうでもこちらの資料は提出させていただき

まして、そちらの決算のほうに反映されているものになっております。

以上です。

○岡野　勉委員長　長瀬委員。

○長瀬　衛委員　さっきちょっと残っていたけれども、病後児保育というのは、そうすると看護師さんの人件費程度ですか。

○岡野　勉委員長　小川保育所長。

○小川賢三保育所長　質疑にお答え申し上げます。

主なものは看護師、それからその他の保育士もおりますので、そういった人件費でございます。

○岡野　勉委員長　長瀬委員。

○長瀬　衛委員　さっき荒木委員のお話聞いていると、民間に委託しているところが坂戸市はあって、それは当たり前のことで、そういう手があるなら、それを最初からやればよかった話で、たまたまいればいろんな面で便利だという話をさっきしていたけれども、それはまた話は違う話だから、いずれにしても、さっき聞いた人数で民間が令和６年度定員割れ124名、定員に対して124名少なくなります、これでいくと。小中学校の統廃合は誰も言っていないのに教育委員会が一生懸命計画しているのです、再編計画。保育所も負けないで再編計画を早くつくったらどうですか。５年だって、５年待てないのではないの、この調子でいくと。民間はギブアップしてしまうのではないの。どうですか。

○岡野　勉委員長　小川保育所長。

○小川賢三保育所長　ご質疑にお答え申し上げます。

こちらにつきましては先ほど申し上げましたとおり、企画財政課長のほうとは話合いを持ちましょうということを進めておりますので、時期を見て検討してまいりたいというふうに思います。

○岡野　勉委員長　長瀬委員。

○長瀬　衛委員　ではもう一つ、学童保育所のところで、これ細かいけれども、異次元の子育てサービスの一環か知らないけれども、雨どいの清掃業務委託料って何やるの。去年も入っていたね、予算に。

○岡野　勉委員長　増村子育て支援係長。

○増村早苗子育て支援係長　ご質疑にお答え申し上げます。

こちらのほうは光山学童保育所と泉野学童保育所のほうに屋根のところに雨どい、降った雨の泥がたまるところがございます。そちらのほうを支援員のほうではしごをかけて泥すくいをやっていたのですが、３メートルを超える高さがございまして、支援員の方も50代の女性の方で、身長も150センチぐらいしかない方ですので、転落等の事故、それからはしごをかけると雨どいを傷めるという問題もございまして、こちらはきちんと年に１回業者のほうに委託をする、そのままにしておくと水があふれて屋根や壁も傷んでしまうということですので、こちらは年に１度定期的に清掃を行うために委託料を計上させていただきました。

○岡野　勉委員長　長瀬委員。

○長瀬　衛委員　素人がやってけがでもしたら大変だろうけれども、こういうのは事業者に負担させられないの。事業者にやれって、事業者からこういう委託させられないの、こういうのは。だって、事業者の幾

らか残って、かなり運営状況いいのではないの。

○岡野　勉委員長　小川学童保育所長。

○小川賢三学童保育所長　予算のほうの組み方といいますか、割り振りといいますか、そういった部分で学童保育の運営に関しては委託料でやっていただきます。施設管理の部分につきましては、町が予算化するというようなすみ分けに、今の状況はそうなってございます。

○岡野　勉委員長　長瀬委員。

○長瀬　衛委員　何か雨どいの清掃費だなんてあまりイメージ的に今までなかったような気がするけれども、こういうのは軽微なことだから、税金を使う、11万2,000円って何やるの。誰か職人さんを頼んで掃除するだけ。そういうのは事業者か何かに負担させればいいと思うけれども、この程度のことは。

○岡野　勉委員長　小川学童保育所長。

○小川賢三学童保育所長　そちらにつきましては、先ほど担当が説明しましたとおり、ちょっと高所ということで、なかなかけが等の危険がございますので、大変申し訳ありませんが、こちらのほうは委託でお願いさせていただきたいと思っております。

○岡野　勉委員長　小峰委員。

○小峰明雄委員　まず、保育所費からお伺いいたしますけれども、令和６年度の職員体制というものは充実されているのか、この点をまずお伺いいたします。

○岡野　勉委員長　芳原保育係長。

○芳原　武保育係長　質疑にお答え申し上げます。

令和６年度、会計年度任用職員の保育士、保育補助、看護師等を合わせた合計採用予定が24人となってございます。こちらのほうでは、希望としますと27人ということになっておりますので、今現在、保育士フルタイム、シフトありが３名減ということになってございますので、ホームページ、ハローワーク等で募集をかけている状況でございます。

以上です。

○岡野　勉委員長　小峰委員。

○小峰明雄委員　３名減ということですけれども、令和５年度と令和６年度の入所者数は同じ96人ということですけれども、３名減でも特に問題はないのですか、保育に対して。

○岡野　勉委員長　芳原保育係長。

○芳原　武保育係長　質疑にお答え申し上げます。

公立保育園２園につきましては、支援を要する子供さんももちろん入所されております。また、より質の高い保育を提供するためにも、あと３名採用させていただきたいと思って考えております。募集をかけておる状況です。

以上です。

○岡野　勉委員長　小峰委員。

○小峰明雄委員　なるだけご努力をしてください。

次に、委託料でちょっと今回気になるのは、警備委託だとか清掃委託だとか、るるいろいろの保守点検

の委託料等々ございますけれども、前年度と比較して値上がりしたものもあれば下がったものもあるという、同じ子ども課で予算編成しているのですけれども、児童館の警備とか、そういったものが出てきて、こちらは同じだとか、なぜこういうふうに片や同じでこっちは上がりました、下がりましたとか何でこうなってしまった、経緯は何なのですか。

○岡野　勉委員長　小川保育所長。

○小川賢三保育所長　質疑にお答え申し上げます。

　私の全て所管ではございますが、施設ごとにちょっと契約、あるいは入札の発注時期等がずれておったりとか、そういった部分で業者が違うというようなことで、業者さんによっては値上がりする、あるいは値上がりしないというような状況が発生しているということでございます。

○岡野　勉委員長　小峰委員。

○小峰明雄委員　どうしてもそういうのは難しいのですか。何かこの後審議するものには浄化槽の管理なんか１つで一括契約みたいになっていますけれども、そういったことは不可能なのですね。

○岡野　勉委員長　小川保育所長。

○小川賢三保育所長　ご質疑にお答え申し上げます。

　そういったものを一括発注ということで、例えば福祉会館などピアノの調律というのを現在一括で発注しているというような状況もございますので、子ども課の所管の部分についても、可能な限り費用対効果を考えてそういった部分、導入できるものは導入していきたいというふうに考えてございます。

○岡野　勉委員長　小峰委員。

○小峰明雄委員　紙おむつの処分事業が始まりますけれども、リサイクルのような、そういう記事を、私もちょっと記憶の中なのですけれども、ありますけれども、今回こういう事業を進める中でそういったことはご検討はされましたか。

○岡野　勉委員長　小川保育所長。

○小川賢三保育所長　ご質疑にお答え申し上げます。

　紙おむつのリサイクルということで、議員ご指摘をいただいておるところでございます。そちらにつきましては、自治体によってはリサイクル、再利用、紙おむつを処分して、それを再利用すると、紙おむつにしたり別のものを作ったりというようなことを取り組んでいる自治体もございます。そういった部分につきましては、非常にすばらしい事業だなというふうに考えてございます。今回につきましては、まず保護者、それから保育士の負担軽減という観点から導入させていただきましたので、今後についてはそういった部分もよく研究させていただいて、可能であればそういった部分も取り組んでまいりたいというふうに考えております。

○岡野　勉委員長　小峰委員。

○小峰明雄委員　新規事業の動画配信事業で、現状というものが職員の方からお借りしていたというのがちょっと気になるところなのですけれども、これを今後始める限りはずっと続けていかなければいけないと思うのですけれども、その中でコスト的なものもかかってくるわけですけれども、そういう費用対効果としては、課長はどういうお考えがございますか。

○岡野　勉委員長　小川保育所長。

○小川賢三保育所長　質疑にお答え申し上げます。

こちらの事業につきましては、やはり保育所の状況、特に近年コロナということで保護者の方も運動会であったりとか、いろいろ生活発表会であったりとか、そういった部分、人数の制限をさせていただきました。そういった観点から、皆さんに保育の状況を見ていただきたいというような形で始めさせていただきました。今後につきましても、例えば保護者以外でも祖父母の方、高齢な方、あるいは足の不自由な方、そういった方もございますので、そういった方に保育の状況を見ていただくということで、そういう観点からは継続していきたいというふうに考えてございます。

また、先ほどの職員の私物ということで、大変申し訳ございません、私の私物をちょっと使わせておいてもらっているわけなのですが、それは今年度始めさせていただいたところなのですが、次年度はちゃんと予算化してやろうということで予算化させていただきました。

○岡野　勉委員長　小峰委員。

○小峰明雄委員　分かりました。

次に、新規事業に関してですけれども、学童保育所の学習支援事業というのが令和６年度から始めるようですけれども、ここでちょっと細かい点で申し訳ないのですけれども、学習支援員の賃金が1,030円とありますけれども、果たしてこの賃金でこの事業というものが進めることが可能でしょうか。この点についてお伺いします。

○岡野　勉委員長　増村子育て支援係長。

○増村早苗子育て支援係長　ご質疑にお答え申し上げます。

今回新規事業で設定いたしましたこの賃金につきましては、学童保育所の臨時職員と同額に設定をさせていただきました。この額で集まるかというご心配でございますが、事業内容の趣旨などを説明して、ぜひ幅広い方にご協力を依頼するという形で支援員のほうは集め、事業を順調に実施できるようにと考えております。

以上です。

○岡野　勉委員長　小峰委員。

○小峰明雄委員　幅広くっておっしゃいますけれども、学校の支援員さん同じですか。学童保育所の方と学習を支援するというのは私違うと思うのです、分野というか。だから、その辺で幅広い方というのですけれども、では無資格の方でもよろしいという、そういう解釈になるのですか。今学校で非常に私たちが、自分もそうですけれども、子供に勉強教えるにも、いや、お父さん学校ではこう教えるのだよという、私もちょっと戸惑ったことが何度もありましたけれども、そういう点で幅広い方をお願いするのであっても、やはりその辺のすみ分けは必要であって、そうなると果たして1,030円が正しいものなのかなと今ちょっと気になったので、お伺いしているのですけれども。

○岡野　勉委員長　増村子育て支援係長。

○増村早苗子育て支援係長　ご質疑にお答え申し上げます。

委員おっしゃるとおり、確かに保育の方と学習支援の方は携わる業務内容が異なります。ただ、学校で

やっているものと違う大きな点としては、今回導入いたしますデジタルドリルにつきましては、マル・バツのほうは自動で解説もついている、この支援員に求めているものというのは、子供たちに対してできれば褒める、分からないところを一緒に見てあげる、そういうふうに一緒に応援して、子供たちの学習習慣を身につけること、それから分からないまま次の学年に進まないように丁寧なサポートをすることを目的としております。そういった意味で大学に協力を依頼しましたり、若い方、それから経験を積んだ方、資格を問うというよりは、子供のために一生懸命力を貸してくださるという気持ちを持った方を中心に学習支援員として配置したいというふうに考えております。また、コーディネーターを各学童に１名、そちらは1,200円でつけまして、学習の内容の進捗などのほうは、そちらの方が中心になって調整していただくというような計画を立ててございます。

以上です。

○岡野　勉委員長　小峰委員。

○小峰明雄委員　学習が分からないところを支援していくというのですから、かなり難しいですよね、そういう面では。やっぱり新規事業ですので、令和６年度行ってＰＤＣＡでしっかり検証していただいて、またその次につなげていくということでお願いしたいと思います。

以上です。

○岡野　勉委員長　継続してよろしいですか、あと１つなのですけれども。

〔「はい」と呼ぶ者あり〕

○岡野　勉委員長　次に、132ページ、第13款諸支出金、第１項基金費、第８目子ども・子育てゆめ基金費について説明を求めます。

小川子ども課長。

〔小川賢三子ども課長詳細説明〕

○岡野　勉委員長　これより質疑に入ります。ございますか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○岡野　勉委員長　この際、暫時休憩いたします。

（午後　２時４１分）

○岡野　勉委員長　休憩前に引き続き会議を開きます。

（午後　２時５３分）

○岡野　勉委員長　続きまして、83ページ、第４款衛生費、第１項保健衛生費、第１目保健衛生総務費、第２目予防費について説明を求めます。

皆川保健センター所長。

〔皆川謙一郎保健センター所長詳細説明〕

○岡野　勉委員長　これより質疑に入ります。挙手をお願いします。

では、小野委員。

○小野　浩委員　86ページの不妊治療費助成金のことの確認なのですけれども、年齢について教えてください。

○岡野　勉委員長　遠藤保健センター副所長。

○遠藤ゆかり保健センター副所長　それでは、質疑にお答えいたします。

　不妊治療助成の35歳というところのすみ分けでございますが、実際に不妊治療、今晩婚化も進んでおりまして、以前保険適用外の不妊治療の助成を行っていたのですが、35歳以上からやはり始める方が多く、治療も一、二回では済まなくて、最終的に５回、６回しても妊娠に至らないという状況もございました。そういった過去の状況等も踏まえまして、35歳早い時期から補助することで手厚くして、早く不妊治療のほうにご相談していただけるようにというところを考えまして、年齢のほうは35歳を少し手厚くしております。

○岡野　勉委員長　小野委員。

○小野　浩委員　ありがとうございます。私この間、ちょっとこの問題で、もし毛呂山が不妊治療費の助成金が出るとしたら年齢制限があったほうがいいですか、それともないほうがいいですかというのを何人かの女性に聞いてまいりました。その結果、その方は子供いらっしゃらない方ばかり聞いたのですけれども、年齢制限がなくて何歳でも助成金が受けられるというふうに聞くと、もうこれは少子化対策というのは今大事なので、その家族も喜ぶし、町としても上向きになるのではないかということで、この助成金を年齢制限なしでやってほしいという声があったのですけれども、それについてちょっと教えてください。

○岡野　勉委員長　皆川保健センター所長。

○皆川謙一郎保健センター所長　質疑にお答え申し上げます。

　今回の不妊治療の助成、毛呂山独自の制度なのですけれども、事前に各産婦人科と、あとは既にもう助成を行っている東京都のほうであるとか埼玉県内に聞き取り調査等もしてあります。そういった中で、35歳未満という枠を設けましたのが、令和４年から不妊治療は保険適用になりました。先進医療につきましては。そういったところと合わせる形を取りました。また、先ほどうちの遠藤から説明があったとおり、35歳未満については、やはり統計的に見て妊娠がしやすいという結果がしっかり出ております。そういった中で、その段階でちょっと１つ分けているのです。それから、35歳未満に関しましては１回当たり８万円の助成を考えております。また、35歳以上43歳未満に関しましては１回当たり６万円と、こういった形を取らせていただいております。毛呂山町といたしましても、各聞き取り調査をしている中で若い世代から不妊治療という、なかなか日本ですと不妊治療については敷居が高くて受けづらいと、働きながらやる方についてはなかなか職場でも言いづらいような、そういった形もありました。ただ、保険適用になりまして随分状況も変わってきている。ですから、若い方がなるべく早いうちにお子さんをつくっていただいて、第１子、第２子と、そういったことに目を向けていただくために、今回のこの助成制度を創設したものでございます。

　以上でございます。

○岡野　勉委員長　小野委員。

○小野　浩委員　今回に関しては納得しました。ただ、気持ちの中にあるということだけは覚えておいてく

ださい。

結構です。ありがとうございました。

○岡野　勉委員長　中村委員。

○中村奨平委員　私も同じく衛生費第４款の不妊治療費助成金312万円についてお伺いをします。

まず１点、細かいのですが、この対象者というのが男女の双方または一方が毛呂山町に住民登録ありというふうに記載されておるのですが、これは双方であるには私は理解はできるのですが、または一方という点はどのようなケースを想定されているのでしょうか。

○岡野　勉委員長　遠藤保健センター副所長。

○遠藤ゆかり保健センター副所長　質疑にお答えいたします。

実際に一方ということは、単身赴任とか別のところに住所を置かれているというところでの記載でございます。そういった意味がございます。

○岡野　勉委員長　中村委員。

○中村奨平委員　先ほどの意見も踏まえると、心を広く、単身赴任であって、男性側が毛呂山にいて、女性側が別のところにいて、ご自宅の本拠も別の自治体にあるというようなケースだってもちろんあるわけ、男性だけが単身赴任をするわけではないので。そのようなケースでも当てはまると、心は広く当てはまるということでよろしいのですか。

○岡野　勉委員長　遠藤保健センター副所長。

○遠藤ゆかり保健センター副所長　お答えいたします。

どちらか一方ということなので、そういった形で当てはまります。

○岡野　勉委員長　中村委員。

○中村奨平委員　その点に関しては、もうそれ以上は言えませんが、心広くということで承知しました。

続きまして、先ほどの年齢に対する質問もありました。これは科学的根拠に基づいてやっていると、たしか議会でもお話をされていたと思うのですけれども、これに関しては私も県内でもトップクラスの独自の補助をされていると認識しておるのですが、やはりこれを使ってもらって、かつＰＲをすることが大切だと思うのです。312万もかけてこれだけいいことをするのですから、その周知方法というのは具体的にどのようなことを考えられているのかお願いします。

○岡野　勉委員長　遠藤保健センター副所長。

○遠藤ゆかり保健センター副所長　質疑にお答えいたします。

実際には埼玉医大さんや近隣の不妊治療しているところにちょっと説明に行って、チラシを持ってこういった事業を始めますということで周知を図っていきます。そのほかにはホームページ、各近隣の窓口等をお借りして、チラシ等を置いて周知を図っていきたいと考えております。

○岡野　勉委員長　中村委員。

○中村奨平委員　最後意見になってしまいますが、これは一番直接的少子化対策にもつながる話ですので、私議会でも自治体の自己ＰＲという面も言っています。すごくいい事業で、先ほども申し上げました、県内でもトップクラスの補助でございますので、自信を持って町民にアピールをしていただくようお願いい

たします。

以上です。

○岡野　勉委員長　佐島委員。

○佐島啓晋委員　予防費の委託料、こちらの健康診査委託料と特定健康診査委託料というのがありますけれども、こういうのの差というか、金額もかなり大きく違っているのですけれども、この差というのは何ですか。お願いします。

○岡野　勉委員長　遠藤保健センター副所長。

○遠藤ゆかり保健センター副所長　質疑にお答えいたします。

まず、健康診査委託料でございます。これにおきましては、生活保護の方の基本健診、そういった健診の委託料、そのほかに骨密度検診、もう一つが肝炎ウイルス検診となってございます。実際に来年度ですが、予算が下がっているのは肝炎ウイルス検診、これは一生に１回受けていただければよろしいものなので、そういったところで人数を、実績を見て年々少しずつ減ってきておりまして、肝炎ウイルスの対象者が減ったということで予算を減にしております。

以上でございます。

○岡野　勉委員長　佐島委員。

○佐島啓晋委員　この健康診査というのですか、診断というのでしょうか、これって私も会社にいるときは必ず会社の命令でやっていたところなのですけれども、今60歳で辞めて再雇用とか、いろんな形で国民健康保険ですか、いわゆる保険が変わって、私も実際健診から漏れてしまって、なかなか受けられないというか、時間が来てしまうと初日に行っても今なかなか難しいという状況になっています。やっぱり予防医療という観点から考えると、初日に行ったりしてもいっぱいになっているという状況は、私ちょっとおかしいかなと感じています。このようなことの対応というのは今後考えていただければと思います。

○岡野　勉委員長　栗原保健センター副所長。

○栗原弥生保健センター副所長　質疑にお答え申し上げます。

特定健康診査でございますが、こちらのほうは所属している健康保険組合が加入者の方に実施することとなってございます。毛呂山町保健センターでは、国民健康保険加入者の方、また後期高齢者医療制度加入者の方に実施しております。毛呂山町におきましては、実施期間が例年６月から12月としてございますので、その間申込みはいつでも受けられるようにしてございます。最初に、年度当初４月に対象者となる方全員の方に郵送によるご案内をしてございまして、申込み方法も電話であったりはがきであったり、来年度につきましてはラインによる申込みを加えまして、若い方にも申込みしやすい方法として工夫をしたいと考えてございます。そういったことで、受診少しでもしやすいようにとしているところでございます。

○岡野　勉委員長　では、平野委員。

○平野　隆委員　私のほうからは、87ページに予算載っています、これは新規というより重点事業ということで、町のほうで健幸ウオーキング事業というのを、ちょっと冒頭少しこれにも触れられたと思うのですけれども、これも予算のこちらの概要説明のほうに載っていて、この内容を見させていただいたのですけれども、とりあえずですけれども、参加対象者が40歳から74歳という形だと思うのですけれども、非常に

幅が広いようにも感じるのですけれども、この辺の忙しい方と個人差がかなり、ばりばり社会人の時代ですから、その辺の偏りなんかも大分出るのではないかと思うのですけれども、その辺はどう考えているのかちょっと、まずそれをお伺いします。

○岡野　勉委員長　遠藤保健センター副所長。

○遠藤ゆかり保健センター副所長　質疑にお答えいたします。

こちらに書いてある40歳以上ということで、45歳、75歳と書いてあるのですが、実際にこれから埼玉医科大学グループと詳細については決めていく予定となっております。年齢につきましても多少ありますが、今年度参加した人たち、比較的65歳以上が多かったのですが、若い世代も参加されておりました。

○岡野　勉委員長　平野委員。

○平野　隆委員　分かりました。

あと、これ質疑しているのは、あくまでもこれは毛呂山町はスポーツ健康都市宣言、だから町の政策にはちゃんと合致しているものとして認めています。その上での質疑なのですけれども、これが参加条件というか、ここのところに医師の、さっきと同じところで要するに町内に住んでいて主治医からの運動制限のない方、それがあくまでも参加条件ということなので、これの目的というのは、このウオーキングをすることによってメタボが解消されたよとか、血圧下がったよとか、そういう結果を検証するのが目的だと思うのですけれども、参加条件というのがそもそも健康な人なのです。医者から何も止められていない人ということですよね。普通の健康な人がこれに参加して、その方からデータを取るという事業なのですか。その辺ちょっと確認させてください。

○岡野　勉委員長　皆川保健センター所長。

○皆川謙一郎保健センター所長　質疑にお答え申し上げます。

今ご質問いただきました運動制限のない方というのは、医師から運動ができないという、ですからご病気をされているとか、そういった方です。ですから、運動制限がないからといっても、先ほど平野委員がおっしゃったようにメタボリックシンドロームとか、そういったものにつきましてはやはり持っている方たくさんいらっしゃると思います。今回のこの事業に関しましては、２年目ということで多少リニューアルをかけているのですが、ウオーキングによる成果の部分と併せまして、ご自分で食事の管理をできるような埼玉県が導入したアプリがございまして、そちらも導入していただいています。それによりまして、確かに現役世代というのは働いていますから時間が取りづらいのですが、そういった中でも厚生労働省が言っている１日8,000歩、これを目指して自分の中で行動変容に向けて動いていただく、その辺をもって自分の体の健康状態、当然私どもも健康診断で多少引っかかる項目もございます。そういったものも６か月間のウオーキングチャレンジによって解消される方が実はたくさんいらっしゃったのです。多くの方が健康状態がよくなっております。そういうことを踏まえますと、やはりどうしても医者から運動ができないという方は参加すること自体が難しいので、それ以外の方ということで、40歳以上で75歳未満というような制限をかけているものでございます。

以上です。

○岡野　勉委員長　平野委員。

○平野　隆委員　分かりました。そういったことだと思うのですけれども、ただ私がちょっと感じたのは、これ埼玉医大と一緒になってやって、これを読むと最終的には検証して、今後の町民の健康に役立てていこうということが目的だと思うのですけれども、ただこの手のデータというのは、もうとっくに埼玉医大なんかは分かっていらっしゃることではないかなとか、例えば厚生労働省なんかには、この手のことをするとこういう結果が出るというのは、データとしてはもう出ているものなのではないかなと、今さらこれだけ320万円もかけて調査研究するのに、それはそれで意味があるのかもしれないのだけれども、町の方向性には合致しているのだけれども、どうなのかなというのがあってちょっと質疑もしました。

それを踏まえてなのですけれども、参加人数が60人というのがあるのです。話は全然違うのですけれども、都市計画税ではないけれども、ちょっと税の平等性という部分も我々考えなければいけない部分なのですけれども、行政サービスの平等性という、毛呂山町少ない少ないといっても３万人ぐらいは暮らしているのです、それ以上。やっぱりこれだけ税金を使ってやるのだけれども、これの対象者というのが60人で、だからこれはどういうふうに捉えるかだと思うのです。要するに60人が参加できた、あるいは60人が協力をした、別にモルモットではないけれども、データ取るのに協力したって考えるのかによって、この人数というのは多くも感じるし少なくも感じると思うのだけれども、課としてはこの辺どういうふうに捉えていますか。

○岡野　勉委員長　皆川保健センター所長。

○皆川謙一郎保健センター所長　質疑にお答え申し上げます。

この健幸ウオーキングでございますが、データを取るのも一つの部分でございます。また、この事業に参加した皆さんがご自分の体の状態というのを再度見詰め直せる、見詰め直す中で当然埼玉医大グループの医師、あとは理学療法士等から適切な指導を受けると、そういったことによりまして自分の行動を変えていっていただくと、そういったことが、確かに60人でございますが、自分の地域に戻っていただいて、これは非常によかったと、そういったことを広げていただいて、ウオーキングがどんどん進んでいっていただける、町民の行動変容に結びつけるためにこういった事業を続けている部分がございます。参加した皆さんからは、一番最終的な結果説明、あとアドバイスの段階では皆さん喜んでおられて、非常にいい事業だったと言っていただいておりますので、今後もこの事業は続けてまいりたいと考えてございます。

以上でございます。

○岡野　勉委員長　平野委員。

○平野　隆委員　分かりました。続けていくというならよろしくお願いしたいのですけれども、私は行政サービスは一人でも多くの方に受けてもらうという考え方もあるので、それだけ申し上げておきたいと思います。それは意見ですから結構です。

○岡野　勉委員長　荒木委員。

○荒木かおる委員　私も健幸ウオーキング事業をこの先続けて持続してやっていくのかということを聞きたかったのですけれども、ご答弁があったのでいいのですけれども、このアプリの中身なのですが、今度ウオーキングにプラスして食事のアプリで登録をするということなのですけれども、登録の仕方もいろいろあって、このアプリの中身は、よく写真を撮ってカロリーを量るとか、あと何を何グラムとか書いて量る

とか登録するとかいろいろありますけれども、どういうものなのですか。

○岡野　勉委員長　皆川保健センター所長。

○皆川謙一郎保健センター所長　質疑にお答え申し上げます。

今荒木委員がご質疑された、今のところ埼玉県のほうでまだ入れたばかりのものですので、この後埼玉県に聞いてはいるのですが、写真を撮った段階でＡＩのほうが判断をして、実際にそのカロリーを計算するというのもございます。現行のところでは、例えばできているメーカーさんのものでしたら、名前を選んでピックアップをしますときっちりとカロリーが出ます。そういった中を登録していきますと、実はアプリケーションの中に本日の食べたものに対してＡＩから指導も入るのです。あとはダイエットメニューとかありまして、そこをまたクリックしますと、それに対する今度はＡＩによるまた自動的な指導、そういったものが入ってきます。やっぱりちょっと初め入れるのには大変だなという部分はあるのですが、入れることによりましてレコーディングダイエットと同じ考えで、ご自分で自分の生活を見直してもらえる、そういったところを狙って、今回そのアプリの導入を検討しているものでございます。

以上でございます。

○岡野　勉委員長　荒木委員。

○荒木かおる委員　意識として、こういうものを食べたって思い起こして食べ過ぎてしまったなとか、ただやっぱり量もあると思うのです。ただ鳥肉を100グラム食べるのか１キロ食べるのか、そこら辺写真だったら分かるかもしれないけれども、わざわざ量って登録しなければいけないのかとか、いろいろちょっと疑問に思うところがあるので伺います。

○岡野　勉委員長　皆川保健センター所長。

○皆川謙一郎保健センター所長　実はプレで職員が使える状態が今続いておりますので、県のほうからＩＤをいただいて私も使っているのですけれども、デジタルで私は量りながらやっています。そういうことをやることによって意識がちょっと変わってきて、例えばこのぐらいの大きさだとお米200グラムだなとかって分かってきますと、何となく感覚がつかめてくるのかなという印象を持ちます。そういった中でちょっと遊び心も含めた状態で続けてもらえればと考えております。

以上でございます。

○岡野　勉委員長　荒木委員。

○荒木かおる委員　三日坊主の私にはちょっとハードルが高い気がするのですけれども、分かりました。皆さん楽しみながらやっていって、少しでも意識が向上すればということで、ありがとうございます。

それと、83ページの一番最初、予防接種健康被害調査委員の委員の報酬なのですけれども、去年と比べて人数は一緒なのですけれども、報酬が減額になっているのですが、その理由を伺います。

○岡野　勉委員長　栗原保健センター副所長。

○栗原弥生保健センター副所長　質疑にお答え申し上げます。

予防接種健康被害調査委員会報酬につきまして、8,000円掛ける３人ということにしてございます。人数は、昨年度は新型コロナウイルスワクチン接種とは別に加えておりましたので、人数が多くなっているのですけれども、来年度につきましては新型コロナウイルスワクチンは定期接種になりますので、ほかのワ

クチンと併せて計上したために人数及び予算要求額が減っております。

○岡野　勉委員長　荒木委員。

○荒木かおる委員　昨年も５人で今年も５人で、報酬額が変わって減額になっているので。

○岡野　勉委員長　栗原保健センター副所長。

○栗原弥生保健センター副所長　質疑にお答え申し上げます。

予防接種健康被害調査委員会ですが、委員が５人いらっしゃいます。そのうちお二人は公務員でございますので、そういった関係で支払いが発生しないために予算に載せなかったということで３人にしております。

○岡野　勉委員長　小峰委員。

○小峰明雄委員　まず、85ページの産後ケア事業業務委託料が昨年度と同じ金額を計上されているのですけれども、令和６年度にどういうふうにしてこの予算執行していくかということで、どのように啓発していくか、その点についてお伺いします。

○岡野　勉委員長　遠藤保健センター副所長。

○遠藤ゆかり保健センター副所長　質疑にお答えいたします。

産後ケア事業につきまして、来年度、令和６年度につきまして、今１か所委託契約をしてございます。令和６年度にもう一か所増やして、契約場所を増やしていく予定でございます。それに関しまして、周知に関しましては妊娠届出時、あとは妊娠後期、また出産後に電話、赤ちゃん訪問をしてございます。そこで徹底してチラシ等周知を図ってまいります。またさらに、委託先のほう、医療機関になるのですが、そこにもチラシ、周知のほうをお願いしながら、皆さんにこういった産後ケア事業があるということが届くように、周知のほうを進めてまいりたいと考えています。

○岡野　勉委員長　小峰委員。

○小峰明雄委員　しっかり取り組んでいただければと思います。

あと１点ちょっと確認なのですけれども、ＬＥＤ照明、６年間リースということなのですけれども、リース後の扱いをお伺いします。

○岡野　勉委員長　皆川保健センター所長。

○皆川謙一郎保健センター所長　質疑にお答え申し上げます。

こちらの庁舎のＬＥＤと同じリース方式を取るのですけれども、実際に工事終わった段階で、工事請負額をリースかける形になりますので、所有権は初めから町になるという形になってございます。

以上でございます。

○岡野　勉委員長　小峰委員。

○小峰明雄委員　あと、カラー舗装の工事で103万2,000円という細かい2,000円までついているのですけれども、この積算の根拠をお伺いします。

○岡野　勉委員長　皆川保健センター所長。

○皆川謙一郎保健センター所長　質疑にお答え申し上げます。

こちらにつきましては、こちらのほうで３者から見積りを取りまして、一番安価な金額を予算計上させ

ていただいてございます。

以上でございます。

○岡野　勉委員長　小峰委員。

○小峰明雄委員　せっかく行うのであれば、バリアフリーの関係もございますので、現場視察させていただいたときに、車が乗るところではなくて町道に向かっていくそちらのほうもできたら整備しないと、やっぱり保健センターというバリアフリーの場所ですので、できればそういうことも考えればよかったなという私の意見でございます。

○岡野　勉委員長　皆川保健センター所長。

○皆川謙一郎保健センター所長　ご質疑にお答え申し上げます。

小峰委員がおっしゃるとおり、やはり保健センターは健康増進、食育推進、要は住民の健康を守るための最たる機関でございます。今ご指摘のとおり、斜めになっている部分もありました。段差もございます。ああいったものも含めた改修ができればと考えておりますので、今後財政当局等と検討してまいりたいと思います。

以上でございます。

○岡野　勉委員長　この際、暫時休憩いたします。

（午後　３時２８分）

○岡野　勉委員長　休憩前に引き続き会議を開きます。

（午後　３時３０分）

○岡野　勉委員長　続きまして、90ページ、第６款農林水産業費、第１項農業費、第１目農業委員会費について説明を求めます。

堀越農業委員会事務局長。

〔堀越和英農業委員会事務局長詳細説明〕

○岡野　勉委員長　これより質疑に入ります。質疑ございますか。

堀江委員、お願いします。

○堀江快治委員　堀越事務局長、ご苦労さまです。農業委員会へ移られていろいろ話題が多かったですけれども、今一番苦慮していることは何ですか。

○岡野　勉委員長　堀越農業委員会事務局長。

○堀越和英農業委員会事務局長　質疑にお答えいたします。

一番苦慮しているのは、やはり遊休農地の問題かと考えております。担い手不足、また担い手の方の高齢化ということで、年々遊休農地が増加現象になっておりまして、本当にもう草刈りをできる方がいらっしゃらないというところで、いかに遊休農地を解消して次世代に農地を引き継げるかと、その辺が一番の課題かというふうに考えております。

以上です。

○岡野　勉委員長　堀江委員。

○堀江快治委員　聞くところによると、ある企業と農地所有、地場産ということでいろいろ動きがあるようですけれども、その辺については認識しておりますか。

○岡野　勉委員長　堀越農業委員会事務局長。

○堀越和英農業委員会事務局長　ご質疑にお答えいたします。

先ほどのお話の続きになりますが、遊休農地の解消に当たっては、とにかく新規で農業に参加していただくことが一番の近道かなというふうに考えております。また、そういった企業の方の農業参入というのも非常に重要なことかなというところで、日々調整をさせていただいているところでございます。

以上でございます。

○岡野　勉委員長　堀江委員。

○堀江快治委員　昨今、業者名はいずれにしても、川角地区に出たいろんな業者の中で、自らが使用する草菜を生産したいから農地を貸してくれと、農地の借用を願い出ているというような話を聞くのですけれども、それは現況どんなふうな状況なのですか。

○岡野　勉委員長　堀越農業委員会事務局長。

○堀越和英農業委員会事務局長　ご質疑にお答えいたします。

昨年末に１件、川角で営業されている企業さんからそういった申請が出ております。今のはやりというのですか、自分の企業でやっているものを自分のところで生産する、栽培する、これは今皆さん同じようなことを考えているらしくて、そういった動きは感じているところでございます。そういった中で川角の企業さんが１件、自分のところのお店で出している野菜を自分のところでやると、そういった申請が出ておりました。

以上でございます。

○岡野　勉委員長　堀江委員。

○堀江快治委員　私の見ている範囲では、食べる状態になった食堂というか、売れ行きを見ていると、到底今の借地で生産できる野菜ぐらいでは足りないように見えるのです。だから、ほかからもそういう場合には来ているのですか、状況はどういうふうに聞いていますか。

○岡野　勉委員長　堀越農業委員会事務局長。

○堀越和英農業委員会事務局長　質疑にお答えいたします。

まだまだそういった動きをやり始めた段階でございまして、まずのまずはという申請でございます。そういった動きが軌道に乗れば随時規模の拡張をして、そういった展開を増やしていきたいと、そのように聞いております。

以上でございます。

○岡野　勉委員長　堀江委員。

○堀江快治委員　実際にそういった業者の方は、農地をお借りしたものを耕作をして、必要な野菜というのですか、そういうものを生産できる能力というか、ノウハウというか、そういうものはお持ちなのですか。お持ちになっているように認識していますか。

○岡野　勉委員長　堀越農業委員会事務局長。

○堀越和英農業委員会事務局長　質疑にお答えいたします。

　実際のところは、ご自分のところではまだまだそういった耕作のノウハウは今勉強したてということでございます。そういった中で、地元の農家さんからいろいろご指導を賜って、初期段階では機械のほうも何かお借りして進めていきたいと、そのようにお伺いしております。

　以上でございます。

○岡野　勉委員長　堀江委員。

○堀江快治委員　お力をお借りして、共同で遊休農地を有効活用するのはいいのですけれども、でも聞いていると、特定の方が協力するというようにお聞きしたり、私も興味があるので、よく見に行くのです、そっちのほうに。どうもほかの人がやっていないで特定の方がやっているのが見えるのですけれども、お世話になる農家の方というのは、農地を借地した後ご協力をいただく地元の業者というのは、それは農業委員会で把握する必要はない事実なのですか。

○岡野　勉委員長　堀越農業委員会事務局長。

○堀越和英農業委員会事務局長　その辺も含めて農業委員会といたしましては、把握しておく必要はあろうかというふうに考えております。しかしながら、申請の段階ではまだどの農家さんにご協力、ご指導いただいてというところまでは決まっておりませんでした。申請後にどうなったかというのは、すみません、現段階ではちょっと把握していない状況でございますので、よろしくお願いいたします。

○岡野　勉委員長　堀江委員。

○堀江快治委員　これはお聞きしたことなのですけれども、遊休農地の借地のお願いを特定の人が来たとあえて言っておきますけれども、適当な人が自らが耕作するのではなくて、お名前を借りて特定の人が仲介で借地利用を申し出て、相手方にお願いをしてというようなことがあるのですけれども、そういう事実はお聞きになっていないですか。

○岡野　勉委員長　堀越農業委員会事務局長。

○堀越和英農業委員会事務局長　質疑にお答えいたします。

　ちょっとそこまでの経緯は、どなたがどういうふうに調整したかは、すみません、完全には把握していない状況でございます。

　以上です。

○岡野　勉委員長　堀江委員。

○堀江快治委員　これは新年度からのお話ですけれども､今までの令和５年度において出てきた書類の中で、堀越事務局長はそれらがストレートで耕作する方がお借りしに来たということを事務局として認識をしておりますか。その間のことについては不明ですか、どちらですか。

○岡野　勉委員長　堀越農業委員会事務局長。

○堀越和英農業委員会事務局長　質疑にお答えいたします。

　実際に堀江委員おっしゃる方がどのような動きをしたかというところまでは、すみません、ちょっと完全には把握しておりません。

○岡野　勉委員長　堀江委員。

○堀江快治委員　その辺は、遊休農地が利用されるということは非常にいいことなのです。いいことなのですけれども、それがよそから見て、言葉を緩めて言えば、あまり自然的でない状況をその周りの人に与えているという環境は、私はあまりよくないと思うのです。これから遊休農地が増えると今おっしゃいましたけれども、増えれば増えるほど全体像というのは見える化で我々にも分かる、こうやっているのかと、毛呂山町は遊休農地をこういうふうに利用しようとして頑張っているのだということを見せていただかないと、特定の人がお借りして、その賃貸の相手方は違う人がいて、やっている人はお手伝いと言いましたよね。お手伝いする方が主力で使う人が従で、こういうふうな印象を与えるのは、極めて本町の遊休農地利用政策に対してあまりよくない、もっとオープンにしてやるべきだと思うのです。いかがですか。

○岡野　勉委員長　堀越農業委員会事務局長。

○堀越和英農業委員会事務局長　質疑にお答えいたします。

　今堀江委員おっしゃっていたとおりのことだと思うのですけれども、決して間に入った人が主でやっているということではなくて、あくまで借主さんが主でやっていると、そのようにお聞きしております。あくまでも耕作の指導というのですか、そういった立ち位置でやられていると、そのように私どものほうには報告を受けております。

○岡野　勉委員長　堀江委員。

○堀江快治委員　実際に農業委員さんは、どんなお仕事をしているのですか。今さら僕が聞くのは失礼なのですけれども、何か大分報告書なんかも厳しいらしいですけれども、どんなお仕事が農業委員さんには課せられているのですか。

○岡野　勉委員長　堀越農業委員会事務局長。

○堀越和英農業委員会事務局長　質疑にお答えいたします。

　農業委員さんのお仕事でございますが、遊休農地の調査等々もございますが、あとは議案に出てきたものを現地調査をしたりとか、様子を見たりとか、可決すべき案件なのか、その辺を実際に現地調査等々をしていただいて、そのような作業をしていただいているところでございます。

○岡野　勉委員長　堀江委員。

○堀江快治委員　従来は選挙でしたけれども、今は選任なのですか。町長の選任事項でしょう。聞くところによると非常に幅広い仕事をなさっているようですけれども、そういう仕事をしている間はいろんな問題が起きると思うのです、農業委員さんが見たり聞いたりするために。それが当たっているか、的を射ているか的を射ていないかということは私には分かりませんけれども、やっぱり一生懸命やっている方がいるとすれば、たとえ多少のことがあっても農業委員さんの調査内容等もしっかり受け止めて、農業委員さん足るべき仕事の正当性というものを把握してやらないと、農業委員はただ見て判こを押すだけだというだけでは大変困るので、その辺についてはそういう農業委員さんはいないという話ですけれども、そういうふうによく調査をしてやっていただくように農業委員さんにお願いしていただきたいというふうに感じますけれども、いかがですか。

○岡野　勉委員長　堀越農業委員会事務局長。

○堀越和英農業委員会事務局長　質疑にお答えいたします。

本当に今の農業委員さんには、熱心にその辺の現地調査等々していただいて感謝しているところでございます。一方、事務局といたしましても、農業委員さんに全部お任せするということでは決してなくて、事務局といたしましても精いっぱい現地のほうを調査させていただいたりとか、様子のほうをお聞きしたりとかしまして、そして総会に臨んでいる状況でございます。

以上です。

○岡野　勉委員長　長瀬委員。

○長瀬　衛委員　堀越局長へお聞きしますけれども、この間開会前に私と議長でこの議案の一応説明を受けるときに、３年ここでたつ農業委員が、本来なら開会前に議案の中に入っていると思ったらなかったから、総務課長にどうしたのだと聞いたら、困ったような顔されていたのだけれども、新しい農業委員さん決まったのですか。

○岡野　勉委員長　堀越農業委員会事務局長。

○堀越和英農業委員会事務局長　質疑にお答えいたします。

現委員さんの任期につきましては、令和６年５月２日までが任期でございます。早急に決めないといけない状況ではございまして、今鋭意調整中でございます。

○岡野　勉委員長　長瀬委員。

○長瀬　衛委員　この議会には同意は求めてこないということですか。

○岡野　勉委員長　堀越農業委員会事務局長。

○堀越和英農業委員会事務局長　もう結構間がないので、もし調整が間に合えば追加でお願いするかもしれませんが、ちょっと今日の時点では間に合うか間に合わないか、すみません、お答えできません。

○岡野　勉委員長　長瀬委員。

○長瀬　衛委員　たしか推薦と応募があるのだよね。締切りは去年ですよね、たしか。11月でしょう。もうかなり時間がたっているのだけれども、まだ決まらない。ちなみに聞くけれども、今５人の農業委員と推進委員が６名です。３年間農業委員として適切に活動されたと思うけれども、この11人の方、農業委員、推進委員として別に問題ないわけでしょう。一生懸命皆さんやられたのでしょう、役割を果たしたのでしょう。どうなのですか、その辺は。

○岡野　勉委員長　堀越農業委員会事務局長。

○堀越和英農業委員会事務局長　質疑にお答えいたします。

非常に皆さん一生懸命やっていただいた状況でございます。しかしながら、ちょっといろんなお声がございまして、その辺を今検討、調整している状況でございます。

○岡野　勉委員長　長瀬委員。

○長瀬　衛委員　聞くところによると、応募が11月に締め切られた時点で、一応定員を上回る応募はなかったというような話らしいのだけれども、普通でいくと現職の方がもし仮に応募したとすれば継続できるわけだよね。農業委員というのはどういう資格というか、条件が必要なのですか、農業委員を選ぶについては。

○岡野　勉委員長　堀越農業委員会事務局長。

○堀越和英農業委員会事務局長　質疑にお答えいたします。

農業委員さんの資格につきましては、まずのまずは農業に関する識見を有する方、そしてそういった農転とか、農地の集積とか、いろいろ申請が出てきますが、それらの事務を適正に処理できる方が農業委員さんの状況でございます。

○岡野　勉委員長　長瀬委員。

○長瀬　衛委員　いろいろ私も新制度の農業委員会に関するＱ＆Ａを全部見せていただきましたけれども、農業委員の任命でいくと、農地等の利用の最適化の推進を積極的に進めていくことができるものが確実に農業委員に選ばれるようにするためだと、この農業委員の任命制について。町村長は、農業委員を任命する際の留意点は、農業委員として識見、職務遂行能力、欠格事由、欠格事由というのは破産手続だとか禁錮以上の刑、それから認定農業者等の要件、それから中立委員の任命、これはいろいろ農業委員に関係する事業者とかというのは駄目だということだよね。あとは青年、女性の登用です。何かこれに抵触する方がいるのですか、現職に。今まで農業委員の方とも私会う機会があって話ししてみると、いろいろ農業委員の議事録をつくっていなかったことを指摘したり、それから日常的に農業委員は本来の仕事で自分のエリアの遊休農地のいろいろ点検だとか、そういうものに記帳しながらやったりしている方もいるようですけれども、私も議員の農業委員３年やりましたけれども、そんな人はあまり当時見かけなかったけれども、今の農業委員５名の方、何かかなり皆さん真剣に毛呂山の農地を減らさない、農業を発展させる、それから農地を適正に管理、利用する、この３つの農業委員の目的に任務を遂行するために適任の方だと思う。５名の方の名簿を見せてもらったら、皆さん適任だと思うのだけれども、もし仮に現職の方とか、要するに人数以上の応募があった場合に選定しなければいけないよね。そのときに何か決まりみたいなのがあるのでしょう。農業委員の推薦募集の結果、候補者が定数を超えた場合にどのような対応が必要かというＱに対して、この資料でいくと、市町村長は関係者からの意見の聴取その他の任命過程の公正性及び透明性を確保するために、必要な措置を講ずるよう努めなければならない。必要な措置というのは、推薦を受けた者及び募集に応募した者や推薦者の意見を聞くこと、だから仮に募集に応募した者で定数を超えた場合は、募集した人の意見を聞くこと、それから前任の農業委員や推進委員の意見を聞くこと、それからパブリックコメントを行うこと、それから選定委員会を設けて選定しなさいと、かなり厳格に決められているのです。今言ったように私が見た限り５名の農業委員の方、どなたもすばらしい方で、特に私の知り合いの方は、とにかくそんなことまでやるのかというぐらい一生懸命、例えば産業廃棄物の件なんかも農地の適正利用という面で問題だということで声を上げてやられた方がいるのだけれども、その方まさか今度入るのでしょう。応募段階で、たしか去年の暮れに聞いたら、何か農業委員会のほうで定員はもう定員内で収まったというようなことも聞いていたということも聞いているけれども……

〔何事か呼ぶ者あり〕

○長瀬　衛委員　何が出ている、決まっていないのでしょう、まだ。

〔何事か呼ぶ者あり〕

○長瀬　衛委員　決まっているの。

〔何事か呼ぶ者あり〕

○長瀬　衛委員　決まっていないと言っている。これ何なの。

○岡野　勉委員長　この際、暫時休憩いたします。

（午後　３時５８分）

○岡野　勉委員長　休憩前に引き続き会議を続行いたします。

（午後　４時０１分）

○岡野　勉委員長　長瀬委員。

○長瀬　衛委員　農業委員の人事について、議会のほうにはどのように対応されるのですか。

○岡野　勉委員長　堀越農業委員会事務局長。

○堀越和英農業委員会事務局長　質疑にお答えいたします。

その調整ができ次第、すぐさま人事の議案のほうを上程させていただければと、そのように考えております。

○岡野　勉委員長　長瀬委員。

○長瀬　衛委員　調整という意味がちょっと分からないのだけれども、定員オーバーしているわけではないのだから、先ほど言ったように候補者が定数を超えた場合の対応についてもちゃんと決められているのですから、この決められたことからいけば、何もその調整は必要ないと思うのだけれども、そういう点を留意して分かりやすく、我々が納得するような結論を出していただきたい。

以上で結構です。

○岡野　勉委員長　この際、暫時休憩いたします。

（午後　４時０２分）

○岡野　勉委員長　休憩前に引き続き会議を開きます。

（午後　４時０４分）

○岡野　勉委員長　続きまして、90ページ、第５款労働費、第１項労働諸費、第１目労働諸費について説明を求めます。

宮寺産業振興課長。

〔宮寺定幸産業振興課長詳細説明〕

○岡野　勉委員長　これより質疑に入ります。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○岡野　勉委員長　質疑なしと認めます。

次に、91ページ、第６款農林水産業費、第１項農業費、第２目農業総務費から第６目農産物加工センター費までの説明を求めます。

宮寺産業振興課長。

〔宮寺定幸産業振興課長詳細説明〕

○岡野　勉委員長　これより質疑に入ります。挙手をお願いします。

佐藤委員。

○佐藤秀樹委員　93ページの先ほど説明にあった農業経営継続支援事業、新規の事業なのですけれども、営農給付金があって、それとは別に農業に関しての補助金、物価高騰に対する農業経営の支援を目的としていて、支援事業なのですけれども、令和５年度中、農業収入が15万円以上の方に対する補助金のメニューなのですが、農業従事者で納税をしている件数というのは昨年度は何件あったのですか。

○岡野　勉委員長　宮寺産業振興課長。

○宮寺定幸産業振興課長　予算化するために税務課に照会したところ、15万以上で収入のあった方は申告件数80件ということでございます。

以上です。

○岡野　勉委員長　佐藤委員。

○佐藤秀樹委員　それと、次の商工費と関係してくるのですけれども、商工費のほうでは例えば新規事業に対する補助金なんかはメニューにはないのですけれども、農業だけ手厚くするようなイメージがあるのですけれども、実際商工業の方々も非常に物価高騰等同じような状況で大変厳しい状況に追いやられている方もいらっしゃると思うのです。ですので、税の公平性というのであれば、商工業に対しても何らかの補助メニューをつくるべきだと思うのですけれども、その辺はいかがでしょう。例えば新規事業に対する補助メニューだとか。

○岡野　勉委員長　宮寺産業振興課長。

○宮寺定幸産業振興課長　ご質疑にお答え申し上げます。

確かに物価高騰等という理由でございますと、農業に関しても商工業に関してもある程度条件は同じなのかなということでございますが、商工業につきましては、個別の交付金等を活用したメニューの中で対応できればということで、令和５年度であれば運送事業者等の補助金とか、個別のメニューを組んで実施して、あとポイントの還元とかもそうですけれども、いるわけでございまして、農業に関しまして申し上げますと、飼料や肥料の物価高騰の影響を受けているというところで、作るほうが卸すよりも、販売よりも高いと、作れば赤字になるというような状況を鑑みまして、この補助事業を計画したというところでございます。

以上です。

○岡野　勉委員長　佐藤委員。

○佐藤秀樹委員　確かに農業も大事なのですけれども、ただここでやはりいろいろな問題で倒産する企業も何社か出てきておりますので、ぜひその辺バランス、毛呂山町の経済の状況も鑑みた中で、できれば対策を打っていただければと思います。

以上です。

○岡野　勉委員長　平野委員。

○平野　隆委員　それでは、私のほうからは92ページから93にかけて鳥獣被害の対策、有害鳥獣の謝金、そういうのが例年どおり計上されています。そして、93ページは越生猟友会等々の補助金が計上されているのですけれども、鳥獣被害があるということが言いたいのですが、越生の猟友会のほう、今予算が出ているので、関連で聞くのですけれども、毛呂山支部、全体でもちょっと把握していたら教えてほしいのですが、そういういわゆる猟師の方々、猟師というのかな、どのぐらい高齢化されていて、今どういう状況なのか、ちょっと現時点で教えていただければと思います。

○岡野　勉委員長　木村農林係長。

○木村正樹農林係長　ご質疑にお答え申し上げます。

現在、越生猟友会毛呂山支部の方々なのですけれども、一番年齢が高くて89か７ぐらいの、結構もう90歳に近い方が筆頭におりまして、そこから半分ぐらいが大体もう後期高齢者ぐらいの年齢ではあります。ですので、人数でいうと現在猟友会のメンバーが28なので、およそ14名から15名ぐらいが高齢者であるという現状でございます。

○岡野　勉委員長　平野委員。

○平野　隆委員　要するに細かく聞いてもあれなのですけれども、要は猟友会の現状というのがちょっと知っておきたかったのですけれども、ここ何年かの間に大分メンバーの方々も年を取られてきたような現状と、あとはなかなか若い方々が入ってこないという現状というのは、要はそういうことなのだと思うのです。それで、今こうして予算をつけて、また猟友会の方々頼りで、それで駆除したりとか、そういうことがあるのですけれども、営農給付金とか、遊休農地をなくそうという取組をして、あの手この手で頑張って遊休農地をなくすのだと、いろんなことを考えているのですけれども、その一方で代替わりによって、農業を親の代ではやっていたのだけれども、代替わりをしたらなかなかできないとか、あるいはそれでも親がやっていたから、何とか続けようと思って自分なりにやっても、イノシシに一晩でやられてしまったりとかするとやる気を、そういうことが上回ってしまうのです。結局鎌北湖の件で、これを機にって田んぼをやめた方がかなりいました。やっぱり高齢の人なんかもやめるきっかけというのが、一気にイノシシに食べられてしまったからとか、皆さんたくさんそういう話聞いて知っていると思うのですけれども、だからやっぱり猟友会というのは、そういうところを防ぐの担ってくれているので、何かこういうふうに予算をつけていくだけではなくて、猟友会自体を何とか存続してもらって、なかなか町なかにイノシシが出ると警察に電話するのだけれども、これ警察というわけにいかないので、畑ですから。だから、そういう猟友会を盛り上げていくようなあれというのはないのかどうか、その辺ちょっとお伺いします。

○岡野　勉委員長　木村農林係長。

○木村正樹農林係長　ご質疑にお答え申し上げます。

現在、猟友会の若返りということで、町外の方も極力取り入れるようにということもやっておりますし、また今現在若手の部類ではあるのですが、50歳前半の方の知り合いであったりだとか、そういった形で少しずつ若い人を取り入れるような形で皆さんにお願いをしているところではございます。

以上です。

○岡野　勉委員長　皆さん、よろしいでしょうか。お諮りします。本日の会議時間は、審議の都合によりあらかじめ延長したいと思いますが、これにご異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○岡野　勉委員長　ご異議なしと認めます。

よって、本日の会議時間は審議の都合によりあらかじめ延長することに決定いたしました。

○岡野　勉委員長　堀江委員。

○堀江快治委員　課長、お伺いしますけれども、昨今、毎年営農開始給付金が載っているのですけれども、今年度の450万円の支出予定はどうなったのですか。

それともう一つ、農業経営継続支援事業補助金350万円、これについてもちょっとお聞かせください。

○岡野　勉委員長　宮寺産業振興課長。

○宮寺定幸産業振興課長　ご質疑にお答え申し上げます。

まず、１つ目の営農開始給付金でございますが、対象として予定しているのは３名、それぞれ150万円ずつということで、150万掛ける３で450万ということでございます。

続きまして、農業経営継続支援事業でございますが、農業収入が15万円以上の方を対象といたしまして、それぞれ額に応じて補助を行うということで……

〔何事か呼ぶ者あり〕

○宮寺定幸産業振興課長　農業収入の額に応じて補助金を交付するという事業でございまして、合計で申しますと80件で、予算としては350万円を取っているというものでございます。

以上です。

○岡野　勉委員長　堀江委員。

○堀江快治委員　450万円のことは、こちらに載って分かるのですけれども、私がお聞きしたいのはこの方たちが継続的に、さらに継続以上に長期にわたって毛呂山町の地において農業をやるという、そういったような形の誓約的なものはあるのですか。

○岡野　勉委員長　宮寺産業振興課長。

○宮寺定幸産業振興課長　継続的に農業を続けていただけるようにお願いはしているところですが、誓約書を取っているとかというところまではないです。

以上です。

○岡野　勉委員長　堀江委員。

○堀江快治委員　過去にも何回か拝見しましたけれども、途中で撤退を余儀なくすることはあろうと思うのです。だから、そういうような難しい状況が出た場合には、それはそれなりにありますけれども、これ150万円ですよね、１件。だから３件ぶんですよね。３件の人が意欲があってきてくれるのはありがたいけれども、そのうちどうもうまくいかないということで、これを撤退した場合には、その支出した金額が無駄になってしまうという考え方に立つのですけれども、その点はどういう認識なのですか、課長。

○岡野　勉委員長　木村農林係長。

○木村正樹農林係長　ご質疑にお答え申し上げます。

この制度自体は、営農開始から、現在の年度ですと３年間の限定給付となっております。その後、５年間は営農を続けるという制約がございます。もし仮にその５年の間で営農を停止してしまい、離農してしまった場合、その場合補助金の返還等に該当する可能性が出てきます。ということで伺っております。

以上です。

○岡野　勉委員長　堀江委員。

○堀江快治委員　その実例はあるのですね。

○岡野　勉委員長　木村農林係長。

○木村正樹農林係長　ご質疑にお答え申し上げます。

以前、私が異動する前の平成28年採用の方で１人途中で離農されてはおるのですが、その際には当時そこまでの返還までの話がなかったため、補助金の返還までは発生はしませんでしたが、離農した方は１名おりました。

以上です。

○岡野　勉委員長　堀江委員。

○堀江快治委員　実質的にそういうことはあるけれども、運用の段階でお返ししていただいたことは一回もないと、あってないようなものだと捉えてもしようがないよね。だから、覚えているのは、町に来てやってくれるのは本当ありがたいので、できるだけ長期にわたってやってもらいたいのだけれども、どうもそういうわけにいかない方が見受けられるので、その歯止めとしてどんなこと、お金を返せというのも歯止めになるかならないか分かりませんけれども、一応理屈としては支出したお金をお返し願いたいというのは常識だと思うのですけれども、それが今までなかったとなると、それはフリーパスみたいな形でなってしまう。今後どうしますか、そういう場合に。

○岡野　勉委員長　木村農林係長。

○木村正樹農林係長　ご質疑にお答え申し上げます。

現在は、その間に離農した場合は補助金の返還が発生しますということは聞いておりますので、すみません、平成30年以降に離農した方はいませんので、今は返還のほうは受けてはおりませんという状況です。

○岡野　勉委員長　堀江委員。

○堀江快治委員　願わくばある程度の文面において約束をすると、決してその人を縛るわけではないけれども、事務的にはきちんとしておいたほうがよろしいのではないですかということです。

それとあと、350万円を八十何件で分ける。

○岡野　勉委員長　宮寺産業振興課長。

○宮寺定幸産業振興課長　80件でございます。

〔「１件幾らになるの」と呼ぶ者あり〕

○岡野　勉委員長　宮寺産業振興課長。

○宮寺定幸産業振興課長　ご質疑にお答え申し上げます。

ちょっと細かいことになってしまいますけれども、農業支援に15万円以上から50万円までの方が１万

5,000円、これは予定件数が24件、以下50万から100万が３万円で11件、100万から300万が５万円で31件、300万から500万が８万円で７件、500万以上が10万円で７件というように、農業収入に合わせて漸増するような補助金の体系ということになってございます。

以上です。

○岡野　勉委員長　堀江委員。

○堀江快治委員　本気でやってくれる方に対しての金額としては、感想としては安過ぎます。ただ、義務的にもらえるからありがたいやという感情を持たれたのでは、これは行政としてはたまらないので、その辺については厳密な、たとえ３万でも８万でも５万でも10万でもきちんとした形で支払いの明細を残していただければありがたいということです。

それと、あとはここまでかな。

〔「加工所まで」と呼ぶ者あり〕

○堀江快治委員　加工所だよね。ハスなので、ちょっと委員長、ここの予算ではないけれども、ハスは咲くのですか、咲かないのですか。

〔何事か呼ぶ者あり〕

○堀江快治委員　商工のほう。

○岡野　勉委員長　観光です。よろしいですか、そこではないです。

○堀江快治委員　今度農産物加工センター。

○岡野　勉委員長　加工所は入っています。

○堀江快治委員　毎年毎年この加工センターの問題があるのだけれども、宮寺課長、抜本的にあなたがいる間に直したらどうですか。直すということは難しいのです。あれは借地ですから、借地であるし、搾汁棟は国庫補助が出ますから、それは簡単にはいかないのです。だけれども、あのままこれからずっと置いておくということは、どっちかというと毛呂の負の遺産みたいになってしまうのではないのですか。ならばバラ園もあるし、いろんな滝ノ入の地形のよさを考えれば、あの土地に何かしら人が集約できるようなものを考えていく、そういう考え方は話題になったことはないのですか。

○岡野　勉委員長　宮寺産業振興課長。

○宮寺定幸産業振興課長　ご質疑にお答え申し上げます。

毎回毎回加工センターについてはご意見をいただいておりまして、ありがとうございます。経緯でございますけれども、何か有効に活用できないとというお叱りを受けておりますので、観光協会のほうに相談いたしまして、観光協会の理事会に諮っていただきまして、加工センター搾汁棟も含め、ゆずの里工房のほうも併せて、観光協会のほうで主体的に運用ができるようにお願いできないかということで頼みまして、理事会でもそういうことで町からお願いがありましたので、今後その加工センターについて一体的に観光協会のほうで許可を取って運営をしていくというような理事会の決定をいただいておりますので、ちょっと時間はかかっておりますけれども、新たな活用策であるとかというのを観光協会とともに検討していければと思っております。

以上です。

○岡野　勉委員長　堀江委員。

○堀江快治委員　上物はいいのですけれども、下地の問題は語られたことはありますか、要するに土地です。裏の方の借地なのですけれども、あれは下田養平さんと僕で借りに行って、もう長くお借りしているのです。もう古いのです。下田町長に当時言ったのですけれども、買ってしまったほうがいいのではないの、でも相手方は……。その次になってもまた買いに、小峰町長のときもまた買いに行ったのです。また駄目なのですけれども、やっぱりあそこを自由に、しかも有効に使うには、あの下地というのはどうしても僕が見ている限りでは必要だと思うのですけれども、よく相談をして、できればそういう形が取れれば、より有効的な場所になるのではないだろうか。あそこは滝ノ入でも非常に中間でいいところで、あそこは奥と入りと真ん中辺に当たるものですから、ハイキング等の方もたくさん通るし、バラ園のときにも混むし、だからそういう点では下地を何とか解決していただければいいと思うのですけれども、その点よく上司に申し上げて、相談をしていただきたいと僕の願いですけれども、よろしくお願いします。

○岡野　勉委員長　小峰委員。

○小峰明雄委員　予算のことを少しお伺いします。92ページ、93ページで大谷木と大類の清掃の委託が計上されているのですけれども、片や同じ金額で、片や上がっているのですけれども、これは何か調整かけてこういうことになったのですか。たしか同じ方がやっていたような気がするのですけれども、違いましたっけ。

○岡野　勉委員長　木村農林係長。

○木村正樹農林係長　ご質疑にお答え申し上げます。

　大谷木農村公園トイレ清掃業務委託と大類館維持管理業務委託につきまして、１度大谷木農村公園のトイレにつきましては、人件費が高騰した関係で単価のほうは上がっているのですが、回数のほうを週４回程度にちょっと若干下げて計上させていただいております。大類館の維持管理のほうにつきましては、こちらもやはり同じく単価が人件費のほうが高騰している関係と、またプラス公園内の広場等の除草もありまして、その中の機械経費等も上げていただきたいということもありましたので、そちらが上がった関係上、大類館のほうだけちょっと上がっている形になっております。

　以上です。

○岡野　勉委員長　小峰委員。

○小峰明雄委員　大谷木農村、たしか同じ方だと思うのですけれども、私もちょっと作業しているのを拝見させていただいたことがございます。やはり回数を減らしてしまうというと、観光地でハイキングのコースになっているので、いかがかなと、ちょっともう一度よくお考えになっていただければと思います。

　次に、町内の、94ページの農地費の関係で、昨年は谷ケ跨の水路関係の工事が計上されておりまして、今回は排水路の補修工事として90万が予算計上されているのですけれども、この工事請負費はどういうことを想定されて90万計上されたのでしょうか。

○岡野　勉委員長　木村農林係長。

○木村正樹農林係長　ご質疑にお答え申し上げます。

　こちら、町内全般用排水路等補修工事という形でやらせていただいておりまして、具体的に個別具体な

場所を積算して上げているわけではございませんが、町内の用排水路であったり、またそれに準ずるそれ以外の農業用施設の補修等が発生した場合に、こちらの予算を使ってやらせていただくつもりで計上しております。

以上です。

○岡野　勉委員長　次に、95ページ、第２項林業費、第１目林業振興費、第２目林道開設事業費について説明を求めます。

宮寺産業振興課長。

〔宮寺定幸産業振興課長詳細説明〕

○岡野　勉委員長　これより質疑に入ります。挙手をお願いします。

長瀬委員。

○長瀬　衛委員　ちょっと課長にお聞きしますけれども、この緑の募金緑化整備業務委託料、これの財源は雑入か何かで見たら家庭募金緑化事業交付金、これ自治会で集めているやつだね。実はうちの自治会がこの間電話したけれども、今年納入を忘れてしまったのです、うっかり会計さんが。問い合わせしたら、もう今年は間に合わないからというので、うちの自治会は今年パスしたのだけれども、そのときに各自治会の納入状況を資料で送ってもらったらびっくりしたのだけれども、何かだけれども、これでは私の地区では必ず毎年４万円ずつ一括納入していたのだけれども、見たらほかの自治会では6,000円とか3,000円とか、これはちょっと集め方に少し問題があるのではないの。１世帯幾らとかって決まっているの、これは。

○岡野　勉委員長　宮寺産業振興課長。

○宮寺定幸産業振興課長　ご質疑にお答え申し上げます。

特に１世帯幾らでお願いしますというようなことはお願いは、以前はしていたのですけれども、募金なのに額を決めるとはというちょっとクレームがあった以降は、お気持ちですので、任意でお願いしますということでお願いしてございます。

○岡野　勉委員長　長瀬委員。

○長瀬　衛委員　私ども以前に、そういう何か希望額みたいなの聞いたことあるので、それで判断して４万円に決めていたのだけれども、構わず10年以上４万ずつやってきたのだけれども、今年初めてその資料を見せてもらったら、これはちょっとまずいなと思ったから来年は減らそうと思っているけれども、この集め方は少し研究したほうがいいと思います。調べたらほかの自治会でも２万5,000円とか３万というのがぽちぽちあるようだけれども、何自治会もないです。あとの自治会では、ほとんど集めていないのではないの。そういうのではやっぱりまずいので、少し集め方を工夫してほしいと思います。どうですか。

○岡野　勉委員長　宮寺産業振興課長。

○宮寺定幸産業振興課長　集め方につきましては、ちょっとまた研究させていただければと思います。

○岡野　勉委員長　小峰委員。

○小峰明雄委員　今年も森林所有者意向調査業務委託料ということで255万2,000円が予算計上されています。昨年もございました。この調査をしたものをどのように検証して生かしていくのか、この点についてお伺いします。

○岡野　勉委員長　宮寺産業振興課長。

○宮寺定幸産業振興課長　ご質疑にお答え申し上げます。

本調査は、森林所有者に今後の管理の意向を伺いまして、大別すると自分で管理していく、それからもう町にお任せしたいというような、大別すると大きく２つに分かれるわけでございまして、自分で管理していくというものについては、ご自身で管理していただいて構わないのですけれども、町にお任せしたいというような意向があった場合に、町はそれを受けて事業化できる場所なのか、それともこれは道つきとかが悪いので、事業化に向いていないので、切捨て間伐等で混交林、なるべく自然に近い山に戻していくのかという判断を行っていくというのが今後の作業なのですが、なかなか生かしていくというものについても､国のほうでこういうふうに計画をつくって進めてくださいという案は示されているのですけれども、国の示す案どおりに進めるのがなかなか難しいのではないかという話が全国的に起こっておりまして、そのままできるのかというのが今ちょっと疑問符がついている状況で、町に任せたいという所有者の方に相対で、町のほうで間伐等手入れしてしまっていいですか、いいですよということで、相対で合意を結んで切捨て間伐を行っていくという方向が、飯能方式と言われているものなのですけれども、飯能はその方式を取っているということで、毛呂山も西川材の仲間なので、そういう方向がいいのかなというところで考えているところでございますが、まだ決定はしてございません。

以上です。

○岡野　勉委員長　小峰委員。

○小峰明雄委員　次に、林道維持管理業務委託料ということで39万9,000円なのですけれども、委託先とか、この業務内容に関してお伺いいたします。

○岡野　勉委員長　木村農林係長。

○木村正樹農林係長　ご質疑にお答え申し上げます。

林道の維持管理業務委託料ということでございまして、委託先につきましては、林道の維持管理に係る種類によってちょっと若干変わってしまうのですが、林道の支障木になるようなものの伐採から、落石等で塞がれた場合の土砂の撤去等、そういったことを想定しておりますので、造園系といいますか、からまたは工事業者というところで考えておるところです。

以上です。

○岡野　勉委員長　小峰委員。

○小峰明雄委員　そうすると、落石だとか、そういうことになると、今までだと全般の補修で行っていたというところを若干この委託料を使用して、そこで対処していくと、そういう理解でいいわけですね。

○岡野　勉委員長　宮寺産業振興課長。

○宮寺定幸産業振興課長　ご質疑にお答え申し上げます。

昨年ご指摘をいただきましたので、林道の修繕についても少し考えていただきたいというお話をいただきましたので、今回工事とは別に委託を計上したというところでございます。

以上です。

○岡野　勉委員長　次に、96ページ、第７款商工費、第１項商工費、第１目商工総務費から第３目観光費ま

での説明を求めます。

宮寺産業振興課長。

〔宮寺定幸産業振興課長詳細説明〕

○岡野　勉委員長　これより質疑に入ります。挙手願います。

堀江委員。

○堀江快治委員　ハスは咲くのですか。

○岡野　勉委員長　長嶺商工観光係長。

○長嶺　忍商工観光係長　質疑にお答えいたします。

本年、拡幅したところにハスのほうの苗のほうを少し移設をさせていただきまして、植え替えをしたところでございます。ちょっと１年目なので、浮き葉、立ち葉までいけるかどうかというのはちょっと何とも言えない部分はあろうかと思いますが、鋭意努力して頑張っているところでございます。

○岡野　勉委員長　堀江委員。

○堀江快治委員　長嶺さんも重々承知ですけれども、あの水源、あのような汚い水では手をつけることも嫌です。何とか新しい水源を求めて、きれいな水でハスを咲かして皆さんに見ていただく、あれは裏の池から来る水と遊水地的な要素と、それともう一つ一番いけないのはあの上にある浄化槽です。浄化槽の上水が流れてくるから油っこい、油でギラギラしたような水があの周りにいっぱい出て、そうでしょう。そうではないですか、入っていないですか。

○岡野　勉委員長　長嶺商工観光係長。

○長嶺　忍商工観光係長　質疑にお答えさせていただきます。

あちらのほうの水路につきましては、さいたまゴルフさんの下をずっと流れてきまして、総合公園の大きな池のほうを通りまして来るルートと、そのまま来るルートもあるのですが、そちらの２ルートありまして、そのうち一方が総合公園の浄化槽の出てきた水というのが一部合流しているところございます。ただし、やはり浄化槽でございますので、ちゃんと衛生基準の合致した処理水でございます。

○岡野　勉委員長　堀江委員。

○堀江快治委員　長嶺さんが役場の職員ではなくて一般の観光客でしたら汚いなと思うと思うのです。だから、僕はいつも見に行くのです。どうにか工夫しているのかなと思うけれども、一向に工夫の余地がないので、あれでは表看板にある行田の長年のハスの説明と、そこの下にある脂ぎった水では、あまりにもイメージが違い過ぎてしまうのです。だから、やるのならしっかり水を確保するようにやったほうがいいです。あんなところ、小さいところへ移ってしまったからしようがないけれども、それはそれとしてもう現実だけあるけれども、特に周りの水、そう思いませんか。私は思うのだけれども、長嶺係長は思いませんか。あれきれいだと思いますか。

○岡野　勉委員長　長嶺商工観光係長。

○長嶺　忍商工観光係長　質疑にお答えします。

確かに水というのは、そこにとどまるだけでもかなり生物的な要素とかいろいろありますので、ギラついたり汚く見える部分もございます。我々のほうもやはりできる限りきれいな水でできることを望んでお

りますので、今後検討していきたいと考えております。

○岡野　勉委員長　堀江委員。

○堀江快治委員　美しい水に美しい心、やっぱり毛呂山町は来た方に美しいと見られるには、一番の要素は水ですから、とにかくあの水と堆積した砂、あれを何とかしてほしいと思うのです。肩身が狭い。最初行田の市長が、もうお辞めになったけれども、工藤市長が来て、係まで連れてきて植栽してやっと咲いたハスです。あそこへ移ってしまったのは不満だけれども、あそこへ植栽した以上は、やっぱり行田市の名においても、毛呂山町は頑張っているよというところを見せるのが、これは当たり前のことだと思うのだけれども、僕が異常かな、ああいうのあれがおかしいと思うのは異常ではないと思うのだけれども、それはなかなかお金がかかるのです。あそこは水源がないのだから、基本的な水源がないのだから、井戸でも掘ってみたらどうですか。出るか出ないか。

○岡野　勉委員長　長嶺商工観光係長。

○長嶺　忍商工観光係長　なかなか井戸の関係についても、ちょっと直営ではなかなか難しいところもございまして､かといって工事ということで財源のほうも財政サイドのほうとか調整が大変でございますので、そちらのほうを今後検討して、他部局との調整もしたいと考えております。

以上です。

○岡野　勉委員長　堀江委員。

○堀江快治委員　そういうことにおいて成功すれば、私たちは何ら心配ないのです。とにかくハスには美しい水、この取り合わせを、コントラストをきちんとつくり上げていく、その責任はあると思うのです。ぜひ近いうちにやってください。

○岡野　勉委員長　小峰委員。

○小峰明雄委員　まず、またトイレの話するけれども、観光費の97ページの委託料の関係で、観光トイレの清掃委託料が少し上がったわけです。その上に清掃の謝礼というのは逆に下がってしまったのです。これはまずどういうことなのですか。謝礼と委託料の違い。

○岡野　勉委員長　長嶺商工観光係長。

○長嶺　忍商工観光係長　観光費の報償費になりますが、そちらの清掃の謝礼ということでございますが、そちらにつきましては観光トイレの桂木について１か所お願いしている方がございますので、そちらの方の費用ということで、こちらについては単価は最低賃金の関係もありますので、上がっております。下げてあるところというのが１人当たり500円の観光地の清掃謝礼というところがございますので､そちらのほう団体数を減らして計上してございます。

一方、委託費のほうにございます観光トイレの清掃委託料につきましては、こちらについてもやはり最低賃金が上がった関係がございますので、そちらで計上してございます。

以上です。

○岡野　勉委員長　小峰委員。

○小峰明雄委員　今団体の１人500円、よく聞き取れなかったのですけれども､その減になった理由というのは何かあるのですか。

○岡野　勉委員長　宮寺産業振興課長。

○宮寺定幸産業振興課長　滝ノ入であるとか、地元の方が清掃をしていただいたときに１人500円ということでお支払いしているわけですが、実績がそれほど予算額満額までいかないというところで、実績に合わせて減額させていただいたということでございます。

以上です。

○岡野　勉委員長　小峰委員。

○小峰明雄委員　参加者が少なかったという、単純にそういうことですね。

次に、観光トイレの浄化槽の34万5,000円のひもときしたのですけれども、鎌北の第１、第２と宿谷と桂木を足すと32万1,000円になるのです。今回34万5,000円というのは、この足したのがこれということでよろしいのですか。

○岡野　勉委員長　長嶺商工観光係長。

○長嶺　忍商工観光係長　質疑にお答えいたします。

議員おっしゃるとおり、以前の去年までの鎌北湖第１駐車場トイレ、第２駐車場トイレ、宿谷の滝入り口トイレ、桂木トイレということで、浄化槽を設けているのがこの４か所にございますので、こちらの浄化槽の維持管理ということで、合計させていただいて３者で見積りを取っております。

○岡野　勉委員長　小峰委員。

○小峰明雄委員　一括にして安価になった、安くなったという解釈でよろしいのですか。単独でやった場合、１つずつやった場合とこの差は出て、少なく済んだという解釈でよろしいのですか。

○岡野　勉委員長　長嶺商工観光係長。

○長嶺　忍商工観光係長　一応今までも３か所別々ではなく一括してお願いしていた関係もございますので、予算上分かれていたものを一つにまとめただけでございます。

以上です。

○岡野　勉委員長　小峰委員。

○小峰明雄委員　そうすると、本来だと前年度と同じような予算計上をするところを約されたという、そういうことですか。何も努力したわけではないのだ。分かりました。

○岡野　勉委員長　佐島委員。

○佐島啓晋委員　商店街活性化事業補助金についてご質疑します。ちょっと金額が10万円ということで、あと来年度、再来年度という形でもやっぱり予定金額10万円となっています。私は以前、北区のほうにちょっと仕事で勤務していましたけれども、そちらのほうというのは商店会がまだ、戸越銀座もそうなのですけれども、かなり活性化しています。そうすると、こういう10万円とか金額が２桁ぐらい違うかなという感じなのです。イベントとしても、私どういうものがやっているか申し訳ない、ちょっと勉強不足なのですが、駅前とか何かそういうのでやっているところに、いわゆる商店街とはちょっと離れているところでやっているのかなという、そういう認識はあるのですけれども、この10万円というのはどういうところから算出してきているのでしょうか。

○岡野　勉委員長　長嶺商工観光係長。

○長嶺　忍商工観光係長　質疑にお答えいたします。

　商店街のほうの活性化補助金につきましては、現状今要綱がございまして、１商店街当たり10万円という形でなっております。そちらの関係上、１商店街だけがちょっと申請を出していただけている状況でございまして、ほかの商店街さんは今動き的にはちょっと難しかったりしている状況でございます。

○岡野　勉委員長　佐島委員。

○佐島啓晋委員　そうしますと、要綱で１商店街10万円ということで、その１商店街が100万欲しいということは言えないということですね。いわゆる要綱が10万円というのは、そういう認識でよろしいですか。

○岡野　勉委員長　長嶺商工観光係長。

○長嶺　忍商工観光係長　佐島委員のご認識のとおり、１商店街申請が上限がもう決まっているので、それ以上の申請ができないということになっております。

○岡野　勉委員長　佐島委員。

○佐島啓晋委員　それではもう一つ、空き店舗活用創業チャレンジ支援、これ実は空き店舗、20年、30年前の状況ですと、居抜きで使えるということは多分あったと思うのです。ただ、今空き店舗といってもかなりそのままで使えなくて、リフォームとか耐震とか、そういうのもあると思うのです。そういうことも加味した上でのこのような予算を立てたということなのでしょうか。

○岡野　勉委員長　長嶺商工観光係長。

○長嶺　忍商工観光係長　質疑にお答えします。

　こちらのほうにつきましても、空き店舗の利活用の補助金の要綱がありますので、そちらのほうの要綱に基づき改修費用ということで、２分の１補助ということで最大限で20万、それとあと家賃補助ということで６か月で５万円ずつで30万ということで、両方合わせまして50万と、対象者１名分ということで計上させていただいているところでございます。

○岡野　勉委員長　佐島委員。

○佐島啓晋委員　一応意見というかですけれども、こちらの金額も多分２桁ぐらい違うと思うのです。それは要綱で決まっているということだから、それはそれとして仕方ないと思うのですけれども、今後見直しとか検討していただければと感じています。

　以上です。

○岡野　勉委員長　中村委員。

○中村奨平委員　申し訳ないのですけれども、その前に一度休憩をいただいていいですか。ちょっと発言の訂正があるかもしれないので、お願いする。

○岡野　勉委員長　この際、暫時休憩いたします。

（午後　５時０２分）

○岡野　勉委員長　休憩前に引き続き会議を開きます。

（午後　５時０５分）

◎発言の訂正

○岡野　勉委員長　宮寺産業振興課長から発言の訂正の申出がありますので、これを許します。

宮寺産業振興課長。

○宮寺定幸産業振興課長　先ほど堀江委員のご質疑の答弁中、誓約書はないと発言しましたが、誓約書はございますので、訂正をさせていただきたいと思います。よろしくお願いいたします。

○岡野　勉委員長　ただいまの宮寺産業振興課長からの発言の訂正につきましては、委員長において許可します。

〔何事か呼ぶ者あり〕

○岡野　勉委員長　休憩します。

（午後　５時０６分）

○岡野　勉委員長　休憩前に引き続き会議を開きます。

（午後　５時０７分）

○岡野　勉委員長　質疑を続行します。

中村委員。

○中村奨平委員　では、お伺いします。

98ページの第７款商工費の13節景勝地等土地借上料299万9,000円が書かれております。これは昨年も遡ったところ同じ同金額が計上されておりまして、まず私ちょっと初めてなので確認なのですが、これは鎌北湖の付近にある無料の駐車場でよろしいのでしょうか。

○岡野　勉委員長　長嶺商工観光係長。

○長嶺　忍商工観光係長　質疑にお答えします。

借り受けしている土地につきましては、鎌北湖の第１駐車場の脇にあります四季彩の丘公園ですとか第２駐車場、こちらの下地、そちらとあと鎌北停車場といって昔の回転広場がございます。そちらのほうと、あと箕和田の遊歩道、あと滝ノ入の桂木観音のトイレとそちらの駐車場、そちらのほうに借りるところがございまして、そちらのほうを借りているということでございます。

○岡野　勉委員長　中村委員。

○中村奨平委員　想定よりたくさん借りていると理解しましたが、ちょっと金額、町の観光需要に対してと、この金額毎年支出するのが私にとって適正かどうかちょっと分かりかねますので、質疑しているのですが、例えば鎌北湖の年間の観光客の来客数はどのぐらい、その駐車場を特に利用されているような方は何人ぐらいいらっしゃるかご存じでしょうか。おおよそでいいので、そんな細かくなくても。

○岡野　勉委員長　宮寺産業振興課長。

○宮寺定幸産業振興課長　ご質疑にお答え申し上げます。

ちょっと手元に数字がないので、数字答えられないのですけれども、鎌北湖駐車場を用意していないと車で来場される方が困ってしまうので、設置するのは適正なことだと思っております。

以上です。

○岡野　勉委員長　中村委員。

○中村奨平委員　もちろん設置することは適切だと思うのです。この200万円が妥当かどうか、毎年支払うことが妥当であるかどうかを伺っておるのですが、例えば日高の渓流というか、川沿い、直近有料化して車１台当たり500円と、もしくは北のほうに行くと渓流、川遊びをするために観光委員会が１台当たり2,000円とか取っているようなところがあるのです。やはりそういうふうな需要があって、それだけの高額な駐車料であったり使用料というのをいただけると思っておるのですけれども、鎌北湖、私もそんなに頻繁に行くようなところではないのですが、そんなにイメージとして頻繁に車が来ているようなイメージもなく、申し訳ないですけれども、そこに毎年200万円を、鎌北湖だけではない、箕和田もあるということでしたけれども、そこに対しては地主さんとの賃料の見直しであったり等、必要があるとお考えでしょうか。

○岡野　勉委員長　宮寺産業振興課長。

○宮寺定幸産業振興課長　ご質疑にお答え申し上げます。

土地の借り上げにつきましては、従前から行政改革の一環ということで、返却できる土地は返すというような方針が出ておりまして、やるときには全庁的に取り組もうというような申合せになってございますので、確かにこの中にこれは返還できるのでないかというような土地が俎上に上がっているものもございますので、全体見直しの中でまた検討させていただければと思います。

以上です。

○岡野　勉委員長　小野委員。

○小野　浩委員　98ページの14番、工事請負費というところなのですけれども、ちょっと外れていたら教えてください。鎌北湖駐車場のトイレがあるほうで四季彩の丘公園、あそこのハイキングコースの入り口のところに看板があるのですけれども、私時々行くのですけれども、かなりもう看板としては汚れてきてしまっているなと思うのですけれども、管轄は毛呂山町産業振興課でいいのでしょうか。

○岡野　勉委員長　長嶺商工観光係長。

○長嶺　忍商工観光係長　すみません。確実に確認しているわけではないのですが、観光協会で持っているものと町で持っているものとの判断がつかないものですから、あれなのですが、町のほうで持っているものについては、例えばそういったものが荒れている状態であれば清掃等については町のほうの責任で清掃等を行います。また、看板の壊れている状況につきましては、修繕料で対応させていただこうと考えております。

以上です。

○岡野　勉委員長　小野委員。

○小野　浩委員　ありがとうございます。結構お客さんの中からの声、私自身の感覚、それから同じ駐車場でもう一点あるのですけれども、あそこに売店がありまして、あそこのご夫婦と時々話をするのですが、そのトイレの四季彩の丘公園側に泥がありまして、あの泥がふだんはただの泥です。雨が降りますとどろどろになってしまって、結局駐車場としても使えないし、歩くときに足が汚れてしまったりということで、かなりこれまで何度かお掃除なさって、役場も１回来てくださったそうなのです。ところが、これ違って

いたら言ってください。お店の方が言うには、せっかく役場が来てくれて泥を運んだのだけれども、それを山側に積んでしまったために、しばらくはよかったけれども、大雨の日にまたどっと流れてきてしまって、また泥びっちゃんの海ができてしまって、毛呂山の鎌北湖の駐車場のイメージとしてよくないのではないですかということを言われるものですから、お願いしたいなということです。

ただ、落としてはいけないのは、もともとあそこはすばらしい観光資源であって、水も工事の後約１年で、最初はなかなか汚れが落ちなかったのですが、きれいになってきまして、釣り人たちからも元の鎌北湖に戻ってよかったというので、僕は議員だということは言わないですけれども、あなた地元の方かねというので、青梅の方が何か来て、ありがとうなと、いや、私がやったのではないのだけれどもという、そういうことで町に感謝もしていらっしゃいます。

以上です。

○岡野　勉委員長　佐藤委員。

○佐藤秀樹委員　97ページの補助金及び交付金の中の毛呂山町創業支援事業補助金60万なのですが、こちらの何件で上限幾らかお願いします。

○岡野　勉委員長　長嶺商工観光係長。

○長嶺　忍商工観光係長　質疑にお答えいたします。

創業支援事業の補助金につきましては、商工会さんのほうでお願いしてやっている創業支援計画における創業塾のほうの開催費用でございます。

以上です。

○岡野　勉委員長　佐藤委員。

○佐藤秀樹委員　それと次に、98ページの委託料の観光案内表示等整備業務委託料、これ次年度どこを計画しているのかお願いします。

○岡野　勉委員長　長嶺商工観光係長。

○長嶺　忍商工観光係長　質疑にお答えいたします。

こちらにつきましては、来年度につきましては桂木観音の先、ちょうどあそこから越生側から桂木のほうに下りてきまして、桂木観音のトイレに寄ってから、その後鼻曲山のほうに入っていく道ということで、その入り口のところの一番どんつきの家の手前、そこのところに観光案内的な看板が欲しいということで要望がありまして、そちらのほうにつける予定でございます。

○岡野　勉委員長　長瀬委員。

○長瀬　衛委員　短くて結構ですから。観光費を見ると、トイレの管理費と景勝地の土地借上料と観光協会の補助金、これが主なものです。毛呂山に基本的に言うと観光資源というのはもともと貧弱なことは分かっているのだけれども、やっぱり少し戦略的に、戦略も持たずに観光をこうやっていろいろ補助金や何か出していくだけでやっていたのでは、これ前へ進んでいかないような気がするのだけれども、先ほど毛呂山ではバラだとか、今のところバラと柚子と流鏑馬です。ふだん私、毛呂山の観光客ってあまり見たことないのだけれども、そういうイベントしか、毛呂山の入り込み観光客数というのは一時80万人とかと言ったけれども、川越の蔵造り通り１年間で800万人といって、10分の１も来ているわけないだろうと私いつか

言ったことあるけれども、今入り込み観光客というのはどの程度見ているのですか。

○岡野　勉委員長　長嶺商工観光係長。

○長嶺　忍商工観光係長　質疑にお答えいたします。

　正確な数字というのはちょっとあれなのですが、約45万人ぐらいというふうに、コロナのときに大分減ってしまいまして。

○岡野　勉委員長　長瀬委員。

○長瀬　衛委員　45万って聞くと幾らか分かる、80万というからうそだろうと思いましたけれども、いずれにしても観光資源が毛呂山町は基本的にないのです。ですから、ここでも身の丈に合った戦略を考えていかなければいけないと思いますけれども、さっきのハスもここに書いていないのだけれども、もう一つここに書いていないのはスワンボートです。この間ある人が鎌北湖行ったらスワンボートが何かぐちゃぐちゃになって置いてあるのだけれども、あれ何だと言っていましたけれども、スワンボートは去年は何かやったの。

○岡野　勉委員長　長嶺商工観光係長。

○長嶺　忍商工観光係長　スワンボートにつきましては、維持管理等については観光協会のほうで行っておりまして､その中で鎌北湖を一回干したときに壊れた状況が直したいということで考えてはいたのですが､そちらのほう直す業者のほうからも結構な金額を言われて、どうしていくかというのをまだ決定しあぐねているというところまでは確認しております。

○岡野　勉委員長　長瀬委員。

○長瀬　衛委員　最初にあそこでスワンボート大会するというから変だなと思ったのだけれども、何人か行った方もおられるのだけれども、それは物珍しくて行ったのだろうけれども、基本的に言うと無理があるのです。あれかなりかかったでしょう、スワンボート買うのに。幾らかかったのですか。観光協会といったって毛呂山町の事業でしょうから。

○岡野　勉委員長　宮寺産業振興課長。

○宮寺定幸産業振興課長　ちょっと額はこの場で手元にないので、分からないですけれども、５台で何十万円というような感じで記憶はしております。ちょっと数字が手元になくて。

○岡野　勉委員長　長瀬委員。

○長瀬　衛委員　５そうで何十万円で買えたかね、あれ。知らないけれども、いずれにしても１年か２年やっただけでしょう。ああいうふうに思いつきでやらないこと、観光事業を。もうこれは最初から分かっていることです。湖に今でも浮いているのでしょう、きっと。もう使わないなら早く片づけたほうがいいです。観光客来てびっくりしてしまうから。今年は桜、桜というのは昔は鎌北湖は桜いろいろライトアップなんかしていたけれども、もうそれも駄目なの、今、どうなの。

○岡野　勉委員長　宮寺産業振興課長。

○宮寺定幸産業振興課長　ライトアップについては、観光協会で以前行っていたものですけれども、今年度、今回は開催する予定は聞いてございません。

○岡野　勉委員長　長瀬委員。

○長瀬　衛委員　いずれにしてもしっかり、戦略的に無駄を生まないようにお願いします。

以上です。

○岡野　勉委員長　次に、132ページ、第13款諸支出金、第１項基金費、第５目緑の基金費、第６目森林環境譲与税基金費について説明を求めます。

宮寺産業振興課長。

〔宮寺定幸産業振興課長詳細説明〕

○岡野　勉委員長　これより質疑に入ります。ございますか。

小峰委員。

○小峰明雄委員　まず、確認しておきますけれども、森林環境譲与税、基金ということでお伺いしますけれども、これ予算執行する場合には、私の記憶なのですけれども、インターネットで公表するという手続があった記憶があるのですけれども、何か令和５年度がないように思うのですけれども、たしかインターネットで公表して、それでまた山林を所有していないところからの支援をいただくとか、私のうろ覚えで申し訳ないのですけれども、そんな記憶があるのですけれども、５年度に何かなさそうに思うのだけれども、どうですか。

○岡野　勉委員長　木村農林係長。

○木村正樹農林係長　ご質疑にお答え申し上げます。

確かに森林環境譲与税の使途につきまして、ホームページで公表するということにはなってございます。４年度までの使途につきましては現在公表しておるところでございまして、５年度につきましてはこれからの公表を予定しておるというところです。

以上です。

○岡野　勉委員長　小峰委員。

○小峰明雄委員　５年度ってもう終わってしまうよね。予算が通ったら載せるものではないのかなと、私はそう思っていたのだけれども、そうではないのだ。確認します。

○岡野　勉委員長　木村農林係長。

○木村正樹農林係長　ご質疑にお答え申し上げます。

年度終わりまして、実際にできましたら報告をホームページで公表するという形を今現在取っております。

○岡野　勉委員長　この際、暫時休憩します。

（午後　５時２５分）

○岡野　勉委員長　休憩前に引き続き会議を開きます。

（午後　５時２５分）

◎後日日程の報告

○岡野　勉委員長　本日の会議はこの程度にとどめます。

明３月14日は、午前９時半から委員会審議を再開いたしますので、定刻までにご参集願います。

◎散会の宣告

○岡野　勉委員長　本日はこれにて散会いたします。

（午後　５時２６分）

毛呂山町議会予算決算常任委員会　令和６年３月１４日（水）

◎開議の宣告

○岡野　勉委員長　ただいまの出席委員数は12名であります。

定足数に達していますので、これから予算決算常任委員会を開きます。

（午前　９時２８分）

◎議案第１９号の審査

○岡野　勉委員長　本日は、引き続き議案第19号　令和６年度毛呂山町一般会計予算歳出の部、第２款総務費から始めさせていただきます。

担当職員を入室させてください。

それでは、46ページ、第２款総務費、第１項総務管理費、第１目一般管理費について説明を求めます。

山口まちづくり整備課長。

〔山口貴尚まちづくり整備課長詳細説明〕

○岡野　勉委員長　これより質疑に入ります。

挙手をお願いします。

中村委員。

○中村奨平委員　皆様からもふるさと納税についてたくさんあると思います。私は一つだけ、委託料に関して、ふるさと納税業務委託料320万6,000円というのがありますが、直近のふるさと納税の傾向としまして、ご存じだと思いますが、また現金に近いようなもの、地域クーポン券であったり、レストラン宿泊券等々、昔にちょっと戻っているような、そうしたら送料もなくて済みますので、今東京都がすごくまた強くなってきているような状況なのです。この状況をまず認識されているでしょうか。

○岡野　勉委員長　岩上係長。

○岩上弘樹スマートシティ推進係長　質疑にお答えいたします。

今、いわゆる体験型と言われるものとか、あとはその場でしか本当にできないものというのが見直されてきているというのは認識しております。

以上です。

○岡野　勉委員長　中村委員。

○中村奨平委員　ただ、毛呂山町の返礼品を確認すると、やっぱりそれに追いついていない。人間ドックであったり、多少見当たるのですけれども、やはりそれをもっと超えた、よりキャッシュに近いような状態か今好まれてきていますので、行政としても、先ほど申し上げましたが送料もかからない、ｅクーポンであったりとかすれば。やはりそういうことを今やっているのに、これを委託している先、そういうことはなぜできないのか。例えば、町内にゴルフ場もありますよね。ゴルフ場、どんどん外から来てくれれば、そこのプレー代を補助するようなものであったりとか、私でもすぐぽんぽん出てくるのです。やっぱりこ

れだけ委託をしておきながら、なぜ毛呂山町はふるさと納税も始めるのも遅かったですし、今の流れにも追いついていない、これはどういう意図があって委託をしているのか、改めて教えてください。

○岡野　勉委員長　岩上係長。

○岩上弘樹スマートシティ推進係長　質疑にお答えいたします。

今おっしゃられた体験型商材等々を今やらないことと、それとどうして創成舎にそれをできないのかというようなご質疑だと思います。当初から体験型商材にかなり力を入れていこうということで、今おっしゃられたようなゴルフ場や、またキャンプ場、それからあとはパラグライダーとか、そういうのに声をかけていっております。ゴルフ場に関しては、プレーの、向こうの、すみません。オリムピック様の要するに事務的な関係で少しできませんというようなお断りをちょっといただいたところです。それ以外は、パラグライダーや、できると思われるところは今やっているというところです。

創成舎と定例会議をしておりまして、その中で今、商品が10月１日に厳格化になりまして、非常に厳しい状態だと。やっぱり体験型商材を改めて見直していかなければいけないと。そういう中で、今年はきこり体験会とかそういうのもやっているのですけれども、その方面で力を来年度は入れていこうという話をしていまして、創成舎のほうもハブになって、そこを改善できるように動いてくれるということを言っていますので、創成舎と一緒に来年度も委託業務をやっていこうというふうに考えております。

以上です。

○岡野　勉委員長　中村委員。

○中村奨平委員　大まかな流れはしっかり理解し、対応していただいているということですが、やはりそれでは物足りないと私は感じているのです。申し訳ないです。本当に申し訳ないですけれども、都内へ行けば各店舗、三つ星レストラン、ランチコースとかすごく細々、ゴルフ場でさっき対応ができないと、一般の名前で申し訳ないですけれども、ゴルフ場は対応できないとなりましたが、やっぱりそこを対応できるようにするのが創成舎のまさに役割であって、民間、それは一企業であったり、一個人商店にそういう対応をするのは難しいので、そういうのも含めて行政側からサービスを提供するというのが今の流れだと思うのです。やっぱりそこを一企業ができないというのは、それは当たり前だと思うのです。ふるさと納税というシステムを使って、いろんなところ、個人商店、ラーメン屋さんでも何でもそうですけれども、そういう地域を活性化させる、毛呂山町だったら参加してくれたらどこでも使えますよと、今のＰａｙＰａｙのように。そういうシステムをやっぱりつくり上げないと、勝てないのです。それを認識していただきたいと思うのですが、この点、私の言っていることに対して何か違和感というか、間違っているところあれば教えていただきたいのですけれども。

○岡野　勉委員長　岩上係長。

○岩上弘樹スマートシティ推進係長　質疑にお答えいたします。

全く違和感はなく、要するに今、体験型をするにしても、その場で何か手間なくやらなければいけないと。ですから、キャッシュレスを使うようにその場で体験を、少しの体験でもふるさと納税に取り入れていかなければいけないという大きな流れが今でき始めています。そのような流れを私たちもつかまえなくてはいけないのですけれども、個人商店さんだとなかなかやっぱりちょっと難しいということを言われま

すので、本当にレジとかで手間なくできるようなことを考えていかなければいけないというふうに考えております。

以上です。

○岡野　勉委員長　中村委員。

○中村奨平委員　分かりました。これ以上は、ここで言っても仕方がございませんので、最後、意見で申し訳ないのですが、やはり今年も歳入のほうでも減額を見込んでいると。一般答弁でも毛呂山町は伸びているといっても、前回の決算のときに申し上げましたが、全体のパイから比べると、それにも追いついていないという状況ですので、改めてわざわざ委託を出す理由を明確に示していただけるよう返礼品を増やしたり、金額を上げたりと結果を出していただければと思いますので、どうぞよろしくお願いします。

○岡野　勉委員長　よろしいですか。

佐藤委員。

○佐藤秀樹委員　それでは、同じく49ページのまずふるさと納税業務委託料なのですけれども、これ昨年ですと委託先がさとふるが147万8,950円、創成舎が252万2,850円ということだったのですが、今年、これ約100万減額になっているのですけれども、内訳をお願いします。

○岡野　勉委員長　岩上係長。

○岩上弘樹スマートシティ推進係長　質疑にお答えいたします。

業務委託料の内訳でございます。業務委託先は２者になります。株式会社さとふると、それから株式会社もろやま創成舎の２つという形になります。契約は４本になっております。まず、さとふるが２件、それと創成舎が２件でございます。さとふるの業務委託料は110万8,800円を見込んでおります。そしてもう一点、さとふると書面の発行の委託というのを組んでおりまして、こちらのほうが７万2,930円、株式会社創成舎のほうも同様で、委託料が173万8,000円、それから書面の発行委託料が28万6,000円を見込んでいるところです。

以上です。

○岡野　勉委員長　佐藤委員。

○佐藤秀樹委員　それぞれ減額になった理由は何かあるのですか。交渉の末、減額になったとか、何かしら減額の理由はあると思うのですが。

○岡野　勉委員長　岩上係長。

○岩上弘樹スマートシティ推進係長　質疑にお答えいたします。

減額になった理由といたしましては、まず歳入を5,000万円から4,000万円に下げましたというところで、そのまま減額になっているということでございます。

以上です。

○岡野　勉委員長　佐藤委員。

○佐藤秀樹委員　ほかの人もあると思うので、もう一点だけ。当初のふるさと納税の年度の予定額、見込額というか目標額があったではないですか、一番最初の。３年で１億でしたっけ、２億でしたっけ。大分そこからもう差があるのですけれども、その辺の改めて年度ごとの営業目標と、それに対する営業計画とい

うものというのは、改めて立てられるのかどうか。やっぱり目標がないとなかなかそこに向かって頑張ろうという気持ちにもならないと思いますし、ですので改めて計画というのは必要かなと思うのですけれども、短期、中期、長期の。その辺は、どう考えているのかお伺いいたします。

○岡野　勉委員長　岩上係長。

○岩上弘樹スマートシティ推進係長　質疑にお答えいたします。

一番最初、もろやま創成舎というか、まちづくり整備課にふるさと納税が来た段階で、約ですけれども、900万ぐらいのふるさと納税の額でした。それも当時、令和元年度で災害があって、そのうちの半分が災害の金額でした。その前の年でいきますと約500万円ぐらいという形で、どんどん、どんどん下がってきているときだったのです。

当時、よく言われる大きな金額を言ったのです。言っておりましたが、実際に業務に取り組んでいきまして、その中で見えてきたものというのがかなりあったと。その中で、やはり毛呂山町の商材だけではなくて、商材を作る生産力というのを考えていなかったというところも当然ありました。個人商店さんが出せるパイというのが、もうちょっと多く当然見込んでいたのですけれども、必ずここまででというような基準というか、向こうも約今の10だとしたら、プラス１割ぐらいは出せますけれどもというような、パイというような形でした。

それで、商品を増やしていくとともに、何というのですか、私たちはそれを限界値と呼んでいるのですけれども、限界値がどのくらいかというのが分かってきたと。それを商品に当て込んでいきますと、下方修正せざるを得ない状態でしたと。その中で限界値プラス商品数、それからパイに対してのコンバージョン率といって、来ていただいて買う率というのを計算していきまして、今の時点では5,000万が妥当という下方修正を取ったところです。

そこで、今年度に入って、正直、最初のうちはかなりいいペースで来ていましたので、いけるのではないかという気持ちもあったのですけれども、10月１日の時点で思った以上に９月が取り切れなかったと。その反省点がありまして、もう一度10月から12月にかけてポータルサイトを見直したりとかしたのですけれども、それが追いつかなかったというような状況です。ですから、下方修正も当然していく中で、今現状値としては、私たちは5,000万を目標にふるさと納税を出していくという下方修正の下、創成舎で同意をして進めるということを考えております。

以上です。

○岡野　勉委員長　佐藤委員。

○佐藤秀樹委員　まさに今説明したとおりだと思うのです。やはり企業も中期目標があって、それを分割して単年度の目標をつくって、でもそこに向けて前年百何％とかって掛けて、それを月割りして動くわけですけれども、それでもし月単位でいかなければ、当然期の途中で下方修正をして、ではこのくらいで落ち着いてというやっぱり目標を立てて進めるのが営業セールスだと思いますし、また企業だと思いますので、当然下方修正したのであれば、きちんと数字を言わないと、数字だけがやっぱり一人歩きしてしまうところがありますので、そこはオープンにして、でもこれだけは絶対やるのだという強い意思でやっていただければと思いますので、よろしくお願いしします。

以上、いいです。

○岡野　勉委員長　長瀬委員。

○長瀬　衛委員　ふるさと納税について聞きたいのだけれども、これ令和２年度から創成舎を介してきておりますけれども、ふるさと納税、基本的にいえばやっぱり創成舎、まちづくり会社を介して、最初のときにここへ説明に来ましたね、世界の斉藤さんといったっけ、あの方が説明したの印象的に残っているのだけれども、とにかくどんどん倍々ゲームでいって、町の財政的な面で町にも貢献するのだということでしたけれども、令和２年度から創成舎を介して今日まで、例えば寄附者には何か利用目的みたいなものがあるのでしょう、あれ分離されているのでしょう。そういう政策的な意味で、そういう寄附者の意向というものが、実質的に達成できるだけの財政面の効果というのは出ているのですか。令和５年度はどうでしたか。

○岡野　勉委員長　岩上係長。

○岩上弘樹スマートシティ推進係長　質疑にお答えいたします。

今おっしゃられたのは、ふるさと納税のいわゆる使途、使い道の話だと思います。私たちも最初は、令和２年度に受けた段階では、町政一般といいまして、何というのですか、町のほうで、そのとき重要だと思われるものに使いますよというような話だったのです。令和２、３年とやってきまして、なかなかそれだとやはり委員さんおっしゃるとおりに、寄附をしたものが何に使われているのかというのが分からないと、寄附をしても意味がないのではないかという気持ちになられる方が多いというようなアドバイスも埼玉県や総務省からも受けておりましたので、ここで寄附の使途のほうを改めてつくらせていただいて、令和５年度というか令和５年ですね、すみません。令和５年の寄附に対して、令和６年でそれを使った使い道をオープンにしていくというようなことを今やっているところでございます。

○長瀬　衛委員　それも幾らかでも相対的に利益、収益が出ての話だと思うのだ。令和２年度から今日まで創成舎に対して人件費分当然町の財政から出すし、それからまちづくり活用補助金というのも令和５年度は創成舎に幾らか行っているのでしょう。

〔「はい」と呼ぶ者あり〕

○長瀬　衛委員　そういう意味でいくと、恐らく令和２年度からずっと赤字続きでしょう。実績、財政的に、毛呂山町の財政面で考えると。だから結局寄附者の思いというか、そういう目的には基本的には使えていないわけですよね、ほとんど赤字なのだから。これは本来のまだ目的達成までとてもではないけれども行っていない気がするのです。まちづくり活用補助金というのは、これ何ですか。創成舎に何か協定書かなんかで決められているのですか、ちょっとよく分かるように説明してくれませんか。これからも、これは毎年出るのですか、まちづくり活用補助金というのは。ふるさと納税の収益から創成舎に対して出ていくものなのですか。

○岡野　勉委員長　岩上係長。

○岩上弘樹スマートシティ推進係長　質疑にお答えいたします。

まず、創成舎がいると、職員が出ると赤字になっているのではないかというようなお話もあるかもしれませんが、会社ですので、ふるさと納税だけをやっているわけではなく、いろんな業務に携わっていると

いうふうに私ども聞いているところです。

そういった中で、委員さんおっしゃっているのは、町としてはその分の見返を十分に頂いていない状態ではないかというようなことだと思いますが、それが十分に果たせるように私たちも一緒に業務を見ていくというようなことを今考えているところです。

また、まちづくり活用補助金について、都市計画総務費なのですが、いいですか、課長。いいですね。これは……

○岡野　勉委員長　いいですね。

○岩上弘樹スマートシティ推進係長　別にどちらでも。

〔「都市計画」と呼ぶ者あり〕

○岡野　勉委員長　都市計画……

〔「……関係していないの」と呼ぶ者あり〕

○岩上弘樹スマートシティ推進係長　関係しております。

〔「しているんだな」と呼ぶ者あり〕

○岩上弘樹スマートシティ推進係長　しています。

○岡野　勉委員長　いいですか。では、継続してください。

○岩上弘樹スマートシティ推進係長　改めまして、まちづくり活用補助金に関しましては、都市計画総務費に入っておりますが、仕組みとしては、ふるさと納税の金額に対して、まちづくりに関するものということで創成舎のほうに出すという協定の下、出す支出という形になります。具体的には、例えばふるさと納税が分かりやすく1,000万だといたしますと、半分は経費になるわけです。ですから、500万円は例えば委託料だとか、送料だとか、それからポータルサイトの使用料だとかになくなってしまうと。残り500万残るわけですけれども、その中でいわゆる毛呂山町に在住の方が、ほかにふるさと納税をしていくというふうに思うのです。思うというか、実際にしているのです。それが約4,000万ぐらいある、令和５年度でいえば4,000万円ぐらいがふるさと納税に出てしまうお金なのです。そこから25％が町の持ち出し分になりますので、それを相殺して、その半分の額が一応まちづくり活用補助金になるということです。使途としては、創成舎の設立趣旨では、毛呂山町がわくわくできるような新しい仕事を創出するために使うというような形になります。

以上です。

○岡野　勉委員長　長瀬委員。

○長瀬　衛委員　いずれにしても、こういう制度がある以上、今言ったように流出税が、これはもう当然出てくるから、毛呂山町がふるさと納税やめたというわけにいかないのですよね。やらざるを得ないのだけれども、いずれにしてもプラスにならないと、実質財政面で毛呂山町に少し残らないと、実質的にはだって、理論的には寄附者のあれは回っていないということでしょう、利益が出ていないのですから。少しでも利益が出て、初めて効果というのが現れるのだと思うのだけれども、いずれにしても毛呂山町は創成舎を介しているけれども、創成舎を介しているために、人件費だとかそういうまちづくり活用補助金みたいなのが出ていくのだけれども、よその町なんていうのは、やっぱりまちづくり会社を介してやっているの

ですか、ふるさと納税というのは。

○岡野　勉委員長　岩上係長。

○岩上弘樹スマートシティ推進係長　質疑にお答えいたします。

それぞれやっている業務というのが違う業務、考え方が違いますので、一概に全てを任せているという形ではないのですけれども、私が個人的にというか、やるときに聞いた段階では、約ですけれども、４割から５割ぐらいのところが何かしらの会社に委託をしているという状態です。さとふるさんを契約した時点で、さとふるに全委託になりますので、さとふるを出しているところは委託していると考えていただいて大丈夫だと思います。

○岡野　勉委員長　長瀬委員。

○長瀬　衛委員　いずれにしても、どうも4,000万円という頭打ちの状況ですから、これから格段に納税額増えればいいのだけれども、このままでいくとずっと実質的に財政面、町の赤字ではないの。少しふるさと納税に取り組む姿勢をよく検討していただいて、少しでもプラスになるようにしないと、これでは意味ないではないですか。どうです。

○岡野　勉委員長　岩上係長。

○岩上弘樹スマートシティ推進係長　委員さんおっしゃるとおりで、やる以上はどんどん右肩上がりで、これはふるさと納税といっても資本経済と一緒ですので、右肩上がりになっていくということも十分私たちもやっていかなければいけないと。今年度に限っては、かなり寄附額が下がっていきそうな形ですので、またもう一度建て直していかなければいけないというふうにも考えています。

ただ、１点、先ほど中村委員さんおっしゃいましたけれども、やはりふるさと納税というのは、納税額を増やして、それを町に落としていくということが１点と、さっきおっしゃられたような町の中で来ていただいて、毛呂山町を知ってもらって、好きになってもらって、いずれは住んでもらうというような、そういう流れもある意味できるコンテンツなのです。その中で、やはり体験型商材というのを改めて見直されているというのは、やっぱり皆さん、そういうのを求められているのかなというところも感じておりまして、それが毛呂山町の経済の発展につながるような形で、もう一方でしっかりとプログラムを組んでいかなにければいけないというふうに考えていますので、そちらのほうをまたご理解いただきながら、皆さんにご協力いただいて、ふるさと納税を続けていきたいというふうに考えております。

○岡野　勉委員長　平野委員。

○平野　隆委員　私もふるさと納税で、今、数字のほうは質問があって分かったのですけれども、もうほとんど出尽くしたので、でも何点かお聞きしたいのですが、毛呂山町の規模は分かったのですけれども、今ふるさと納税の現状として、全国の規模で今何百億円規模から何千億円て増えてきているのですけれども、今現在、全国規模はふるさと納税というのはどのような市場なのでしょうか、お伺いします。

○岡野　勉委員長　岩上係長。

○岩上弘樹スマートシティ推進係長　今、毛呂山町だけを見れば非常に少ないということですが、それぞれの例えばですけれども……

〔「全体の」と呼ぶ者あり〕

○岩上弘樹スマートシティ推進係長　全体のですか。

〔「市場において……」と呼ぶ者あり〕

○岩上弘樹スマートシティ推進係長　正確にはあれですけれども、１兆円に届いていくというふうに言われている市場です。今、ちょっと今年度の１月からは、かなりいびつな動きになっておりまして、能登半島のほうにほぼ寄附が行っています。ほかもリサーチしましたけれども、埼玉県下でも売上げがかなり下がっているというような状態です。だから何というのですか、ふるさと納税というのは一概にやったから、やればそれは結果が出るのですけれども、そういうような風評にもかなり影響される市場だということでございます。

○岡野　勉委員長　平野委員。

○平野　隆委員　分かりました。今現在は、だからそういうふうな動きもあるということも併せて伺いましたけれども、市場としては１兆円が今日本中で動いているということで、このふるさと納税の仕組みというのは、要するに、これ自治体間で皆さん望んでいなくても、競争を今させられているわけであって、当然日本中全ての自治体が黒字になるというシステムではないので、出ていった分は原因があるということは、当然競争ある以上、ちょっと勝ち組と負け組に分かれてしまうような、そういうシステムなのですけれども、そういった中で皆さん頑張っていただいているのですが、いずれにしても最初は創成舎のほうから説明受けて、今先輩委員もおっしゃっていましたけれども、２億とかそういう言葉があって、そういうふうにスタートしたのですが、やはり予算として現実を踏まえていくと、そういうものではなかったというのが今の現状になっていると思うのです。

ただ、毛呂山町というのは税収の少ない町だから、では企業誘致をする、観光対策をするといっても、なかなかそんな大きな収入というのは得られなくて、そもそも我々も創成舎というのに期待をしたというのは、毛呂山町が税収を上げるには、この仕組みしかもう頼りがないというか、この町が、こういう立地条件の中で大きな税収を得る唯一のチャンスがこのふるさと納税だって私、前に申し上げたのですけれども、そういった中で、そもそもは総務課でスタートしたのですけれども、それがスマートシティかなんかそういうものとリンクして、今所管が、最初は総務課だったのが、まち課に移ったという経緯があります。

皆さんに対してどうこうではないし、ちょっと失礼を承知で申し上げるのですけれども、前も一般質問でもさせてもらったのですが、町の中というのは結構、例えば施設個別計画なんかも、何で管財課がやらないのですかといっても、いや、なぜか企財なのですよ、そういう答弁しか返ってこないのですけれども、このふるさと納税も本来であれば、企画財政とかのほうが得意な分野だと思うのです。所管替えとかというのは、皆さんに対して本当に失礼なのだけれども、やっぱり本業というのはあるものだから、まち課というのは本来道路を造る課なのですから、そういうのは可能なのですかという質問をしたときに、所管替えは可能だというのです。という答弁ももらっているのですけれども、ただまち課がこれ以上頑張っていって、一生懸命やってもらっているのですけれども、やはりこのシステムで勝ち組になるためには、もうそういったものを全部取っ払って、やっぱり一番得意な課が力を使ったほうが私はいい結果が出るのではないかなと思うのですけれども、これ頑張れば全員勝てるのではなくて、何度も言うけれども、勝ち組がいるということは、負け組も必ずいるのだから、このシステムは全部の自治体がもうかるシステムではな

いので、そういった議論というのは、私も質問したのですけれども、やっぱり全然ないわけですか、そこだけちょっと確認を。

○岡野　勉委員長　岩上係長。

○岩上弘樹スマートシティ推進係長　質疑にお答えいたします。

現状をよく分析していただいてありがたいなというところなのですけれども、ふるさと納税が企画財政課で持ったほうがいいとか、総務課で持ったほうがいいというのは、当然担当としても、まちづくり整備課としてもいろいろ議論を尽くすところだと思うのですけれども、今担当として携わらせていただいているところということでいいますと、ふるさと納税というのはどうしても職員というか、個人が関わることが多くなる仕事です。

というのは、どちらかというと商店に行って、ふるさと納税ありませんか、こういう体験型コンテンツ一緒につくってみませんかというような話をするところなのです。それぞれの人にとって、毛呂山町の得意なところと不得意なところってあると思うのです。私でいえば、出身が西側の出身なので、西側とか真ん中あたりは結構人を知っているので、行って、すごく話ができるのですけれども、東側の人についてはあまり知らないので、行っては話しますけれども、向こうも、だったら出してあげようという気持ちにはなかなかならないのだと思います。

そこがいけないことなのかもしれないのですけれども、だから何というのですか、そういう人につくところもありますので、職員が、私、今一緒にやっている子が川中のほうの担当なのですけれども、その子が東側を担当して、私が西側のほうを担当するみたいな割り振りを今しているのですけれども、そういうところも当然あるのかなというふうに感じていますので、今言われたような皆さんでやっていくというのが非常に大事なことになるのではないかというふうに考えているところです。

○岡野　勉委員長　よろしいですか。

では、小峰委員。

○小峰明雄委員　まだふるさと納税業務の委託料で、さとふるという、このさとふるに決めている要因というか、これ何かあるのですか。

○岡野　勉委員長　岩上係長。

○岩上弘樹スマートシティ推進係長　質疑にお答えいたします。

さとふるさんのほうは、正直、毛呂山町が平成27年からやったときに、一番最初からさとふるさんをやっていたということがございます。私たちが引き継いだときに、さとふるさんのほうが一番寄附実績があったサイトでした。今は、楽天さんとか、あとはふるさとチョイスさんのほうが多くはなってきているのですけれども、決して無視できないようなコンテンツ的には数字だったので、さとふるのほうを継続して契約しているというところでございます。

○岡野　勉委員長　小峰委員。

○小峰明雄委員　手数料関係はどうなのですか。

○岡野　勉委員長　岩上係長。

○岩上弘樹スマートシティ推進係長　手数料関係でいきますと、さとふるさんのほうは手数料ということは

なくて、12%の委託契約の中に手数料が全て入っているという、ちょっといびつな形の、いびつというか、さとふるさん独自の会社になります。

以上です。

○岡野　勉委員長　小峰委員。

○小峰明雄委員　ほかは、さとふる以外は。

○岡野　勉委員長　岩上係長。

○岩上弘樹スマートシティ推進係長　手数料のほうは、それぞれ会社が違っておりまして、具体的にいうとですけれども、１つのサイトに大体２つから３つの会社と契約するというイメージを持っていただければと思います。例えば、ふるさとチョイスでいきますと、カード会社、それからＰａｙＰａｙなどのエアペイみたいな、そういう会社とカード会社が２つに、そういう何とかＰａｙという会社が１つというようなイメージを持っていただければと思うのですけれども、今さとふるを入れて９つ契約をしていますので、残りさとふるはさとふるで独自でありますというふうに申し上げました。

残り８社あるのですけれども、三八、二十四で24社ぐらいと契約をするというようなイメージで持っていただければと思います。それが手数料ということです。手数料については、カード決済手数料は１％になりまして、それ以外の場合は２％から3.5%と会社によって違います。

○岡野　勉委員長　小峰委員。

○小峰明雄委員　最後に、やはり令和６年度の当初予算を計上していく。毎年、毎年なのですけれども、やはり一度原点に戻って、例えばふるさと納税に関して入りはありますよね。では、出はどうだろうと。数字的なものをしっかり把握しているのか、やっぱり赤字だ、赤字だ。では、赤字の額は幾らなのだ。だから創成舎に人件費を除いて、やはり今どうなっているのだろうというのをきちんと数字をもって出すというのは大切だと思うのですけれども、そういうことはされたことございますか。

○岡野　勉委員長　岩上係長。

○岩上弘樹スマートシティ推進係長　質疑にお答えいたします。

委員さんおっしゃるとおりで、数字をしっかりと追って、数字によって情報を下方していくというのが当然のことだというふうに思います。

創成舎の人件費というものというのは、創成舎というのはふるさと納税業務だけを先ほどみたいにやっている会社ではありませんので、例えば創成舎の庶務、それから再生可能エネルギー事業やまちづくり事業と様々な事業を行っているわけですけれども、人件費という概念を抜きますと、当然ですけれども、ふるさと納税はプラスになります。なっています。簡単に言いますとですけれども、5,000万円の、ごめんなさい。では、4,000万円にしましょうか。4,000万円のふるさと納税が入ったとして、半分は経費になるわけです。それ以外のところでいいますと、先ほど言った外部に出てしまう金額というのは、令和５年に至りましては4,092万7,000円なのです。そのうち町が支出するのが1,023万1,750円を町が支出するわけですから、その残りは人件費等考えなければ全然プラスになっていますよと。約ですけれども、1,000万円ぐらいは当然プラスになっているのですよというような形になります。

以上です。

○岡野　勉委員長　小峰委員。

○小峰明雄委員　ちょっとよく分かりづらかったのですけれども、町民の方が例えば外にしています。それも、そういうもの全部合算して、では今のところ実質1,000万ぐらいの黒字だという、そういうことでよろしいのですか。

○岡野　勉委員長　岩上係長。

○岩上弘樹スマートシティ推進係長　人件費をいれなければ、今言ったような計算式は成り立つというようなことでございます。

○岡野　勉委員長　小峰委員。

○小峰明雄委員　では、例えば創成舎を除いて、ふるさとだけやっていれば、職員さんが直に行っていれば、もっと利益が出ているということになるのですか。それとも、やはり違うよね。創成舎で、やっぱりそこでその分あるわけだから。

　あと、ちょっと自分が思っているのは、イメージとしては、やはり町民の方が外にふるさと納税されていますから、その分ありますよね。そういう差引きとかは全然、これ今のお話はない、入っていなくて言っているのですか。ちょっとそれ確認しますけれども。

○岡野　勉委員長　岩上係長。

○岩上弘樹スマートシティ推進係長　質疑にお答えいたします。

　まず、１点目ですけれども、創成舎がやらなければ、その分が委託料分がプラスになるのではないかというようなまず話だと思うのですけれども、一概に私たちはそういうことは思っていなくて、やはり創成舎がいるから売上げが上がっているという部分も当然あるというふうに私は思っております。ただ、数字の、今言ったクリアに数字の部分だけ言えば、町が直営でやれば、その分の委託料はなくなりますねというような話は成り立つと思います。

　それと、あと２点目なのですけれども、外に要は出てしまう分というのが令和５年に関しましては、先ほど申しましたが4,092万7,000円外に出ていっている、これが実質的に寄附額になります。要は、そこから町はその分の25％を賄わなければいけないということになるのです。それが1,023万1,750円というのが、その25％の額というような形になります。

　例えば、4,000万円でいきますと、経費が約ですけれども、2,000万円になりますと。そのあと残りが2,000万円残りますので、約ですけれども、簡単に言えば1,000万円を引くと、実質的には分配できる寄附額というのは残りますねというような話にはなるのです。

○岡野　勉委員長　小峰委員。

○小峰明雄委員　先ほど創成舎ができたからいろいろ変わったというけれども、創成舎ができた時点のときって、担当職員さんと同じだったですよね。私は、そこで不思議なのは、職員のときに返礼品の数がこれだけしかなかったのが、同じ人物が創成舎へ行ったら返礼品がどんと増えましたよね。それが私、不思議なのです。まあ、いいです、答弁は。これが私の疑問なのです。

〔「意味は何となくわかります」と呼ぶ者あり〕

○小峰明雄委員　いいです。

○岡野　勉委員長　いいですか。

ここで私は質疑をしますので、ただいまから委員長の職務を副委員長に代行いたします。

〔委員長、副委員長と交代〕

○澤田　巖副委員長　ただいまから委員長の職務を行いますので、どうぞよろしくお願いします。

岡野委員。

○岡野　勉委員長　ふるさと納税にアマゾンが今度は参入するというような情報というか、発信しているようですけれども、その点はどうなのでしょうか。聞いているのですか。

○澤田　巖副委員長　岩上係長。

○岩上弘樹スマートシティ推進係長　質疑にお答えいたします。

アマゾンが参入するというのは知っていまして、アマゾンとは打合せをしております。

以上です。

○澤田　巖副委員長　岡野委員。

○岡野　勉委員長　これはアマゾンは、外国の企業なのでしょうか。どうでしょうか。そんな面で。

○澤田　巖副委員長　岩上係長。

○岩上弘樹スマートシティ推進係長　質疑にお答えいたします。

本社はアメリカかもしれませんが、アマゾンジャパンという日本の法人と打合せをしているというところです。

○澤田　巖副委員長　岡野委員。

○岡野　勉委員長　それで、本当に今、日本の抱えている問題ということでは、この間話されていますけれども、やはり超少子高齢化の社会を見てみますと、非常に安心安全な地域づくりというところで問われているなと。それと、あと気候変動もゲリラ豪雨の中で本当に大変な状況があります。それで地震等の、そういった中で職員が少なくなっている中で、本来の業務というのがこれから堅くしていかないと、本当に基本的な対応ができにくくなっていく。そしてまた、昨日の新たな認識としては、生活保護も県内一番の、そういった中でより身近な、よく聞かれるのがやはり本来のまち課の業務をぜひ充実させてほしいということが言われますが、そういった意味で課としての受け止めというか、それをより充実したまちづくりという意味でお聞きしたいと思います。

○澤田　巖副委員長　山口課長。

○山口貴尚まちづくり整備課長　ご質疑にお答えをいたします。

アマゾン株式会社との提携ですとか､そういったやはり寄らば大樹の陰というのもございますけれども、そういったところを十分に活用していきたいというのが基本的な考え方でございます。また、適材適所の業務というのもございます。寄附の関係でしたら総務課、補助金の使途につきましては企画財政課、それで補助金を取ってくる、ふるさと納税を取ってくるというところについてはまち課でやっていたわけでございますけれども、そういった三すくみの連携の見直しのほうもいろいろ皆さんからご意見いただいているところでございますので、見直しのほうも十分に図っていければというふうに考えてございます。

○澤田　巖副委員長　岡野委員。

○岡野　勉委員長　そうですね。今、適材適所というような答弁もありましたけれども、私はそういったことよりも、やはり今後、外国資本はじめ大競争の中に、こういうふるさと納税が、その渦中にどんどん入って勝ち負け、先ほど同僚議員が言われましたけれども、本当に勝ち負けの競争の中があるという意味では、やはりこの流れというのは、近い将来で方向転換があるのではないかと私は思うのですけれども、手を広げ過ぎるということではなく、再検討と、見直しということもあると思うのですが、その点で状況的に担当課としてはどうお考えでしょうか。

○澤田　巖副委員長　山口まちづくり整備課長。

○山口貴尚まちづくり整備課長　ご質疑にお答えをいたします。

　これからふるさと納税制度について方向転換等もあるというお話でございますけれども、まさにそのとおりでございます。やはり総務課と企画財政課、まちづくり整備課連携して、その辺の対応のほうを努めてまいりたいと考えております。

○澤田　巖副委員長　委員長の質疑が終わりましたので、岡野委員長に職務を戻します。

〔副委員長、委員長と交代〕

○岡野　勉委員長　では、次に98ページ、第８款土木費、第１項土木管理費、第１目土木総務費について説明を求めます。

　山口まちづくり整備課長。

〔山口貴尚まちづくり整備課長詳細説明〕

○岡野　勉委員長　これより質疑に入ります。

　小峰委員。

○小峰明雄委員　100ページのシステムサーバー保守委託料１万4,000円ということですけれども、その関係で事務事業備品を購入するわけですけれども、これは歳出根拠をお伺いします。

○岡野　勉委員長　長島係長。

○長島秀夫道路管理係長　質疑にお答えいたします。

　測量計算ＣＡＤシステムについて、サーバーの保守期限が切れたことにより、令和６年度に導入を予定しております。導入が６月１日からとなります。４月、５月分については導入前であって、さらに現在使用しているサーバーが使用期限が５年が過ぎていて、今延長に入っております。延長分の保守費用として４月、５月分の測量計算ＣＡＤサーバー保守委託料として１万4,000円を計上しておるところです。

　以上です。

○岡野　勉委員長　よろしいですか。何かございますか。いいですね。

○小峰明雄委員　はい。

○岡野　勉委員長　次に、100ページ、第２項道路橋りょう費、第１目道路橋りょう総務費から第３目道路新設改良費までの説明を求めます。

　山口まちづくり整備課長。

〔山口貴尚まちづくり整備課長詳細説明〕

○岡野　勉委員長　これより質疑に入ります。

挙手をお願いします。

では、佐島委員。

○佐島哲普委員　委託料についてちょっとご説明といいますか、質疑させていただきます。

第四団地雨水対策現況調査委託料というのですか、こちらが計上されていますけれども、実際これがある程度必要だとなると、概略設計とか、その上の工事請負とかそういうふうになっていくと思うのですけれども、この現況調査で大体概略設計までいったものというのは、ここ数年でどんなところがあって、結びついたのは、そこから概略設計までいくのは大体どのくらいの割合なのかなというのをちょっとお聞きしたいのですけれども。

○岡野　勉委員長　細井係長。

○細井宏和道路工務係長　概略設計で近年行っているのが、今旭台地区を昨年度現況調査して、今年度、概略設計の予算計上しております。通常の道路改良工事なんかですと、通常いきなりもう詳細設計でやってしまって、概略というのはやっぱりよほど大きなものではないとやっていない状況です。例えば、橋はあんまり町はやっていませんけれども、長寿命化の修繕計画を今年度やっていますが、それもいきなり詳細ですので、通常の規模では道路改良工事等では概略はやらないで、いきなりもう詳細設計ということです。概略を今やっているのは、冠水工事の旭台地区ということで、冠水工事絡みについては概略を入れて、１回まず現況調査して、複数の工法を選定して、最適な工法を決めて、そこから詳細設計というふうな流れでいくものと認識しております。

以上です。

○岡野　勉委員長　佐島委員。

○佐島哲普委員　そうしますと、今回、第四団地の現況調査をするに至った経緯というのは、どのようなものでしょう。

○岡野　勉委員長　細井係長。

○細井宏和道路工務係長　この第四団地につきましては、令和元年の台風19号であったり、令和２年度７月の大雨であったり、道路冠水して、地域住民に支障をもたらして、区長さんも大変心配されております。過去に町としては側溝の一部改修や雨水の排水清掃業務等も行って、道路清掃等も行って改善は一部図ってきたのですけれども、抜本的な解消にいたっていない状況ですので、今回、現状の排水構造物の状況や冠水原因のメカニズム解明を調査して、今後の設計業務に生かしていきたいというふうに考えております。

以上です。

○岡野　勉委員長　佐島委員。

○佐島哲普委員　それでは、このような今後、現況調査をしてほしいとか、町民の要望のある場所とか、そういうのがありますでしょうか。

○岡野　勉委員長　細井係長。

○細井宏和道路工務係長　今現在、私のほうで認識しておるのは、今年度概略設計している旭台地区、あと第四団地の雨水調査地区、あと川角中学校グラウンド南側の町道７号路線の谷ヶ跨水路に接するところの冠水、あと大谷木地区丸井団地の冠水、大きなものとしてはそのものを認識しております。

以上です。

○岡野　勉委員長　よろしいですか。

堀江委員。

○堀江快治委員　まず最初に、予算書のこの部分とは違うのですけれども、継続費になっている日化団地の踏切の継続費になっている工事、これ見通し、過日の説明では、なかなか難しいというのですけれども、何か業者の方が引き受け手がなかなかいなかったという話を聞いておるのですけれども、この点については、今年は間違いなくできるのでしょうか。

もう一つ……

〔「一問一答」と呼ぶ者あり〕

○堀江快治委員　それはいかがでしょうか。

○岡野　勉委員長　細井係長。

○細井宏和道路工務係長　入札不調の理由につきましては、人手が足りないとかということでいろいろあったのですが、一応その後、ちょっと何件か町内業者のほうも当たってみまして、時期的にちょっと悪かったということで、工事のほうについては年度が明ければ対応してもらえるものというふうに認識しております。

以上です。

○岡野　勉委員長　堀江委員。

○堀江快治委員　業者から受けが悪く、仕事を出すのですから、本来は業者さんが喜んでやっていただけるものなのだけれども、何であそこはみんな敬遠してしまうのですか。何か原因があるのですか。

○岡野　勉委員長　細井係長。

○細井宏和道路工務係長　聞き取り調査の結果の中でですけれども、発注時期が平準化を図るので時間がかかる側溝修繕工事等を早めに出して、そうではないものを後期に出したのですけれども、一つはちょっと時期的に人手が足りないということと、やはり踏切の前後ですので、施工上どうしてもちょっと制約を受けると申しますか、やりづらいという部分もあるものというふうに認識しております。

○岡野　勉委員長　堀江委員。

○堀江快治委員　その現状は、去年、今年になっても変わるわけはないでしょう。同じことでしょう。あのような工事をするときには、東武鉄道との関係もあるし、交通量との関係もあるし、電柱の移設なかなか難しいでしょう、あれ見て。それから、本来、町が買い受けた土地を隣地の人に売却してしまっているものだから、三角の左側の、こちらから行って三角の非常に狭いところ。それで、売却してしまったところは、既に今駐車場に使っている。ああいう形だと、業者さんもなかなか手が出しづらいのではないかと思うのだけれども、東武鉄道なんかでは何と言っていますか。ケーブルがどうのこうのって話ありましたね。その点についてはどうなのですか。

○岡野　勉委員長　細井係長。

○細井宏和道路工務係長　まず、東武鉄道のほうについては、踏切に接する部分については近接協議というものが必要ですので、それは以後１回ちょっと入札不調があった関係で取り下げたのですけれども、その

件については特に東武鉄道のほうから指摘というのはありませんでした。

次に、地下ケーブルの話ですけれども、これはＮＴＴの地下ケーブルで、通常の電柱施設というのはおおむねほとんど新しい電柱を新設して、古いほうを抜柱して、線の架線を張り替えるというだけの工事がほとんどなのですけれども、今回は踏切の影響があるかもしれないのですが、地下ケーブルもＮＴＴのほうがありましたので、それに伴う時間的制約、時間がかかる見積りを積算するのも時間がかかる、工事をするのにも時間がかかるということで、今年度、あとＮＴＴさんが今手持ちの工事がいっぱいあるということで、そのような理由から年度内の完全な移設作業というのはできないというふうにＮＴＴのほうから説明を受けています。

以上です。

○岡野　勉委員長　堀江委員。

○堀江快治委員　この日化団地の踏切の付近の工事は、今年度には間違いなくできるということですね。

○岡野　勉委員長　細井係長。

○細井宏和道路工務係長　質疑にお答えいたします。

〔「来年度にはできるという……」と呼ぶ者あり〕

○細井宏和道路工務係長　今年度中にできなかったことについては大変申し訳なく思っております。来年度について、やはり何としてもちょっと終わらせたいという気持ちがありますので、町内業者にいろいろ当たって、何とか来年度できるものというふうには考えております。

以上です。

○岡野　勉委員長　堀江委員。

○堀江快治委員　本来、発注者側から受注者側にお願いをして、頭を下げてやってくださいなんてことは、本来なかなかないことなのです。だからいかに日化団地の踏切拡幅工事というものが、その一端なのだけれども、来年やろうとしているのは。あの工事がそう簡単なものではないということ。私が過去に１億円の未達成事業のときに出した一例だけれども、なかなかあれを達成するのは難しいということです。だから東武とよく話し合って、やるのなら早急にやってください。そうではないと、また先延ばしにしてしまえば、だって当時測量したことが今使えないのでしょう、はっきり言って。過去に拡幅工事をすべき測量したお金がたくさん費やされていますけれども、現況では使えないのでしょう、その測量設計図は。

○岡野　勉委員長　細井係長。

○細井宏和道路工務係長　質疑にお答えいたします。

55号踏切から見まして西側の馬頭観音寄りのほうについては、当初計画していた線形ではちょっと北側の建物が当たるとか、あと南側の権利関係で買収が難しい箇所がありますので、当初どおりの線形での拡幅が今難しい状況です。それによって、今ちょっと買収ができた３筆と、あと踏切に接する東武鉄道の用地の一部を買収して、その範囲で西側を広げる計画を今進めております。ですので、委員さんご指摘のとおり、一部使えない設計はありますが、使える部分もあります。

以上です。

○岡野　勉委員長　堀江委員。

○堀江快治委員　設計が使える部分と使えない部分があるというのだけれども、そういうのは一般的に議論の中では話し合う余地はないのです。だって、規定通りのお金を払って設計をしたのですから、それに基づいてできないということは、もう行政側の極めて怠慢で、落ち度なのです。これ大変なことだと思いますよ、あそこのお金が、これから新たにやると。住民要望があって仮にやるとすれば、大変なお金がかかりますから、早く全体像というものをつかんでおくべきだと思うのです。今回、来年度やろうとする一部の工事だけでは済みませんよ、あれは。それだけは頭に置いておいて。

　続きまして、もう一点、東原団地の側溝修繕なのですけれども、雨量が多いたびに東原団地の皆さんは非常に苦労しているわけですけれども、だけれどもよく行くのですけれども、やっぱり流末とか道路幅員とか考えると、ただ側溝をつけて一時的に流れがよくなったというだけでは済まないと思うのですけれども、これは140メーターやるらしいですけれども、流末なんかは安定して流れるようになる工事設計になっているのですか。いかがなのですか。

○岡野　勉委員長　細井係長。

○細井宏和道路工務係長　この工事につきましては、主要路線の東原団地のところで片側しか側溝が整備されていませんので、そこに新たにもう片側に１本入れる形の工事でございます。

　以上です。

○岡野　勉委員長　堀江委員。

○堀江快治委員　東原団地さんも時代とともになかなか高齢化が進んで、非常に空いているお宅も多いようですけれども、それにしてもなかなかいいところはところなのですよ、住むには。ですから、側溝をやるのなら、新しい方がお住まいになってもいいなと思うような工事をぜひ、これは140メーターだけれども、側溝の大きさは30ですか。

○岡野　勉委員長　細井係長。

○細井宏和道路工務係長　質疑にお答えいたします。

　側溝につきましては、240のロングＵです。

　以上です。

○岡野　勉委員長　堀江委員。

○堀江快治委員　土地がなかなか手に入らないから240なのでしょうけれども､本来は原則としては町がやる側溝は最低30でやったほうが、これからのためになると思うのですけれども、それは希望です。ぜひひとつ立派な工事やってください。

　もう一つ、町道第6006号路線、これは滝ノ入で高福寺さんのところの下だと思うのですけれども、実は前々から、ここには岩上係長の自宅があるところがそうなのですけれども、滝ノ入というところは非常に今景観がいいところなのです。では、これ舗装修繕だけをするのですか。それに伴う側溝等の計画は、あえて併せてはしていないのですか。

○岡野　勉委員長　細井係長。

○細井宏和道路工務係長　質疑にお答えいたします。

　本工事につきましては、過去に道路の傷み具合を調査した道路正常調査データとかもろもろで考慮しま

して、表層の打ち換えだけの工事を計上しております。

以上です。

○岡野　勉委員長　堀江委員。

○堀江快治委員　健康づくりのまちで、一番僕が町の中あるいてみて、今距離的に、環境的にいいのは、いろいろ全部町内が、どこが悪いというわけではないけれども、よいというほうから見れば、高福寺さんのところからずっと行って、キャンプ場、ゆずの里、滝ノ入の奥、こういうところが非常にいいのです。それで一番気になるのは、たくさん人が来てもらうには、車が安心して入れるように、あそこには側溝がちょっとあるのですけれども、あの奥に。下蓋がないのです。片方は下水排水がないし、そういう点においては、せっかくやるのなら、これ地区の人の希望だと思うけれども、抜本的に高福寺さんから滝ノ入の橋のところまで渡る橋がありますね、一番先のほうに。あの辺までは観光名所というか、歩道、健康づくりを含めて安心して歩けるような、そういう道路設計をしっかりしておかないと、名実ともに、名勝滝ノ入のお客さんを呼ぶことはできませんから、いい機会ですから、それらも含めて計画をしていただきたいと思うのです。いかがでしょうか。

○岡野　勉委員長　山口課長。

○山口貴尚まちづくり整備課長　ご質疑にお答えをいたします。

健康づくりに絡めたお話ですとか、観光に絡めたご意見いただきまして、誠にありがとうございます。まず、路面のほうを毛呂本郷側に行きますと橋がありますけれども、あの橋の辺りからお寺の前まで、まずは舗装修繕のほうをさせていただきたいと思います。また、毛呂本郷の県道から来る橋からぶつかるＴ字でございますけれども、こちらの改良計画というのはもともとございます。この辺の精査のほうを深めまして、堀江委員がおっしゃるとおり、事業内容の成果等をきちんと見極めて、改良工事、側溝をつけたりということがございますので、そういったことを検討してまいりたいと考えております。

○岡野　勉委員長　堀江委員。

○堀江快治委員　滝ノ入が終えたら、今度は阿諏訪、阿諏訪が終えたら大谷木とか、そういうふうに計画的に毛呂山町のよいところは川角のほうの平地と、西側のほうの山が合重なったところに毛呂山町のよさがあるので、そのよさを生かすには、やっぱり観光の人を呼べるように、それから車が安心して通れるように直していかなければ、この町はこれからおしまいになってしまいますから、さっきのふるさと納税ではないけれども、魅力のない町にふるさと納税なんか来るはずがないのですから、魅力もあるからふるさと納税が来るので、だからそういう点においては、まずは受皿として町を立派につくっていくという、無駄のない、手戻りのない工事をきちんとしていただきたいと、山口課長、ぜひお願いしておきたいと思います。

以上です。

○岡野　勉委員長　この際、11時まで休憩します。

（午前１０時４８分）

○岡野　勉委員長　休憩前に引き続き会議を開きます。

（午前１１時００分）

○岡野　勉委員長　質疑を続行します。

千葉委員。

○千葉三津子委員　そうしましたら101ページ､委託料なのですけれども､ヘドロ処理委託料でございますが、昨年よりも60万円ほど増額しておりますけれども、その根拠というか、そういう部分は。

○岡野　勉委員長　細井係長。

○細井宏和道路工務係長　質疑にお答えいたします。

昨年度と比べて予算額のアップを行いましたのは、ヘドロ清掃において高齢とか人手不足等でヘドロの清掃作業が地区でもできなくなってしまったと、そういう地区が少し増えまして、町にヘドロ清掃の要望をする件数が増えたため、予算のアップの計上を行ったところです。

以上です。

○岡野　勉委員長　千葉委員。

○千葉三津子委員　そうしましたら、昨年よりも増えたという考えでよろしいのでしょうか。

○岡野　勉委員長　細井係長。

○細井宏和道路工務係長　昨年につきましてもちょっと足りなかったので､一部流用させていただきました。コロナ禍で中断していた地区が改めてやろうとしたときにも、やっぱりこれをきっかけにちょっともう高齢等で無理だからということで辞めて、町のほうにお願いするということで、去年よりも件数としては、要望としては多くなっております。

○岡野　勉委員長　千葉委員。

○千葉三津子委員　昨今の温暖化でかなり水の部分が被害が増えていると思うのです。このヘドロの処理も大切な部分であると私は思うのです。優先順位とかも多分あると思うのですけれども、この毛呂山町全体を見れば、年に何か所ぐらいやっていかれるのかなという思いがあるのですけれども、どのぐらいでしょうか。

○岡野　勉委員長　細井係長。

○細井宏和道路工務係長　質疑にお答えいたします。

ヘドロ清掃につきましては、隔年で、まず宮前都市下水路の約１キロの区間と、あと南台の調整池、あと目白台の調整池を交互に隔年でまず行って、これである程度の金額がかかります。それ以外に地域で要望されているところを優先順位とかヘドロの堆積状況を見てやりますが、大体年間ここ二、三年ですと、やっぱり隔年でやる、都市下水路とかそういうところを抜きにして、大体10件近く、10か所近く行っているものと認識しております。

以上です。

○岡野　勉委員長　千葉委員。

○千葉三津子委員　それに附随する部分なのですけれども、地元で大変恐縮なのですけれども、旭台地区の雨水排水の今回業務委託、対策概略設計、昨年はコンサルタントに委託をしておりますよね。こういった

部分では大がかりな部分なので、時間はかかるという部分は承知しているのですけれども、地元でもかなりいろんなご意見をいただいているところなのですけれども、以前に床下浸水した部分の家がかなりあったわけなのですけれども、あのところで、何と言ったらいいのかな、初期の部分で対策として、あそこの空き地というか、竹やぶがあったところの地元の方が、ここを掘っていいよということで掘っていただいた経緯があるのですけれども、掘っただけで、ほどなくまた戻ってしまったという部分があって、また掘ってはいただいているのですけれども、そういったことをしながら、でも毎年毎年、雨季になると、今は雨季だけではないと思うのですけれども、年間通していつ大雨が降るか分からない温暖化も進んでいますので、地元の町民からすればもうどきどき、はらはらの部分があるのです。

それで、今回、このような部分で出してはいただいたのですけれども、以前にエタニットパイプさんですか、エタネットさんかな、エタニットパイプのヒューム管の大きな管が1,000円で売却するという話があったときに、あれをそこに、掘ったところに埋めて、それを使って水を流すという話も聞いた記憶はあるのですけれども、それもどこに行ってしまったのかなという思いで、応急的な処置として、今回、こういうふうな大がかりな部分でやっていただくのは大変にありがたいことなのですけれども、なかなか時間がかかるわけです。

この業務委託とか設計とかやっていくうちに、自然は待ってくれないですので、とにかく応急的な部分でも構わないので、そういった部分を取り入れたり、何とか雨水対策、旭台だけではないですよね。岡本団地さんだったり、今回、第四団地さんだったり、もう本当にそのほかにも長瀬のほうでも聞きます。雨が降ると大水が出るので何とかしてほしいという部分はいただいているところなのですけれども、町全体のことをやっていかれるのは大変お金と期間とかかるとは思うのですけれども、とにかくやれるところからやっていただければなという思いでおりますので、ぜひすみません。これ意見になってしまったのですけれども、その辺の部分はどのように町ではお考えなのかお伺いいたします。

○岡野　勉委員長　山口課長。

○山口貴尚まちづくり整備課長　ご質疑にお答えいたします。

町内の災害に対するやはり水の処理というのは、深刻な問題となってきております。その問題につきまして、まちづくり整備課としても真摯に今対応させていただいているところでございますけれども、その一歩としてやはりプロによる見立てというか、そういったまず現況を知って、そこから問題点をどういうふうに改善していくか、解消していくかというような流れで、そのスキームができましたら工事をしていくという流れで、そういった問題は解消していきたいというのは基本的に考えております。

大きな工事を伴う可能性も出てくるというふうなところで捉えておりますけれども、やはり千葉議員がおっしゃるとおり、ちょっとした小さな工夫で水を少し強めに掘ったりですとか、そういった工夫というのは必ず必要なことであると思っております。まちづくり整備課としましては、日常パトロールにおいて排水溝の蓋の葉っぱを取ったりですとか、そういったところの細かい処理といいますか、そういった対応のほうはさせていただいているところでございますけれども、やはりそういった細かいところというのも対応として、まち課としてきちんとやっていきたいというふうに考えております。

○岡野　勉委員長　千葉委員。

○千葉三津子委員　ぜひそういった対応を町全体というか、取っていただければなと思います。必ず困っている人はたくさん聞くのです。なので、やっていただくのには、ちゃんとしっかりともちろん旭台の部分でも、第四団地さんにしても、やるのであればしっかりと方法というか、それはしっかり熟知されてやっていただく。途中で、これが駄目だとか、あれが駄目だとならないような対策をしながら、至急進めていただきたいと思います。大丈夫です。

○岡野　勉委員長　よろしいですか。

平野委員。

○平野　隆委員　私も委託料のほうで、旭台地区の雨水対策、これは現地で見させていただきました。確認の意味で、これから設計ということですけれども、おおよそ何ミリの雨を想定して設計をしてもらうのか、そこのところだけちょっと教えてください。

○岡野　勉委員長　細井係長。

○細井宏和道路工務係長　修正面積につきましては20ヘクタールなのですけれども、すみません。今、資料をちょっと持ってきてなかったので、雨の量についてはすみません。今は分からないです。

○岡野　勉委員長　平野委員。

○平野　隆委員　分かりました。資料がないのではあれなのですけれども、今ゲリラ豪雨も多いので、昔だったら50ミリを想定とかっていうのが多かったのですけれども、それでは間に合わないので、100ミリを想定するとか、最低でも75ミリというのが一般的だと思うのですけれども、そういった意味でちょっと確認で聞きました。では、後で教えてください。

それともう一点、そうしたら第四団地のほうで、こちらのほうは調査ということなのですけれども、この頂いたほうの資料を見ますと、過去にも何度も浸水したということで、それで吐き出し口の弁の交換等々もちょっと対策を取っているのだけれども、解消に至っていないということで、要はこの予算を使うことによって原因を解明するのだということなのですけれども、そのためにこの200万円の予算を計上されているのですけれども、仮に原因が究明されないと、これ設計には行かないのかどうか、ちょっと確認をさせてください。

○岡野　勉委員長　細井係長。

○細井宏和道路工務係長　質疑にお答えいたします。

本業務を行って、原因の解明を行うことによって、原因の解明を行う業務ですので、原因が分かれば何かしらの対策というのは見えてくるものというふうに認識しております。

以上です。

○岡野　勉委員長　平野委員。

○平野　隆委員　それは分かるのですけれども、予算に限りがあるわけだから、原因が究明できなかった場合はどうなのかなというのをちょっと聞きたかっただけです。だから分かっているのでしょう、もう原因は。予算ついているけれども。

○岡野　勉委員長　細井係長。

○細井宏和道路工務係長　質疑にお答えいたします。

本現況調査を行うことによって、冠水に至るメカニズムについては解明されると認識していますので、調査して分からないということにはならないものというふうに認識しております。

以上です。

○岡野　勉委員長　平野委員。

○平野　隆委員　大体もう分かっていると思うのですよね、何で駄目だったかというのは。とにかく旭台地区もそうですけれども、せっかくやるのだったら想定のほうは、さっき数字は出してもらっていなかったですけれども、やっぱり100ミリとかある程度大きなものを想定して、どうせお金を使うのだったらです。やったけれども、やっぱりのみ切れなかったからもう一回工事やろうというのだと本当にもったいないので、私の言いたいのはそういうところなのですけれども、一言お願いします。

○岡野　勉委員長　山口課長。

○山口貴尚まちづくり整備課長　まちづくり整備のために委託料のほうをここのところでまた取らせていただいている状況でございます。やはりプロの見立てというのも必要だと思います。そこから町について最適な対応の仕方というのを町のほうで一生懸命考えていきたいと思います。

また、もちろん手戻りがないように、調査の前提におきまして少し強めの設定ですか、そういったものを応用しながら、現状に合った整備のほうを進めていければというふうに考えております。

○岡野　勉委員長　大丈夫ですか。

佐藤委員。

○佐藤秀樹委員　私も平野委員とほぼほぼ同じことだったのですけれども、旭台もそうですし、第四団地もそうですし、ここ数年、町の請負工事だったりとか工事関係を見ると、ちょっとやって完成したけれども、またすぐ駄目になってと二度手間、三度手間、結局トータルがどんどん、どんどん費用だけが加算してというふうな状況が続いているので、庁舎も同じだと思うのですけれども、だからやるのだったら、やはり平野議員が言うようにちゃんと想定をした中で進めていっていただきたいですし、とにかく先ほど課長の言うように手戻りのないように進めていっていただければと思いますけれども、それは意見として言わせていただきます。

あと、102ページの町内全般道路修繕工事、これは令和６年度、何かあったときの修繕の費用だと思うのですけれども、今現在、この書いてある修繕工事以外のところで、もう令和６年度にやらなければいけないというところが決まっているのがあれば説明していただきたいのですけれども。

○岡野　勉委員長　細井係長。

○細井宏和道路工務係長　質疑にお答えいたします。

今現在の段階でちょっと想定しておりますのが、川角中学校グラウンド南側の町道において、昨年度、ガスの本復旧を片側しか行わなかったところの逆側がかなり傷んでいますので、まずそこの舗装の100メーターぐらいでしょうか、打ち換えのほうをちょっと考えております。

また、あと平山のところなのですけれども、飯能寄居バイパスのボックスの北側、ときわぎ幼稚園の踏切から見て東側なのですけれども、そこで町道をセットバックしている部分がありまして、これは平山区長からの要望なのですけれども、そこはもう長年言われていたところですので、そこの部分の舗装の打ち

換え等を考えております。

あとは、一応リストが幾つも、今まで積み重ねて要望のところのリストがあるので、それをもう一度精査して、改めて優先順位をつけて対応していきたいと思っております。

以上です。

○岡野　勉委員長　佐藤委員。

○佐藤秀樹委員　１点、馬頭観音から旭台に上がって毛呂山台のほうに抜けるところで、たしか水道工事が終わったら舗装するということだったと思うのですけれども、今多分仮の舗装かなんかをされていて、大分ガッタンといわなくなった、安全になったという声は聞くのですけれども、あそこは再度きちんと工事をするのでしょうか。

○岡野　勉委員長　細井係長。

○細井宏和道路工務係長　質疑にお答えいたします。

武蔵野第二霊園の前の現場につきましては、本来は、昨年度ですか、水道工事を行って、舗装本復旧を行うということで、それを待っていたのですが、現状がもうそこまで待てないで、もう事故がいつ起きてもおかしくない状況でしたので、それについてはもう舗装のほうを打ち換えました。ですので、水道のほうで改めて舗装の打ち換えという、直した部分については基本的には考えていない状況です。

以上です。

○岡野　勉委員長　長瀬委員。

○長瀬　衛委員　道路予算についてお聞きしますけれども、課長、私、毎年、新年度の予算書をもらったとき一番先に見るのは道路予算なのですけれども、道路維持費、施設改良費を見るのですけれども、今年度も維持費も何路線か予算組んでいただいていますけれども、団地のほうで、日生団地と東原団地が２本入っていますけれども、例えば私のほうの地区の団地も団地ができて55年たっているのだけれども、当初のままの状況の路線がまだかなり残っているのです。もうずっとお願いしてきているのだけれども、私の地元、毎年毎年予算計上してくれというのはあんまり言うつもりはありませんけれども、やっぱりもう少し道路予算を確保してもらわないと、私のところでもまだ整備率が70％ぐらいですか、これ今年あたりはどうなのですか、これもう少し。今、道路維持、側溝整備は町内でどのぐらい待たせているというか、どういう状況ですか。

○岡野　勉委員長　山口課長。

○山口貴尚まちづくり整備課長　ご質疑にお答えいたします。

数字で端的に申し上げてしまいますと、各団地内における側溝の整備事業につきましては、令和５年度末について79％ということでございますので、あと21％施工のほうが必要だというふうに捉えております。

○岡野　勉委員長　長瀬委員。

○長瀬　衛委員　ここでとやかく言うつもりはありませんけれども、いずれにしてもこの間お話ししたように、駅の直近の団地でまだ私道のまま残っている地域があったり、私の地域ももう団地ができてから55年だけれども、まだ70％、30％が手つかずの状態でいるのです。市街化区域内の駅の直近の団地でさえそうですから、道路はもう少しやっぱり年次計画を立てて、少し急いでもらいたいのだけれども、せめて３年

ぐらいの年次計画を示してほしいです。それをお願いしておきます。

それから、今年の新設改良費が140万円ですよね。昨年が750万円で、これは新設改良という対象の路線がもうないということですか。これは新設改良というのは、道路を広げたり、新しく道路を造ったりするところですよね。今、予定がないのですか。

○岡野　勉委員長　山口課長。

○山口貴尚まちづくり整備課長　ご質疑にお答えをいたします。

道路の改良です。道路を広げたり、広げて側溝を入れ直して、舗装をし直して、それを道路改良工事と言っておりますけれども、そういった工事につきましては道路買収費、工事費というのが大変かかるということでございまして、こちらは精査に精査を重ねて、本当に必要なところだけをやらせていただいているというのが現状でございます。実際、橋梁ですとか災害による排水の関係、それも同時に整備していかなければならないという状況の中で、どうしてもしわ寄せといいますか、そういったところの予算の配分状況、そういったところに集中して投下しているような状況というのはございます。

改良については、やらないわけではございませんけれども、本当に道路整備計画ですとか、あと地域の要望です。その辺勘案しながら、やはり少しずつ進めていく必要があるというふうに考えております。

○岡野　勉委員長　長瀬委員。

○長瀬　衛委員　旭台の先ほどの霊園の前のくぼみについては、早速手を打っていただいて、きれいになりました。安心して今通っていますけれども、あれから毛呂山台へ入るまでの間、あれは坂戸の境と接していますけれども、あの道路はかなり交通量もバイパスができてから増えているのですよね。もう何年もたっているのだけれども、あの道路は改良はできないのですか。今、幅員何メーターあるのですか。

○岡野　勉委員長　では、回答よろしいですか。

山口課長。

○山口貴尚まちづくり整備課長　大変恐れ入ります。指定された部分というのは、南北に森が広がっているところで、その間に町道が入っているところということで考えております。そちら行政界がちょうど道路半分に入っておりまして、真ん中で毛呂山分と坂戸分となっております。改良というのは必要なところだとは思いますけれども、やはり坂戸との協議というのが必要になってくるというところでございます。

○岡野　勉委員長　長瀬委員。

○長瀬　衛委員　あれは坂戸との交渉が必要だろうけれども、物すごく交通量が増えているのです。夏なんか木が両方から茂ってくるものだから、もう車常に待っていなくてはいけない。交通量も多いし、あれはちょっとひとつ急いで坂戸市と協議して、計画立ててほしいです。それでよろしいですか。お願いできますか。

○山口貴尚まちづくり整備課長　お話は賜りました。

○長瀬　衛委員　では、お願いして、結構です。

○岡野　勉委員長　小峰委員。

○小峰明雄委員　まず、101ページの委託料の中でちょっと細かくいきますけれども、町内全般の雑草等の伐採の委託料があるわけですけれども、町民の方からいろいろなご要望があると思うのです。特に民法改正

されていますので、そういった点を鑑みますと、やはり要望に応えていかなければいけないと思うのですけれども、令和６年度で50万という根拠、この点についてお伺いいたします。

○岡野　勉委員長　細井係長。

○細井宏和道路工務係長　質疑にお答えいたします。

50万円の根拠につきましては、過去３年間の実績から算出しており、町内全般雑草等伐採業務委託については、強風や降雪時の高木の倒木等、不測の事態に対応するという予算でございます。

以上です。

○岡野　勉委員長　小峰委員。

○小峰明雄委員　過去３年間ということの実績なのですけれども、民法が改正されて、より伐採しやすくなっているわけですから、越境されている部分とかいろいろございますよね。そういったところは、やはり民法を盾にして進めていかなければいけないのです。要望もあったと思うのです。私も一般質問させていただきましたけれども、でも全然答弁されている割には、何か見受けられない点が多いですよね。しっかりそういう条文が変わったのですから、そういうものにやはり沿って、できれば町民の要望は応えていただきたいと思います。

次に、旭台地区の雨水排水対策の概略設計にもう入るのですけれども、概略設計する前に、恐らく対策の現況の調査等をされたのに基づいて概略設計に入っていくのだと思うのですけれども、私の個人的意見です。やはり町道が東西にありますので、ここを一つの境目にして、そこから南とそこから北というふうに分けて、この町道で何とか処理するとか、少し考えなければいけないのではないかと思うのです。現場を見させていただいて、調整池等もできるような用地もございますけれども、ただ水路につないで、その後に葛川に放流していくわけですけれども、その流末というか、ここだけをやれば済むのではないと思うのです。

だから、今回、こういうふうに概略設計するのであれば、やはり葛川までをしっかりどういうふうにしていくかということを考えて、上ばっかりやったら、今度は下にそのしわ寄せが必ず行くのです。だからそういったところまでしっかり税金を投入して行っていく。特に一般財源で全部持ち出しですので、そういったところまで考えながら進めていかないと、できました。では、次は下で問題が起きましたという結果になると思いますよ、これ。抜本的にもう少しお時間かけて、きちんとされないと、せっかく税金を投入して工事をされても、その後に、また次の問題が発生するというようなことがある可能性があるので、その辺は課長、しっかり考えながら進めていただきたいと思いますけれども、いかがですか。

○岡野　勉委員長　山口課長。

○山口貴尚まちづくり整備課長　ご質疑にお答えをいたします。

現場の視察におきましても、小峰委員から様々なご指摘、ご意見のほうをいただいたところでございます。貯水池を造るとか、あとは線路下を通す管の大きさを大きくするとか、そういったご指摘のほうをいただいてございます。そういったご指摘を踏まえながら、やはり流下の関係、線路の北側の排水の関係、もちろんそちらもきちんと調査して、手戻りがない整備のほうを心がけてまいりたいというふうに考えておるところでございます。

○岡野　勉委員長　小峰委員。

○小峰明雄委員　本当に東西の町道から南北というのも一つ考え方としてはあると思うので、その辺しっかりもう一度よく検討されてもよいのかなと思いますので、よろしくお願いします。

　次に、先ほど工事請負費の中で、表層の打ち換えをするのだと細井係長のご答弁がございましたけれども、私はある土曜日に、ある現場の表層の打ち換えをちょっと見ていたのです。剥がしながら打っていくという、すごいな。フィッシャーもやっているのはいいのです。あれ路盤が平らにしてあれば表層もきれいに上がるのですけれども、路盤がそのまんまでフィッシャーかけていくから、もう当然表層はそれなりに上がるわけですよ、仕上がりは。だからぜひ立会いのほうをしっかりしていただいて、職員さんいないときに工事されているケースとか、やっぱりそこで、後で直してくださいよという、それがなかなかできないのが今の現状ですよね。そういう点に対してはどうですか。

○岡野　勉委員長　細井係長。

○細井宏和道路工務係長　今、小峰委員のほうからご指摘があったとおり、工事の品質を高めるためにも、可能な限り事前の段階確認検査、職員の立会い検査のほうを徹底して、不備のない工事のほうに努めてまいりたいと考えております。

　以上です。

○岡野　勉委員長　小峰委員。

○小峰明雄委員　本当に中身が見えなくなってしまいますので、しっかりその辺はよろしくお願いしたいと思います。

　それと、町内の全般道路修繕工事ということで、金額が載せてありますけれども、先ほどだと、もう令和６年度に固有名詞のこういうものがあるよと。中には、100メートルもあるのですよという話ですので、やはりそうなってくると、しっかり固有名詞をここに説明書の中に掲載していくというのですか、記載しなければいけないのではないかと思うのです。だからそういうものがはっきりしているのであれば、そういったものはきちんと載せていく。そうしていかないと、我々も今お伺いしたから、そういうところ工事の予定に入っているのだというのが分かりますけれども、町内全般で考えていますから、本来だったらもっと細かいことのお金だと思うのです、これは。それだけ大きな工事をされるのであれば、やっぱりきちんとして説明を我々に示したほうがいいような気がするのだけれども、いかがですか。

○岡野　勉委員長　山口課長。

○山口貴尚まちづくり整備課長　ご質疑にお答えをいたします。

　委員のおっしゃるとおりでございます。大きい工事につきましては、きちんと工事名を戒名立ていたしまして、皆様に分かりやすくご説明のほうをしていきたいと考えております。

○岡野　勉委員長　次に、103ページ、第３項河川費、第１目河川総務費について説明を求めます。

　山口まちづくり整備課長。

〔山口貴尚まちづくり整備課長詳細説明〕

○岡野　勉委員長　これより質疑に入ります。

　ございますか。

荒木委員。

○荒木かおる委員　103ページの委託料、今ご説明があった河川の除草についてなのですけれども、本当に川に草が、何度も私も課のほうに伺ってお願いをしているのですが、この除草の委託料というのはどういう、県に委託を、大谷木川なのですけれども、うちの近くの。あそこが本当に非常に背丈にも及ぶ草だし、ツタがはってきて、道路にはってきている状態。見ていただいて分かると思うのですけれども、あの状態で、先ほどから毛呂山町をきれいにと言っていますけれども、あの川ではとてもきれいだとは言えないのですが、そこら辺いかがでしょうか。

○岡野　勉委員長　細井係長。

○細井宏和道路工務係長　質疑にお答えいたします。

荒木委員ご指摘している大谷木川についてなのですけれども、そこの管轄管理は埼玉県飯能県土整備事務所になりまして、いろんな方から要望も受けます。その都度、随時情報処理カードで埼玉県さんのほうには除草の要望等は行っている現状です。

以上です。

○岡野　勉委員長　荒木委員。

○荒木かおる委員　管轄は県なのですけれども、多分見ていただいていると思うのですけれども、あれを見てまちづくり整備課では、どのように思われるか感想をお聞きしたいと思います。

○岡野　勉委員長　山口課長。

○山口貴尚まちづくり整備課長　ご質疑にお答えをいたします。

荒木委員から大谷木川の雑草の件につきましては、幾度となくお話のほうをいただいているところでございます。それに関しましては、やはり所管の埼玉県のほうにきちんとメモをつけて報告のほうをさせていただいている、強く要望のほうをさせていただいているところでございます。

基本的には、草につきましては川の流れを阻害するものではないという考え方があるらしいのです。そういったところがありまして、なかなか草を刈ったりとかというわけにいかなくて、しゅんせつまでにはいかないような、しゅんせつというのは泥を動かすことなのですけれども、そういった状況ではございます。まち課としてもパトロールで見ますけれども、やはり夏場とかその辺りになってくると、何か緑色になってきたなというところが本当に、そうですね、危機感を持って感じているところではございます。

○岡野　勉委員長　荒木委員。

○荒木かおる委員　川の流れをふさぐものではないということですけれども、あの量になると、やはり雨が多くなると倒れてすごいのです。あと、木化というか、木化というか、もう木になっている。あれは草ではない。川の真ん中に木になってしまっている、そういう状態もなっているのです。ぜひ強く県のほうに要望していただいて、きれいな川にしていただきたいと思います。よろしくお願いします。

○岡野　勉委員長　よろしいですか。いいですね。

○荒木かおる委員　はい。

○岡野　勉委員長　この際、午後１時15分まで休憩といたします。

（午前１１時４０分）

○岡野　勉委員長　休憩前に引き続き会議を開きます。

（午後　１時１５分）

○岡野　勉委員長　次に、103ページ、第４項都市計画費、第１目都市計画総務費、第２目公共下水道費について説明を求めます。

山口まちづくり整備課長。

〔山口貴尚まちづくり整備課長詳細説明〕

○岡野　勉委員長　これより質疑に入ります。

挙手をお願いします。

では、堀江委員から。

○堀江快治委員　山口課長、都市計画ばかりか全般的にちょっとお話ししたいのだけれども、新設道路等をやる場合に、ほかに道路改良も含めて、従来は該当する町民の皆さんのあらかじめ了解を得て過去には進めきたと思うのです。昨今、川角駅の今回の件だけを言うわけではありませんけれども、非常にそういう点では方向性が従来と変わっているようなのですけれども、これは山口課長、課長の考えも含めて、こういう道路新設、道路改良、側溝新設等土木関係に関する改良新設工事等は、地元の方のご了解を最初にあらかじめ得ておくというような方法は今でも必要ではないかと思うのですけれども、そのお考えはいかがでしょうか。

○岡野　勉委員長　山口課長。

○山口貴尚まちづくり整備課長　ご質疑にお答えをいたします。

ちょっと昔ですと、道路改良につきましては地区要望が多うございます。今もそうですけれども、地区要望が多うございました。その中で、やはり地区で土地をまとめて、地域の区長さんとかがお話をまとめて、皆さん、土地を提供してくれますよという前提でお話を持ってきていただいて、それで改良するというケースももちろんございました。

それともう一つが、やはり一方、町のほうの事業計画によって進める道路改良もございます。昨今の状況でございますけれども、やはり地域の住民の皆様の合意というのがないと、事業というのは全く進まないものだなということで私、数年間、まち課長をやらせていただいておりますけれども、実感はしているところでございます。

以上でございます。

○岡野　勉委員長　堀江委員。

○堀江快治委員　今、私にとっては前向きなご答弁をいただいて大変ありがたいのですけれども、やっぱり町が一体となっていくには、住民を巻き込んだところのいい意味の、巻き込むと言ったら失礼だけれども、ご了解をいただいた中での工事進捗というものは、期間的にもスムーズに行くであろうし、感情的にも後腐れがないいいものが残るのだと思っておりますけれども、ぜひ山口課長、今後、そういう点では、今おっしゃったような方法を上司にも話をして進めていただければ、大変円満な土木行政が進捗するような気

がするのですけれども、どうぞよろしくお願いいたします。これは答弁は結構です。

○岡野　勉委員長　いいですね。

では、小峰委員。

○小峰明雄委員　まず、川角駅の詳細設計ということで委託計上されておりますけれども、やはり先ほど先輩がお話ししたように、地権者にお伺いしているというのが一番重要だと思うのです。直近だといつ頃お伺いしました。

○岡野　勉委員長　荻野主幹。

○荻野高志まちづくり整備課主幹　質疑にお答えいたします。

直近でございますと、全体の地権者様には令和５年度の概略設計業務を進めるに当たりまして、６月と７月に地権者のほうにお伺いさせていただきました。

○岡野　勉委員長　小峰委員。

○小峰明雄委員　その前のほうの前任の方は、かなり足運んで行かれていました。月一でもいいのですけれども、多忙かと思いますけれども、そういうことをされていかないと、やはり詳細設計等の図面ができてしまうと、なかなか感情的なものもありますから、本当に先に進めないといけないと思うのですけれども、その点はどうですか。

○岡野　勉委員長　荻野主幹。

○荻野高志まちづくり整備課主幹　質疑にお答えいたします。

現地調査におきましても小峰委員のほうからアドバイスいただきまして、やはり今後、事業を進めていくには、用地買収の進捗というのは非常に重要でございますので、詳細設計業務は進めてまいりますけれども、逐次地権者様と連携を密に持ちまして、事業を進めてまいりたいと考えております。

○岡野　勉委員長　小峰委員。

○小峰明雄委員　本当に計画は、この事業はもう長いですから、長い割には目に見えない状況ですので、今回、位置がずれたことによって、広場もずれてきて、そのことによって用地買収した土地、果たして道路に面していないような土地もお買いになっていますので、そういったところを代替地とかで処理できればいいのですけれども、やはりちょっと一貫性がないような事業をされているように私は思えるのです。その点についてはどうですか。

○岡野　勉委員長　山口課長。

○山口貴尚まちづくり整備課長　ご質疑にお答えいたします。

やはり計画のほうが二点三転した経緯がございます。そういった中で令和元年頃、用地のほうを取得させていただいた経緯がございます。その用地につきましては、今のところ３筆は今回、周辺事業の土地として使うことができるというふうに考えております。残りの２筆につきましてもきちんと生かせるように検討等をしてまいりたいと考えておりますので、ご理解賜りたいと存じます。

○岡野　勉委員長　小峰委員。

○小峰明雄委員　事業以外の用地を取得してしまったわけですので、私はそれ以上のことは言いませんけれども、重々今後いろいろ考えながらやっていただきたいと思います。

以上です。

○岡野　勉委員長　荒木委員。

○荒木かおる委員　105ページの危険ブロック塀の撤去費用なのですが、これ何件分というか、上限があるのでしょうか。

○岡野　勉委員長　小輪瀬主幹。

○小輪瀬　晃まちづくり整備課主幹　質疑にお答えいたします。

こちらは上限が10万円になっておりますので、２件分の予算となっております。

○岡野　勉委員長　荒木委員。

○荒木かおる委員　場所はもう決まっているのでしょうか。

○岡野　勉委員長　小輪瀬主幹。

○小輪瀬　晃まちづくり整備課主幹　質疑にお答えいたします。

こちらは町が補助金を用意しているので、申請によって交付するものですので、場所は決まっておりません。

○岡野　勉委員長　荒木委員。

○荒木かおる委員　これ毎年、補助金出ているのですが、申込み状況についてはいかがなのでしょうか。

○岡野　勉委員長　小輪瀬主幹。

○小輪瀬　晃まちづくり整備課主幹　質疑にお答えいたします。

こちらは令和２年度から予算のほうをつけていただきまして、令和２年度が４件、令和３年度１件、令和４年度２件、今年度が１件となっております。

以上です。

○岡野　勉委員長　荒木委員。

○荒木かおる委員　これたしか小学生が通学の際にブロックの下敷きになっての死亡事故があったということで、こういう補助金も設けられたのだと思うのですけれども、パトロールをしていて、明らかに危険なブロック塀があるお宅、私も見受けられますけれども、まち課としてはどうお考えでしょうか。

○岡野　勉委員長　小輪瀬主幹。

○小輪瀬　晃まちづくり整備課主幹　質疑にお答えいたします。

そうですね。住民の方、また議員さんのほうからもあそこのブロック塀が危険そうだよという情報提供いただきまして、その情報にのっとりまして、係のほうでこういう補助金があるので、使ってみてはいかがですかという直接交渉も行っております。ただ、そちらに関しては、やっぱりなかなかそういう状況を放置している方で、ではちょっとやってみようかなという方がなかなか出てきていただけないのが実情でございます。

○岡野　勉委員長　荒木委員。

○荒木かおる委員　私が見受けられるところは、道路も非常に狭くて、あれが倒れてきたら本当に大事故につながるようなところなので、ぜひ注意喚起はこれからも行っていただいて、ぜひ撤去をしていただくように努力していただきたいと思います。

あと、もう一点ですけれども、新川越越生線の促進同盟の負担金がありますけれども、川越坂戸毛呂山線の件なのですけれども、私、今年に入ってから２回、大類の交差点で事故があったのをちょうどいつも私が通ると事故がある、ちょっと見かけるのです。ちょうど何か出会ってしまって、そのたびに救急車が来るのですけれども、事故があって渋滞している中で救急車が通れないのです。寄せられない。車がよけられない。あそこは緊急輸送道路になっていますよね。あれでは、とても緊急輸送道路とは言えない。あれは本当にどうにかしなければいけないと思いますけれども、町のほうでは新川越線のほうにもシフトしているということで放置されていますけれども、あのままでは絶対いけないと思います。

それで、以前、県の方を呼んで説明をしてもらいますと私質問したときにお聞きしたことがあるのですけれども、それから何も県の方に来てもらって説明も何もないので、その辺どうなっているかなと思って伺います。

○岡野　勉委員長　秋馬副課長。

○秋馬純一まちづくり整備課副課長　ご質疑にお答えいたします。

川越坂戸毛呂山線のこれから県のほうから川越越生線にシフトしたということについて、説明のほうをすることになっておりましたが、コロナの状況が悪化しまして、しばらく止まっておりましたが、昨年あたりに県のほうに再度こういうお話どうなりましたかという問合せしたところ、ちょっと担当が変わっていたものですから、また一からご説明させていただきまして、こういう状況がありますので、今後ともよろしくお願いしますと申しておりますので、今日、このご質疑を受けまして、また再度確認してまいりたいと考えております。

○岡野　勉委員長　荒木委員。

○荒木かおる委員　忘れてられなくてよかったと思います。ぜひしっかりした説明をこちらとしてもいただきたいし、町の危険道路なので、本当は安全な道路だから緊急輸送道路になっていると思うのですけれども、あそこはとても危険道路だと思います。ぜひ説明をお待ちしていますので、よろしくお願いします。

○岡野　勉委員長　平野委員。

○平野　隆委員　私も104ページのほうの川角駅南口広場の設計業務委託の件なのですけれども､現地でも見させていただきました。この計画の中に排水路の整備も一緒に入っているということで、この道路と広場を新設することによって、それの影響がこっちの道路の水路にある旨のだと思うのですけれども、そこのところだけちょっと教えていただきたいと思います。

○岡野　勉委員長　荻野主幹。

○荻野高志まちづくり整備課主幹　質疑にお答えいたします。

今回、整備します駅南側の駅前広場、それからアクセス道路の整備に併せて、周辺地域のいわゆる雨水排水の集水エリアを検討しましたところ、今、川角駅から踏切を渡って城西大学さんに向かうところ、途中にパン屋さんがあるのですが、そちらから１本川に排水路が下りておりますが、そちらの管が現状の管ですと耐えられないという結果が出ましたので、そこの整備も併せて実施して、管を大きくする工事を検討しております。

○岡野　勉委員長　平野委員。

○平野　隆委員　分かりました、パン屋さんのところ。それもだからもともとのあれだったから、今回一緒にやってしまうということで。

それはそれでいいと思うのですけれども､また先ほどの先輩議員の質疑の中にもあったのですけれども、この計画についてはもう６月、７月には現地の方々にということで、ちょっと確認ですけれども、こういった工事をするときに、一番のポイントになるのは用地買収、これがきちんとできるか、これ一番だと思うのですが、ではこの時点である程度というか、これ大丈夫だろうと手応えを得て、いけると判断をしたという、そんな解釈でよろしいですか。

○岡野　勉委員長　荻野主幹。

○荻野高志まちづくり整備課主幹　質疑にお答えいたします。

地権者様のほうに当然ながらお話し、ご説明をしていく中で、事業に協力していただきますと言っていただいている方も半数近くいらっしゃいます。実際にこの説明をした中で、あとは実際、ご自分の土地に道路がどういうふうにかかってとか、実際に金額が幾らぐらいかかるのか、そういったものが分かってからもう一度説明をくださいと、そういった形の意見もいただいておりますので、事業に対しては一定のご理解はいただいていると考えております。

○岡野　勉委員長　平野委員。

○平野　隆委員　ということになると、半分ぐらいの方は大丈夫だろうというぐらいの今答弁だと思うのですけれども、やっぱりこれで実際に買収ができなかったりすると止まってしまいますから、止まってしまうというか、工事自体ができなくなってしまうので、その辺は何というのですか、何度も通うことになるとは思うのですが、それはかなりの大仕事というか、事と場合によっては。その辺はちょっとしっかり進めて、そこがポイントだと思うのですけれども、その辺ちょっといかがでしょうか。

○岡野　勉委員長　荻野主幹。

○荻野高志まちづくり整備課主幹　質疑にお答えいたします。

平野委員ご指摘のとおりで、やはりこの事業につきましては極端に言えば地権者の方で１名でも反対されている方がいれば､そこの道路を通すことは難しくなってしまいますので､やはり足しげく通いまして、この事業の必要性をご理解いただきまして、事業協力いただけるように努めてまいりたいと存じます。

○岡野　勉委員長　よろしいですか。

佐藤委員。

○佐藤秀樹委員　それでは、都市計画総務費の時間外勤務手当、担当は総務課、時間外勤務手当が総務課だと思うのですが、ただ以前、何年かに続けて都市計画総務費の時間外勤務手当が非常に膨れ上がっていたと。今現在、落ち着いているような状況なのですけれども、今現在の状況と、ただまたこれで増えてもしようがないので、６年度のどうやって時間管理をしていくのか、その辺所管の課長の考えをお聞かせ願いたいと思います。

○岡野　勉委員長　山口課長。

○山口貴尚まちづくり整備課長　ご質疑にお答えをいたします。

都市計画総務費の時間外手当の関係でございますけれども、こちら令和３年をピークに現在ですとおよ

そ60％以上減額ということでございます。コロナの影響もあって少なくなってきたというところもございますけれども、あとは係内で調整をして、残業はなるべくしないようにということで、そういったことが徹底されて残業代のほうが少なくなっていくというふうに考えております。

ただ、１点、職員のほうが、今、子育て休暇が１人おりまして、そういった関係からやはり都市計画総務費の時間外手当につきましては増えることが６年度いっぱいぐらいまでは予想されます。それにつきましては特段のご理解はいただきたいところではございます。

以上でございます。

○岡野　勉委員長　佐藤委員。

○佐藤秀樹委員　１人欠なのでというのは分かるのですけれども、とは言いつつも、やはり課内で時間外というのはきちんと管理をしなければいけないと思うのです。ですから、そこの部分、課長、きちんと６年度の考え、それと同時に、休日出勤もあると思うのですよ、そこの課は。なので、その辺の管理徹底というところも図る上で、もう一度課長の考えをお願いします。

○岡野　勉委員長　山口課長。

○山口貴尚まちづくり整備課長　ご質疑にお答えをいたします。

まちづくり整備課の時間外の取扱いにつきまして、やはり係内、係長を集めて見解の統一、効率的な事務運営のほうを図っていって、時間外はなるべく減らすという方向で考えていきたいと考えております。そうした指導もしていきたいというふうに考えております。

○岡野　勉委員長　よろしいですか。

長瀬委員。

○長瀬　衛委員　川角駅のことでちょっとお伺いしますけれども、まず川角駅周辺整備事業という事業で、今もあるのだと思うのだけれども、こういうのを見ると、川角駅南側駅広場等工事になってしまったような気がする。勘違い、錯覚するような感じだけれども、北側ももちろん今具体的に予定ないのですよね。南側のこの工事で今のところは一応計画して、これと平成高校に行く歩道かなんか計画があるわけ。

○岡野　勉委員長　荻野主幹。

○荻野高志まちづくり整備課主幹　質疑にお答えいたします。

まず、駅南側の整備につきましては、議会全員協議会のほうでもご説明させていただきましたが、令和９年度を目標に工事を進めておりますが、南側の事業の進捗状況を見まして、今度は北側のほうの整備に進んでまいりたいと考えております。

○岡野　勉委員長　長瀬委員。

○長瀬　衛委員　この間、ここで町長いる前でいろいろ話したときに、私が、学生がみんな踏切を渡って、帰りは駅を利用してでは危険でしょうと話したら、学生に踏み切りを通らせないようにしろというのかとかなりめちゃくちゃなこと言っていたけれども、私が言っているのは、南側は６号線の踏切からアクセス道路が出るところまでの間もやっぱり歩道整備しないと、あの状況は変わらないと思いますよね、これから幾ら広場ができてアクセスできても、学生の利用状況というのは。そういう意味で、安全対策を図るべきではないかと私言ったつもりが、何か誤解していたようだったけれども、そういうつもりなのです。６

号線の踏切までのというのは、もともと考えていないのですか。

○岡野　勉委員長　荻野主幹。

○荻野高志まちづくり整備課主幹　質疑にお答えいたします。

今の現段階の南側の計画でございますと、駅前広場とアクセス道路の整備、それから接道したところから星宮神社までの歩道の整備というところを予定しております。将来的には北側の整備をして、北側の安全対策も図るのですけれども、現状といたしましては、いわゆる南側ができて、旧道という言い方が正しいか、そこの部分についての歩道の整備等は計画はしておりません。

○岡野　勉委員長　長瀬委員。

○長瀬　衛委員　もう一つ聞きたいのだけれども、この前ちょっと本会議でも聞いたけれども、よく覚えていないけれども、城西大学に３億5,000万返却したけれども、その後については課長どうなっているのですか。

○岡野　勉委員長　山口課長。

○山口貴尚まちづくり整備課長　ご質疑にお答えをいたします。

川角駅南口整備のお話でございますけれども、今年度やった概略設計から地域の代表の方と、あと学校３校の方も参加していただいて、意見を交換しながら設計のほうは進めたわけでございます。そういった中で、大学３校からも南側の事業につきましては、協力したいというようなお話のほうはいただいているところでございます。

○岡野　勉委員長　長瀬委員。

○長瀬　衛委員　そういう話はもう何度も聞いているのだけれども、具体的な話はいまだ聞かせてもらえないのだけれども、この広場と南側の広場とアクセス道路、整備は結構なのだけれども、地元の人から見れば、やっぱり踏切から大学までの間の歩道整備を、最初から地元の人の声はそこだったと思います。この広場とアクセス道路優先してやっているのは結構だけれども、私は特に強く思っているわけではないけれども、やっぱり大学のためという、地元の方もそういうふうに感じているようだし、大学のほうから求めるものは求めていただいて、できれば６号線のほうの整備費が確保できるようにしてほしいです。あの状況、きっとこれからも変わらないと思います。帰りの時間帯は６号線がやっぱり、学生が道路をはみ出して、恐らく駅に向かうのだと思います。ですから、それが整備が終わらなければ、私は川角駅周辺整備は終わらないのだと思っていますけれども、どうでしょうか。

○岡野　勉委員長　山口課長。

○山口貴尚まちづくり整備課長　ご質疑にお答えいたします。

現道の６号の拡幅のお話でございますが、やはり様々な側面から考えていきますと、必要性も感じないわけではございません。ただ、駅の50年の歴史の中で、６号の前を学生がぞろぞろと通って、近辺に沿道にお住まいの方が生活に不便を来していたといった前提も一つございます。そういったところから、今のところ６号の拡幅についての計画はなしで、駅前広場とアクセス道路を整備していくという考えでおります。

○岡野　勉委員長　長瀬委員。

○長瀬　衛委員　これから用地の交渉なんかに入るのだと思いますけれども、恐らく地元の方々からもそういう声が出るのだと思います。その辺はよく考えていってほしいと思います。

それから、先ほど新川越越生線の話が出ましたけれども、私は以前から川越坂戸毛呂山線をどうしても毛呂山の町長は積極的に県のほうにお願いに行かないのかと不思議でしようがないのだけれども、これはもう何年か前に井上町長はもうやらないのだと明言しました。ただ、課としては、秋馬さんはじめ県に行くたびに声はかけているのだろうけれども、やっぱり町長が明言しないと県は動かないと思います。

今、荒木委員から話があったように、川越坂戸毛呂山線というのは緊急時の医療の拠点とのアクセス道路ですから、それから何たって毛呂山からすればやっぱり経済的な産業路線です。これはもう全く課の職員の皆さんが県に行って、住宅都市整備部の皆さんに話の合間にそういう発言をするのだろうけれども、基本的に町としては取り組んでいないでしょう。どうなのですか、川越坂戸毛呂山線。

○岡野　勉委員長　秋馬副課長。

○秋馬純一まちづくり整備課副課長　ご質疑にお答えいたします。

要望活動につきましては、令和２年からコロナの影響があって、それ以降行っておりませんが、担当職員のほうには随時交通状況とか緊急車両とかの関係のデータは送っておりまして、先ほど荒木委員さんにご指摘いただいた旨も早速飯能県土のほうにお伝えしてみようと思っております。

○岡野　勉委員長　長瀬委員。

○長瀬　衛委員　この問題は、私も含めてだけれども、やっぱり毛呂山の議会がもう少ししっかりしなければいけないのだと思います。これからきっといろんな議員の方々から話が出ると思いますので、ぜひそういうつもりで県との交渉に当たっていただきたい。

新川越線の期成同盟会が年に一遍ぐらいあるのですよね、総会が。毛呂山町から見て幾らか進展している状況はあるのですか。

○岡野　勉委員長　堀内係長。

○堀内　潤都市計画係長　質疑にお答え申し上げます。

新川越越生線の進捗状況でございますが、直近ですと10月に要望活動を行っておりまして、その中で県道日高川島線の北側の毛呂山、越生、坂戸の区域でございますが、こちらにつきましては地元の市町で構成されております新川越越生線の整備効果を高めるための研究会というのがございまして、その中で皆様方のご意見をいただきながら、ルートの具体化を検討している状況でございまして、まだそういったところから今後も引き続き新川越越生線の推進を図っているという状況でございます。

以上でございます。

○岡野　勉委員長　長瀬委員。

○長瀬　衛委員　今、日高川島県道から東については、総合都市計画決定は終わったのですか。

○岡野　勉委員長　堀内係長。

○堀内　潤都市計画係長　質疑にお答え申し上げます。

日高川島線の南側です。こちらにつきましては圏央鶴ヶ島インターチェンジを起点に立体化が令和５年３月に行われまして、国道407号の鶴ヶ島日高バイパスまでの区間が2.2キロございまして、そこは４車線

化が実現されまして､そこから407から東武越生線の今ちょうどアンダーパスの構造ですとか詳細設計なんかをやっているのですけれども、そちらの区域については、今、より詳細な調査ですとか用地測量、順次実施している状況でございます。

○岡野　勉委員長　長瀬委員。

○長瀬　衛委員　だから一本松の県道ですよね。一本松のところから日高へ行く、あの県道から16号に向かって、これからいろいろ新川越線が進められるかですよね。あの一本松の県道から毛呂山越生に向かっては、まだ都市計画決定の話どころではないと。まだまだ雲をつかむような話ですよね。ですから、それはそれで私、前から言っているのです。期成同盟会を別に抜けろとは言わない。そこに入っているのは結構だけれども、毛呂山町は川越坂戸毛呂山線を単独ででも要望活動すべきではないかと言っているわけだよね。もう都市計画決定終わっているのですから、川越坂戸毛呂山線は。残っているのは、毛呂山工区だけなのだから。毛呂山が、これが要望活動しないのは全く不思議な話だよね。それちょっと申し上げておきます。またよろしくお願いします。

それからもう一つ、立地適正化計画を令和７年度以降に見直すと実施計画に書いてあるのだけれども、最近、盛んに優良住宅何とかとこの間も言っていたね。質問する方もいたけれども、基本的には立地適正化計画というのは、居住区域というのは市街化調整区域には含まないというのが都市再生特別措置法に基づいているよね。そういう基本路線は崩さないのでしょう、これからも。コンパクトシティというのは崩さないのでしょう。

○岡野　勉委員長　堀内係長。

○堀内　潤都市計画係長　質疑にお答え申し上げます。

長瀬委員ご指摘の立地適正化計画につきましては、市街化区域に特化した計画になりますので、市街化は市街化でコンパクトシティプラスネットワーク、これを引き続き推進してまいります。一方で、市街化調整区域につきましては、都市計画マスタープランに基づきまして優良田園住宅の位置づけをしております。結局、町域全体を見た場合に、町域全体で人口減少やそういった少子高齢化が進んでおりますので、市街化区域も調整区域も同じように、それぞれ目的は違いますけれども、政策を市街化と調整それぞれの目的で両輪となって施策を推進していくことが大切であると考えております。

以上でございます。

○岡野　勉委員長　長瀬委員。

○長瀬　衛委員　いずれにしろ、２万人に向かって今、毛呂山町はどんどん進んでいるわけだから、それが大前提だよね。その中でどうやってまちづくりしようかというわけだけれども、産業系の土地利用というのは、これはもう皆さんの書いてある都市計画マスタープランにも書いてあるけれども、これは地区計画を定めていけば、市街化調整区域でも企業系のものは呼び込めるのは分かっているのだけれども、そういうものは誰も分かっているのだけれども、あんまり都市計画マスタープランと立地計画をごちゃごちゃにして、基本的には２万人の町に向かっているということも考えれば、きちんとやっぱりそれは方針を決めておかないと、立地適正化計画というのが都市再生特別措置法の改正に基づいて全国で国土交通省の要請があってつくったわけでしょう。これは人口減少に対する持続可能なまちづくりをしようということです

から、それはやっぱり路線を崩さないでいかないと、もうその場でその場でご都合主義でやっていたのではしようがないのではないの。

この間の優良何とかというやつは、あれは平成10年の話ではないですか。それをまた今度復活させようなんていうのは、何かやっぱり土地利用の面で無計画な気がする。だからその辺はきちんとやってもらいたいと思って。立地適正化計画を５年、あれもう見直し時期だよね。それについては、やっぱりあのとき決めた基本路線は守ってほしいと思います。都市機能設備をどこへ持っていくとか、居住施設をどこへ持っていくと決められているのですから、それによって地下の下落を止めたり、人口密度を維持したり、空き家率を減らしたりするわけですから、それはしっかりやってもらいたいと思いますけれども、どうですか。

○岡野　勉委員長　秋馬副課長。

○秋馬純一まちづくり整備課副課長　ご質疑にお答えいたします。

優良田園住宅につきましては、平成29年に定めた都市マスタープランに既に位置づけられているものでございまして、立地適正化計画と同時に作成したものでございます。立地適正化計画は市街化に特化した計画ですが、やはり市街化調整区域の充実も地域の特性に応じて考えていかなければならないものと考えております。都市マスタープランにそちらのほうは優良田園住宅ということで位置づけさせていただいておりまして、それは定住人口の増加を図るという位置づけのもとに位置づけてあるものでございます。それに従いまして、今後、十分検討しながら、立地適正化計画の特性も生かして、調整区域の地域の事情も生かしたまちづくりを検討してまいりたいと考えております。

○岡野　勉委員長　長瀬委員。

○長瀬　衛委員　それでは、グランドデザインに描いたとおり、秩序よく、秩序正しくまちづくりを進めてほしいと、こういうことです。お願いします。

○岡野　勉委員長　ここで私は質疑をしますので､ただいまから委員長の職務を副委員長に代行いたします。

〔委員長、副委員長と交代〕

○澤田　巌副委員長　ただいまから委員長の職務を行います。よろしくお願いします。

岡野委員。

○岡野　勉委員長　都市計画なり、あと長年にわたった川角駅の整備についても、同僚議員から住民説明の重要さ、そしてまた合意がやはり取られるということが大切なのだということがありました。そういった意味では、川角駅の南口の整備、そしてまた北口の整備ということでは、節目節目でこの課題を地域利用者、住民と一体となって行っていくという意味では、今後も節目節目で住民説明をお願いしたいということでございますが、その方向でよろしいでしょうか。

○澤田　巌副委員長　山口まちづくり整備課長。

○山口貴尚まちづくり整備課長　ご質疑にお答えをいたします。

川角駅周辺地区整備を進める上でということでございますけれども、やはり事業のまとめと南のまとめと考え、北とまとめと考えてということで、節目節目でということでございますけれども、その辺の住民説明のほうはあらゆる方法、ホームページであったりですとか、広報であったりですとか、説明会だった

りですとか、そういったところでお話のほうはしていきたいというふうに考えております。

○澤田　巖副委員長　岡野委員。

○岡野　勉委員長　それで、本当に危険な箇所も改良という意味では、南北の現道を含めた安心安全ということも最重要課題でございます。それで計画には、現在の前期、そして中期、そして後期という全体計画の下に視野に入れて、この計画を進めていく。東の玄関口としての可動域を造っていく、造成していくということで確認よろしいでしょうか、お願いします。

○澤田　巖副委員長　山口まちづくり整備課長。

○山口貴尚まちづくり整備課長　ご質疑にお答えいたします。

都市計画マスタープランにおける川角駅周辺でございますが、地域の方々が交流できる場所、地域づくりということでございます。それらをするために南口の整備、北口の整備、そして周辺道路の整備、そういったものが必要になってきます。また、それだけではなくプラスアルファ、地域の方がいきいきと生活できるような駅周辺をつくるためには、また都市計画の考えがあったり、そういったものを入れて進めていく必要がある地域でございます。そういう認識でおります。

以上でございます。

○澤田　巖副委員長　質疑が終わりましたので、岡野委員長に職務を戻します。

〔副委員長、委員長と交代〕

○岡野　勉委員長　次に、132ページ、第13款諸支出金、第１項基金費、第７目ふるさと納税基金費について説明を求めます。

山口まちづくり整備課長。

〔山口貴尚まちづくり整備課長詳細説明〕

○岡野　勉委員長　これより質疑に入ります。

堀江委員。

○堀江快治委員　これ山口課長、今まで基金費のトータルはどのくらいに今なっていますか。

○岡野　勉委員長　山口課長。

○山口貴尚まちづくり整備課長　ご質疑にお答えをいたします。

令和４年度末の基金の残高につきましては、6,695万1,859円となっております。それで、これからの令和５年度末の基金残高の見込みでございますけれども、こちらは先ほどの6,695万1,859円から令和５年度に既に繰入金として1,960万8,000円を一般会計のほうに入れております。これらを引きます。そして、今年度の、今年の積立金のほうは3,800万3,000円をこれを基金のほうに積みます。合わせますと8,534万6,859円ということになります。

○岡野　勉委員長　堀江委員。

○堀江快治委員　金額はそれでいいのですけれども、これ課長、いつまでも基金でお蔵にしまっておくわけではないのでしょう。いつかふるさと納税の充当事項に見合ったようなものを、これはふるさと納税した方の意思もありますから、それらについてはいつ頃解禁と言っては失礼ですけれども、使用段階に入っていくつもりなのですか。

○岡野　勉委員長　山口課長。

○山口貴尚まちづくり整備課長　ご質疑にお答えをいたします。

基金の使い道でございますが、こちらは企画財政課と相談をいたしまして決めておるところでございます。早速令和６年度から3,800万3,000円を一般会計に繰り入れまして、あとは寄附をいただいた方の使途、何に使ってもらいたいかという使途がありますけれども、それを積み上げて計算してありますので、その割合に応じてお金を充当していくという計画でございます。

○岡野　勉委員長　堀江委員。

○堀江快治委員　何でこれをここで質問したかと申しますと、本会議でやればいいのですけれども、たまたま今、川角駅周辺整備事業の問題が出てきて、ハピネス会、もとの根岸先生が病院なさっていて、ハピネス会で埼玉医大が引き受けたわけであります。川角、市場、西大久保の皆さんの声が医療過疎というものが非常に語られるのです。亡くなった前名誉理事長の丸木先生には、お話ししたことがあるのです。何とか川角のほうに御尽力願えないか、お金がかかることですからやれとは言いませんが、何とかご尽力していただけないだろうかというお願いはかなりしていたのですけれども、亡くなってしまった後、その話が途切れてしまっているわけなのです。

今でも地域の方の医療の貢献はさせていただいているのですけれども、あれだけのスペースのあるところですから、さらなる地域医療に対して何とかご協力を願えないだろうかというのは私どもの願いなのですけれども、私から言う、お願いすることではないので、やっぱり行政側で埼玉医科大学といろいろなお話をして、多少の協力、埼玉医大側とお互いに歩み寄ったような形で、今のハピネス、病院ハピネス、川角ハピネスの内容を僕からするともう少し土地も若干空いているようでしたので、何とか利用できないかなというのが、いつもあそこを通ってみての感じなのですけれども、それらのお話は今まで皆さんの中で出たことがありますか、そういう話が。いかがですか。

○岡野　勉委員長　山口課長。

○山口貴尚まちづくり整備課長　ご質疑にお答えをいたします。

医療があったほうがいいという委員のご意見かと存じます。やはりそういった場所もございまして、やはり地域の交流拠点といたしましては、医療施設というのも地域に十分に必要な施設であるというふうに考えております。その辺も堀江委員のご意見等をお聞きしまして、また内部でもその辺の地域への取組ができるかどうかということを検討、まだちょっとしたことはないのですけれども、これからきちんと考えていきたいと考えております。

○堀江快治委員　委員長、ちょっと副町長を呼んでもらえますか。

○岡野　勉委員長　お諮りいたします。

副町長、いいですか。

〔「副町長を……」と呼ぶ者あり〕

○岡野　勉委員長　この際、暫時休憩いたします。

（午後　２時０５分）

○岡野　勉委員長　休憩前に引き続き会議を開きます。

（午後　２時０８分）

○岡野　勉委員長　質疑を続行します。

堀江委員。

○堀江快治委員　副町長、またご苦労さまです。今、都市計画費の問題でいろいろ話して、さらに都市計画、まちづくり整備課でふるさと納税を一応いろいろ預かっておる中で、基金に積み立てているわけですけれども、いろいろなところへ使うのは結構なのですけれども、今日ここへ副町長に来ていただいたのは、県の医療関係のエキスパートとして長くお務めになり、埼玉医大との深いパイプがあるという前提でお話しさせてもらうのですけれども、川角駅のところにハピネス川角というのはご存じですか。

先代の丸木理事長のときに、理事長、川角地区には明海大学等もありますけれども、毛呂山にはお医者さんが根岸さんがやめた後ないのだけれども、もう少し広範な医療を伴ったハピネス川角を何とかしていただけないだろうかというお話をしたことがあるのです。そうしたら、そのときにはまだご健在でありましたので、名誉理事長の言い分は、駅に１つずつ今の、こっちのハピネスと同じようなものを４つ毛呂山町につくってみたいのが私の夢なのだというお話を聞いたのですけれども、亡くなってしまったので、その話はいずれにしても、せっかくあそこにあれだけの土地と埼玉医科大学さんが根岸先生の後を引き受けていただいておるし、そういう点からすると川角駅周辺の一つの核となってやるには、ハピネス川角のさらなる充実というものを考えられないだろうかと、埼玉医大に強い副町長の力量をここで遺憾なく発揮していただいて、交渉の場に、交渉をしていただけないだろうかということで今お呼びしたのですけれども、いかがでしょうか。その点忌憚のない意見を述べてください。

○岡野　勉委員長　副町長。

○関本建二副町長　そういう交渉はどうかということでございますけれども、実は私、その構想、今お話になった構想が先代の理事長さんがお持ちだというお話は別のところから伺っておりまして、そうこうしているうちに私も実は埼玉医科大学の客員教授ということを仰せつかりまして、医大グループの一員でもあるのだからちょっといろいろ相談させてくださいというので一回掛け合ったことがございます。実際、川角のハピネス会のクリニック、診療所をグレードアップして、例えばこちらのハピネス館のような同じような機能を持った施設にグレードアップさせるような展開は、今後どうなのでしょうかというお話がございまして、現時点ではすぐにそれを具体化するという状況にはなっていないというお話でございましたが、引き続き今お話しいただいたような第二ハピネス館のような機能の充実、グレードアップについて、医大側に対して町の副町長として働きかけはしていきたいと思います。

○岡野　勉委員長　堀江委員。

○堀江快治委員　副町長、埼玉医科大学さんに一方的にお話しするのもいいのですけれども、やっぱり病院経営も今、私聞いた範囲では、なかなか大変な時代だということを聞いております。ですから、なぜここで基金の問題で、ふるさと納税の基金積立てに関してお話ししたかと言えば、やはり町としても必要な病院でございますので、その裁量というのは私どもにはありませんので、ぜひそういうことを……ふるさと

納税を含めての基金をたくさん方々へ使うわけですけれども、いろいろ使うのもいいのでしょうけれども、やっぱり重点的にある程度、埼玉医科大学さんにお願いするには、町側も受入れ体制というか、お願いする体制があると思うのです。そこで初めて話がまとまるわけですから、ぜひ最低４年、あと３年残っていますから、任期が。２年、２年のうちにぜひ緒に就いたお話をしていただけるように努力していただけませんか。

○岡野　勉委員長　副町長。

○関本建二副町長　２年でできるのかどうかちょっと厳しいあれはありますけれども、しっかりとその辺は、確かに委員おっしゃるように、一方的にやってくれと言ったって、それはなかなか厳しいのだと思いますので、では町としてどういう形で協力ができるのか、そういうことも含めて、町として何をすればいいですかといったようなことも含めていろいろ相談はしていければというふうに思います。

○岡野　勉委員長　堀江委員。

○堀江快治委員　ぜひそういう意向で私は強く関本副町長にお願いをしておきたいと思います。せっかくエキスパートとして養ったものを遺憾なくこの毛呂山町に発揮していただきたいと、そういう願いでお呼びしたので、大変どうも忙しいところありがとうございました。

○岡野　勉委員長　この際、暫時休憩いたします。

（午後　２時１６分）

○岡野　勉委員長　休憩前に引き続き会議を開きます。

（午後　２時２９分）

○岡野　勉委員長　続きまして、108ページ、第10款教育費、第１項教育総務費、第１目教育委員会費から第３目教育センター費までの説明を求めます。

石田教育総務課長、土屋学校教育課長兼教育センター所長。

〔石田麻里子教育総務課長詳細説明〕

〔土屋浩一学校教育課長兼教育センター所長詳細説明〕

○岡野　勉委員長　これより質疑に入ります。

平野委員。

○平野　隆委員　そうしましたら私のほうからは、109ページの会計年度任用職員の報酬が出ていますけれども、人数50人と出ているので、おおむねこんな形でいくのだと思うのですが、この辺り確認の意味なのですけれども、50人という数は毛呂山町の規模からいって、周りの近隣と比べてどうなのですか、これ多いのでしょうか、それともパーセンテージとして、その辺をちょっと確認させてください。

○岡野　勉委員長　石田課長。

○石田麻里子教育総務課長　質疑にお答えいたします。

こちらの会計年度任用職員雇用の数が近隣の市町村と比べてどうかというご質疑だと思います。近隣の市町と比べて毛呂山町の場合は、各学校のほうに学校事務員であるとか、用務員であるとか、給食補助員、

そして図書整理員、学校支援員等々配置のほうをさせていただいておりますけれども、これだけ手厚く配置をしておる近隣というのは毛呂山町だというふうに自負しております。

○岡野　勉委員長　平野委員。

○平野　隆委員　では、そういう意味合いで50人という、ではこれに関しては分かりました。

あと、110ページのほうで、小中一貫校の準備委員会という、これ予算があるので質問させていただきたいのですけれども、予算の概要説明のほうに、28ページのほうに、その内容がこれ載っているのですけれども、今回、この委員会に入るメンバーというのは、一番左に書いてある方々がみんなそれぞれメンバーだと思うのですが、これに対して、右側の表を見ると、ＰＴＡ部会であれば、例えば統廃合に向けてのＰＴＡの統合等々をこれから計画を立てて進めていくのだということだと思うし、また総務部会のほうにはとなっているのですけれども、これは準備委員会というのは、この一番左側に書かれている全員で準備委員会なのだけれども、この準備委員会のやる仕事の内容というのは、それぞれみんながばらばらにこういうお仕事をするということなのでしょうか、ちょっとその辺教えていただきたいと思います。

○岡野　勉委員長　石田課長。

○石田麻里子教育総務課長　質疑にお答えいたします。

この小中一貫校準備委員会のつくりに対するご質疑かと思います。こちら委員会のほうは、そちらの概要のほうに書いています委員のほうで構成をさせていただきます。この準備委員会からの指示を受け、総務部会、ＰＴＡ部会、学校運営部会、通学路部会の４つの専門部会が、各専門部が所掌する内容について調査、協議のほうをさせていただきまして、この調査、協議した内容をまたさらに開校準備委員会のほうに報告し､そして学校編成に係る様々な事項について委員会のほうで意見などをいただいたものに対して、教育委員会において協議決定、実施をしていくというふうな委員会の構成としております。

○岡野　勉委員長　では、委員の中でもＰＴＡの方とか学校の先生方というのは、そういう仕事をして、先生とかでかぶっている場合もありますけれども、それぞれがそれぞれの部会で準備に向けて話をして、それでまたみんなで集まって、最終的にＰＴＡはなかなか統合できないよとか、こういう問題がある、ああいう問題があるというのを改めてまた話し合うという形になると。だから要するに、これが小中一貫校をどうすると決めるものではなくて、ちょっとその辺の位置づけというものがちょっと分かりづらかったのですけれども、教えていただきたいと思います。

○岡野　勉委員長　石田課長。

○石田麻里子教育総務課長　こちらの委員会でございますけれども、令和11年度の学校編成に向けてスムーズな移行となるように、必要な協議事項を各部会で話合いを進め、具体的な方策を決定していく委員会というふうに考えております。学校編成自体は、教育委員会のほうでも子供たちにとってよりよい教育環境を整える前向きな取組であるというふうに考えておりますけれども、とにかくこれまでと令和11年度、環境のほうが大きく変わります。この環境が大きく変わるということに対して、児童生徒だけではなくて、保護者や地域の方々も不安と感じます、これらの不安を解消するために、統合したときに円滑な学校教育活動が展開できるように、様々な視点からの協議解決、こちらが必要となりますので、そのための委員会というふうに考えております。

○岡野　勉委員長　平野委員。

○平野　隆委員　そうなると、この委員会がスタートして話合いが順々に進んでいくといった中で、最終的に学校統合問題はそちらから出てきた案が議会で承認されて、最終的に、途中で法的なものもありますから順に議会で承認を得て決まっていくと思うのですけれども、これはあくまでも先日示された方向に向かっての委員会ということになるので、そのような要するに毛呂小は分離型、川角は一体型、隣接型と向こうは一体型、それにならなかった場合は、最終的にこの委員会の話し合ってきた内容がそうならなかった場合ですけれども、そうなると足かけ５年かけてこの委員会は構成してきて、途中でＰＴＡの会長さんなんかは年度ごとに入れ替わっていってしまうのだと思うのですが、校長先生も定年の関係で入れ替わると思うのですが、この積み重ねていったものが、最終的にそのものの形にならなければ、何と言っていいのか分からないのですけれども、無駄になってしまうというか、そういうこともあり得るということなのでしょうか。

○岡野　勉委員長　石田課長。

○石田麻里子教育総務課長　こちらの内容のほうが、先日、学校の形を決めていく中で、こちらが先か、学校の形を決めるのが、設置条例が先かというような、そういうご質疑かというふうに思います。まずは、委員会のほうでしっかりと課題のほうを拾い上げていくということによって、今教育委員会が考えている計画を進めていくには非常に大切なことだという、ここはご理解いただけると思います。ただ、話合いを始めるタイミングというのが、令和６年度でよいかどうかという質疑だと思うのですけれども、この質疑に関しましては、まずはより具体的なものを示すことによって、保護者の方々や地域の方々も不安に思っているところが不安でなくなる。つまりより理解を得ていくことができる、そういうような形でもこの委員会は非常に有意義な委員会であるというふうに考えております。

○岡野　勉委員長　よろしいですか。続行します。

　中村委員。

○中村奨平委員　すみません。まず、先にちょっと確認なのですけれども、給食費無償化は給食センターに聞いたほうがよろしいのでしょうか。そういうことですよね。

〔「はい」と呼ぶ者あり〕

○中村奨平委員　そうですよね。分かりました。

　では、質疑します。では、112ページの教育費、第10款の小中学生英語検定受検料補助金について伺います。結構な金額がこれかかる、過去の実績を基に算出しているということですが、ここは先生方もお分かりだと思うのですが、やっぱり受検する、無料になったので、ただ受検をするだけ、全くの無勉強で挑む方ももちろんいらっしゃるわけであって、やはりここにはある程度インセンティブをつけたほうがいいと私は思っています。なので、合格者には全額、残念ながら落ちてしまった方には半額、このような運用方法等は検討されていますでしょうか。

○岡野　勉委員長　土屋課長。

○土屋浩一学校教育課長　質疑にお答え申し上げます。

　今回の上げさせていただいた英検の受検料の補助金につきましては、合否にかかわらず全額補助するも

のとなっております。ただ、受けた後に、合否のこちらの取得状況もこちらでも確認したいと思いますので、合否の結果も含めて提出してもらうような形となっておりますので、これはやはり子供たちが、児童生徒が英検にチャレンジするというようなところを認めながら、補助金の対象としていきたいと思いますので、ご理解賜りたいと存じます。

○岡野　勉委員長　中村委員。

○中村奨平委員　承知しました。今の答え方からすれば、非常に不合格の子が多い年度が続きますと、その辺は再度検討していただく余地はあるということですね。

　では、同じ内容に関してですが、今回に補助金に限るのは英検に限るものであると私は認識しておるのですが、例えば中学校の３年生であったり等は、ＴＯＥＦＬであったりＴＯＥＩＣ等を受ける体力というのもついている子もいると思うのです。社会人になってからやはり求められるのは英検は求められず、やっぱりＴＯＥＦＬであったりＴＯＥＩＣを求められるようになるのです。しかもこれは英検とは、私も英検２級、ここで言うの恥ずかしいぐらいなのですけれども、持っていますけれども、全く違うような試験問題なのです。体制も時間も。早いうちからあれに慣れさせるというのが、毛呂山町の子どもが社会人になり、就職のときに活躍する可能性というのは広がるのではないかなと思うのですけれども、ここは今後、そういうふうな英検に限らないということは検討の余地はあるのでしょうか。

○岡野　勉委員長　土屋課長。

○土屋浩一学校教育課長　質疑にお答えいたします。

　ＴＯＥＦＬであったりＴＯＥＩＣについては、現在対象外となっております。こちらのほう、学校のほうでも確認をしていったところですが、やはり主流なものというのは英検となっております。あとは、ＡＬＴの関係で、学校によってはＡＬＴであったり、英検の対策をしている状況等もありますので、なかなかＴＯＥＦＬであったりＴＯＥＩＣを受けている生徒が現在いないというようなところもありまして、英検のほうを対象とさせていただいております。今後、そういったものが出てくるようであれば、また検討の余地はあるかなとは考えております。

　以上です。

○岡野　勉委員長　中村委員。

○中村奨平委員　意見で申し訳ないのですけれども、今現時点でもなかなかそういう希望者、受検者が実績としていないというのは分かるのですけれども、やっぱりそこは門戸は広く、あくまで補助する条件は広くしておいて、実際使われるのは英検しかいないというのは仕方ないと思うのですけれども、最初から英検に限るというような運用体系ではなく、先ほども申し上げましたけれども、結局大人になれば求められるのは英検ではないと私は認識しておりますので、その辺も心広く検討していただければと思いますので、よろしくお願いします。

　以上です。

○岡野　勉委員長　よろしいですか。

　小野委員。

○小野　浩委員　110ページ、７、報償費の一番下です。小中一貫校準備委員会委員謝金９万6,000円とある

のですが、この説明が、こちら概要のほうを見ますと39ページに書いてあるのですが、それはどういう概要かというのをちょっとお答えください。どういうことでこうなったか。

○岡野　勉委員長　石田課長。

○石田麻里子教育総務課長　概要につきましてお答え申し上げます。

　こちら概要のほうは、令和11年度の学校編成に向けてスムーズに移行になるようにというような概要となっておると思いますけれども、そちらの内容につきましては教育委員会のほうで計画のほうも策定いたしまして、そして先ほどから申しましているとおり、まだ具体的なところをより細かくお示しさせていただくことによって、より不安が取り除けるというところの委員会というふうにしております。

○岡野　勉委員長　小野委員。

○小野　浩委員　ここ読みますと、39ページの新規重点事業、小中一貫校準備委員会委員謝金の右読みますと、小学校の統合に向けた調整会議や各部会での調整検討を行う委員に対して謝金を支払うとあります。私の解釈でいうと、これはもう小学校の統合に向けたという点で、スタートの時点で準備委員会というのは、もう統合というのは決まっていると解釈していいのでしょうか。

○岡野　勉委員長　石田課長。

○石田麻里子教育総務課長　質疑にお答えいたします。

　現在、教育委員会のほうでは、計画のほうを策定させていただきまして、お示しのほうをさせていただいております。統合に向けての準備委員会かというご質疑でございますけれども、先ほどから申しているとおり、統合に向けていろいろ進めていく中で、より具体的なところをお示しすることによって、住民の方々の不安というのを取り除くことができます。そのような不安を取り除くためにも、細かい具体的なところを決めていかなければならないというふうに考えておる、そういった委員会でございます。

○岡野　勉委員長　小野委員。

○小野　浩委員　具体的なところということは分かりましたが、その前提である大本の分離型なのか、隣接型なのか、一体型なのかと。現在の時点における町の計画は隣接型と一体型なのですね。でいいでしょうか、その解釈でいいでしょうか、現在の計画の。

○岡野　勉委員長　石田課長。

○石田麻里子教育総務課長　質疑にお答えいたします。

　現在、教育委員会でお示しをしている計画でございますけれども、毛呂山町立小中学校編成計画、こちらの計画のほうは川角中学校区が施設一体型の小中一貫校、毛呂山中学校区が施設隣接型の小中一貫校ということでお示しをしてございます。

○岡野　勉委員長　小野委員。

○小野　浩委員　だとしますと、私、議会でも申し上げましたように、現在の計画に非常に大きな不安を持っています。細かなところ以前に、大前提としてのどういう形にするかというところで不安を非常に持っておりますので、それが現在の段階では払拭されていません。その段階で準備委員会を発足させ、謝金を出すということに対して、これは意見になりますが、私は賛同できません。ですから、この部分に関しては、言葉は分かりませんけれども、これは削除してほしいということです。

以上です。

○岡野　勉委員長　答弁。

○小野　浩委員　くだされば、ありがたいです。

○岡野　勉委員長　石田課長。

○石田麻里子教育総務課長　ご答弁申し上げます。

教育委員会のほうで、ここでつくり上げた計画でございます。この計画のほう、まさに細かいところでの不安というのを持っている住民の方、保護者の方、たくさん……すみません。たくさんではないです。いらっしゃると思います。そういった方々に教育委員会が考えている方向というのをしっかりとお示しするというのも必要なことだというふうに考えております。

○小野　浩委員　以上です。

○岡野　勉委員長　佐藤委員。

○佐藤秀樹委員　では、質疑をさせていただきます。

まず、113ページの中学生留学事業業務委託料なのですけれども、海外に行って勉強していて、門戸を広げるという部分では、本当に非常にいいことだと思うのです。やはり海外から、外から中を見るということは非常にいいことだと、重要なことだと思うのですけれども、まずこの２名ですか、留学をするのは。何名なのでしょう。

○岡野　勉委員長　谷津田指導主事。

○谷津田和哉指導主事　では、ご質疑にお答えいたします。

対象者の人数ということですが、町内の中学校の各校から５名ずつの計10名というふうにこちらのほうで考えております。

○岡野　勉委員長　佐藤委員。

○佐藤秀樹委員　その選択というか、決定する要件というか、そういったものはどういう形で決められるのでしょう、その人選を。

○岡野　勉委員長　土屋課長。

○土屋浩一学校教育課長　質疑にお答え申し上げます。

対象が中学校２年生というところではあります。小学校段階からのそういったいわゆる学力調査の結果等も踏まえていったり、また中学校、小学校での学校生活、こういったものもつけていって、また校長先生の推薦書であり、あと面接等も行った中で、選考をしていきたいと考えております。

○岡野　勉委員長　佐藤委員。

○佐藤秀樹委員　分かりました。こちらの概要の31ページにチラシ等での募集だったりとかと書いてあるのですけれども、平等に、公平に選ばれるようにくれぐれも気をつけていただきたいと思います。

それと、先ほど来ある110ページの小中一貫校の準備委員会の謝金について幾つかご質問させていただきますけれども、まず最初に、先ほど来、石田課長が言っているのは私は理解します。たたき台がなければ当然議論になりませんので、そういった部分で教育部局のほうでの作っているたたき台が小中一貫校の中の分離型と一体型ということで、たたき台を作っているということですよね。

〔「隣接型」と呼ぶ者あり〕

○佐藤秀樹委員　隣接型ですよね。まず最初にお聞きしたいのが、これは９月議会、違う、違う。今回の議会か。町長の答弁で、あくまでも町長は教育部局のほうの進めることに対して、私はこう容認したのだ的なようなたしか答弁をされていたと思うのですけれども、その辺はどうなのでしょう。これちょっと重要なことだと思いますので。

○岡野　勉委員長　よろしいですか。休憩取りますか。

では、暫時休憩いたします。

（午後　２時５６分）

○岡野　勉委員長　休憩前に引き続き会議を開きます。

（午後　２時５９分）

○岡野　勉委員長　質疑を続行します。

佐藤委員。

○佐藤秀樹委員　では、すみません。もう一度質疑させていただきます。

長瀬議員の一般質問の中で、タウンミーティング時に町長が、あくまでも教育部局の計画に対して私はサポートするのだ的なような答弁をされたかと思うのですけれども、その辺の事実確認をちょっとしたいのですが。

○岡野　勉委員長　教育長。

○髙沢佳弘教育長　佐藤委員の質疑にお答えさせていただきます。

今、教育委員会のほうで進めている小中一貫校のこれからの計画等につきましては、町の重要な政策課題でございますので、町長のほうにも適宜情報提供させていただきながら、そして確認を取っていただきながら進めております。こちらの計画についてはご承知をいただいているということでございます。

○岡野　勉委員長　佐藤委員。

○佐藤秀樹委員　そうではなくて、あくまでも主導は教育部局で、町長はあくまでもそのサポート的存在という立ち位置でいいのかどうかというところです。

○岡野　勉委員長　教育長。

○髙沢佳弘教育長　ご質疑にお答えいたします。

主導は教育委員会でございます。

○岡野　勉委員長　佐藤委員、よろしいですか。

この際、暫時休憩いたします。

（午後　３時０１分）

○岡野　勉委員長　休憩前に引き続き会議を開きます。

（午後　３時０１分）

○岡野　勉委員長　質疑を続行します。

佐藤委員。

○佐藤秀樹委員　あくまでも教育側が主導ということで、分かりました。

では、その中で続けて質疑させていただきます。まず、この準備委員会なのですけれども、最終的には、この問題に関しては、私は学校の設置条例で議決の判断が最終の決定事項だと思っているのです。そこまでにまだまだ時間があるわけなので、まずそこの部分で今後のスケジュールをお聞きしたいのですけれども、議会とのまだまだいろいろ議論を重ねていかなければいけない、そういった時間を設けなければいけないと思うのですけれども、その辺の考えはどうなのかお伺いいたします。

○岡野　勉委員長　石田課長。

○石田麻里子教育総務課長　質疑にお答えいたします。

まさに具体的なところを詰めていく準備委員会、こちらのほうで話した内容などは、話した内容のご報告というのを議会のほうにしながら、教育委員会がどこまで、どのように進めておるか、どういうふうに考えておるかというところの報告というのは常に行っていかなければならないことであるというふうに認識しております。

○岡野　勉委員長　佐藤委員。

○佐藤秀樹委員　その中で、ではいろんな議論が今後でると思うのです。我々もまだまだいろんなことを、こういったことを考えていったほうがいいのではないかとかという提案の部分も各議員持っていると思います。だから今回、非常に重たい案件なので、そういったところも全て出して、お互いにきちんとした議論を重ねた中で今回は決めていかなければいけないと思うのです。最終的に決まるのが、しつこいようですけれども、設置条例を出されたときに、一体型も含めた中でいいのかどうかというのがそこで決まるのだと思うのです。

では、この準備委員会というのは、あくまでも私は今考えているのは結果、ですからたたき台だと思っているのです。そのたたき台のために、この準備委員会をつくるという認識でよろしいのでしょうか。

○岡野　勉委員長　石田課長。

○石田麻里子教育総務課長　質疑にお答えいたします。

たたき台という部分なのですけれども、計画のたたき台というところであると、そういう意味のたたき台ではございません。この計画をより皆様に納得していただくものに仕上げて……すみません。この計画を進めるための皆様にご理解していただくための準備委員会です。

○岡野　勉委員長　佐藤委員。

○佐藤秀樹委員　先ほども言うように、これ本当に重要なことだと思うので、よく理解して答弁していただきたいのですけれども、あくまでも、では私は、設置条例が先ほども言うように、そこで最終決定が決まると思うのです。その中で、では議論した中で、議会側から提案されたものというのは、一切受入れなくて、そのまま進めていって、最終的に、では議論をしても、結局分離型と一体型で、そこでジャッジをしてくださいというふうな、そういう考えで進めるのですか。

○岡野　勉委員長　石田課長。

○石田麻里子教育総務課長　質疑にお答えいたします。

現在、教育委員会では、毛呂山町立小中学校編成計画のほうを策定いたしました。そちらの計画のほうを今、方向性というふうになっている計画のほうをより具体的に進めていくための準備委員会でございます。

○岡野　勉委員長　佐藤委員。

○佐藤秀樹委員　私が言っているのは、執行部は当然そうです。計画を自分たちの持っている思いを実行したいと、それは分かります。だって、そういう熱い思いがなければ当然進まないわけですから。ただ、やはり議員もいろんな地域からの声だったりとか、それをまとめた中での自分の考え、自分の責任の中で主張するわけです。そういったときに、ではこういったほうがいいのではないかって当然意見を出すという機会は設けてもらわないと、では急にどこかのタイミングで設置条例出します。これでもう一体型と一貫校でどうですか。違う、分離型か。どうですかと言われても……

〔「隣接」と呼ぶ者あり〕

○佐藤秀樹委員　隣接か。隣接型と一体型でどうですかと言われても、だったらでは議論する場がないではないですか。自分が言いたいのは、だからこれからようやくいろんな基金とか出してきたわけで、これから議論する時期がやっと来たので、だからもっと議会側と議論を重ねる時間をつくっていただきたい。場合によっては、その話の中で、もし少し修正ができるのだったら、折衷案としてそこは見直せばいい話だと思うし、今ここでもう遮断されたら、全てにおいてもう確定してしまうわけではないですか。それって、いろんなところに今後波及してくると思うのですよ、今回の今議会の中のことも含めて。

○岡野　勉委員長　この際、暫時休憩します。

（午後　３時０９分）

○岡野　勉委員長　休憩前に引き続き会議を開きます。

（午後　３時１１分）

◎発言の取消し

○岡野　勉委員長　佐藤委員から、発言の取消しの申出がありますので、これを許します。

佐藤委員。

○佐藤秀樹委員　ただいま一部不適切な発言をしましたので、取消しを求めます。

○岡野　勉委員長　お諮りします。

ただいまの発言の取消しの申出につきましては、許可することにご異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○岡野　勉委員長　ご異議なしと認めます。

よって、佐藤委員からの発言の取消しを許可することに決定いたしました。

○岡野　勉委員長　では、石田課長。

○石田麻里子教育総務課長　質疑にお答えいたします。

議会のご意見などを取り入れる場があるのかというご質疑だと思います。これから委員会のほうで、具体的な部分というところでの委員会のほうは開催させていただきますので、そういった中で進めていく中で、よりそのほうがよいという部分であれば、ご意見のほうは反映できるというふうには考えておりますが、ただ大きなところの計画に沿っておるという本旨の部分につきましては、しっかりとその計画に沿って協議のほうを重ねていかなければならないというふうに考えております。

○岡野　勉委員長　佐藤委員。

○佐藤秀樹委員　分かりました。これから議会側からもいろいろ要望があると思いますけれども、ぜひ協議をできる場を設けていただきたいと思います。

以上です。

○岡野　勉委員長　長瀬委員。

○長瀬　衛委員　課長、こうやってあれでしょう、皆さんいろんな意見を出しているでしょう。だんだん、だんだん情報が出てきて、町民の皆さん、物すごい情報を今伝達ができて、みんな反対しているのです。今聞いていると。何かたたき台だって、たたき台を準備会で検討してもらうという話ですか、さっき聞いていると。

○岡野　勉委員長　石田課長。

○石田麻里子教育総務課長　たたき台というところの取扱いがうまく説明できていないのですけれども、準備委員会のほうで検討していくのは、今、教育委員会のほうで計画のほうを策定していることに対しまして、より具体的な詰めていかなければならない部分の課題などをまず上げていただいて、その課題に対してしっかり協議を行っていきたいというふうに考えております。

○長瀬　衛委員　この点だけでいいのだけれども、全員とは言いませんけれども、町民の皆さんも、この中でも、先ほど佐藤委員が言ったように、これから議員ともいろいろ調査していこうというふうに今なっているのだけれども、分離型に変更できないのでしょう。このたたき台というやつ、これは。そこだけはっきりしておいたほうがいいです。これはもう分離型には変更できないのでしょう、これは。教育委員会で決定したもの、それをはっきりしてくれればいいのです。

ですから、一体型、隣接型前提で準備委員会に諮るのでしょう。分離型の検討をするわけではないのですよね。それだけはっきりしてくれればいいのです。

○岡野　勉委員長　石田課長。

○石田麻里子教育総務課長　質疑にお答えいたします。

現在、教育委員会でできておる計画は、施設一体型と施設隣接型の計画となっております。

○岡野　勉委員長　長瀬委員。

○長瀬　衛委員　そうすると、私がこの前も本会議で言ったけれども、順序が違うのではないかということ、やっぱりここで証明できるわけなのです。ようやくこれで住民にもかなり情報が伝わってきて、議員の皆さんも大分今の経過の中で分かってきて、これから我々は、極端に言うと白紙化をちょっともう一回検討しようではないかというのを意見の中で、もう先走ってどんどん、どんどんこうやって既成事実を積み上げられて、やっぱり多少９万円といえども、これは一体型、隣接型のための予算ですから、これはちょっと議会を軽視しているのではないですか。順序が違うというのです。

この間、総務文教委員会で私が順序が違うのではないか、地方自治法の順序に従っていないではないかというのがあった。桑名市の例があるというので、桑名市の資料をちょっと私調べてみたけれども、桑名市調べました。桑名市がどういう状況だか調べました。要するに何かというと、何よりも先に基金条例をやっているのはおかしいではないかといったら、桑名市に事例があると。桑名市調べましたら、桑名市も人口14万人の町で、中学校９校、小学校が28校あって、中学校ごとにブロックがもう決められていて、もう既に令和２年には全中学校区で分離型が始まっているのです。

その前の令和元年度には、多度地区というそのブロック９区のうちの一つだけは、都市計画学校事業として4.7ヘクタールの都市計画決定して、そこに複合施設とともに一緒に一つの小中施設一体型の学校を作ろうという計画です。その多度地区のやつを調べたら、中学校１校に対して小学校は４校ある。そのうちの３校は複式学級です。その小学校と中学校１校で、５校でこの市では初めて一体型をこれから令和８年、９年かな……

〔「７年」と呼ぶ者あり〕

○長瀬　衛委員　７年かな、その完成で１年ぐらい延びるらしいけれども、見るとやっぱりきちんともう複合施設の方針決定して、用地も取得して、分離型をスタートして、それから基金条例の設置です。議会も住民の皆さん方も、ちゃんとやっぱり合意ができているのです。だから順序が違うでしょうと言っているの。こうやって今、分離型がいいのか、一体型がいいのか、隣接型がいいのか、これから我々がしっかり考えようというのに、もう一体型ありきで、こうやってどんどん、どんどん積み重ねていっていることが住民を愚弄しているし、我々議会を少し軽視しているのではないかと、ずっと私、この間から言っているの。おかしいでしょう。総事業費78億円ですよ、桑名市の一体型の複合施設は。ちゃんと順序も踏んでいるではないですか。住民合意、議会の合意も得て、ちゃんと順序よく手続を進めていってやっているではないですか。

請負契約もプロポーザル方式で、設計と施工を一緒にして、ちゃんともう計画的にやっている。全然違うではないですか。いずれにしても分離型に変更ができない内容のたたき台をやるための準備会のために、我々がこれから賛成を求められているのだけれども、それはできないです。今、佐藤委員が言ったように、これから我々はいろいろ情報量の差があるから、きちんとしたみんな同じ情報の下で、住民の意思を議会に反映するために、これから努力してやろうとしているのです。また請願も出たというきっかけもあったし、ここでだって、こういう予算に絡む議案を出すことは、これは議会軽視です。

とにかくあの基金条例も、この準備会の目的も、すべて分離型対象ではない一体型と隣接型の案ですよ

ね。それだけはっきりしていればいいのです。これはとてもではないけれども、住民に理解されない。やっぱりちゃんとみんなが議論して、議会も住民も納得してからやったって別に、あなたたちの令和11年にやらなければいけないという根拠は何もないのですから、そうでしょう。間に合わないなんて何が間に合わないのですか。間に合わなくないではないですか。11年にやらなければいけないって、何か法律でもあるのですか。ないでしょう。これはいずれにしても、まだまだ町民の皆さんも納得しない。パブリックコメントの結果が、もう決定的です。あれに対してどう応えるか。我々もあのパブリックコメントの内容なんかもよく吟味もしていない。どういうふうに我々があれに答えて意見を言えるか、大事なことです。

教育委員会は、この間も言ったけれども、教育委員会の方針決めるときは、常にやっぱり住民の意思を反映しなければいけないと書いてあるではないですか、文科省で。それをないがしろにしている、こういうことに尽きます。

以上です。

○岡野　勉委員長　よろしいですか。

○長瀬　衛委員　もうこれ議論しても、だからしようがないのです。意見言う人は言ってください。私は、もうそれに尽きる。

○岡野　勉委員長　堀江委員。

○堀江快治委員　それでは、石田課長、内容は皆さんがよく言っているけれども、私は原点に戻って、これまでも言ってきた曲学阿世の間違いを我々にきちんと謝罪をして、原点に戻しなさい。議員というのは、すべからく皆同じ権利持っているのだ。それを何人かを呼んで、これらの話をしたのは、曲学阿世というのは、まさに毛呂山町議会を最高に愚弄した行為なのだよ。この行為をやらせるということは、私は絶対許せないからな。私は。そういうことでスタートしたこの学校の各編成、学校統廃合なんていうのは、私は許すわけにいかない。その心が駄目だよ。相手が子供に、純真な子供を預かる教育者が、まさに古来から言われている曲学阿世に匹敵するような行為で我々を除外したということに対しては、ひがみとも取れるという人がいてよせと言われたけれども、そうではない。やっぱりスタートラインが間違っているの、これは。そのことをはっきり言ってもらわなければ、こんな議論なんかできるわけないではないですか。何を話し合ったの、その曲学阿世、私が言っている会議で。何で２人がそこへ行っていたのだ。教育者なんていうのは、中立を守り、神聖な場所でなければだめなのよ。我々をなめているのか。その辺を答えてくれよ。

○岡野　勉委員長　そのとおりです。答弁求めます。

この際、暫時休憩します。

（午後　３時２４分）

○岡野　勉委員長　休憩前に引き続き会議を開きます。

（午後　３時５６分）

○岡野　勉委員長　質疑を続行します。

小峰委員。

○小峰明雄委員　小中一貫準備委員会の委員の関係は多く出ましたので、私のほうからちょっと確認なのですけれども、113ページの委託料の中学生の海外留学の関係で、これは計画書だとかいろいろなものを見てもなかなかこの文言というか、こういうのは出てこないのですけれども、たしか30年近く以前に終了したような記憶があるのですけれども、これどうしてこういうふうに再開されたのですか。

○岡野　勉委員長　谷津田指導主事。

○谷津田和哉指導主事　ご質疑にお答えいたします。

この海外留学プログラムの再開についてでございますが、国際社会とのつながりやグローバルな視野を持つことの重要性というのが高まり、国際交流や異文化の理解というのは近年ますます求められている状況でございます。今年度も海外留学擬似体験ということで、小中学生を対象に行いましたが、その体験をした児童生徒の感想の中に、この体験をしてみて、今度は実際に海外に行ってみたいというような声も多くございました。このように将来を担う子供たちには、グローバルな視野、またコミュニケーション能力を高め、自己の成長や価値観の広がりを促すことが期待できるという目的から実施をさせていただければと思います。

以上でございます。

○岡野　勉委員長　小峰委員。

○小峰明雄委員　そうしますと、それはどういう流れで、教育委員会ではどんなふうにしてこうやって決定されたのですか。

○岡野　勉委員長　土屋課長。

○土屋浩一学校教育課長　ご質疑にお答え申し上げます。

こちらは、今説明があったように、擬似体験を行っていく中で、子供たちの感想等も拾いながら、こういった中で、やはり今までかつても海外留学をやっていたというような実績もありましたので、こちらの学校教育課教育センターが中心となって海外に行けないかというようなところで検討しながら進めてきたものとなっております。

○岡野　勉委員長　小峰委員。

○小峰明雄委員　１人当たりの金額も66万ということで多額な費用がかかるわけですよね。オーストラリアということなので、このオーストラリアと決めた理由というのは何かあるのですか。

○岡野　勉委員長　谷津田指導主事。

○谷津田和哉指導主事　ご質疑にお答えいたします。

このオーストラリアについて決めた理由でございますが、まずは英語圏であるということ、そして埼玉県の友好都市になっており、過去には毛呂山町からも海外派遣ということでオーストラリアのブリスベンのほうに行っておりました。このブリスベンは、オーストラリア第３の都市で、まちには自然も多く、また治安も比較的良い、そして日本との時差も１時間というようなこと、そして最後に南半球になりますので、夏に行くときに冬になる季節ということで、比較的温暖な気候というようなことから、このオーストラリアということにさせていただきました。

以上でございます。

○岡野　勉委員長　小峰委員。

○小峰明雄委員　分かりました。

これ一般財源で令和７年度に実施するのだということなのですけれども、これはもうずっと隔年で行うようにするのですか、それともともうこれから毎年行う。要は、始めたらやめられないのだよ。だから始めるというのは、その目的や費用対効果だとか全てのことを考えて進めていかなければいけないのです。特に基金をここに充てています。そういう事業なのだ。特にそれで２年かけて、そのお金をためて、そうするとこの多額な費用が毎年、毎年捻出できるか。だから生徒にしてみれば、来年行けるぞ。やらなかったと、そういうことがないように、毎年やるのならやるとしていかないと、生徒さんにしてみれば先輩が行ったのだから、私も行ってみたいとか、そういうこと思うと思うのです。そういうものだけは芽を摘まないでいただきたいと思うのです。いかがですか。

○岡野　勉委員長　谷津田指導主事。

○谷津田和哉指導主事　ご質疑にお答えいたします。

この海外留学ですが、毎年行うようなものとして考えております。今回の海外留学の中で、現地に行っている生徒からこちらの町のほうにいる小中学生に向けてオンラインで現地の様子を流してもらうというようなことを考えております。オンラインで現地の様子を見た年下の子供たちが、いつか海外に行ってみたいというような意欲を持ち、それが学力であったり学習意欲の向上につながってくると考えておりますので、毎年これを行っていきたいと思っております。

以上でございます。

○岡野　勉委員長　小峰委員。

○小峰明雄委員　オンラインでするのであれば、しばらくオンラインで行ってもいいのではないかと思いますけれども、いかがでしょうか。

○岡野　勉委員長　谷津田指導主事。

○谷津田和哉指導主事　ご質疑にお答えいたします。

オンラインで現地をつなぐことで、やはり現地の様子を肌で感じてもらうということが子供たちの意欲に大きくつながってくるのではないかなと思っております。また、海外に行った子供たちも実際に自分で行ってみて、様子を知って、それをこちらの町のほうに戻ってきてから、ほかの子供たちに伝えるということで、やはり現地に行くことが一つ大きな教育効果があるのではないかというふうに考えております。

以上でございます。

○岡野　勉委員長　次に、114ページ、第２項小学校費、第１目学校管理費、第２目教育振興費について説明を求めます。

石田教育総務課長、土屋学校教育課長。

〔石田麻里子教育総務課長詳細説明〕

〔土屋浩一学校教育課長詳細説明〕

○岡野　勉委員長　これより質疑に入ります。

挙手をお願いします。

佐島委員。

○佐島哲普委員　備品購入費についてちょっとご説明していただきたいと思います。たしか令和６年から小学校教科書改訂になっていくのではないかと思うのですけれども、そのようなことで指導書とかそういうのというのは、これ県費になっているのですか。町で購入とか、そういうことなのでしょうか。指導書とか。

○岡野　勉委員長　土屋課長。

○土屋浩一学校教育課長　質疑にお答えいたします。

児童が使う教科書については、国のほうから支給されます。今回購入いたしますのは、教師用の教科書や指導書のほうになりますので、こちらのほうを予算で計上させていただいております。

○岡野　勉委員長　佐島委員。

○佐島哲普委員　中改訂ですけれども、学習指導要領変わって、デジタル教科書と紙の教科書、今回も紙の教科書が無償化ということで、デジタル教科書というのはご購入になっているのかどうか、その辺ちょっとお聞きします。

○岡野　勉委員長　新井指導主事。

○新井　敬指導主事　それでは、私のほうから質疑にお答えさせていただきます。

今回購入する指導書の中ですけれども、基本的には紙の教科書指導書を購入しております。中にはセット販売になっていて、デジタル教科書教材を含む教科もございます。

以上でございます。

○岡野　勉委員長　佐島委員。

○佐島哲普委員　ちょっと内容の本質になってしまうのですけれども、政府はどっちかというと紙の教科書からデジタル化ということなのですけれども、今現在、紙の教科書使っている学校とか研究とかやっているとは思うのですけれども、紙かデジタルかという。今度６年から変わりますよね、４月から。そのときにまたそういうふうなデジタル化に授業を変えていくとか、そういうふうなお考えはあるのでしょうか。

○岡野　勉委員長　新井指導主事。

○新井　敬指導主事　デジタル教科書についてですが、国から無償で提供される実施事業がございます。それは教科は数学、算数、また英語がありますので、そちらのほうを町でも申請させていただいて、こちらのほうで使わせていただいているところでございます。

○岡野　勉委員長　佐島委員。

○佐島哲普委員　最後に確認ですけれども、そうすると国で無償化のデジタル教科書の教科は基本的にはデジタル化で考えているということで、それがない、補助がないところは今までどおりの紙の教科書を使っているという考えでよろしいのでしょうか。

○岡野　勉委員長　新井指導主事。

○新井　敬指導主事　ただいま申し上げたのが、実証研究のための教材ですので、基本的には紙で授業のほうは行ってまいります。

○岡野　勉委員長　よろしいですか。

平野委員。

○平野　隆委員　私は、115ページの国内交流事業ですが、確認のために、これは定員８名ということで各校平等に２名ずつ、これは定員が募集に足りなかった場合、極端な話２人しか行かなかった場合、それでも普通に実施するのか、その確認をお願いします。

○岡野　勉委員長　三浦副課長。

○三浦裕芳学校教育課副課長　ご質疑にお答えいたします。

木城町に国内交流事業として各校２名ということで募集のほうを行うところですが、人数に満たなかった場合というお話ですが、満たなかった場合でも応募があった方でいく予定では考えております。

○岡野　勉委員長　平野委員。

○平野　隆委員　分かりました。

それと、ここに選考基準が載っておりますけれども、応募が逆に多かった場合、この選考基準だとなかなか透明性も難しいし、ぜひ誤解を招かないように、ここのところは多かった場合には非常に気を遣っていただきたいと思うのですけれども、どうでしょうか。

○岡野　勉委員長　三浦副課長。

○三浦裕芳学校教育課副課長　ご質疑にお答えいたします。

選考に当たりましては、公平に分かりやすく選定のほうをしていきたいと考えます。

○岡野　勉委員長　小峰委員。

○小峰明雄委員　まず、115ページの国内交流事業の関係で、４校の新６年生のクラス数をお伺いします。

○岡野　勉委員長　三浦副課長。

○三浦裕芳学校教育課副課長　ご質疑にお答えいたします。

６年４月のクラス数でございますが、毛呂山小学校が２クラス、川角小学校が２クラス、光山小学校が１クラス、泉野小学校が１クラスとなります。

○岡野　勉委員長　小峰委員。

○小峰明雄委員　だから２クラスがあって、１クラスがあるでしょう。だから児童数から応じた平等で参加できるようなというのを私、一般質問でちょっとお話しさせていただいていますけれども、こういう結果になるのですよね。２クラスで１人、１クラスで２人という、こういうところが少し流動的に考えていただきたかったなというのは意見です。意見ということで聞いてください。

次に、小学校の体育館の空調設備、この設置工事があるのですけれども、災害がいつ何どき、どういうふうに起きるか、これは分かりません。この中学校と小学校の熱源ですか、片や電気で、片やはガスということなのですけれども、こうやって考えると、ガスは使えたよといったときに、電気は使えなかったよということも発生しますよね。これ壁の違う熱源でとかというのは考えられなかったのですか。

○岡野　勉委員長　岩田係長。

○岩田大佑管理係長　ただいまのご質疑にお答えいたします。

設計業務委託の中で工法、熱源のほうは検討してまいりましたが、基本的には学校ごとで電気またはガ

スという形で検討を進めてまいりました。

以上でございます。

○岡野　勉委員長　小峰委員。

○小峰明雄委員　どういう検討をされて、こういう結果になったのですか。

○岡野　勉委員長　岩田係長。

○岩田大佑管理係長　ただいまのご質疑にお答えいたします。

設計業務委託においては、イニシャルコストとランニングコストのトータルコストの比較検討から、学校ごとに安価な工法を、熱源を選定いたしました。

以上でございます。

○岡野　勉委員長　小峰委員。

○小峰明雄委員　こういう大切なものをお金で考えてよろしいのですか。安価なら何でもいいのですか。もう少し研究してください。何のときに使います。緊防債ですよね。安価ですって、どういう意味なのですか、緊防債使って。どこから金が出てきて、どういうふうに行きます。緊防債使っているのです。安価って今答弁ございましたけれども、もう少し真剣にやってください。何かがあったときに、これが使えなかったといったら、何のためにつけたのですかという話になるから、やはりそのときには予備的なことも考えなければいけないのです。ただ安いからこれでいいのだという物事の考え方はよくないです。いかがですか。

○岡野　勉委員長　石田課長。

○石田麻里子教育総務課長　質疑にお答えいたします。

今、担当のほうからの説明というのは設計をお願いしたときに、各体育館につけるときの細かい設計のときの決め方というところでございます。こちら小学校のほうは電気を熱源としておりますし、中学校のほうはガスを熱源というふうに大きなところで分けさせていただいておりますので、災害のほうの対応もできるというふうに考えております。

○岡野　勉委員長　小峰委員。

○小峰明雄委員　課長、そういうふうに答弁してしまうと、では小学校要らなかったのではないというふうに取れます。そうでしょう。使えないわけでしょう。片や電気で、片やガスで、だからもう少し何をするにもいろいろのシミュレーションを考えて物事していかないと、ただ安いからというけれども、体育館の屋根と同じになってしまうのですよ、前回の。そこへ来てしまうのです、私は。もう少し慎重に物事をするのにやっていただきたい。これ意見でいいです、もう。駄目だ、話にならない。

○岡野　勉委員長　よろしいですか。

続きまして、116ページ、第３項中学校費、第１目学校管理費、第２目教育振興費について説明を求めます。

石田教育総務課長、土屋学校教育課長。

〔石田麻里子教育総務課長詳細説明〕

〔土屋浩一学校教育課長詳細説明〕

◎会議時間の延長

○岡野　勉委員長　お諮りします。

本日の会議時間は、審議の都合により、あらかじめ延長したいと思いますが、これにご異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

岡野　勉委員長　ご異議なしと認めます。

よって、本日の会議時間は、審議の都合により、あらかじめ延長することに決定いたしました。

○岡野　勉委員長　これより質疑に入ります。

小峰委員。

○小峰明雄委員　細かい点なのですけれども、部活動外部指導者の謝金と事業協力者の謝金というのが若干減額されているのですけれども、現況とこの積算の根拠をお伺いします。

○岡野　勉委員長　新井指導主事。

○新井　敬指導主事　ただいまのご質疑にお答えいたします。

中学校の外部指導者につきましては、４名今配置させていただきまして、毛呂山中学校に３名、川角中学校に１名配置のほうをさせていただいています。

以上です。

○岡野　勉委員長　小峰委員。

○小峰明雄委員　あと一点、生徒教職員の健康診断等の委託料の内容をお伺いします。

○岡野　勉委員長　三浦副課長。

○三浦裕芳学校教育課副課長　ご質疑にお答えいたします。

検査内容の内訳につきましては、中学１年生の心電図、中学２年生の血液検査、小児生活習慣病予防検診のほか教職員の定期健康診断や胃がん、大腸がん検診を予算計上しております。

○岡野　勉委員長　ここで私は質疑をしますので､ただいまから委員長の職務を副委員長に代行いたします。

〔委員長、副委員長と交代〕

○澤田　巖副委員長　ただいまから委員長の職務を行います。よろしくお願いします。

岡野委員。

○岡野　勉委員長　不登校の推移ということで、現時点の人数等をお聞きしたいと思います。

○澤田　巖副委員長　谷津田指導主事。

○谷津田和哉指導主事　ご質疑にお答えいたします。

不登校の現状ということでございますが、まず不登校児童生徒数の増加は全国的なものでございます。また、毛呂山町においては近年、全国平均を上回る状況のほうが続いております。小学校では高学年になるに連れて増加傾向となり、中学校ではさらに増加するという傾向になっております。現在、令和５年度12月末の調査の数字ですけれども、小学校が10人、中学校が48人となっております。こちら昨年度の同時

期、12月末現在で比べますと、小学校がマイナス８名、中学校がマイナス６名というふうになっております。

以上でございます。

○澤田　巌副委員長　岡野委員。

○岡野　勉委員長　最新の人数ということでは増えているということになっていると思いますが、どうでしょうか。12月ではなくて、直近の。

○澤田　巌副委員長　谷津田指導主事。

○谷津田和哉指導主事　ご質疑にお答えいたします。

今現在、最新のものが、今お伝えさせていただいた12月末現在のものというふうになっております。

以上でございます。

○澤田　巌副委員長　岡野委員。

○岡野　勉委員長　たしかちょうど10年前が、中学校でいいますと13で、私なりに見たら、それで今年の58ということで、何というか10年で５倍以上増えているということで、子供たちにとっては本当に大変な中だと思います。それで毛呂山の場合には、新聞によりますと対応がなかなかやはりできていないと。４割ぐらいの子供に対して、何らかの対応なり寄り添うということでは厳しい状況だということなのですが、毛呂山に対してはどういった現状にあるかということでお願いしたいと思います。

○澤田　巌副委員長　土屋学校教育課長。

○土屋浩一学校教育課長　質疑にお答え申し上げます。

新聞報道等で、いわゆる専門的な機関とつながっていない等々で４割近くというようなものは報道であります。毛呂山町の現状といたしましては、まず専門的な機関の前に担任の先生と面会が行われないような児童生徒はございません。学校のほうでしっかりと対応もできている状況でもありますので、ただ欠席日数が年間通して30日を超えてしまう。30日というのが、やはり月に二、三回休んだものの累計で30日超えてしまうこともあります。全く学校に行けないという児童生徒はほとんどございませんので、そういった中で出席日数も増えているという改善傾向も見られているような状況ではございます。

以上です。

○澤田　巌副委員長　岡野委員。

○岡野　勉委員長　あと、学校給食の完全無償化なのですけれども、近隣で私のほうも毛呂山が完全無償化になるよということでちょっと自慢気に話していましたら、案外ということはないのですけれども、近隣でいうと坂戸が４月から、それで鳩山も４月から、越生も４月から、毛呂山も４月からということで、非常にこの状況でよく対応したなということもありますけれども、それで一般質問でもあったと思うのですけれども、やはり特別支援学校なり私立の小中学校に行った場合には、その対象を検討ということになったのですが、あれの方向を見通しというか、ぜひ実現してほしいと思うのですが、その点での感触というか、教育長は検討と言っていましたけれども、その方向なりは希望が持てるのか、ちょっとすみません。あと、４月からといったらもう時間がありませんけれども、どうでしょう。

○澤田　巌副委員長　この際、暫時休憩します。

（午後　４時２８分）

○澤田　巖副委員長　休憩前に引き続き会議を開きます。

（午後　４時２９分）

○澤田　巖副委員長　質疑を続行します。

土屋学校教育課長。

○土屋浩一学校教育課長　質疑にお答えいたします。

私立に通っている児童生徒、また特別支援学校に通っている児童生徒の補助につきましては、今後また給食センターと協議をして、検討してまいりたいと思いますので、よろしくお願いいたします。

○澤田　巖副委員長　岡野委員。

○岡野　勉委員長　そこは本当に毛呂山の子供なので、生徒児童なので、これはやはり平等にというか、それが基本だし、あと近隣の自治体も見てください、対応していますので。すみません、それも。

○澤田　巖副委員長　質疑が終わりましたので、岡野委員長に職務を戻します。

〔副委員長、委員長と交代〕

○岡野　勉委員長　次に、118ページ、第４項幼稚園費、第１目教育振興費について説明を求めます。

土屋学校教育課長。

〔土屋浩一学校教育課長詳細説明〕

○岡野　勉委員長　これより質疑に入ります。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○岡野　勉委員長　次に、132ページ、第13款諸支出金、第１項基金費、第９目小中一貫校施設整備基金費について説明を求めます。

石田教育総務課長。

〔石田麻里子教育総務課長詳細説明〕

○岡野　勉委員長　これより質疑に入ります。

小峰委員。

○小峰明雄委員　ちょっと確認しておきますけれども、この基金というのは小中学校編成計画に基づいての基金ということですか。

○岡野　勉委員長　石田課長。

○石田麻里子教育総務課長　質疑にお答えいたします。

こちら基金でございますけれども、現在、教育委員会では毛呂山町立小中学校編成計画、こちらのほうを策定しております。この策定を実現するための小中一貫校のための基金でございます。

○岡野　勉委員長　小峰委員。

○小峰明雄委員　そうしますと、実現するためのということになりますと、隣接型と施設一体型ということで私は理解してよろしいということですね。

○岡野　勉委員長　石田課長。

○石田麻里子教育総務課長　質疑にお答えいたします。

　この基金のつくり上、隣接型、一体型、分離型、どちらも使えるというようなつくり方にはなっております。

○岡野　勉委員長　小峰委員。

○小峰明雄委員　間違いないでしょうね。これ条例で、委員会で審議されたと思うのですけれども、それと整合性は大丈夫なのですか。

○岡野　勉委員長　石田課長。

○石田麻里子教育総務課長　質疑にお答えいたします。

　今回の毛呂山町小中一貫校施設整備基金条例、今回上程しておりますこちらの基金でございますが、小中一貫校を整備するための基金というふうなつくりになってございます。

○岡野　勉委員長　小峰委員。

○小峰明雄委員　この基金には建設入っているけれども、改修は分かりましたけれども、その前が建設と書いてあるのですけれども、この点は何の建設なのですか。

○岡野　勉委員長　石田課長。

○石田麻里子教育総務課長　こちら上程しております基金条例のほうの第６条、こちらが基金は小中一貫教育推進に伴う小中一貫校の建設、改修、その他の整備に要する経費の財源に充てる場合に限り、その全部または一部を処分することができる、このような条項がございます。

○岡野　勉委員長　小峰委員。

○小峰明雄委員　再度お伺いしますけれども、この基金は小中学校編成計画のための基金という解釈でよろしいのですか。

○岡野　勉委員長　石田課長。

○石田麻里子教育総務課長　質疑にお答えいたします。

　現在、毛呂山町教育委員会で策定いたしました毛呂山町立小中学校編成計画においては、施設一体型の小中一貫校、施設隣接型の小中一貫校という計画になっております。

○岡野　勉委員長　小峰委員。

○小峰明雄委員　に基づいてということでよろしいのですか。

○岡野　勉委員長　石田課長。

○石田麻里子教育総務課長　質疑にお答えいたします。

　教育委員会で目指しておる小中一貫校は施設一体型、施設隣接型の計画となってございます。今回、上程させていただきましたこの基金条例、教育委員会はそのような計画を持ってございますが、基金条例の構造上、つくり上、小中一貫校の整備であれば使えるという形にはなってございます。

○岡野　勉委員長　この際、暫時休憩いたします。

（午後　４時３７分）

○岡野　勉委員長　休憩前に引き続き会議を開きます。

（午後　４時５０分）

○岡野　勉委員長　続きまして、119ページ、第10款教育費、第５項社会教育費、第１目社会教育総務費から第４目歴史民俗資料館費までの説明を求めます。

岩下生涯学習課長兼公民館長兼歴史民俗資料館長。

〔岩下幸一生涯学習課長兼公民館長兼歴史民俗資料館長詳細説明〕

○岡野　勉委員長　これより質疑に入ります。

中村委員。

○中村奨平委員　私は、まず公民館でちょっと費用項目が見当たらないので、ちょっと質問させていただきたいのですが、特に私のほうの東公民館についてなのですけれども、非常に利用者数もコロナ明けから増えていまして、駐車場が満杯になるような状況もあり、非常に喜ばしいことだと思うのですが、ちょっと私が気になる点として、よく放課後に中学生ぐらいのお子さんが自習室というか、図書室のところで勉強されているのを見かけるのです。毛呂山町ってよく考えると、そういうふうなスペースがあんまり整備されていないように思っていまして、近隣都市であれば自習室、図書館の中にすごい綺麗でもう空調も効いて、個別の自習室があったりするのですけれども、学童からも離れているような年齢の子たちに対する、家には自分の部屋がないか分からない、想像ですけれども、ちっちゃい子供がいて勉強に集中できないとか、様々な理由があってそこに詰めていると思うのです。そういう方に対する支援というのは、もう今現在されているのでしょうか、それともされていないので私が見つけられないのか。

○岡野　勉委員長　岩下公民館長。

○岩下幸一公民館長　ご質疑にお答え申し上げます。

現在、例えばこちら中央公民館のほうのエリア、町の西に関しましては、先ほど議員ご指摘のとおり、図書館がございまして、そちら学習室でございますので、そちらのほうで勉強している環境という形になっておりますが、町の東部のほう、そちらに関しましては、そういった同じような施設がないということもありまして、現在、東公民館のほうで図書室を開放いたしまして、中学生ですとかそういった勉強したい方にとって利用していただけるような形で、こちらとしてはお貸ししているような状況となっております。

以上でございます。

○岡野　勉委員長　中村委員。

○中村奨平委員　了解しました。なのであくまでオープンに、自由に使えるようにしているだけで、積極的な支援はまだ行えていないという認識でよろしいですか。分かりました。できれば、こちらの図書館と同じような設備を設けていただけるようにお願いをしたいと思います。

もう一点が、続きまして歴史民俗資料館についてです。歳入のほうで、特に入館料だったり、使用料であったりというふうな項目が見当たらないので、今年も恐らく入場料無料でいくかと思うのですが、その認識でよろしいでしょうか。

○岡野　勉委員長　岩下歴史民俗資料館長。

○岩下幸一歴史民俗資料館長　ご質疑にお答え申し上げます。

委員ご指摘のとおり、来年度も歴史民俗資料館につきましては入館料無料と考えております。

以上です。

○岡野　勉委員長　中村委員。

○中村奨平委員　内容については一般質問等でも行いましたので深くは申し上げませんが、やはり無料にするにはそれだけ皆さんの、本当に失礼な物言いですけれども、有料にするだけの価値がないのか、それともそういうことですね。お金を取るだけの価値がないと思っているから無料にしているのか、やっぱりそこは自主財源で私申し上げましたけれども、人が来てもらえるようにしないと、先ほど東公民館なんかまだあれだけ人が来てくれたら、私もいいなと思うのです。やっぱりそういうところで、歴史民俗資料館、私有料化の案であったりとか様々な案も言いましたけれども、やっぱりそういうふうな姿勢でいくのであれば、鎌倉街道と合わせて本当に人を呼べるように頑張っていただきたいと思うのですが、その点はどのような認識でしょうか。

○岡野　勉委員長　佐藤歴史民俗資料館副館長。

○佐藤春生歴史民俗資料館副館長　ご質疑にお答え申し上げます。

歴史民俗資料館の展示に関してですけれども、来館するお客様からは無料施設ではもったいないというような、そういう意見を間々いただくことがございます。一方で、町民に開かれた教育機関ということもございますので、特に小中学生、学校教育との連携ということを念頭に強く置いている関係もございまして、無料ということで行っておりますが、将来的なことにつきましては、委員さんのほうからご指摘いただいたことを踏まえまして検討する余地はあるというふうに考えております。

以上です。

○岡野　勉委員長　中村委員。

○中村奨平委員　先ほどのご答弁でいくと、小学校、特に教育関連の目的があると。あくまでそこは小学生であったり中学生、高校生でもいいのですけれども、18歳以下は無料にすればいいだけの話であって、その考え方はもちろんあるのですけれども、ここで何度もやっても仕方ないので、ぜひその辺は積極的にそういうふうに価値があるというふうなお声があるのであれば､有料化も考えていただきたいなと思います。よろしくお願いします。

○岡野　勉委員長　荒木委員。

○荒木かおる委員　すみません。121ページのまず子ども大学にしいるま負担金とあるのですけれども、これは今までちょっと記憶にないのですけれども、どういうものなのか伺います。

○岡野　勉委員長　岩下課長。

○岩下幸一生涯学習課長　ご質疑にお答え申し上げます。

こちら子ども大学にしいるまとは、現在、城西大学と明海大学、日本医療科学大学の３大学が事務局となりまして、坂戸市、毛呂山町、越生町の小学４年生から６年生を対象に、夏休み期間なのですけれども、大学の講義を受けることができると。専門的な知識のほうを学ぶ、吸収することによりまして、子供さん

たちに学習に対する、学びに対する喜びですとか、楽しみですとか、そういったことを学んでいただくような場になります。そういったことを学ぶことができる学習の場として提供いただいているものになります。

以上です。

○岡野　勉委員長　荒木委員。

○荒木かおる委員　今までなかったのは、コロナだったからということですか。

○岡野　勉委員長　岩下課長。

○岩下幸一生涯学習課長　ご質疑にお答え申し上げます。

こちら実は、負担金のほうが今まではございませんでした。実は、学校の、大学等で、あとこちらの参加者のほうから参加料を少し頂くことで賄っておりまして、実際のところコロナも明けまして、ある程度大学のほうとしましても、できれば参加している市町村のほうから負担金のほうをちょっと今後出していただければありがたいなかということが令和６年度からの申出でありましたので、今回、こちら負担金のほうを計上させていただいた次第になります。

以上です。

○岡野　勉委員長　荒木委員。

○荒木かおる委員　あと、毛呂山町のＰ連の、ＰＴＡ連合会のことなのですけれども、今全国的にＰＴＡを脱退する県であったり、市であったり、埼玉にもありますよね。あるのですけれども、毛呂山町でＰＴＡの加入率というか、そういうのってどんな状況でしょうか。

○岡野　勉委員長　横溝係長。

○横溝明彦生涯学習課係長　ただいまの質疑にお答え申し上げます。

令和５年度につきましては、ＰＴＡの会員の皆様は1,623名ご加入されております。令和６年１月31日現在の生徒数が1,808人でございますので、加入率でいくと82％になります。

以上でございます。

○岡野　勉委員長　荒木委員。

○荒木かおる委員　では、まだ毛呂山町では加入してくださる方が多いと思っていいのかもしれないのですけれども、自治会も、あと何もかも役員が回ってくるのが嫌だと。私の時代もそうだったのですけれども、そのためにＰＴＡに入るのは嫌だという方が結構いたのですけれども、この先、どのように考えていかれるか、何かお考えがあったら伺いたいと思います。

○岡野　勉委員長　岩下課長。

○岩下幸一生涯学習課長　質疑にお答えいたします。

実は、生涯学習課といたしましてはＰＴＡ連合会の事務局のほうを行っているというところになるのですけれども、実際、学校単位に置かれているのがＰＴＡという形になりますので、直接の関与というのはなかなか難しい状況ではあるのですけれども、そういったところでご相談等いただければ。こちらとしてもある程度分かる範囲でのご回答をさせていただいて、そちらのほうに関しまして一緒に考えていけるような体制はつくっていきたいなと思っておりますので。

以上となります。

○岡野　勉委員長　荒木委員。

○荒木かおる委員　学校のときに聞けばよかったかなと思ったのですけれども、ＰＴＡという名前が入っていたのでお聞きしました。

あと、公民館まつりとかありますよね。そのほかにもフォトグランプリとかいろいろ催し物をやっています。それで出品されている方に何か賞とか、あとやる気をもっともっとやっていただく、文化について毛呂山町ももっと力を入れていったらいいのではないかなと思うのですけれども、そこら辺どうお考えか伺います。

○岡野　勉委員長　岩下課長。

○岩下幸一生涯学習課長　ご質疑にお答え申し上げます。

実は、こちらのほうで公民館のほうに登録されているサークルさんですとか団体のほうもちょっと高齢化等もありまして、実際減少しているというのが現状でございます。やはり文化というのをやはりしっかり振興していくというのが生涯学習課並びに公民館の仕事でもありますので、その部分に関して実際のところ今現在におきましては、発表していただいた団体さんですとかそういったところに賞とかそういったものは出していないのが現状なのですけれども、発表の場を設けるという形で、令和５年度からも福祉会館を使って芸能音楽祭を復活することもできましたし、中央公民館まつり、東公民館まつりで舞台発表のほうもさせていただいているところでもございます。そういった部分、利用者とかサークルさんの声を聞きながら、そういった部分を進めながら、なおかつそういった団体のほうも増やしていけるような努力のほうをしていきたいと考えております。

以上でございます。

○岡野　勉委員長　荒木委員。

○荒木かおる委員　この中に毛呂山町菊花会補助金がありますよね。これは流鏑馬のときに展示をされていて、教育長賞とか町長賞とか議長賞だとか、いろいろ賞がつけられているのですけれども、やはりやってよかった、１年育ててよかったという、そういう意欲をもっともっといろんなものに対して、菊は菊でそうなのですけれども、写真だったり、あと書道だったり、いろんなことを趣味にされている方がいらっしゃると思うのです。評価をしてあげるというのはとても大事かなって思います。これは文化を推進する上でも大事だと思うので、ぜひこれから先、考えていただきたいと思います。

あと、ほかの公民館とかいろいろちょっとほかの市町も行くのですけれども、毛呂山町の展示の場所とか、あと掲示してあるパネルとか、何かあまりにもちょっとかわいそうだなという思いがするのです。もっとすごくすてきな写真に穴ぼこの空いたパネルに直接張られていたり、もうちょっと展示も考えてあげてほしいなというのがあります。いかがでしょうか。

○岡野　勉委員長　岩下館長。

○岩下幸一公民館長　ご質疑にお答え申し上げます。

そうですね。実は、こちらのほうもその辺に関しましては気になってはおるところではございます。公民館のほうで展示パネルのほうの貸出しとかやってはいるのですけれども、実際のところ大分くたびれて

きてしまっているというのが現状だと思います。実際、そちらのほうに関しまして、せっかく皆さんが写真とかいろんな、ほかの展示のほうするに当たって、やはりそういった部分というのも一つの形だと思っておりますので、この分に関して予算のことが絡んできますので、ここでお約束はちょっとできない部分があるのですけれども、そういった声を実はサークルさんのほうから聞いているところもありますので、その部分で工夫のほうをして、少しずつそういった部分というのは改善を図れるような形で、こちらのほうも取り組んでまいりたいと思いますので、ご理解いただければと思います。

○岡野　勉委員長　小峰委員。

○小峰明雄委員　120ページの報償費の中で、放課後学習教室等々、先ほどのご説明ですと令和５年度は３年生、４年生で、令和６年度に関しては４年生と５年生を対象にしていくのだということなのですけれども、これはどんなような検証をされて、こういう結果になったのでしょうか。

○岡野　勉委員長　岩下課長。

○岩下幸一生涯学習課長　ご質疑にお答え申し上げます。

現在、放課後学習教室につきましては、３年生、４年生、小学生を対象にしてやってはおります。実際のところ、そちらのほう、現在、放課後学習教室につきましては概ね毎週月曜日の学校が終了後に行っております。その時間につきましても放課後という形になりますので、親御さんのほうが迎えに来られる時間までとなりますと、約２時間子供さんが学習する時間を設けさせていただいております。

実際のところ、こちらのほうで携わってみますと、やはり３年生とか４年生の場合ですと、やはり集中して勉強のほうを取り組む時間というのも限られてくるものということが、こちら２年間、３年生を対象にやらせていただいた中で検証させていただいた内容になります。それも踏まえまして、来年度はその部分も解消していくために、対象学年を４年生、５年生に上げまして、あと内容のほうも当然こちらのほう、今報償費の話もございましたけれども、コーディネーターという方に、学校の先生の方に入っていただいて、各学校のほうの学習教室のほうを運営している形になりますので、よくそちらのほうもコーディネーターの先生と一緒に考えながら、学習支援プラス子供さんたちが来て楽しいと思える居場所づくりも踏まえて、そちらのほうをまた来年度続けてまいりたいと考えておりますので、ご理解賜ればと思います。

○岡野　勉委員長　小峰委員。

○小峰明雄委員　次に、青少年育成町民会議が20万円増になっているのですけれども、これはどういう検証をして20万円増になったのでしょうか。

○岡野　勉委員長　岩下課長。

○岩下幸一生涯学習課長　質疑にお答え申し上げます。

青少年育成会議のほうの実際の事業内容のほうが主なものといたしまして、こちら青少年問題の重要性に鑑み、こちらのほうの内容を各種団体、例えば町の区長会ですとか体育協会ですとかスポーツ協会、ＰＴＡ連合会など町内の29団体のほうが参加した上で、青少年育成町民会議のほうを実施しておるところでございます。

実際、昨年度実施した中で、非行防止パトロールと２月に行いました子育て講演会がございます。子育て講演会につきまして、毎回、子育て世代に関心を持って受講していただけるような内容のほう及び講師

のほうを選定しておるところではございますが、令和５年度の子育て講演会の受講者が実はあまり多くない状況でございました。実行委員からも講師の選定や開催時期を見直したほうがいいのではという意見のほうもいただいておるところもありまして、そのことも踏まえて令和６年度における子育て講演会につきまして抜本的な見直しを行い、より多くの子育て世代の方が受講できるような内容等にしていくことを検討させていただいております。

また、これまでゆずの里ウォーク等で実は町民会議のほうも参加いたしまして、啓発も行っていたのですけれども、こういった啓発のほうも今現状やっていないところでもありますので、こちらのほうの啓発のほうも実施していきたいということを踏まえまして、増額のほうの予算のほうの計上をさせていただいた次第でございます。

以上でございます。

○岡野　勉委員長　小峰委員。

○小峰明雄委員　限られた予算だとなかなか難しいところがあるのです。かなり空席がございました。分かりました。

それと、公民館で今度シルバー人材センターの受付業務を委託していくわけですけれども、館長としてそういった受付業務に支障がないように指導していかなければいけないと思うのです。その点についてはどうですか。

○岡野　勉委員長　岩下館長。

○岩下幸一公民館長　ご質疑にお答え申し上げます。

こちらのシルバー人材センターさんのほうが来年度から夜間ですとか休日のほうの窓口応対のほうをやっていただけるという形になっているということなのですけれども、そちらにつきましては当然委員おっしゃるとおり、窓口業務というのは、その館の顔になります。ですので、そういった部分に関しましてお客様の声も聞きながら、そういったところの改善点というのをしっかりこちら責任を持って館長のほうで図っていく必要があると思いますので、来年度、その部分に関しましては、しっかりと実行していきたいと思います。

○岡野　勉委員長　小峰委員。

○小峰明雄委員　あと、歴史民俗資料館費の中で、やはり鎌倉街道の上道という、このせっかくいただいたものをいかに生かしていくか、だから令和６年度にどういう取組をしていくのか、この点についてお伺いします。

○岡野　勉委員長　佐藤副館長。

○佐藤春生歴史民俗資料館副館長　ご質疑にお答え申し上げます。

まず、来年度の、これは大きな主要事業になると思いますけれども、来年度、鎌倉街道上道史跡の保存活用計画を策定する予定でございます。こちらの保存活用計画につきましては、史跡の適切な保存、それから管理、そして活用、さらには運営、どのようにこの史跡を取り扱っていくか、そういった詳細についての事柄のさらに大きな方針を決めていく形になります。この方針に基づきまして、この後、様々な整備事業に取り組んでいくような形になりますので、まずはこの保存活用計画を策定いたしまして、さらにこ

の保存活用計画につきましては国のほうの認定を受けるつもりでございます。国の認定を受けるということは、文化財保護法で確固たる計画であるということを認められることになりますので、それだけ非常に厳しい取組を強いられる形になります。それが毛呂山町の一つの売りになると思いますので、この保存活用計画の策定をまずは成就させたいというふうに考えております。

以上です。

○岡野　勉委員長　小峰委員。

○小峰明雄委員　分かりました。しっかり取り組んでいただきたいと思います。

あと一点、特別展の展示委託料というのがございますけれども、これは令和６年度、どういうことを行うのでしょうか。

○岡野　勉委員長　平良歴史民俗資料館副館長。

○平良宣子歴史民俗資料館副館長　それでは、ただいまのご質疑にお答えいたします。

特別展の委託料につきましては、展示の中におけるパネルの作成、それからもう一点は横断幕の製作になっております。横断幕のほうにつきましては、道路の県道のほうから見やすいところに大きく掲げまして、特別展開催中のお知らせをさせていただくような内容になっております。

以上です。

○岡野　勉委員長　小峰委員。

○小峰明雄委員　どういう特別展をされるのですか。

○岡野　勉委員長　歴史民俗資料館副館長。

○平良宣子歴史民俗資料館副館長　大変失礼いたしました。特別展の内容につきましては、今回も鎌倉街道をテーマに取り上げたいと思っております。こちらにつきましては、前回と同じ内容ではなくて、宿場に焦点を当てた内容にしていきたいと考えております。毛呂山町の鎌倉街道上道の特徴は、苦林宿という宿場の跡が残っていることが大きな特徴の一つであります。その宿場について、そもそも中世の宿場というのがどういったものだったのか、また宿場から宿場へと旅をしていく方々のそのような様子というのを見やすく、分かりやすく展示をしていきたいと思っております。

以上です。

○岡野　勉委員長　よろしいですか。

この際、暫時休憩いたします。

（午後　５時１９分）

○岡野　勉委員長　休憩前に引き続き会議を開きます。

（午後　５時２０分）

◎後日日程の報告

○岡野　勉委員長　お諮りします。

時間等の都合により、本日はこれにて散会いたしたいと思いますが。これにご異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○岡野　勉委員長　ご異議なしと認めます。

本日の会議はこの程度にとどめます。

来る３月18日は、午前９時30分から委員会審議を再開しますので、定刻までにご参集願います。

◎散会の宣告

○岡野　勉委員長　本日は、これにて散会します。

（午後　５時２０分）

毛呂山町議会予算決算常任委員会　令和６年３月１８日（月）

◎開議の宣告

○岡野　勉委員長　ただいまの出席委員数は12名であります。

定足数に達していますので、これから予算決算常任委員会を開きます。

（午前　９時３０分）

◎議案第１９号の審査

○岡野　勉委員長　本日は、引き続き議案第19号　令和６年度毛呂山町一般会計予歳出の部、第10款教育費から始めさせていただきます。なお、岩下生涯学習課長から発言の訂正の申出がありますので、これを許可します。

◎発言の訂正

○岩下幸一生涯学習課長　おはようございます。生涯学習課、岩下です。委員長より発言の許可をいただきましたので、３月14日の予算決算常任委員会において発言した回答につきまして、字句の訂正をさせていただきたいと存じます。

３月14日の委員会において荒木委員のＰＴＡの加入率についてのご質疑に対する回答で、会員の皆様が1,623名、生徒数が1,801人、加入率は82％と発言いたしましたが、正しくは現在生涯学習課で把握している数値にはなりますが、ＰＴＡの会員数が1,476家庭、加入対象家庭は1,483家庭となり、加入率は99.5％となります。この内容に字句の訂正をさせていただきたく思います。

以上でございます。

○岡野　勉委員長　ただいまの岩下生涯学習課長からの発言の訂正につきましては、委員長において許可します。

この際、暫時休憩いたします。

（午前　９時３２分）

○岡野　勉委員長　休憩前に引き続き会議を開きます。

（午前　９時３３分）

○岡野　勉委員長　それでは、126ページ、第10款教育費、第６項保健体育費、第１目保健体育総務費、第２目体育施設費について説明を求めます。

波田スポーツ振興課長兼総合公園所長。

〔波田裕一スポーツ振興課長兼総合公園所長詳細説明〕

○岡野　勉委員長　これより質疑に入ります。

佐藤委員。

○佐藤秀樹委員　それでは、質疑をさせていただきます。

まず、126ページの負担金及び補助金、交付金の中のスポーツ協会の補助金、前年度まで体育協会の補助金ですけれども、これ減額になっているのですが、減額の理由をお願いします。

○岡野　勉委員長　波田スポーツ振興課長。

○波田裕一スポーツ振興課長　ご質疑にお答え申し上げます。

スポーツ協会補助金、前年度から20万円ほど減額のほうをさせていただいております。減額の理由でございますが、繰越金の状況ですとか会議室の状況などそれぞれの状況を勘案いたしまして、また役員の方と相談の上、令和６年度減額をさせていただくものでございます。

○岡野　勉委員長　佐藤委員。

○佐藤秀樹委員　分かりました。

あと、127ページの指定管理の件なのですけれども、いよいよ４月から指定管理が始まりますが、令和６年度に対しては指定管理者のほうからどういうふうな形で行うか年間計画等は出ているのでしょうか。

○岡野　勉委員長　波田スポーツ振興課長。

○波田裕一スポーツ振興課長　ご質疑にお答え申し上げます。

事業計画でございますが、昨年応募に当たりまして３年間の計画をいただきました。令和６年度の事業計画につきましては、今週末をめどに出していただく予定となってございます。

○岡野　勉委員長　佐藤委員。

○佐藤秀樹委員　分かりました。では、まだ今の段階では出ていないということですね。しっかりと有効活用できるように計画、すり合わせをしていただきたいと思います。

それと、委託料のほうで結構な委託料が削られているのですけれども、これはやっぱり指定管理のほうが削られている部分は管理をするというふうな考えでよろしいのでしょうか。

○岡野　勉委員長　波田スポーツ振興課長。

○波田裕一スポーツ振興課長　質疑にお答えを申し上げます。

昨年度と比べまして、委員ご指摘のとおり委託料のほうが減になってございます。その理由でございますが、来年度から指定管理者に移行するわけですが、その委託料をこの指定管理4,357万6,000円の中に含んでいるということでご理解のほうをお願いいたします。

○岡野　勉委員長　では、堀江委員。

○堀江快治委員　課長、来年度から指定管理になるのですけれども、現在のスポーツ振興課という部署はこれから人事等の発表があるのですけれども、どんなふうな位置づけになるかあらかじめ教えていただけますか。

○岡野　勉委員長　波田スポーツ振興課長。

○波田裕一スポーツ振興課長　ご質疑にお答えを申し上げます。

来年度のスポーツ振興に係る事務ということでございます。来年度は、生涯学習課のほうに係として、スポーツ振興係として新たに設置をする予定となってございます。

○岡野　勉委員長　堀江委員。

○堀江快治委員　では、どっちかと言うとスポーツの振興課が生涯学習の中に、失礼な言い方だけれども、取り込まれているような形になるのかな。

○岡野　勉委員長　波田スポーツ振興課長。

○波田裕一スポーツ振興課長　ご質疑にお答えを申し上げます。

　約10年前にも体育協会が指定管理を行ってございました。その当時も生涯学習課の中に係として設置してございましたので、同様の内容になってくるものでございます。

○岡野　勉委員長　堀江委員。

○堀江快治委員　これは、一つ希望ですけれども、やはり歴史のある毛呂山町のスポーツ関係がさらに発展させるためにはどういう形かでスポーツの振興に寄与できるような部署として強力に残していただくようにお願いしておく。

　もう一つお聞きしたいのは、126ページのスポーツ少年団補助金の件なのですけれども、昨今少子高齢で少子のために団員数が減ってきていると思うのですけれども、この二、三年どんなふうな動きですか、トータル的に。

○岡野　勉委員長　波田スポーツ振興課長。

○波田裕一スポーツ振興課長　ご質疑にお答えを申し上げます。

　過去３年間のスポーツ少年団の団員数の推移でございますが、令和５年度が271人、令和４年度が263人、令和３年度が246人でございます。

○岡野　勉委員長　堀江委員。

○堀江快治委員　微増ということですね。実は課長、特別の部門を指していいか分かりませんけれども、少年野球なんかもいよいよ50年の歴史の中で残っていた３チームがどうしても運営ができないので、１チームに今統合しようとして今一応スタートはしたのです。それはいいのですけれども、大体少年野球の対外試合数はいずれにしても１年間に80試合ぐらいこなさなければならないのです。80試合こなすに大体１会場で１大会の参加費が一般的に5,000円なのです。そうすると、今僕はあまりタッチしていないのですけれども、この間ちょっとお聞きしたら選手の部分が年間で１万円、父兄の部分が年間で１万円、トータルで２万円程度の徴収で一年間一人の人が払う料金と言っては悪いですが。人数が非常に減ったために参加金すらも危うくなってきてしまっているのです。各大会に。ですから、その辺を少し調査をしていただいて、スポーツ少年団の団長もいるのですから、何か言ってくれればありがたいなと思ったのですけれども、未だににそういう反応がないので、こういう場所でお聞きしますけれども、どうしてもそういうふうな事情がありまして、無駄なお金ではなくて参加金、参加するには参加金を払わないといけないので、少年野球についてはそういう事情があります。ただ、サッカーとか柔道、剣道、みんなたくさんありますから、それらの他団体の内容を僕はよく分かりませんけれども、一応少子化になると運営が非常に難しくなるということは、これは事実だと思うのです。トータル的にお金を集めるのが。あまり値上げしますとご父兄に、加盟しているご父兄というか家庭に影響を及ぼしてしまうので、私は少年野球なんかは駄目だというようなことを申し上げているのですけれども、その点１人幾らとか、これは何か基準はないのだと思うのです

けれども、その辺少し研究しておいてあげないと、せっかく毛呂山町のスポーツ少年、全ての少年ががんばろうとして、今聞いたら微増しておるところですから、できるだけそういう手だてをしてあげて少しでも少年にも明るいところを与えてあげないといけないと思うので、ぜひ諸団体からよく事情等をお聞きしていただいて、今年度も間に合わないと思いますけれども、来年度以降においてはその意見聴取を元に説明がしていただけるように努力していただきたいのですけれども、いかがでしょうか。

○岡野　勉委員長　波田スポーツ振興課長。

○波田裕一スポーツ振興課長　ご質疑にお答えを申し上げます。

委員ご指摘のとおり、スポーツ少年団の少年野球でございますが、３つのチームが１つになるということで報告のほうはいただいておるところでございます。これまで12団体のスポーツ少年団があったわけですが、10団体に減少するというところで、それぞれの団体が青少年の健全育成を目的に活動していただいておるところでございます。町としてもその活動を支援するため補助金を交付したり、また体育施設を利用する際には減免をしたりご協力をさせていただいているところではございます。今後につきましても機会を捉えまして、スポーツ少年団との情報共有に努めまして今後ともスポーツ少年団の協力を得て継続的に活動できるよう町としても支援してまいりたいと存じます。よろしくお願いいたします。

○岡野　勉委員長　小峰委員。

○小峰明雄委員　まず､126ページの負担金の関係の中で町民レクリエーション大会実行委員会補助金というのが、この名称がございますけれども、何か名称変わっていませんか。違和感というか、変えてもよかったのではないかと思うのですが、その点についてはどうですか。

○岡野　勉委員長　波田スポーツ振興課長。

○波田裕一スポーツ振興課長　ご質疑にお答えを申し上げます。

町民レクリエーション大会実行委員会の名称でございますが、この名称についてでございますが、変更につきましても委員会のほうでご協議をいただいたところでございます。委員の皆様のご意見も、歴史のある名称ということでこの名称は残してスポーツフェスタもろやまを開催するということでご意見をいただいたところでございます。

○岡野　勉委員長　小峰委員。

○小峰明雄委員　あと、少し体育施設費の関係でお伺いしたいのですけれども、警備委託料も、今日最後のほうの審議になるのですけれども、若干値上がりされているケースがあるのですけれども、同じ44万6,000円というふうに計上されているのですけれども｡今回令和６年度から施設の管理運営を委託するわけですけれども、そういう委託する中で昨年度までは委託料がるる多くありました。だから、しっかりこの委託をしてもこの業務の委託の中をしっかり見ていかなければいけないと思うのですけれども、その点についてはどういう体制で行っているのですか。

○岡野　勉委員長　波田スポーツ振興課長。

○波田裕一スポーツ振興課長　ご質疑にお答えを申し上げます。

委託料に関しましては、令和６年度は警備委託料と、あと清掃業務委託料、それからグラウンド、トイレ清掃業務委託料ということで３つの委託料を町として負担をするものでございまして、この３本とも長

期継続契約で令和７年まで町のほうで負担しまして、指定管理期間が３年、８年までですので、８年度に関しては指定管理者が負担するということになってございます。

○岡野　勉委員長　小峰委員。

○小峰明雄委員　そうしますと、そこまではこのまま乗せていくということで。そうすると、委託料の中には芝生だとか、特に除草の関係の業務委託料等があるのですけれども、本当に繁茂というかすごいときもございますけれども、こういうやはり委託を町の直営から指定管理者のほうに移るわけですので、そういった回数だとか、ある程度そういうところのしっかり指導をしていただければと思うのですけれども、その点についてはどうですか。

○岡野　勉委員長　波田スポーツ振興課長。

○波田裕一スポーツ振興課長　ご質疑にお答え申し上げます。

委員ご指摘のとおり、グラウンドも施設も大変多ございまして、時期によっては夏場草が繁茂している状況も把握しておるところでございます。指定管理者のほうにその時期等を見極めていただきまして施設の管理を実施していただくよう指導してまいりたいと思います。ご理解のほうをよろしくお願いいたします。

○岡野　勉委員長　小峰委員。

○小峰明雄委員　あと一点、土地の借上料のちょっと説明いただけますか。

○岡野　勉委員長　波田スポーツ振興課長。

○波田裕一スポーツ振興課長　ご質疑にお答えを申し上げます。

土地の借上料の内訳でございますが、まず総合公園西側の臨時駐車場、それから大類グラウンドの、こちらも西側の臨時駐車場、それから川角グラウンド、それから西戸グラウンドで今年度までは岩井グラウンドがあったわけでございますが、地権者のご意向で寄附をしていただけるということで今現在その事務手続を行っておるところでございます。

○岡野　勉委員長　小峰委員。

○小峰明雄委員　分かりました。

それと、昨年度はウオーキングコースの整備工事ということがございましたけれども、この整備がされて体育館のほうは指定管理になっていくわけですけれども、このウオーキングコース関係に関してはスポーツ係で今後とも行っていくという理解でよろしいのでしょうか。

○岡野　勉委員長　波田スポーツ振興課長。

○波田裕一スポーツ振興課長　ご質疑にお答えを申し上げます。

委員ご指摘のとおり、ウオーキングコースの管理に関しましては今後は生涯学習課のほうで管理をしてまいります。

○岡野　勉委員長　この際、暫時休憩します。

（午前　９時５２分）

○岡野　勉委員長　休憩前に引き続き会議を開きます。

（午前　９時５３分）

○岡野　勉委員長　続きまして、127ページ、第10款教育費、第６項保健体育費、第３目学校給食費について説明を求めます。

笹川学校給食センター所長。

〔笹川博嗣学校給食センター所長詳細説明〕

○岡野　勉委員長　これより質疑に入ります。

中村委員。

○中村奨平委員　では、10節需用費の賄い材料費についてお伺いをします。これは、先ほどご説明があったとおり給食費の全額無償化ということですが、この算出根拠も予算案の概要に書かれておりますが、現時点でこれは昨年の令和４年９月にも値上げをしましたが、食材の値上げというのはある程度落ち着いていると思うのです。ただ、今後はどうなるか分からない。もし、また急なインフレや食材費が襲った場合、保護者の負担もしくは町の予算、これ全額町で予算を組んでしまっているので、保護者に今後そうなった場合は転嫁するのか、それとも町がまた補正を組んで町がそれも含めて全額賄っていくのか、この辺のお考えはいかがでしょうか。

○岡野　勉委員長　笹川学校給食センター所長。

○笹川博嗣学校給食センター所長　ご質疑にお答えいたします。

こちらのほうは、委員ご指摘のとおり４年度に値上げした額で今回につきましては計上しております。今後大幅な値上げ等があった場合には、保護者の負担はゼロという形で町のほうとして考えていくことになるとこちらも考えております。

○岡野　勉委員長　中村委員。

○中村奨平委員　町の負担ということですね、分かりました。できればなのですけれども、もしそのような状況に陥ったときに私としてはできればある程度のトリガーを設定してそれ以上を超えたら保護者負担にしないと、やはり町が全額、私一般質問でもいろいろ言っていますけれども、負担をし続けるというのはあまりよくない。そのお金の使い方がもっとほかのところに回せるとかもっと根本的な少子化対策に回せる等も考えたほうがいいと思うのですけれども。一番避けてほしいのは急激な値上げによって子供たちの給食を削る。中身を削る。このようなことが今全国で行われていると、昔に比べてすごく質素な給食になってしまっていると、そのようなケースが陥らないようにしていただきたいのですけれども、その点はいかがでしょうか。

○岡野　勉委員長　笹川学校給食センター所長。

○笹川博嗣学校給食センター所長　ご質疑にお答え申し上げます。

給食の質につきましては、こちらのほうも食材を発注する関係の栄養士等が食材の発注のほうをいろいろ食品の選定ですとかそういうことで一生懸命工夫しまして質の落ちないような組合せあるいは選定を心がけて質が落ちないよう注意して物価の高騰等に注視しながら、よく注意しながら食材のほうを購入していきたいと考えております。

○岡野　勉委員長　中村委員。

○中村奨平委員　承知しました。

最後、また意見になってしまいますが、今栄養士さんが一生懸命考えてとありましたけれども、カロリーベースは、品数が減ってもカロリーベース、栄養ベースでは大丈夫だとかそういうようなやりくりで必死にがんばられているところもあるみたいなのですけれども、できれば品数もたくさん、種類も色とりどり楽しめるような給食をキープできるように、今おっしゃったのはそういうやりくりだと思うのです。カロリーベース、栄養ベースでは一緒。でも、見た目や中身はちょっと減っているみたいなこともあり得るというふうに私は受け止めたのですけれども、やっぱりそういうこともないようにできる限り最善って難しいですけれども、給食の提供をできるように、町長の公約ですので、ある程度仕方ないところはありますけれども、できる限りそのように運用していただければと思います。よろしくお願いします。

○岡野　勉委員長　佐藤委員。

○佐藤秀樹委員　１点だけお聞きしたいのですけれども、128ページの役務費の損害保険料、これ2,000円ということなのですが、昨年度までこの損害保険料ってなかったのですけれども、今回これ入れた理由をお願いします。

○岡野　勉委員長　笹川学校給食センター所長。

○笹川博嗣学校給食センター所長　質疑にお答えいたします。

こちらのほうは、今年度から健康づくりのまちづくりということで、朝御飯体験教室ということで学校給食センターにおいて親子で朝御飯をつくって、朝体操していただいて親子で朝御飯をつくって食べようという教室を行いました。それも６年度に継続してやっていきたいと思いますので、そちらのほうの事業の傷害保険ということで2,000円を取らせていただきました。

○岡野　勉委員長　平野委員。

○平野　隆委員　私も学校給食費無償化事業についてなのですが、これは今回から町のほうで、今回というか負担することになりましたけれども、今までは各保護者から徴収をしておったわけですけれども、ちょっと過去に同じ質疑が出てダブっていたら申し訳ないのですけれども、ちょっと確認の意味で、今までは何％ぐらい徴収率があったものなのか。これで今回100％になると思うのですが、ちょっとそれだけ確認の意味で教えていただきたいと思います。

○岡野　勉委員長　笹川学校給食センター所長。

○笹川博嗣学校給食センター所長　今年度の２月分までの徴収なのですけれども、率にして99.58％徴収しております。３月、少し遅れてくる方もいらっしゃるのですけれども、毎月毎月必ず払ってくる方と少し遅れてくる方がいらっしゃいまして、年末には帳尻を合わせてくるというかそういう方もいらっしゃいますし、中には令和３年度は全額ご負担していただいたわけなのですけれども、４年度はコロナの交付金で無償化していたわけなのです。３年度の例なのですけれども、４年度、翌年度中には大多数の方がお支払いをいただいております。ですから、今年度間に合わなかった方につきましても来年度以降も地道に徴収のほうはかけたいと考えております。

○岡野　勉委員長　平野委員。

○平野　隆委員　分かりました。その辺も含めてご答弁いただいたので、ではそれはそれで分かりました。

それと、そういう制度ということは今までだったわけですから、会計制度という形では私会計という形で処理していたと思うのです。要するに本来の１億なら１億に対して何％が足りなかったわけだから、それをやりくりをしていたわけですよね、今まで。だから、100円のものを払っても100円のものは提供されずに99円58銭のものが提供されていた。要するに給食センターのほうで一生懸命安い食材を見つけたりやりくりしていて､それが今度100％になるということは会計制度が私会計ではなくて公会計にしても今度からそれが成立すると思うのですけれども、会計制度が変わるとかそういうことは検討しているのか、その辺ちょっと教えてください。

○岡野　勉委員長　笹川学校給食センター所長。

○笹川博嗣学校給食センター所長　質疑にお答え申し上げます。

委員ご指摘のとおり、今までは徴収していただいた中で払っていた私会計ということで、今回は児童生徒の分につきましては公費ということで町のほうから支出いたします。制度につきましては、まだ公会計にはなっておりませんので、今後教職員は無償化の対象外ですので、教職員につきましては徴収しなければなりません。そちらのほうを町のほうの会計に入れるということを考えていかなければいけないかなと考えておりますので、そうすれば完全に公会計ということではないのですけれども、学校のほうから直に町に入れていただくという形の公会計にはできるような考えもありますので、そちらのほうを検討してまいります。

○岡野　勉委員長　平野委員。

○平野　隆委員　分かりました。そういう方向性があるということで。それで、それに伴ってですけれども、今学校給食センターには運営委員会というものがあって、それである程度の方針とか決まったり、意見が出てきていたと思うのですけれども、それは例えばアレルギー対策であるとかそういうのが出てきたと思うのです。要するに、あとはお子さんによって宗教的な問題で何が食べられないとか、そういうのも運営委員会の中でたくさん意見が出てきて、それで給食費を払っている側としてＰＴＡの会長さんたちがいろんな意見を言ってきて給食センターのほうと話合いが、そういう運営委員会があったわけですけれども、その辺の制度もこのまま維持していって今後より一層この給食の提供の仕方が多様化してくるではないですか、子供さんが。宗教の関係とかいろいろ。その辺はどのようにちょっと考えているのか、答えられる範囲でちょっと教えていただきたいと思います。

○岡野　勉委員長　笹川学校給食センター所長。

○笹川博嗣学校給食センター所長　ご質疑にお答え申し上げます。

今後お金のほうを、給食費のほうが無償化あるいは公会計になったといたしましても給食センター運営委員の皆さんには何かと、例えば給食費の値上げですとか、そのほか給食の運営の在り方につきましてはご意見をいただく場を今後も設けていきたいと考えております。

○岡野　勉委員長　小峰委員。

○小峰明雄委員　まず、令和３年度は給食費って普通でしたけれども、４年度はコロナの関係でいろいろありまして、恐らく滞納されていた過去の分もだいぶ減額されてきたのだと思うのですけれども、これから

令和６年度に無償化になってきますので、例えば過去に遡った分だとかそういったものに対してやっぱり滞納を減らしていかなければいけないと思うのですけれども、この点について所長はどういう考えがございますか。

○岡野　勉委員長　笹川学校給食センター所長。

○笹川博嗣学校給食センター所長　ご質疑にお答え申し上げます。

先ほども申し上げたとおり、３年度はいただいておりまして、４年度は無償化ということで、今回のパターンにちょっと似ていますので、給食費に関しましては非常に学校のほうもなかなかデリケートな問題でありまして、給食費のことで電話をかけますとなかなか電話に出てくれないような形になったりすることが多いということで、ただ給食費の滞納に関しましては非常によくないことですので、地道に今後も徴収のほうに努めてまいりたいと考えております。

○岡野　勉委員長　小峰委員。

○小峰明雄委員　いろいろ法の手続のほうもございますので、電話以外ということもしっかりやっていかないといけないのではないかと思いますので、よろしくお願いします。

次に、需用費の修繕料の関係だと、この中に200万とあるのですけれども、私の個人的意見なのですけれども、新規事業で白衣等の殺菌庫オゾン交換の修繕というのがございますよね。できれば説明にそういった項目があってもよかったと思うのですけれども、この点についてはどういう考えがございます。

○岡野　勉委員長　笹川学校給食センター所長。

○笹川博嗣学校給食センター所長　質疑にお答え申し上げます。

委員ご指摘のとおり、新規事業概要書の31ページに白衣等殺菌庫オゾン交換の修繕というのが新規事業で64万3,000円挙げさせてもらっております。こちらのほうは、３年あるいは４年に１回ぐらいこちらの殺菌庫のほうのオゾンのユニットの交換をしていくものでございますが、委員ご指摘のとおりこの修繕料200万円の中に64万3,000円が丸め込まれておりますので、こちらのほうは修繕料ということで一括でなってしまいました。こちらのほうは、修繕料という形で取ったので、予算上はこういうふうになってしまったということでございます。

○岡野　勉委員長　小峰委員。

○小峰明雄委員　できれば新規事業だから、そういうほうがいいかなと思います。

次に、私が一番気にしているのは、最近ちょっと自分で勉強してみて思ったことなのですけれども、調理窯の借上料とか厨房機器の借上料とかってリースがあるわけですけれども、このリースって通常だとものに対しての修理等というのはリース会社が持っていただけるのかなと思っていたのですけれども、ではなく全てがセンターのほうで修繕費を賄って行っていくということですよね。

○岡野　勉委員長　笹川学校給食センター所長。

○笹川博嗣学校給食センター所長　質疑にお答え申し上げます。

こちらのほうのリースに関しましては、委員ご指摘のとおり修繕につきましては町のほうで修繕をしていくという形の修繕料でございます。

○岡野　勉委員長　小峰委員。

○小峰明雄委員　将来的には児童生徒数も減少していくわけですので、この中で説明書を見ますと３台更新して残り４台は再利用していくのだということなのですけれども、今後先を見据えた場合にこういった更新というものはどんなふうに考えているのですか。

○岡野　勉委員長　笹川学校給食センター所長。

○笹川博嗣学校給食センター所長　質疑にお答え申し上げます。

こちらのほうは、今７台300リットルの窯を使っております。児童生徒の減少が見られますので、こちらのほうの７台をまるまる交換ということは非常に不合理だと考えておりまして、令和11年あるいは12年、10年、11年当たりには今小学校３窯、中学校２窯で、全部で５個でやっているものが、小学校が２窯でできる計算でちょっとこちらで考えております。将来的には、今７台あるうちの窯を新しいものを５台ということで、あとの残りの２台を再利用しまして、それが徐々に子供が少なくなっていきますので、そちらのほうを活用しながら最終的には５台ということで考えております。

○岡野　勉委員長　小峰委員。

○小峰明雄委員　リース金利がいいのか起債がいいのか、今後十分検討していただければと思います。

以上です。

○岡野　勉委員長　この際、暫時休憩します。

（午前１０時１５分）

○岡野　勉委員長　休憩前に引き続き会議を開きます。

（午前１０時１９分）

◎発言の訂正

○岡野　勉委員長　石田教育総務課長から発言の訂正の申出がありましたので、これを許します。

石田教育総務課長。

○石田麻里子教育総務課長　先日の教育総務課、学校教育課の予算決算常任委員会の中で佐藤委員からの質疑の中で、私、議会との協議の場というところのご質疑だったと思います。私の回答が、準備委員会の中で意見を取り入れていくことができるというふうに回答いたしましたけれども、こちら準備委員会の中だけではなく準備委員会、また一般質問や準備委員会の報告などにより議会の意見をいただいていくことができるというふうに訂正をお願いしたいと思います。

○岡野　勉委員長　ただいまの石田教育総務課長からの発言の訂正につきましては、委員長において許可します。

この際、暫時休憩いたします。

（午前１０時２０分）

○岡野　勉委員長　休憩前に引き続き会議を開きます。

（午前１０時２１分）

○岡野　勉委員長　なお、第11款災害復旧費については科目設定のみのため、質疑を省略します。

これにて質疑を終結します。

長瀬委員。

○長瀬　衛委員　私は、議案第19号　令和６年度毛呂山町一般会計予算に対する修正案を毛呂山町議会会議規則第66条の規定によりこの案を提出したいと思いますので、お取り諮りをお願いいたします。

○岡野　勉委員長　この際、暫時休憩します。

（午前１０時２１分）

○岡野　勉委員長　休憩前に引き続き会議を開きます。

（午前１０時２４分）

○岡野　勉委員長　ただいま議題となっています議案第19号について、長瀬委員から議案第19号　毛呂山町一般会計予算に対する修正案の提出がありました。

本修正案に対して、提出者からの説明を求めます。

長瀬委員。

〔長瀬　衛委員詳細説明〕

○岡野　勉委員長　これより質疑に入ります。

質疑ございますか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○岡野　勉委員長　質疑なしと認めます。

これにて質疑を終結します。

この際、暫時休憩します。

（午前１０時２８分）

○岡野　勉委員長　休憩前に引き続き会議を開きます。

（午前１０時３８分）

○岡野　勉委員長　これより討論に入ります。

原案賛成者の発言を許します。

佐島委員。

○佐島啓晋委員　原案に賛成の立場で討論させていただきます。

こちらは、基金条例が仮に決まった後に小中一貫校準備委員会が設置されたときの予算であります。まず、先ほど教育総務課長から訂正がありましたように、この準備委員会があった後も議会や委員会で意見を調整することができるということを聞きました。あくまでもこちらはよりよい形の小中一貫校をするた

めの委員会だと思います。なので、私は原案に賛成の立場で討論させていただきます。

○岡野　勉委員長　次に、原案及び修正案反対者の発言を許します。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○岡野　勉委員長　次に、修正案賛成の発言を許します。

堀江委員。

○堀江快治委員　それでは、ただいま議題となっております修正案について、賛成の立場で討論いたします。

令和６年度毛呂山町一般会計予算の修正案につきまして、私は賛成の立場で討論をさせていただきます。今回の修正案につきましては、小中一貫校準備委員会委員謝金の予算を削減した内容でございます。本議会においても町と教育委員会が進めようとしている施設一体型並びに隣接型の小中一貫校につきましては多くの議員から時期尚早であり、計画自体が説明不足との意見が数多く出されております。当然今後の少子化の進行から予測すると将来的には学校統合については避けて通れないものと思っておりますが、現在の児童生徒数から判断するとまだそのような段階ではないと考えております。そして、現在までの教育委員会の説明では多くの町民が現状を認識できていないように見受けられます。今教育委員会に求められていることは、小中学校編成計画を多くの町民に周知し、理解を得る努力をしていただくことが何よりも大切ではないでしょうか。教育環境を守ることは、私たち議員はもちろんのこと、町民全体の責務であります。百年の大計日限にあらずであり、様々な観点から多くの議論を踏まえた上で施設分離型も含めて学校施設の統合を検討していくべきであると強く思っております。町と教育委員会には、小中学校編成計画について町民にしっかりと説明責任を果たしていくことが強く求められていることをぜひとも認識していただきたいと思っております。以上のことから、修正案に賛成の討論といたします。

以上であります。

○岡野　勉委員長　次に、原案賛成者の発言を許します。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○岡野　勉委員長　次に、修正案賛成者の発言を許します。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○岡野　勉委員長　これにて討論を終結します。

これより議案第19号　毛呂山町一般会計予算に対する修正案について採決します。

本修正案について、賛成の方の挙手を求めます。

〔挙手多数〕

○岡野　勉委員長　挙手多数であります。

よって、議案第19号　毛呂山町一般会計予算に対する修正案は可決されました。

次に、修正案を可決した部分を除く原案について採決します。修正可決した部分を除く部分については、原案のとおり決定することに賛成の方の挙手を求めます。

〔挙手多数〕

○岡野　勉委員長　挙手多数であります。

よって、修正可決した部分を除く部分は原案のとおり可決すべきものと決しました。

この際、暫時休憩します。

（午前１０時４３分）

○岡野　勉委員長　休憩前に引き続き会議を開きます。

（午前１１時００分）

◎議案第２０号の審査

○岡野　勉委員長　続きまして、議案第20号　令和６年度毛呂山町国民健康保険特別会計予算についてを議題とします。

本案について説明を求めます。

吉田住民課長。

〔吉田茂雄住民課長詳細説明〕

○岡野　勉委員長　これより質疑に入ります。

では、堀江委員。

○堀江快治委員　これは、課長、数字もそうなのですけれども、国民健康保険加入者が減少したということは、ひいては後期高齢者のほうに年齢そのものが移行していったというふうに見るのが妥当なのでしょうか。

○岡野　勉委員長　吉田住民課長。

○吉田茂雄住民課長　質疑にお答えを申し上げます。

今堀江委員おっしゃったとおり、後期高齢者医療保険のほうに被保険者が移行していったというところが大きいというふうに考えております。被保険者数の見通しといたしましては、団塊の世代の後期高齢者医療制度への移行が令和６年度までで終了することから、後期高齢者医療制度への移行に伴う被保険者数の減少は令和４年度をピークに減少していくものというふうに見込んでおりますが、それに加えまして令和６年10月の被用者保険のさらなる適用拡大等も予定されておりますので、社会保険の加入者が増加して国保を脱退する方が増えていくものというふうに見込んでおります。

以上でございます。

○岡野　勉委員長　堀江委員。

○堀江快治委員　これは、近隣でもやっぱり同じような傾向なのでしょうか。

○岡野　勉委員長　吉田住民課長。

○吉田茂雄住民課長　質疑にお答え申し上げます。

国民健康保険の被保険者数の減少というのは近隣でも懸念といいますか、県内でも同じような状況だというふうに認識しておりまして、やっぱり一番のは先ほどおっしゃったとおりの団塊世代の移行というものが一番大きいというふうに考えております。

以上でございます。

○岡野　勉委員長　堀江委員。

○堀江快治委員　一般的にお聞きしますと、いよいよ極めて厳しい高齢化社会に突入したという判定が、国保が減額になり、後期高齢者増額になるというこの逆転現象が今ここで、全国で起きているわけですけれども、本町でも高齢者支援課から出てくる資料を見ますとだいぶ後期高齢者の方のほうに人数が移行しているように思うのです。それが皆さんにどうしろと言うのではないのですけれども、本町も非常に例に漏れずいよいよ厳しい高齢社会に突入したというふうに判断して間違いないでしょうか。

○岡野　勉委員長　吉田住民課長。

○吉田茂雄住民課長　被保険者数の面から見ても後期高齢者医療保険のほうへの移行というのが大きく進んできているものでございますので、高齢者社会というのが進展しているというふうに認識しております。

以上でございます。

○岡野　勉委員長　小峰委員。

○小峰明雄委員　まず、９ページの歳入関係ちょっとお伺いしますけれども、収納率見ていくと令和２年とか３年、令和３年だと93％を超えたときがございましたけれども、この93％の根拠をお伺いいたします。

○岡野　勉委員長　田邉税務課長。

○田邉和宏税務課長　質疑にお答えいたします。

こちらの93％の設定の根拠でございますが、こちらは現年課税分の収納率、令和２年度が92.68％、令和３年度が93.41％、令和４年度が93％の実績などから３年平均ということで93.0％を設定しているという状況でございます。

○岡野　勉委員長　小峰委員。

○小峰明雄委員　93％に設定したということは７％があるわけですけれども、ここでちょっと確認させていただきたいのは、令和６年度としての取組として高額の方もいらっしゃると思うのですけれども、いろいろな方が滞納されていると思うのですけれども、このことに対して滞納を少しでも減らしていくという努力をしていかなければいけないと思うのですけれども、この点について令和６年度はどのような考えがあるかお伺いいたします。

○岡野　勉委員長　田邉税務課長。

○田邉和宏税務課長　質疑にお答えいたします。

こちらの収納率を向上させるためには滞納繰越額、こちらの圧縮が必要と考えております。こちらの令和５年度につきましては年度途中のために集計はできておりませんが、令和３年度滞納繰越額につきましては約１億4,833万円、こちら令和４年度の調定につきましては約１億2,322万円と年々滞納繰越額については圧縮を進めているところでございます。また、令和６年度につきましては国民健康保険税の納税に関しまして口座振替の原則化というのを制度としてスタートしたいと考えておりまして、口座振替、こちらのほうを進めていただくことによりまして収納率の向上に努めてまいりたいと考えております。

○岡野　勉委員長　小峰委員。

○小峰明雄委員　マジックなのですよね、圧縮すると。私はそこなのです、一番ちょっとお話ししたいのは。だから、滞納の圧縮をすれば確かにそこで数値はよくなるということですよね。やっぱりそこまで行く過程において、やっぱりもう少しご努力を令和６年もお願いしたいと思います。

次に、やっぱりこの滞納関係、ちょっとくどくなってしまうのですけれども、こうやって10ページにしても金額が、繰越し分が多くなっていますよね。だから、やはりこういうところも今後しっかりとやっていっていただきたいと思いますので、お願いします。

それと、あとちょっと確認なのですけれども、13ページで繰入金で令和５年度のときには未就学児の関係の繰入金があったわけなのですけれども、私の勉強不足なのですけれども、この繰入金がなくなった理由というのはどういうことなのでしょうか。

○岡野　勉委員長　吉田住民課長。

○吉田茂雄住民課長　質疑にお答えを申し上げます。

12ページの下段の繰入金の中の上から２番目の未就学児均等割保険税繰入金のことを指されているのでしょうか。

○岡野　勉委員長　小峰委員。

○小峰明雄委員　分かりました。これがこっちに変わったって感じなのか。分かりました。ありがとうございます。

次に、ちょっと確認なのですけれども、14ページで諸収入の雑入で滞納処分費とあるわけなのですけれども、令和５年度は私ちょっと確認よく見たのですけれども、雑入であったような気がするのですけれども、これは私の見間違いでしょうか。

○岡野　勉委員長　田邉税務課長。

○田邉和宏税務課長　質疑にお答えいたします。

委員ご指摘のとおり、令和５年度当初予算におきましては雑入の中に滞納処分費、こちらのほうも入れさせていただいておりましたが、今回費目等の退職者医療制度の廃止等に伴いましての予算書の編成一部代えておりまして、そのために滞納処分費を１番目に持ってきて予算書として計上しているという状況でございます。

○岡野　勉委員長　小峰委員。

○小峰明雄委員　次に、レセプト関係が昨年より20万ぐらい委託料が上がってきているわけなのですけれども、この上げた理由というのはどういう理由があるのでしょうか。

○岡野　勉委員長　吉田住民課長。

○吉田茂雄住民課長　レセプト点検の業務委託料でございますけれども、こちらの予算につきましては予算見積りを徴収いたしまして、見積りを徴した中から一番低い価格の見積り額を計上させていただいております。

○岡野　勉委員長　小峰委員。

○小峰明雄委員　次に、確認なのですけれども、令和５年度から地方税共通納税システム使用料というのが始まりました。これが始まったことによって５年度はどういうふうになったのかという検証もされなければいけないと思うのですけれども、それで令和６年度に予算計上されていると思うのですけれども、この点についてお伺いいたします。

○岡野　勉委員長　田邉税務課長。

○田邉和宏税務課長　質疑にお答えいたします。

こちら地方税の共通納税システム使用料でございますが、こちらにつきましては令和５年度からクレジット納付、こちらのほうができるようになりまして、また納付書にＱＲコードを印字することによりまして、今まで指定金融機関で納付されていたものが今回全国の金融機関で納付ができるということになったものによるシステム改修費等の使用のために増額となっているものでございます。また、地方税共同機構負担金でございますが、こちらにつきましてはそのＱＲコードを利用した納税者の方の取扱い手数料ということで令和６年度から新たに発生するものということで計上をさせていただいております。こちらの検証につきましては、まだ令和５年度途中でございますので、最終的な収納の口座振替ですとか、あとはコンビニ収納もありますので、こういったところの集計を最終的に判断いたしまして検証を進めてまいりたいと考えております。

○岡野　勉委員長　小峰委員。

○小峰明雄委員　分かりました。

あと、ちょっと気になる点は療養の給付費の関係で１人当たり、これ18ページですけれども、40万6,290円ということなのですけれども、この金額というのは今参考までに県内ではどのくらいの順位になるのですか。

○岡野　勉委員長　吉田住民課長。

○吉田茂雄住民課長　質疑にお答え申し上げます。

今回療養給付費の１人当たりの費用額が40万6,290円ということで記載させていただいておりまして、昨年度から比較しますと１万5,150円増加している状況でございます。これは、県から示された納付金額を基に算出したものでございますけれども、実際の実績といたしましては令和３年度のものが手元にございまして、これは速報値でございますが、令和３年度毛呂山町の医療費、これは医療費の総額に対する１人当たりの医療費でございますけれども、43万6,565円でございました。これは、県内で２位の、上から２番目の高い水準ということでございます。

以上でございます。

○岡野　勉委員長　小峰委員。

○小峰明雄委員　分かりました。

それと、そういった医療費等を抑制していくという考え方で、23ページに人間ドックの補助金があるわけですけれども、この人間ドックの補助金を出してその結果に基づいて様々なことがあると思うのですけれども、やはり人間ドックを受けていただいた方のその後をしっかりフォローとか、そういったフレイルではないのですけれども、いろいろなものを抑制していくということが医療費の抑制につながると思うのですけれども、この点についてはどんなお考えがございますか。

○岡野　勉委員長　吉田住民課長。

○吉田茂雄住民課長　委員おっしゃるとおり、医療費の抑制につきましては早期発見、早期治療というのが大変重要だというふうに考えております。人間ドックを受診された方が疾病が重くなる前に早期治療をしていただいて重症化しないということが重要というふうに考えておりますので、ご理解賜りたいと存じま

す。

○岡野　勉委員長　荒木委員。

○荒木かおる委員　レセプトをやろうと思ったのですけれども、出てしまったのですけれども、あと１個、23ページの保養所の利用者の補助金なのですが、コロナで去年あたりまでは出かけられなかったというのがあるのですが、今回減額になったということで実績を基にというお話があったのですけれども、今この入湯券は結構入湯、お風呂に行ったりする補助は結構使われているとよく聞くのですけれども、地方の保養所を使われている方というのはどのくらいいらっしゃるのかちょっと伺っていいですか。

○岡野　勉委員長　串田主幹。

○串田静代住民課主幹　質疑にお答えいたします。

入湯の利用件数ということでお答えをさせていただきます。令和元年度までの実績としましては……

〔何事か呼ぶ者あり〕

○串田静代住民課主幹　失礼いたしました。まず、入湯のほうからお答えをさせていただきます。入湯利用件数といたしましては令和元年度までは9,267件という実績がございましたが、その後新型コロナウイルスの影響で令和２年度は5,601件、令和３年度少し増えまして6,490件、令和４年度が6,500件という形でございました。令和５年度につきましては、途中ですけれども、２月末現在で5,333件という実績となっております。

○荒木かおる委員　保養所についてはどうでしょうか。

○岡野　勉委員長　串田主幹。

○串田静代住民課主幹　保養所の利用件数でございますが、令和元年度につきまして417件利用がございました。その後、令和２年度新型コロナの影響によりまして143件、令和３年が129件、令和４年度は169件、令和５年度２月29日現在で168件の利用という形になっています。

○岡野　勉委員長　荒木委員。

○荒木かおる委員　想像していたより保養所使われている方が多いのだなというのはあるのですけれども、12年前に保養所の中に、これ宮城県が１件あるではないですか。松島ですね。これはたしか東北を応援しようということで宮城県のところに保養所を増設していただいたのですけれども、その後いろいろな地震があって熊本とか、今回も石川とかはありますけれども、そこに増やすお考えというか、そういうのもいいのではないかなと思うのですが、どうでしょうか。

○岡野　勉委員長　吉田住民課長。

○吉田茂雄住民課長　質疑にお答え申し上げます。

被災地を応援するという意味ではそういうことをするのは大きいのかなというふうには思っておりますけれども、現在国民健康保険制度については埼玉県で統一化を進めているところでございます。こういった保養所等の補助につきましては、やっている団体とやっていない団体それぞれありますので、そこについてどういうふうに調整していくかというのは今県のほうで進めているところでございますので、ご理解を賜りたいと存じます。

○岡野　勉委員長　荒木委員。

○荒木かおる委員　ちなみに、海の家とか、長野とか結構ありますけれども、どういうところ、長野のもあるし、茨城とか海に近いところとかありますけれども、利用されているのというのは大体どういうところが多いのでしょうか。個々のあれが分かれば。

○岡野　勉委員長　吉田住民課長。

○吉田茂雄住民課長　質疑にお答え申し上げます。

　申請書を見た、ちょっと統計は取っていないので、申し訳ないのですけれども、申請書で上がってくるのを見ますとやっぱり温泉地が多いというふうに感じております。

○岡野　勉委員長　佐藤委員。

○佐藤秀樹委員　質疑されましたので、大丈夫です。

○岡野　勉委員長　長瀬委員。

○長瀬　衛委員　大ざっぱなことだけれども、先ほど堀江委員からも質疑あったけれども、私も実は去年後期高齢者保険に移管したほうだけれども、私が団塊世代の真ん中で令和６年度で終わるのですよね。でも、その後も多少多いのですよね、世代が。人口減少やいろいろあるのでしょうけれども、毛呂山町は亡くなる方も多いから、これから6,000人時代がしばらく続いていたけれども、今は5,337人だよね。これは、将来的には4,000人ぐらいまで行くのですかね。

○岡野　勉委員長　吉田住民課長。

○吉田茂雄住民課長　ここの被保険者の見込みということでございますけれども、令和５年度から比較しましても今回500人の減少を見込んでおります。先ほど長瀬委員がおっしゃったとおり、団塊の世代は令和６年でピークを迎えますけれども、人口ピラミッド的にはその下にも徐々に減少していくという状況がありますので、4,000人台に、納税義務者ですね、失礼いたしました。納税義務者数で言いますと今年度、令和６年度は5,337人ということで、昨年度から比較いたしますと347人減少ということでございます。先ほど申し上げましたとおり、まだ団塊の世代の下の世代の方につきましても緩やかに減少していくということでございますので、4,000人台に次第に突入していくものというふうに見込んでおりますので、ご理解を賜りたいと存じます。

○岡野　勉委員長　長瀬委員。

○長瀬　衛委員　それから、毛呂山町は加入者、世帯構成で行くと１人世帯が約半分ですよね。そういう状況は変わらないですか、これからも。大体１人と２人世帯だけで85％ぐらいが今までの状況だけれども、そういうのは変わらないのですかね。世帯構成分かったら教えてください。

○岡野　勉委員長　田邉税務課長。

○田邉和宏税務課長　質疑にお答えいたします。

　委員ご指摘の世帯の人数につきましては、詳細なデータはこちらのほうでは把握はしておりませんが、ご指摘のとおりもう1. 何人台ということで推移しておりますので、今後もこの傾向は続いていくものと捉えております。

○岡野　勉委員長　長瀬委員。

○長瀬　衛委員　では、この６年度の予算を見ると医療費、保険給付費を含めて全てが３％程度の減額にな

っているのだけれども、これはやっぱり加入者が減っているということ。その反面、１人当たりの費用額というのはどうなのですか。多少今の状況どうなのでしょう。

○岡野　勉委員長　吉田住民課長。

○吉田茂雄住民課長　質疑にお答えを申し上げます。

今委員おっしゃったとおり、医療給付費につきましては昨年度と比較すると、予算上ですと2.7％の減少ということになっております。１人当たりの医療費ですけれども、40万6,290円で昨年の当初予算で39万1,440円でございましたので、3.9％増額している状況でございます。

○岡野　勉委員長　長瀬委員。

○長瀬　衛委員　だんだんと１人当たりの費用額も増えていく傾向だろうと思います。こうやって加入者が減ってくる、費用額が増えてくる。毛呂山町は、平成31年に税率変えましたよね、２方式にして。均等割のほうも高いのだけれども、特にこの所得割が高いのですよね、税率が。これらについては、今のところ改正という視野はないのでしょうね。将来的にどうなのでしょう、計画的には。

○岡野　勉委員長　吉田住民課長。

○吉田茂雄住民課長　質疑にお答えを申し上げます。

今委員がおっしゃったとおり、国保財政というのは毛呂山町の国保財政は非常に厳しい状況が続いておりまして、毎年財政調整基金を取り崩して予算編成を行っております。令和６年度につきましても現行の税率を据え置くために基金から約１億1,000万円を繰り入れて予算編成を行いました。令和６年度当初に基金の繰入れを行いますと、基金残高は約622万円ということになります。基金残高を考えますと今後の予算編成が非常に厳しい状況でございます。こうしたことから、税率改正をせざるを得ない状況というふうに考えておりますので、ご理解賜りたいと存じます。

また、令和５年の12月に策定されました埼玉県の第３期埼玉県の国民健康保険運営方針というのが策定されたわけですけれども、令和６年度からのものになります。それに基づきまして、令和９年度には全市町村が県の示す標準保険税率に合わせて改正をしていくということで、充当率というふうに示されているのですけれども、それを視野に段階的に税率改正を検討をしていく必要があるというふうに考えておりますので、ご理解賜りたいと存じます。

○岡野　勉委員長　ここで私が質疑をしますので、ただいまから委員長の職務を副委員長に代行いたします。

〔委員長、副委員長と交代〕

○澤田　巖副委員長　ただいまから委員長の職務を行いますので、どうぞよろしくお願いします。

岡野委員。

○岡野　勉委員　マイナンバーカードなのですけれども、発行枚数と未発行申請数ということでお聞きしたいと思います。

○澤田　巖副委員長　澤田住民課副課長。

○澤田弘典住民課副課長　質疑にお答えいたします。

令和６年２月末現在の数値で申し上げます。交付率が75.3％で、今状況で保有率という言い方もしますので、保有率のほうが70.2％という状況でございます。

○澤田　巖副委員長　岡野委員。

○岡野　勉委員　数字は分かりますか。

○澤田　巖副委員長　澤田住民課副課長。

○澤田弘典住民課副課長　質疑にお答えします。

交付枚数は２万4,560件でございます。保有枚数のほうが２万2,910件という数値となっております。

○澤田　巖副委員長　岡野委員。

○岡野　勉委員　では、出していない枚数ということでは人口マイナス今のですか。そうすると、7,000ぐらい持っていない方、カード未申請の方は。

○澤田　巖副委員長　澤田住民課副課長。

○澤田弘典住民課副課長　質疑にお答えします。

こちらの人口が令和５年１月１日現在のので数字を出しておりますので、そちらから交付枚数のほうを引きますと8,056人という形になります。

○澤田　巖副委員長　岡野委員。

○岡野　勉委員　あと、利用率というのは出るのですか。町の利用率というのでしょうか。

○澤田　巖副委員長　澤田住民課副課長。

○澤田弘典住民課副課長　質疑にお答えします。

利用率というのは、国民健康保険のほうの利用率という形でよろしいでしょうか。１月末現在ですけれども、国民健康保険の被保険者が7,128人おりまして、そのうちマイナンバーカードを保険証にひもづけている方、こちらが4,044人となりまして56.7％の方がマイナンバーカードにまずはひもづけております。なおかつマイナンバーカードを使った利用ですよね、利用なのですけれども、令和６年１月現在で5.05％です。

以上となります。

○澤田　巖副委員長　委員長が質疑を終わりましたので、岡野委員長に職務を戻します。

〔副委員長、委員長と交代〕

○岡野　勉委員長　これにて質疑を終結します。

この際、暫時休憩いたします。

（午前１１時４５分）

○岡野　勉委員長　休憩前に引き続き会議を開きます。

（午前１１時４６分）

○岡野　勉委員長　これより討論に入ります。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○岡野　勉委員長　これにて討論を終結します。

これより議案第20号　令和６年度毛呂山町国民健康保険特別会計予算を採決します。

本案は原案のとおり決定することに賛成の方の挙手を求めます。

〔挙手全員〕

○岡野　勉委員長　挙手全員であります。

よって、議案第20号　令和６年度毛呂山町国民健康保険特別会計予算については原案のとおり可決すべきものと決しました。

この際、１時15分まで休憩といたします。

（午前１１時４６分）

○岡野　勉委員長　休憩前に引き続き会議を開きます。

（午後　１時１５分）

◎議案第２１号の審査

○岡野　勉委員長　続きまして、議案第21号　令和６年度毛呂山町水道事業会計予算についてを議題とします。

本案について説明を求めます。

渡邉水道課長。

〔渡邉　昭水道課長詳細説明〕

○岡野　勉委員長　これより質疑に入ります。

佐藤委員。

○佐藤秀樹委員　ちょっとお尋ねしたいのですけれども、ただいまの説明の中で給水戸数がマイナス65ということだったのですけれども、６ページの収入の加入金が前年よりも増額になっているのですけれども、その辺のバランスの理由をお願いいたします。

○岡野　勉委員長　小久保業務係長。

○小久保徹業務係長　質疑にお答え申し上げます。

加入金の増加の部分なのですけれども、現在アパートのほうがかなりまだまだ建っている状況でして、その分の加入金の増加となっております。

以上です。

○岡野　勉委員長　平野委員。

○平野　隆委員　この予算書を踏まえてなのですけれども、昨年の段階で石綿管はまだ17キロぐらい更新が残っていたのではないかと思うのですけれども、今回の工事予定を踏まえてあとどのくらいになっているのかちょっと教えていただきたいと思います。

○岡野　勉委員長　渡邉水道課長。

○渡邉　昭水道課長　現在石綿管の残延長が、令和６年度のこの予算を執行いたしまして16キロとなる見込みでございます。

○岡野　勉委員長　平野委員。

○平野　隆委員　分かりました。あまり変わらないようなあれなのですけれども、そういうのを直していって不明水なんかも減っていけばいいと思うのですが、不明水はどうなっていますでしょうか。

○岡野　勉委員長　渡邉水道課長。

○渡邉　昭水道課長　不明水、有収率という形でお答えさせていただいてよろしいでしょうか。令和４年度実績につきましては、本町の有収率93.3％という状況でございます。

○岡野　勉委員長　平野委員。

○平野　隆委員　ちょっとどのくらいの量か分からない、例えば30万立方とかそういうのはちょっと教えてください。

○岡野　勉委員長　渡邉水道課長。

○渡邉　昭水道課長　水量で申し上げます。93.3％の場合の不明水、無収水量27万9,495立方メートルでございます。

○岡野　勉委員長　小峰委員。

○小峰明雄委員　まず、ちょっと細かいことをお伺いしますけれども、17ページの緊急出勤手当というものがございますけれども、これは令和６年度はなかなか緊急ですけれども、大体どのくらいを想定されているのでしょうか。

○岡野　勉委員長　小久保業務係長。

○小久保徹業務係長　質疑にお答え申し上げます。

　こちらの緊急出動ですけれども、土曜日、日曜日等の職員の漏水等に対応するためのものなのですけれども、漏水に関しては約50回というふうに見積もっております。

　以上です。

○岡野　勉委員長　小峰委員。

○小峰明雄委員　次に21ページの純利益のこの9,156万5,000円というこの金額に対して所見をちょっとお伺いします。

○岡野　勉委員長　渡邉水道課長。

○渡邉　昭水道課長　こちらの損益計算書上の純利益につきましては、事業を行いながらその収支の残額と言いますか、そういったものでございまして、こちらのほうの金額が多ければ多いほど好ましいという部分がある一方で、その修繕にかけるお金といったところが制限というか抑制されていくというところの反面悪い部分もございます。この部分につきましては、マイナスになってはいけない数字ではございますが、そういったバランスを見ながらの数字ということで判断しておるところでございます。

○岡野　勉委員長　小峰委員。

○小峰明雄委員　まさにそうなのです。だから、もう一つぐらい何か9,000を例えば5,000とか、もう１事業ぐらい、何かあと３つぐらいでも事業をするとか、そういうようなことも大切だと思うのですけれども、その点はどうですか。

○岡野　勉委員長　渡邉水道課長。

○渡邉　昭水道課長　質疑にお答えいたします。

昨年度のこちらの当期純利益の見込みが6,138万8,000円でございました。委員おっしゃるようにそういったところのバランスを取りながら必要な修繕、こういったところに手当をしてまいりたいというふうに考えております。

以上でございます。

○岡野　勉委員長　小峰委員。

○小峰明雄委員　できましたら、あと１本、２本当初予算で入れていただくような予算編成をぜひ検討していただければと思います。

次に、収益的な関係でちょっとお伺いしますけれども、水道料金、38ページにございますけれども、この加入数が増えて世帯数が減っているような状況なのですけれども、この水道料金の算出の根拠をちょっとお伺いします。

○岡野　勉委員長　小久保業務係長。

○小久保徹業務係長　質疑にお答え申し上げます。

令和６年度の水道料金の算出ですけれども、令和４年11月から令和５年10月までの１年間の実調定数、使用水量ですね、こちらのほうから人口減を見込んだ２％を減額した数字で出しております。

以上です。

○岡野　勉委員長　小峰委員。

○小峰明雄委員　分かりました。

次に、40ページの苦林の紫外線の関係で10年ごとということなのですけれども、これは10年ごとで今後もずっと続けていくだと思うのですけれども、この10年の間に特に問題はなかったのですか。

○岡野　勉委員長　渡邉水道課長。

○渡邉　昭水道課長　質疑にお答えいたします。

ここ10年につきまして、大きなトラブルというところはなかったというふうに承知してございます。

以上でございます。

○岡野　勉委員長　小峰委員。

○小峰明雄委員　あと、その下の動力費関係、若干ちょっと前年度と違うと思うのですけれども、この説明をちょっとお願いできますか。

○岡野　勉委員長　渡邉水道課長。

○渡邉　昭水道課長　40ページ、25節動力費でございます。前年度比で28.4％の減額の予算計上をさせていただいております。この理由といたしましては、令和５年度の予算を見込む際に令和４年度中の動力費のとても不安定な状況で、その契約先も見つけられないのではないかというようなかなり不安定な状況の中令和５年度の予算を組まさせていただきました。そのために、相当額の余裕を見た令和５年度予算額となってございました。令和５年度中に新たな動力供給、電力小売事業者が決定することができまして、動力費のほうもだいぶ落ち着いてまいりました。そちらを踏まえまして前年度から大幅な減額の予算額となっておるところでございます。

○岡野　勉委員長　小峰委員。

○小峰明雄委員　分かりました。

次に、41ページの委託料の関係で漏水調査の業務委託ということで、令和５年度は西側の地区で令和６年度は東側の地区ということですかね。この令和５年度に行ってどういう結果が出たのか、予算ちょっとあまり関係ないのですけれども、確認の意味でお伺いします。

○岡野　勉委員長　渡邉水道課長。

○渡邉　昭水道課長　令和５年度西側を調査した実績でございます。漏水調査につきましては、排水本管の漏水箇所３か所、仕切り弁の漏水箇所１か所、各ご家庭に給水します給水管の漏水３か所、止水栓の漏水２か所、メーター付近からの漏水２か所、計11か所のほうを発見をいたしました。

以上でございます。

○岡野　勉委員長　小峰委員。

○小峰明雄委員　発見されたその後の処理ということをちょっとお伺いします。

○岡野　勉委員長　渡邉水道課長。

○渡邉　昭水道課長　質疑にお答えします。

その調査時点で報告が上がってまいります。その時点で直ちに漏水修理業者を町のほうで選定いたしまして、その修繕のほうに当たったところでございます。

○岡野　勉委員長　小峰委員。

○小峰明雄委員　素早く対応していかなければいけないと思います。

次に、お伺いしますけれども、せっかくいただいたので、この工事の優先順位とかそういうものは何かあるのですか。

○岡野　勉委員長　渡邉水道課長。

○渡邉　昭水道課長　漏水の工事予定箇所の優先順位でございます。管路につきましては、平成27年３月に定めました町の重要給水施設管路耐震化計画に基づきましてその管路の重要な管路であるか、またその管の種類、管種が耐震化の高いものか低いものか、そういった点を踏まえまして町としましては、まずは石綿管、残存する石綿管を優先的に更新していくという観点の下こちらのほうを選定をさせていただいております。

以上でございます。

○岡野　勉委員長　小峰委員。

○小峰明雄委員　この工事でゼロ債務が２本入っていますけれども、大体これ発注とかは計画的に考えているのでしょうか。

○岡野　勉委員長　渡邉水道課長。

○渡邉　昭水道課長　こちらの予定一覧のほうにはゼロ債務のほうを２件、管工事を１本、舗装工事１本を計上させていただいております。こちらのほうは、既に１月から２月にかけまして発注のほうを済ませておりまして、こちらのほうも落札業者さんのほうで工事の実施準備を進めておりまして、４月１日以降現場に入るというような段取りとなってございます。

○岡野　勉委員長　小峰委員。

○小峰明雄委員　議決がこれからですけれども、４月１日から入るということなのですね。分かりました。

○岡野　勉委員長　これにて質疑を終結します。

この際、暫時休憩します。

（午後　１時３８分）

○岡野　勉委員長　休憩前に引き続き会議を開きます。

（午後　１時３９分）

○岡野　勉委員長　これより討論に入ります。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○岡野　勉委員長　討論なしと認めます。

これより議案第21号　令和６年度毛呂山町水道事業会計予算についてを採決します。

本案は原案のとおり決定することに賛成の方の挙手を求めます。

〔挙手全員〕

○岡野　勉委員長　挙手全員であります。

よって、議案第21号　令和６年度毛呂山町水道事業会計予算については原案のとおり可決すべきものと決しました。

この際、暫時休憩いたします。

（午後　１時４０分）

○岡野　勉委員長　休憩前に引き続き会議を開きます。

（午後　１時４１分）

◎議案第２２号の審査

○岡野　勉委員長　続きまして、議案第22号　令和６年度毛呂山町農業集落排水事業会計予算についてを議題とします。

本案について説明を求めます。

宮寺産業振興課長。

〔宮寺定幸産業振興課長詳細説明〕

○岡野　勉委員長　これより質疑に入ります。

中村委員。

○中村奨平委員　ちょっと今お話で気になった点が１つありましたので、６ページ支出の第１項営業費用の５目の資産減耗費142万1,000円なのですけれども、これご説明だと機器の入替えと多分おっしゃったと思うのですけれども、これは耐用年数を待たずに機械の故障等で入れ替えるということでしょうか。

○岡野　勉委員長　宮寺産業振興課長。

○宮寺定幸産業振興課長　おっしゃるとおりでございます。
○岡野　勉委員長　中村委員。
○中村奨平委員　では、それはちょっとあるのかどうか分からないですけれども、メーカーの保証であったりとか、何かそういう保険であったりとかでも対応ができないものという認識でよろしいでしょうか。
○岡野　勉委員長　宮寺産業振興課長。
○宮寺定幸産業振興課長　保証の対象外でございます。
○岡野　勉委員長　平野委員。
○平野　隆委員　６年度から企業会計になったという形でより資産的なものとか分かりやすくなったと思うのですが、そういった中で今まで議論が続いてきた下水道につなげるべきなのか、それがどうなのかというのは、私が承知している限りでは2.2キロぐらいのところをつなぐのに今までの説明だと５億円ぐらいかかるから、無理なのだというようなあれだったのですけれども、それも議論してきてくださいって形で質問したと思うのですが、どんどん物価も上がっていってしまうし、そうなってくるとこれをこのまま維持していくのに行き詰まってしまうのではないかってちょっと心配なのですが、その辺はどうなっているのか、ちょっとその点だけお伺いします。
○岡野　勉委員長　宮寺産業振興課長。
○宮寺定幸産業振興課長　ご質疑にお答え申し上げます。
　今年度というか令和５年度、企業会計化に向けて間違いのないようにということでちょっとそこら辺に注力した関係で今後のというところが少し進んでいない部分があるのですけれども、この企業会計化によって数値をもって今後の見通しを示していくようにということで国からは言われておりまして、この企業会計化に基づく数値をもって経営戦略の見直しを行います。経営戦略の見直しの中で今後の老朽化に対応するためにどうしたらいいかという方策が経営戦略の中に出し、その中に処理場については下水道に任せたほうがいいのではないかとか、処理場を統一したほうがいいのではないかとかいう具体論を検討した中で記載していくという流れになるかと思います。
　以上です。
○岡野　勉委員長　平野委員。
○平野　隆委員　分かりました。では、その辺の話が進み出したというふうに考えてよろしいですか。
○岡野　勉委員長　宮寺産業振興課長。
○宮寺定幸産業振興課長　いずれにしてもこのままではただ老朽化していくだけでございますので、何がしかの検討は早急に進めるべきだろうというふうに認識しております。
　以上です。
○岡野　勉委員長　小峰委員。
○小峰明雄委員　27ページの営業収益の使用料の関係なのですけれども、前年度より減額になって169戸ということなのですけれども、この減額している使用料の算出の根拠をお伺いいたします。
○岡野　勉委員長　木村農林係長。
○木村正樹農林係長　ご質疑にお答え申し上げます。

使用料の算出根拠としましては、令和４年度の決算額、それと今年度の決算見込みから平均して出した金額でございます。

以上です。

○岡野　勉委員長　小峰委員。

○小峰明雄委員　あと、使用料が減額になっていますけれども、この農業集落排水の対象のエリアの戸数というのがあると思うのですけれども、接続状況というのはいまだどうなのですか。100にはなっていないのですか。

○岡野　勉委員長　木村農林係長。

○木村正樹農林係長　ご質疑にお答え申し上げます。

まず、葛貫と大谷木と２地区でございます。その合計で現在169戸が実際接続をし、排水を処理している戸数になりまして、現在休止をしている戸数等を含めますと175世帯にはなってございますが、ちょっとごめんなさい、正確な数字がすぐ出てこないので、あれなのですが、大谷木が99で残りが葛貫のほうになります。

以上です。

○岡野　勉委員長　小峰委員。

○小峰明雄委員　係長、基本ですから、そこは幾つあって今どうなっているというのは令和６年度の当初予算の編成のときにやっぱりしっかり把握していかないとまずいと思いますので、よろしくお願いします。

次に、ちょっと確認なのですけれども、今年から水道と同じような会計の構図となってきて、委託料にしてもどかっと出てきていますので、この４つの委託があるわけですけれども、これは昨年度と比較すると若干変わっているのかどうか、この点についてお伺いいたします。

○岡野　勉委員長　木村農林係長。

○木村正樹農林係長　ご質疑にお答え申し上げます。

こちら予算書に出ております処理施設維持管理業務委託、処理施設残渣泥運搬、処理施設汚泥運搬、処理施設全般整備委託とございますが、こちらの維持管理委託と残渣、汚泥につきましては昨年と代わらずやってございます。処理施設全般整備委託につきましても今年度と同じく計上しているものでございます。

○岡野　勉委員長　小峰委員。

○小峰明雄委員　昨年の金額合計すると586万9,000円かと思うのですけれども、何か私の計算が間違っているのかどうか分からないのですけれども、614万2,000円というのは根拠をちょっと示していただけます。

○岡野　勉委員長　木村農林係長。

○木村正樹農林係長　ご質疑にお答え申し上げます。

まず、前年度との比較でして、処理施設の維持管理業務委託につきまして、予算額としまして約469万円と上がっておる関係で全体額が上がってきております。

○岡野　勉委員長　小峰委員。

○小峰明雄委員　先ほどとちょっと違うようなご答弁だったような気がするのですけれども、維持管理は複数年でしたよね。そうすると、469で複数年になったのですか。ちょっとそこだけ確認させてください。

○岡野　勉委員長　木村農林係長。

○木村正樹農林係長　ご質疑にお答え申し上げます。

これから事前準備行為ということで入札を開始しますので、まだ実際の契約額としましては決定はしておらないところですので、まず今現在の設計額で予算書を組ませていただいております。

○岡野　勉委員長　小峰委員。

○小峰明雄委員　設計額ということで見積りか何か取られたのだと思うのですけれども。

次に、修繕費で100万円ということを予算計上されているのですけれども、この100万円というのは緊急時を想定されているのか、この点についてお伺いします。

○岡野　勉委員長　木村農林係長。

○木村正樹農林係長　ご質疑にお答え申し上げます。

おっしゃるとおり、緊急時に備えた予算でございます。

○岡野　勉委員長　小峰委員。

○小峰明雄委員　あと１点、資本的な関係で32ページの支出の部で、請負工事費ということで交換工事等々ございますけれども、この予算計上するに当たって算出の根拠をお伺いします。

○岡野　勉委員長　木村農林係長。

○木村正樹農林係長　ご質疑にお答え申し上げます。

ばっ気撹拌装置及び積算プリンター更新工事の積算根拠につきましては、現在見積りで止まってございます。

○岡野　勉委員長　小峰委員。

○小峰明雄委員　それは、見積りはやっぱりここを管理している業者ほか何社とかそういうことでこの金額が出てきたのですか。

○岡野　勉委員長　木村農林係長。

○木村正樹農林係長　ご質疑にお答え申し上げます。

現在管理しておる業者からの見積りとなってございます。

○岡野　勉委員長　小峰委員。

○小峰明雄委員　参考にもう１社ぐらい取られてある程度、それが普通だと思いますよ。そこは、ちょっと今後やはり２社、３社の見積りは原則だと思いますので、そこを委託先そこだからというのではなくて、やはりそこはそこで出したとしても、やはりその裏づけでそこはちょっと大変かもしれないけれども、きちんとそういうふうにしていただければと思います。

以上です。

○岡野　勉委員長　これにて質疑を終結します。

この際、暫時休憩します。

（午後　２時００分）

○岡野　勉委員長　休憩前に引き続き会議を開きます。

（午後　２時０１分）

○岡野　勉委員長　これより討論に入ります。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○岡野　勉委員長　これにて討論を終結します。

これより議案第22号　令和６年度毛呂山町農業集落排水事業会計予算について採決します。

本案は原案のとおり決定することに賛成の方の挙手を求めます。

〔挙手全員〕

○岡野　勉委員長　挙手全員であります。

よって、議案第22号　令和６年度毛呂山町農業集落排水事業会計予算については原案のとおり可決すべきものと決しました。

この際、暫時休憩いたします。

（午後　２時０１分）

○岡野　勉委員長　休憩前に引き続き会議を開きます。

（午後　２時０３分）

◎議案第２３号の審査

○岡野　勉委員長　続きまして、議案第23号　令和６年度毛呂山町介護保険特別会計予算についてを議題とします。

本案について説明を求めます。

串田高齢者支援課長。

〔串田和佳高齢者支援課長詳細説明〕

○岡野　勉委員長　これより質疑に入ります。

小峰委員。

○小峰明雄委員　では、まず９ページ、歳入の関係なのですけれども、ただいまのご説明ですと徴収率ですかね、収納率と言われましたけれども、94％で見ていますけれども、この根拠をちょっとお伺いします。

○岡野　勉委員長　山本医療保険料係長。

○山本加津子医療保険料係長　質疑にお答えいたします。

この94％の根拠ですが、過去の実績を見込みまして今年度94％といたしました。

以上です。

○岡野　勉委員長　小峰委員。

○小峰明雄委員　あと、１割、２割、３割とかございますよね。その65歳以上の障害のある方というのは入るのだっけ。違ったっけ。１割、２割、３割は分かります。

○岡野　勉委員長　山本医療保険料係長。

○山本加津子医療保険料係長　質疑にお答えいたします。

ただいまの１割、２割、３割というのは保険料段階のことでよろしいでしょうか。根拠は、この低所得者の保険料段階を決めました段階では今年度保険料の改定の年ですが、まだこの時点では改定額が決まっていませんので、改定前の保険料になります。こちらのほうでお答えさせていただきたいと思います。

第１段階の保険者は1,763人、1,956万9,300円。第２段階、974人、1,344万1,200人。第３段階、792人、221万7,600円を見込んでおります。

以上です。

○岡野　勉委員長　小峰委員。

○小峰明雄委員　今回13段階になるわけですけれども、ただいまが94％ということなのですけれども、均等割の軽減というのがございますよね。この年金の18万以上で合計の２分の１とかそういう内容なのですけれども、その場合に普通徴収とかというのはどのくらいの人数がいらっしゃるのですか。

○岡野　勉委員長　山本医療保険料係長。

○山本加津子医療保険料係長　質疑にお答えいたします。

普通徴収の方は、令和６年度につきましては7.77％を見込んでおります。

以上です。

○岡野　勉委員長　小峰委員。

○小峰明雄委員　軽減税率の関係もありますけれども、その辺は７、５、２割の、その辺は分かります。

○岡野　勉委員長　山本医療保険料係長。

○山本加津子医療保険料係長　７割、５割、２割につきまして、後期高齢者医療保険のほうになりますが、後ほどお答えさせていただきたいと思います。

○小峰明雄委員　大変失礼しました。頭の中がこんがらがってました。

次に、確認しておきたいのが、ちょっと新しい歳出の中で銀行の照会の手数料というのがございますけれども、これはどういうことを目的に予算計上されたのですか。

○岡野　勉委員長　山本医療保険料係長。

○山本加津子医療保険料係長　滞納されている方につきまして預金調査を実施しております。金融機関によっては照会手数料を徴収するというところがございますので、その分につきましてこちらのほうに予算計上させていただきました。

以上です。

○岡野　勉委員長　小峰委員。

○小峰明雄委員　あと、徴収費、これは17ページなのですけれども、印刷製本費というものが令和５年度から比べると倍以上になったわけなのですけれども、これはどういう目的でこの予算計上されてこの印刷製本費でどういうもの、目的を達成するというのですか、この辺についてちょっとお伺いします。

○岡野　勉委員長　山本医療保険料係長。

○山本加津子医療保険料係長　質疑にお答えいたします。

こちらのほうで印刷製本費の増加分につきましては、令和５年度まではこちらのほうにつきまして保険

料の当初賦課に係る委託料の分につきまして、令和５年度までは全てを役務費の委託料に計上しておりました。しかし、今年度、こちらの予算を計上するに当たり、内容を精査した結果、決定した保険料額等を各帳票に印刷する業務につきましては需用費の印刷製本費のほうが適切ではないかと思いまして、こちらのほうに計上させていただきました。

以上です。

○岡野　勉委員長　小峰委員。

○小峰明雄委員　あと、19ページの介護保険の中で96％という占めております保険給付費の、この大きな金額ですので、なかなかこの金額を算定していくというのは難しいと思うのですけれども、令和６年度の当初予算に当たっての算出の根拠を少し分かりましたらお答えください。

○岡野　勉委員長　串田高齢者支援課長。

○串田和佳高齢者支援課長　質疑にお答え申し上げます。

算出の根拠ということでございますけれども、本町に限らず介護給付費の伸び率につきましては、国が運営しております見える化システムというシステムがございます。そちらのほうに既にデータ、過去の実績が入ってございます。それと高齢化率ですとか、あるいは所得部分の状況、そういったものもその中に含まれておりまして、そういったものから今後の６、７、８、３か年分の給付費の伸びの額を見込んでございます。

以上でございます。

○岡野　勉委員長　小峰委員。

○小峰明雄委員　そうしますと、介護予防サービス関係も同じような解釈でよろしいのでしょうか。

○岡野　勉委員長　串田高齢者支援課長。

○串田和佳高齢者支援課長　質疑にお答え申し上げます。

委員お見込みのとおりでございます。

○岡野　勉委員長　小峰委員。

○小峰明雄委員　次に、25ページで一般介護予防事業費に関連してちょっとお伺いするのですけれども、ゆずっこ元気体操が10年経過したわけなのですけれども、令和６年度どのように取り組まれているのか、この点についてお伺いいたします。

○岡野　勉委員長　小山高齢者福祉係長。

○小山史恵高齢者福祉係長　ただいまのご質疑にお答え申し上げます。

令和６年度に向けまして10年を迎えたというところで、令和５年度から始めております出前講座のほうを今年度もやっていきたいと思っております。運動や体力測定だけでなく栄養や口腔衛生、認知症サポーター養成講座など実施を来年度も予定しております。

以上です。

○岡野　勉委員長　小峰委員。

○小峰明雄委員　そうしますと、出前講座を進めていくということなので、この報酬費がそれに比例しているわけでこの91万2,000円に伸びたという解釈をしてよろしいのでしょうか。

○岡野　勉委員長　小山高齢者福祉係長。

○小山史恵高齢者福祉係長　ただいまのご質疑にお答え申し上げます。

令和４年度まではコロナの関係で委託料のほうが少し減っていたのですけれども、令和６年度に向けまして丸木記念のほうですとか様々な関係職種の方にお願いをしましてフレイル予防を進めていきたいと思っておりまして、この金額になっております。

以上でございます。

○岡野　勉委員長　小峰委員。

○小峰明雄委員　あと、ちょっと１点だけ、最後なのですけれども、気になったのは成年後見制度の関係で助成金が増えていますよね。98万4,000円。この増理由をお伺いします。

○岡野　勉委員長　細井高齢者福祉係長。

○細井英司高齢者福祉係長　質疑にお答えいたします。

ここ最近身寄りのない方であったりだとか、そういった認知症に伴う支援が必要な方が増えてきております。その辺を見込みまして、今回多く対応できるようにということで増額とさせていただきました。

以上でございます。

○岡野　勉委員長　これにて質疑を終結します。

これより討論に入ります。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○岡野　勉委員長　討論なしと認めます。

これより議案第23号　令和６年度毛呂山町介護保険特別会計予算についてを採決します。

本案は原案のとおり決定することに賛成の方の挙手を求めます。

〔挙手全員〕

○岡野　勉委員長　挙手全員であります。

よって、議案第23号　令和６年度毛呂山町介護保険特別会計予算については原案のとおり可決すべきものと決しました。

◎議案第２４号の審査

○岡野　勉委員長　続きまして、議案第24号　令和６年度毛呂山町後期高齢者医療特別会計予算についてを議題とします。

本案について説明を求めます。

串田高齢者支援課長。

〔串田和佳高齢者支援課長詳細説明〕

○岡野　勉委員長　これより質疑に入ります。

平野委員。

○平野　隆委員　説明をいただきまして、これは年々増加していて、当たり前のことなのですけれども、先ほどの介護保険のほうとも非常にリンクする制度だと思うのですが、ちょっと細かいことではなくて全体

のことなのですけれども、2025年問題というふうなのは全国で言われていて、それでというのは団塊の世代の方々が一番人口の多い世代ですよね。それが2025年には全て後期高齢者になられるということで、全国的にはそういうことなのですけれども、今後のこの保険料の増加の推移というか、考えて、毛呂山町も同じだと思うのですが、見通しのほうだけちょっとお伺いしたいと思います。

○岡野　勉委員長　串田高齢者支援課長。

○串田和佳高齢者支援課長　ご質疑にお答え申し上げます。

平野委員ご質疑いただいたとおりでございます。2025年には団塊の全て、75歳以上に後期高齢者に加入されるということになります。その後も医療費のほうも上昇がしばらく続くのではないかということで、最終的な見込みについてはご案内のとおり埼玉県の後期高齢者医療広域連合のほうで見込んでおりますけれども、しばらくの間は上昇傾向が続くのかなというふうに本町としても捉えておるところでございます。

以上です。

○岡野　勉委員長　小峰委員。

○小峰明雄委員　まず、98％という根拠をお答えください。

○岡野　勉委員長　山本医療保険料係長。

○山本加津子医療保険料係長　質疑にお答えいたします。

98％の根拠につきましては、過去の実績を基に98％と設定させていただきました。

以上です。

○岡野　勉委員長　小峰委員。

○小峰明雄委員　残り２％というものがあるのですけれども、この残り２％というのはどういうものが要因があるのでしょうか。

○岡野　勉委員長　山本医療保険料係長。

○山本加津子医療保険料係長　質疑にお答えいたします。

残り２％につきましては、現年度分につきましても滞納される方がいらっしゃいますので、その方の２％でございます。この２％につきましては、６年度の滞納繰越となります。

以上です。

○岡野　勉委員長　小峰委員。

○小峰明雄委員　その滞納繰越した分をどのように100％に持っていく、令和６年度にはどのようなご努力をされるのかお伺いします。

○岡野　勉委員長　山本医療保険料係長。

○山本加津子医療保険料係長　質疑にお答えいたします。

滞納されている方につきましては、電話催告等を実施してまいります。また、自主納付が見込めない方につきましては預金差押え、給与差押えを実施しております。

以上です。

○岡野　勉委員長　小峰委員。

○小峰明雄委員　実績はございますか。

○岡野　勉委員長　山本医療保険料係長。

○山本加津子医療保険料係長　質疑にお答えいたします。

差押えの実績につきましては、令和５年度現在で預金差押え８万5,600円、給与差押え９万7,340円でございます。

以上です。

○岡野　勉委員長　小峰委員。

○小峰明雄委員　数字を言われましたけれども、私は回収したその実績はどうですかという、差押え、今の８万幾らとかというのは、それが入ってきた金ですか。そこはちょっと意味が分からなかったのですけれども、答弁が。

○岡野　勉委員長　山本医療保険料係長。

○山本加津子医療保険料係長　こちらのほうは、差押えをした実績でございます。

○岡野　勉委員長　小峰委員。

○小峰明雄委員　差押えをして回収した実績って聞いているのです、私。そういうものがございますかって聞いたのですけれども。

○岡野　勉委員長　山本医療保険料係長。

○山本加津子医療保険料係長　差押えをした分につきましては、全額収納されております。

○岡野　勉委員長　小峰委員。

○小峰明雄委員　では、先ほどの７、５、２割関係の、ちょっとそこを人数等お伺いします。

○岡野　勉委員長　山本医療保険料係長。

○山本加津子医療保険料係長　質疑にお答えいたします。

７割軽減の方につきましては2,619人、8,708万1,750円。５割軽減の方は1,088人、2,584万円。２割軽減の方は1,069人、1,015万5,500円。被扶養者の５割軽減の方につきましては40人、96万円の軽減で合計4,816人、１億2,402万7,250円の軽減となっております。

○岡野　勉委員長　小峰委員。

○小峰明雄委員　１億からということですね。分かりました。

あと、もう一点だけ、10ページの歳出の関係で印刷製本費が３倍ぐらいに上がっているのですけれども、これも先ほどのご答弁と同じことですか。

○岡野　勉委員長　山本医療保険料係長。

○山本加津子医療保険料係長　質疑にお答えいたします。

委員ご指摘のとおりでございます。

以上です。

○岡野　勉委員長　これにて質疑を終結します。

この際、暫時休憩します。

（午後　２時２６分）

○岡野　勉委員長　休憩前に引き続き会議を開きます。

（午後　２時２７分）

○岡野　勉委員長　これより討論に入ります。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○岡野　勉委員長　討論なしと認めます。

これより議案第24号　令和６年度毛呂山町後期高齢者医療特別会計予算についてを採決します。

本案は原案のとおり決定することに賛成の方の挙手を求めます。

〔挙手全員〕

○岡野　勉委員長　挙手全員であります。

よって、議案第24号　令和６年度毛呂山町後期高齢者医療特別会計予算については原案のとおり可決すべきものと決しました。

この際、暫時休憩します。

（午後　２時２８分）

○岡野　勉委員長　休憩前に引き続き会議を開きます。

（午後　２時３６分）

○岡野　勉委員長　本委員会の審査結果報告書及び委員長報告の案文並びに議案第19号　令和６年度毛呂山町一般会計予算に対する修正案の提出につきましては委員長に一任願いたいと思います。

◎閉会の宣告

○岡野　勉委員長　以上で本委員会に付託された案件の審査は全て終了いたしました。

これにて予算決算常任委員会を閉会いたします。

（午後　２時３６分）